

障害のある労働者の職業サイクルに関する 調査研究(第6期)

—第6回職業生活前期調査(平成30年度)・
第6回職業生活後期調査(令和元年度)—

2021年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

障害のある労働者の職業サイクルに 関する調査研究（第6期）

—第6回職業生活前期調査（平成30年度）・
第6回職業生活後期調査（令和元年度）—

2021年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

まえがき

障害者職業総合センターでは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、わが国における職業リハビリテーションの中核的機関として、職業リハビリテーションに関する調査・研究をはじめとして、様々な業務に取り組んでいます。

本調査研究報告書は、当センター研究部門が実施した「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第6期）」の結果をまとめたものです。

本調査研究は、障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えることを目的として、2008 年度から 16 年計画の長期縦断調査を行っているもので、本報告書においては、11 年目・12 年目の調査結果をとりまとめました。

本報告書がたくさんの方々に活用され、障害者の雇用の促進と安定のための一助になれば幸いです。

調査研究の実施にあたり、ご協力いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

なお、本調査研究のこれまでの成果は、資料シリーズ No. 50, No. 54, 調査研究報告書 No. 106, No. 118, No. 132, No. 148 にまとめておりますので併せてご活用ください。

2021 年 3 月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

障害者職業総合センター

研究主幹 成田 裕紀

執筆担当者（執筆順）

○執筆担当

高瀬 健一	障害者職業総合センター	主任研究員	概要、序文、第1章～第4章
大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	概要、序文、第1章～第4章
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	第1章～第4章
田中 あや	障害者職業総合センター	研究協力員	第1章～第4章

謝 辞

本調査研究を実施するにあたり、多くの方々から多大な協力を賜りました。

長年にわたり1,000名を超える障害のある皆様にアンケート調査に協力いただいています。皆様のおかげで貴重なデータを収集することができました。また、調査研究委員会委員として、当事者団体、事業主団体、専門家の皆様から本調査研究について幅広い助言をいただきました。

ご協力いただいた皆様に御礼申し上げますとともに心より感謝申し上げます。

<研究担当者>

本調査研究は、障害者職業総合センター社会的支援部門で担当した。

研究担当者、研究担当時の職名、担当した年次は以下のとおりである。

松尾 義弘	障害者職業総合センター	統括研究員	2018年度
高瀬 健一	障害者職業総合センター	主任研究員	2018年度～2020年度
大石 甲	障害者職業総合センター	研究員	2018年度～2020年度
田川 史朗	障害者職業総合センター	研究協力員	2018年度～2020年度
荒井 俊夫	障害者職業総合センター	研究協力員	2018年度～2019年度
伊芸 研吾	障害者職業総合センター	研究協力員	2018年度
田中 あや	障害者職業総合センター	研究協力員	2020年度

目 次

概要	1
序文（背景及び目的）	5
第1章 職業サイクル調査研究の実施方法と実施経過	7
第1節 調査の全体像	7
第2節 調査研究委員会	7
第3節 調査対象者	8
第4節 調査の内容	9
第5節 調査の実施方法	11
第6節 ヒアリング調査の実施	12
第2章 調査結果	15
第1節 調査対象者数と回収率	15
第2節 調査回答者の基本的属性	17
第3節 調査回答者の就労状況	22
第4節 調査回答者の生活状況	70
第5節 調査回答者の特徴と留意点について	80
第3章 各調査期の分析結果	81
第4章 第6期の分析結果及び今後の調査について	87
第1節 仕事をする理由と仕事の満足度の関係	87
第2節 ヒアリング調査と第5期分析結果との関連	90
第3節 今後の調査について	94
巻末資料	
1 職業サイクル調査研究の概要	95
2 調査研究委員会（第6期）設置要綱	96
3 第6回職業生活後期調査票	97
4 ニュースレター「サイクル便り」 No. 15	111
5 ニュースレター「サイクル便り」 No. 16	119
6 2020年までに実施した分析・研究発表等	127

概 要

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究は第1期から第8期まで計画する調査研究である。本報告書では、特定の調査期について述べる場合は「第6期」のように調査期名のみを示し、第1期から第8期までの調査研究全体を述べる場合は「職業サイクル調査研究」という。

本報告書では、第1期から第8期まで計画する職業サイクル調査研究の第6期の結果を報告する。本報告書は、以下の構成となっている。

「序文」は、研究の背景、目的を述べている。「第1章」は、2008年に開始した障害のある労働者に対する16年間の長期縦断調査である職業サイクル調査研究の実施方法と実施経過を述べている。「第2章」は、第1期から第5期の結果とあわせて第6期の結果をまとめている。「第3章」は、第5期までの調査結果の分析経過をまとめている。「第4章」は、第6期の結果による分析結果等について考察を含めてまとめるとともに、今後の調査への課題等を整理した。加えて、巻末資料として2020年までの学会等における研究発表の概要をまとめている。

序文（背景及び目的）

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就業継続、離職）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにする長期縦断調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として職業サイクル調査研究を行うこととした。

第1章 職業サイクル調査研究の実施方法と実施経過

・調査の全体像

職業サイクル調査研究は、2008年度から2023年度までの16年間を調査期間として計画した長期縦断調査（パネル調査）である。

2年間の調査を一つの「調査期」として区切り、同一の調査票を用いて職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする「職業生活前期調査」と、一定の就業経験を持つ壮年期の者を対象とする「職業生活後期調査」をそれぞれ隔年に実施している。

調査は、当事者団体、事業所、就労支援施設等を通じての紹介により、研究協力の同意を得た障害のある労働者1,026人を対象者として登録し、開始した。調査対象者は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のいずれか、またはこれらの重複障害がある者とした。それぞれの障害の詳細は把握していない。調査開始時点での年齢は、下限を義務教育終了後の15歳、上限を55歳とした。就労状況については、企業や自営業で週20時間以上就労している者を対象として調査を開始し、その後、離職した場合であっても調査を継続して、その後のキャリア形成の状況を確認している。なお、回収率低下のため第3期に際し調査対象者の補充を行った。

・調査研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者により構成する調査研究委員会を設置した。第6期は2019年度及び2020年度に開催した。

・調査の内容

障害のある者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、後二者については出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。調査内容は原則として第1期から第8期まで共通としたが、時勢の変化等を踏まえた質問の追加、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、質問の文意が伝わりにくかったと推測した項目等については、調査研究委員会での議論に基づき、質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、但し書きの付加を行った。2016年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられたことを踏まえて、第5期以降は、「事業主に対する障害者への差別禁止指針と合理的配慮の指針について、聞いたり読んだりしたことがあるか」、「平成28年4月以降に職場において支障となっていることの確認や話合いの機会があったかどうか」という新たな設問を追加した。

加えて、調査結果から、例えば一つの企業に長期間継続雇用されているといった特徴的な回答が把握できるものの質問紙調査のみから詳細な実態の把握は困難であるため、第6期では調査結果を補完することを目的として、ヒアリング調査を実施した。

・調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査日は調査年度7月1日としている。調査票の形式は障害の特性に応じて選択できるよう5種類を用意している。調査対象者から継続的な協力を得るための取組として、調査対象者に対して毎年発行するニュースレターの送付と回答者に対して謝品の贈呈を行っている。なお、第6期のニュースレターは巻末資料として掲載した。

第2章 調査結果（抜粋）

第6期は、視覚障害105人、聴覚障害217人、肢体不自由231人、内部障害110人、知的障害270人、精神障害110人、計1,043人を対象に調査を実施した。このうち前期調査対象者は521人、後期調査対象者は522人である。回収数と回収率は、前期調査は304人（58%）、後期調査は293人（56%）であった。

回答者のうち正社員、パート等、派遣、自営、内職、就労継続支援A型事業所で働いている者の割合を就労率として計算した。障害種類により就労率の違いはあるものの、就労率は75%以上となっている。

就労者の就労形態等について、障害種類別にみると障害種類毎の違いがある。正社員は、身体障害で5割前後であるのに対して、知的障害は20%、精神障害は15%であった。また、就労継続支援A型事業所の利用は、知的障害で最も多いが他の障害でも少数ではあるものの確認した。自営については、視覚障害で21%であった。現在仕事をしていないと回答した者は、肢体不自由20%、精神障害20%、内部障害15%が多かった。

雇用分野における差別禁止・合理的配慮の指針の把握状況は、第5期から追加した項目である。第5期から2年間経過して、就労中の者において「把握している」と回答した者は29%から30%への変化と微増であった。合理的配慮の取組の第1歩である話合いの機会があった者は、全体でみると第5期の約4割から第6期では5割を超えた。しかし、話合いの機会がまだない者が約2割いることを確認した。

(図 概－1)

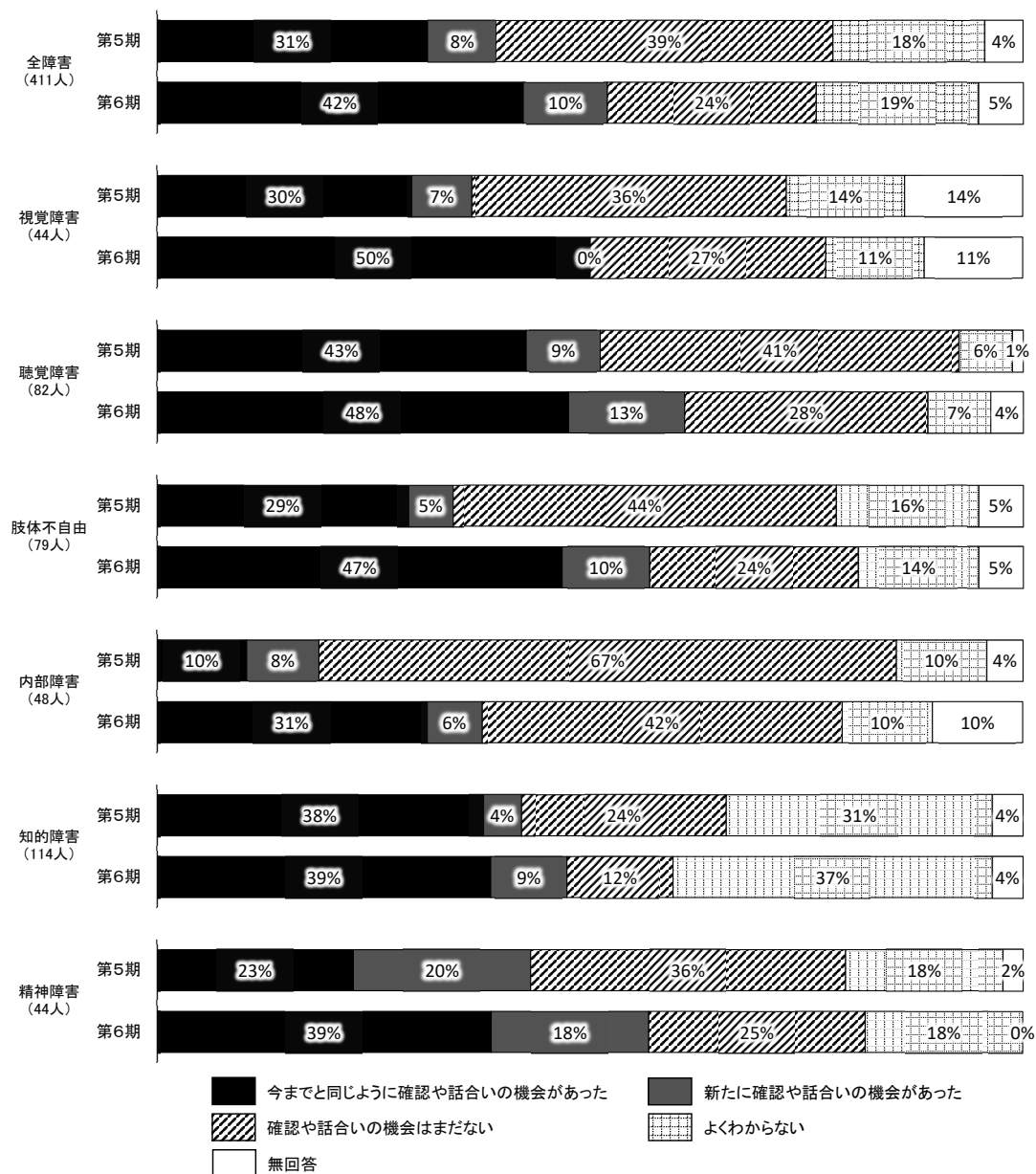


図 概－1 第5期及び第6期とも回答した者の職場で支障となっていることの確認や話合いの状況

障害に関する通院の頻度は、偶数期にあたる第6期に確認した項目である。知的障害において月1回以上の通院が増えていることを確認した。内部障害では週1回以上が5割あり人工透析によるものと考ええる。精神障害では7割以上の者が月1回以上の通院を継続していることを確認した。

利用している福祉サービスも、偶数期にあたる第6期に確認した項目である。視覚障害、肢体不自由、知的障害において利用が増えてきている傾向を確認した。

第3章 各調査期の分析結果

第1期から第5期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するほか、複数の調査項目の結果を用いて様々な結果分析を実施しており、これまでの結果分析の経過を掲載した。加えて、今までに学会等において発表した職業サイクル調査研究をテーマとした論文等の概要を巻末資料として掲載した。

第4章 第6期の分析結果及び今後の調査について

第6期においては、第5期に引き続き仕事の満足度に着目して分析を実施することとした。第4期の後期調査から追加している「仕事をする理由」と仕事の満足度との関係について分析を行った。「仕事をする理由」は、「収入を得るため」「社会とのつながりを持つため」「社会の中で役割を果たすため」「自分自身が成長するため」「生きがいや楽しみのため」「生活のリズムを維持するため」「心身の健康のため」の7項目で確認している。第5期と第6期の結果を使って分析したところ「社会の中で役割をはたすため」「生きがいや楽しみのため」を「仕事をする理由」として選択している者は仕事の満足度が高いという結果であった。

第6期において取り組んだヒアリング調査は、20年以上同一企業に勤めている者からヒアリング対象を選び、同意を得て実施した。3名（肢体不自由、知的障害、精神障害）のヒアリング結果について、第5期において分析した「仕事満足度」に影響する要因として抽出された「職場へ障害のことを説明している」「配慮項目が少ない」「援助者が継続的にいる」「昇給がある」とヒアリングにおける発言内容との関連をみて考察を行った。また、ヒアリングにおける発言内容からは、満足度は安定的であったり、一定の傾向があるというより「波」があること、その「波」のコントロールの背景には共通して人とのつながり、ネットワークへの志向性を推察した。

今後の職業サイクル調査研究の展望として、第6期の調査研究委員会において、第8期の調査終了を見据えた研究計画については、全ての調査結果を総合的に活用した研究として研究テーマを設定し、補足調査研究を行う必要性を確認し、第7期調査研究委員会から具体的な議論を開始することに言及した。

序文（背景及び目的）

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就業継続、離職）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。このため、障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（以下「職業サイクル調査研究」という。）は、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにする長期縦断調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として実施している。

2008 年度にスタートした職業サイクル調査研究における長期縦断調査はパネル調査方式を採用している。同じ人（同一対象）に同じ質問を一定間隔で複数回尋ねるパネル調査によって複数時点の情報を収集したパネルデータを構築し、同一対象において前回と今回の調査間にあった変化を調べることで、個人の変わらない要素を考慮しながら、変化した部分だけを計量的に分析し、因果関係の推定をより精確に行うことができる。

この特徴を踏まえて、パネル調査は対象群と統制群を用いた実験ができない社会科学の分野で開発された方法であり、パネルデータにより、人々のダイナミックな行動変化について情報を入手でき、動学的な分析が可能になる。その反面、成果が出るまで長い時間と多額の費用を要するという問題がある。そして時には、転居等のため追跡することが難しくなり、パネルデータに歪みが発生してしまう可能性がある。こうした問題点があるにもかかわらず、パネルデータの有効性が強く認識され、諸外国や日本でパネル調査が開始されるようになった。

欧米では賃金や就業、家計などをテーマとしたパネル調査が 1960 年代後半からスタートした。代表的な調査では、PSID（The Panel Study of Income Dynamics アメリカ）や、NLS（National Longitudinal Surveys アメリカ）、BHPS（The British Household Panel Survey イギリス）、NSFH（The National Survey of Families and Households アメリカ）などがあり、半世紀近くプロジェクトが継続し、大規模なサンプルサイズのパネルデータを用いた実証研究が蓄積されてきている。

日本では、東京都老人総合研究所が 1987 年から「高齢者の生活と健康に関する長期縦断調査」を実施し、早稲田大学人間総合研究センターでは 1991 年から「からだ・こころ・つながりの発達」調査を実施している。（財）家計経済研究所は 1993 年から「消費生活に関するパネル調査」を実施し、女性の就業、結婚、出産、低所得階層の固定化や変動等に関する研究成果を報告している。ニッセイ基礎研究所は 1997 年から「暮らしと生活設計に関する中高年パネル調査」を行っている。また、2000 年代前後には政府や大学・研究機関によるサンプルサイズの大きなパネル調査が実施されるようになった。その一例として、厚生労働省による「国民の生活に関する継続調査」「中高年者の生活に関する継続調査」、独立行政法人労働政策研究・研修機構による「初期キャリア研究会調査」等がある。

本研究はこのような時流を踏まえて、2008 年度から 2023 年度までの 16 年間にわたる、障害のある労働者のキャリアに関するパネル調査を計画し、継続実施している。

参考文献

- 1) 筒井淳也・水落正明・保田時男（編）：パネルデータの調査と分析・入門，PP. 1-10，ナカニシヤ出版（2016）
- 2) 樋口美雄・太田清・新保一成：入門 パネルデータによる経済分析，PP. 3-16，日本評論社（2006）

第 1 章

職業サイクル調査研究の実施方法と実施経過

第1章 職業サイクル調査研究の実施方法と実施経過

障害のある労働者の職業生活の全体像を捉えるという目的から、職業サイクル調査研究は身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害）、知的障害、精神障害のある労働者を対象とした長期間の縦断調査で、調査対象者を固定して行うパネル調査として設計した。職業サイクル調査研究を効果的に実施するため、調査研究委員会を設置し、調査対象者の選定方法及び募集方法、調査内容、調査の具体的な実施方法、また、調査結果の分析方法や解釈について検討した。

職業サイクル調査研究の第6期の内容・調査方法等は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「当機構」という。）の調査研究倫理審査委員会による倫理審査を受け、妥当と認められた（受付 No. 30 年度-06）。

第1節 調査の全体像

職業サイクル調査研究は 2008 年度から 2023 年度までの 16 年間の長期縦断調査として計画した。2 年間を一つの「期」として区切り、全 8 期の計画とした。登録した調査対象者（調査パネル）を年齢によって「職業生活前期調査」対象者と「職業生活後期調査」対象者に分け、同一の調査票を用いて、それぞれ隔年に調査実施している。職業生活の開始から引退までを調査すると長期間を要することから、職業生活の開始から年月の浅い若年期の者を対象とする調査と、一定の就業経験を持つ壮年期の者への調査を並行して行うことで、職業生活の全体像の把握に近づくことを目指した。

2018 年度から 2019 年度に第 6 期の調査を行い、計画した全 8 期分の調査のうち 6 期分までが実施済みとなった。これまでに実施した調査及び今後実施予定の調査、また、職業サイクル調査研究に関して当機構が発行した報告書類の一覧は以下のとおりである。（図表 1－1）

図表 1－1 調査の全体像

	職業生活前期調査	職業生活後期調査	調査結果に係る報告書（括弧内は発行年）
第1期	平成20年度（2008年度）	平成21年度（2009年度）	資料シリーズNo.50（2010）、No.54（2010）
第2期	平成22年度（2010年度）	平成23年度（2011年度）	調査研究報告書No.106（2012）
第3期	平成24年度（2012年度）	平成25年度（2013年度）	調査研究報告書No.118（2014）
第4期	平成26年度（2014年度）	平成27年度（2015年度）	調査研究報告書No.132（2016）
第5期	平成28年度（2016年度）	平成29年度（2017年度）	調査研究報告書No.148（2019）
第6期	平成30年度（2018年度）	令和元年度（2019年度）	調査研究報告書No.160（2020）※本報告書
第7期	令和2年度（2020年度）	令和3年度（2021年度）	-
第8期	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	-

第2節 調査研究委員会

調査の実施及び結果の分析と解釈に際し、関係する様々な立場からの専門的知見に基づく助言を得ることを目的として、学識経験者、各障害の当事者団体や家族団体（以下「当事者団体等」という。）関係者、事業主団体関係者により構成する調査研究委員会を設置した。第6期については、2019 年度に調査

研究委員会の設置要綱（巻末資料に掲載）を定め、2019年8月20日及び2020年8月20日に開催した。調査研究委員会においては、第6期の調査結果について報告した後に職業サイクル調査研究の意義や今後に期待される取組等について議論した。（図表1－2）

図表1－2 調査研究委員一覧（敬称略）（第6期）

第6期(2019年度及び2020年度)	
学識経験者	吉光 清<座長> 元 九州看護福祉大学社会福祉学科 教授
	今田 幸子 元 独立行政法人労働政策研究・研修機構 統括研究員
	嶋崎 尚子 早稲田大学文学学術院 教授
当事者団体等・事業主団体	工藤 正一 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合 総合相談室長
	大竹 浩司 一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事
	飯塚 善明 社会福祉法人日本身体障害者連合会 常務理事兼事務局長
	松崎 伸一 全国手をつなぐ育成会連合会 事業所協議会委員長
	小幡 恭弘 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会 事務局長
	金子 鮎子 特定非営利活動法人全国精神保健職親会 常務理事
	畠山 千蔭 東京経営者協会 障害者雇用アドバイザー

第3節 調査対象者

1 調査対象者の属性

職業サイクル調査研究における「障害」及び「障害者」の範囲は、基本的には「障害者の雇用の促進等に関する法律」（以下「障害者雇用促進法」という。）に準ずるものとした。調査結果の集計及び分析を行う上では、調査対象者を「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「内部障害」「知的障害」「精神障害」の6つに区分した。

労働者の年齢層を幅広く調査対象とすることとし、調査開始時点での年齢の下限は、義務教育終了後の15歳とし、上限は16年間継続する調査という点を考え、概ね55歳とした。

「第1節 調査の全体像」の図表1－1において示したように、調査対象者全体を2つのグループに分け、2008年度の調査開始時点で40歳未満の対象者への調査を「職業生活前期調査（以下「前期調査」という。）」、調査開始時点で40歳以上の対象者への調査を「職業生活後期調査（以下「後期調査」という。）」とした。

また、調査対象者は企業等で働いている労働者で、労働時間が週20時間以上（精神障害については15時間以上）の者とした。自営業も含めている。

2 募集方法

当事者団体等、障害者を多数雇用する事業所、職業リハビリテーション機関の協力を得て調査対象者の募集を行った。具体的な手続きとしては、当事者団体等の事務局や事業所担当者、職業リハビリテーション機関の担当者に依頼して募集要件に該当する会員や従業員または利用者を紹介いただき、紹介された個人に対して調査の内容や今後の実施計画についての説明文書と同意書を送付した。同意が確認できた場合のみ、調査対象者として氏名や連絡先等の個人情報と職業サイクル調査研究の事務局に登録し、個別のID番号を設定した上で調査票の発送を行った。

3 第3期における調査対象者の補充

前述のように、説明と同意の手続きを経て調査対象者を確保したが、調査期間の途中で様々な事情によりやむを得ず調査を中止する事例が一定数生じた。調査対象者の減少と回収率低下により、後半の調査において十分な分析が行えないと考えたため、第3期に際して調査対象者の補充を行った。

第4節 調査の内容

調査内容は、障害のある労働者の職業生活を幅広く捉える観点から、調査対象者の基本的な属性に関すること、職業に関すること、職業以外の生活に関することについての質問とし、後二者については出来事等の事実に関する質問と満足度等の意識に関する質問を含めた。

調査内容は原則として第1期から第8期まで共通としたが、調査研究委員会での議論に基づき、時勢の変化を踏まえた質問や選択肢の追加、設問の表現の変更、但し書きの付加を行っている。これらの変更の主な理由としては、制度変化に伴う行政サービス等の名称変更、無回答が多い等の状況から質問の文意が伝わりにくかったと推測されたことに伴う表現の変更等がある。選択肢の追加や設問の表現変更には、継続調査の利点を維持するため、できるだけ過去の調査期の回答を新しい調査票の回答に対応させて読み換えるように努めた。

調査対象者本人の基本的属性に関する質問は第1期（一部の項目は第2期）で質問した。就業状況や生活状況、意識等の変化することがある事象についての質問は毎回の調査に設けるが、調査票の分量を抑える目的から、一部の項目については隔回の調査とした。

第4期以降は、調査研究委員会の議論を踏まえて、後期調査から「仕事をする理由」について新たに7項目（「収入を得るため」「社会とのつながりを持つため」「社会の中で役割を果たすため」「自分自身が成長するため」「生きがいや楽しみのため」「生活のリズムを維持するため」「心身の健康のため」）の設問を追加した。それぞれについて、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5つの選択肢にて回答を得ている。加えて、第3期までは後期調査のみ定年に関する設問があったが、加齢等を考慮して前期調査においても同様の設問を追加するとともに、働いていたい年齢に関する設問も前期調査と後期調査では違いがあったが統一した。

第5期以降は、2016年4月より改正障害者雇用促進法が施行され、すべての事業主に雇用の分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供が義務付けられたことを踏まえて、雇用分野における障害者の差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況並びに雇用分野における障害者の差別禁止及び合理的配慮の提供義務の施行日（2016年4月）以降の職場において支障となっていることの確認や話合いの実施状況について、新たな設問を追加した。加えて、設問「最近2年間での生活上のできごと」の選択肢に「家族の介護が必要になった」を追加、設問「現在の仕事の継続意思」の選択肢として「別の仕事をしたい」と回答した場合にその詳細を確認する分岐設問を追加した。

調査内容の一覧について、図表1－3から図表1－5にまとめた。第5期以降の前期調査と後期調査は同様の調査項目を用いており、第6期で使用した職業生活後期調査票を巻末資料に掲載した。

図表1－3 基本的な属性及び生活面に関する質問

	質問の内容	備考
第1期調査（一部は第2期調査） のみの質問	・性別 ・生年月日 ・障害について診断を受けた年齢 ・学歴 ・結婚歴 ・子どもの有無、人数、年齢 ・持っている資格や免許	自由記述
繰り返しの質問	・障害者手帳の有無と種類、等級 ・家族構成 ・住居種類 ・最近2年間で新しく取得した資格や免許 ・最近2年間での生活上のできごと ・普段の生活で一番楽しみにしていること ・近い将来（5年後くらいまで）に実現したいこと ・生活の満足度	自由記述 自由記述 自由記述
奇数期調査のみ	・障害年金受給の有無 ・主な収入源（給与、年金、家族の収入等） ・経済的に困ったときに相談する相手	
偶数期調査のみ	・地域行事や集まりへの参加状況 ・地域生活での困りごとに関する相談先 ・病院等への通院頻度 ・福祉サービスの利用状況 ・体調や健康に関しての相談先 ・体力や健康面で心配なこと	自由記述 自由記述

図表 1－4 職業面の質問

	質問の内容	備考
第1期調査のみの質問	・初めて就職した年齢 ・初めて就職する前の状況	
繰り返しの質問	・就業形態 ・仕事をする上で重視すること ・仕事をする上で必要な配慮 ・会社や会社の者に望むこと ・雇用分野における障害者の差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況 ・仕事に関して困ったことがある時に相談する相手	第5期調査追加 奇数期調査のみ
就労中の人への質問	・職務内容 ・1週間の労働時間と休日数 ・1ヶ月の給与と1年間の賞与 ・通勤方法、通勤の所要時間 ・勤務先の企業等の規模（従業員数） ・前回調査と同じ勤務先かどうか ・現在の職場で働き始めた年齢 ・職場への障害の説明の程度 ・現在の職場で得られている配慮 ・雇用分野における障害者の差別禁止及び合理的配慮の提供義務の施行日（平成28年4月）以降の、職場における話合いや確認の実施状況 ・職業生活の満足度 ・定年制度の有無と定年年齢 ・働いていたい年齢 ・仕事をする理由 ・現在の仕事の継続意志 ・最近2年間の仕事上のできごと	第5期調査追加 第4期後期調査追加
就労中でない人への質問	・過去2年間の就業経験の有無 ・前職を離職した理由 ・今後の就職の意志、就職活動の状況 ・（就職意志がある場合）希望する働き方 ・（就職意志がある場合）仕事を探すときに相談する相手 ・（職業生活から引退した場合）引退理由	

図表 1－5 その他の質問

質問の内容	備考
・調査への意見、要望	自由記述
・回答にあたっての支援者の有無	
・（回答にあたって支援者がいる場合）支援者の詳細	自由記述
・回答の日付	

第5節 調査の実施方法

1 調査の実施方法

調査対象者本人に対する郵送調査とした。調査年度7月1日を調査日とし、その前後に調査票を発送した。概ね1ヶ月から1ヶ月半の回答期間を設けて回答締切日を定めた。調査票の形式は巻末資料として掲載した基本形式の他、障害の特性に応じて選択できるよう以下の5種類を用意し、本人の希望を確認の上で送付した。

- ①A3サイズに拡大印刷したもの（対象：視覚障害のある者）
- ②点字に翻訳したもの（対象：視覚障害のある者）
- ③音声読み上げソフト対応のテキストファイル（対象：視覚障害のある者）
- ④キーボード操作で回答できる形式の電子ファイル（対象：主に上肢に障害のある者）
- ⑤漢字に読み仮名をふり、平易な表現にしたもの（対象：知的障害のある者）

調査への回答は原則として本人に依頼したが、必要な場合は家族等の周囲の人の支援を受けて回答しても構わない旨を付記し、支援を受けた場合は、その旨を記載するように依頼した。

2 回収データの取り扱い

回収した回答は ID 番号と関連づけたデータとして管理し、ID 番号毎に回答の継続的变化を追うことができるようにした。分析上では個人の識別にはすべて ID 番号を使用した。ID 番号に紐づけた個人情報には専用パスワードを設定した電子ファイルに格納し、ファイル暗号化ツールにより暗号化して閉鎖ネットワーク上の保管領域に保管した。個人情報を含む紙媒体と電磁的記録媒体のすべては施錠できる場所で管理した。

また、第4期において、第1期から第3期の報告書等の作成後に回収した回答を含めた各調査期の回答内容を整理して回答データファイルを整備し、第4期報告書を作成した。第5期以降の調査期においては、回答データファイルに当該調査期の回答を加えて継続して整備している。

3 継続的協力を得るための取り組み

長期縦断調査を効果的に実施するために回収率の維持は重要であることから、調査対象者から継続的な協力を得るための取り組みとして、ニュースレターの送付と謝品の贈呈を第1期から行っている。

ニュースレターは「サイクル便り」と称し、調査対象者全員に対し、年1回程度発行した。内容は、調査結果を抜粋して報告することが中心であるが、障害のある人の職業生活に資する社会資源の紹介や関連するトピック等についても掲載し、関心を引く内容になるように努めた。ニュースレターについても調査票と同じく、調査対象者の障害に応じて、拡大印刷や点字、音声読み上げソフト対応のテキストファイル等、障害特性に応じた形式で作成した。第6期に作成・送付したニュースレターを巻末資料として掲載した。(巻末資料4及び巻末資料5)

調査回答者に対する謝品は、クオカードまたは図書カードのどちらかを希望に応じて簡易書留により送付した。

第6節 ヒアリング調査の実施

第5期報告書では、ヒアリング調査の必要性に言及している。調査結果から、例えば一つの企業に長期間継続雇用されているといった特徴的な回答が把握できるものの質問紙調査のみから詳細な実態の把握は困難であるため、第6期では、調査結果を補完することを目的として、ヒアリング調査を第6期研究計画に組み込み、調査研究委員会における議論を経て、第6期の調査期間において実施した。なお、本ヒアリング調査の内容・調査方法等は、当機構の調査研究倫理審査委員会による倫理審査の結果、妥当と認められている(受付No.30年度-11)。

1 ヒアリング調査対象者

第6期におけるヒアリング調査では、「年齢が高く継続雇用されている」という特徴のある対象者とした。具体的な対象者の選定方法は、第5期の結果から10年以上同一企業に在籍している者のなかから回答頻度等を踏まえて障害種類別に抽出し、ヒアリング調査についての説明を行い同意を得た。

第6期のヒアリング調査は5名に対して実施した。うち、現在も在職中であり、同じ職場への在職期間が20年程度以上の者3名を調査研究の事例とした。

2 ヒアリング調査の方法

ヒアリング場所はヒアリング対象者等との調整により自宅近くの貸会議室等とした。時間は1時間を目安とした。基本的にはヒアリング対象者1名とヒアリング担当研究員2名との面談としたが、知的障害の場合は家族等の同席により緊張感の緩和及びヒアリング対象者の発言への追加説明を得た。半構造化面接法によりヒアリングを行い、ヒアリング内容をまとめたものについてヒアリング対象者に送付し確認を得たものをヒアリング調査の結果とした。

3 ヒアリング調査の内容

今までの職歴の振り返り、調査開始後の仕事内容・労働条件・職場に対する意識や仕事の満足度の変化、職業人生に大きく影響したこと、これから職業人生を歩み始める者へのアドバイスやメッセージ等を確認した。

なお、ヒアリング調査の結果は、第4章第2節に記載し、第5期報告書における分析結果との関連について述べ、考察した。

第2章

調査結果

第2章 調査結果

第1節から第4節までは第1期から第5期の調査結果と併せて第6期の調査結果を掲載する。第5節は、職業サイクル調査研究の回答者の特徴と留意点について整理した。なお、調査対象者は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害の6つの障害グループのいずれかに属している。

第1節 調査対象者数と回収率

1 調査対象者数

調査対象者の人数は図表2-1-1のように推移している。第3期で対象者数が増加しているのは、第1章第3節で記した調査対象者の補充を行ったためである。補充した調査対象者の人数を図表2-1-2に示す。

図表2-1-1 調査対象者数（単位：人）

	第1期			第2期			第3期			第4期			第5期			第6期		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
視覚障害	57	70	127	55	68	123	56	68	124	56	65	121	51	62	113	46	59	105
聴覚障害	103	106	209	103	105	208	128	127	255	125	116	241	115	113	228	111	106	217
肢体不自由	111	163	274	110	156	266	113	153	266	108	140	248	100	134	234	98	133	231
内部障害	35	48	83	35	47	82	36	92	128	36	90	126	33	86	119	30	80	110
知的障害	137	100	237	136	94	230	197	105	302	191	101	292	183	99	282	178	92	270
精神障害	51	45	96	51	43	94	68	56	124	66	55	121	62	53	115	58	52	110
計	494	532	1,026	490	513	1,003	598	601	1,199	582	567	1,149	544	547	1,091	521	522	1,043

図表2-1-2 第3期に補充した調査対象者数（単位：人）

	補充数		
	前期	後期	計
視覚障害	2	2	4
聴覚障害	31	24	55
肢体不自由	4	7	11
内部障害	2	47	49
知的障害	67	20	87
精神障害	21	15	36
計	127	115	242

職業サイクル調査研究の全登録者（調査対象者総数）は、第1期の調査対象者1,026人に第3期において補充した調査対象者242人をあわせた1,268人である。第6期の調査対象者は全登録者から225人減少して1,043人であった。図表2-1-3に第6期までに減少した調査対象者数を示す。調査対象者数減少の理由としては、「調査対象者本人や家族から調査への協力中止の申し出があった場合」「転居等により住所不明になった場合」「調査対象者本人が死去した場合」の3つがある。

図表 2－1－3 第6期までに減少した調査対象者数（単位：人）

	協力中止			住所不明			死去		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
視覚障害	2	3	5	11	9	20	0	1	1
聴覚障害	0	6	6	23	14	37	0	4	4
肢体不自由	5	11	16	11	19	30	1	7	8
内部障害	0	1	1	7	7	14	0	7	7
知的障害	11	15	26	15	11	26	0	2	2
精神障害	6	4	10	7	4	11	1	0	1
計	24	40	64	74	64	138	2	21	23

2 回収率

各調査期の調査票の回収数と回収率は図表 2－1－4 のとおりである。なお第6期で初めて回答があった調査対象者は、視覚障害1人、聴覚障害3人、精神障害1人の計5人だった。

図表 2－1－4 回収数（単位：人）と回収率（括弧内）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	48 (84%)	56 (80%)	39 (71%)	39 (57%)	36 (64%)	44 (65%)	35 (63%)	40 (62%)	33 (65%)	36 (58%)	22 (48%)	35 (59%)
聴覚障害	83 (81%)	82 (77%)	55 (53%)	58 (55%)	78 (61%)	81 (64%)	70 (56%)	75 (65%)	65 (57%)	55 (49%)	54 (49%)	54 (51%)
肢体不自由	93 (84%)	123 (75%)	78 (71%)	96 (62%)	71 (63%)	100 (65%)	63 (58%)	87 (62%)	58 (58%)	86 (64%)	51 (52%)	75 (56%)
内部障害	31 (89%)	42 (88%)	27 (77%)	34 (72%)	23 (64%)	78 (85%)	24 (67%)	68 (76%)	22 (67%)	58 (67%)	19 (63%)	49 (61%)
知的障害	122 (89%)	76 (76%)	107 (79%)	61 (65%)	162 (82%)	75 (71%)	131 (69%)	62 (61%)	127 (69%)	50 (51%)	118 (66%)	49 (53%)
精神障害	46 (90%)	37 (82%)	36 (71%)	27 (63%)	52 (76%)	42 (75%)	45 (68%)	40 (73%)	37 (60%)	33 (62%)	40 (69%)	31 (60%)
計	423 (86%)	416 (78%)	342 (70%)	315 (61%)	422 (71%)	420 (70%)	368 (63%)	372 (66%)	342 (63%)	318 (58%)	304 (58%)	293 (56%)

調査対象者は、重複障害を含め調査開始の段階で障害者手帳の等級などから判断した6つの障害グループのいずれかに属する。各調査期における回答者の障害グループ内訳は図表 2－1－5 のとおりである。

図表 2－1－5 各調査期における回答者の障害グループ内訳（単位：人）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	48 (11%)	56 (13%)	39 (11%)	39 (12%)	36 (9%)	44 (10%)	35 (10%)	40 (11%)	33 (10%)	36 (11%)	22 (7%)	35 (12%)
聴覚障害	83 (20%)	82 (20%)	55 (16%)	58 (18%)	78 (18%)	81 (19%)	70 (19%)	75 (20%)	65 (19%)	55 (17%)	54 (18%)	54 (18%)
肢体不自由	93 (22%)	123 (30%)	78 (23%)	96 (30%)	71 (17%)	100 (24%)	63 (17%)	87 (23%)	58 (17%)	86 (27%)	51 (17%)	75 (26%)
内部障害	31 (7%)	42 (10%)	27 (8%)	34 (11%)	23 (5%)	78 (19%)	24 (7%)	68 (18%)	22 (6%)	58 (18%)	19 (6%)	49 (17%)
知的障害	122 (29%)	76 (18%)	107 (31%)	61 (19%)	162 (38%)	75 (18%)	131 (36%)	62 (17%)	127 (37%)	50 (16%)	118 (39%)	49 (17%)
精神障害	46 (11%)	37 (9%)	36 (11%)	27 (9%)	52 (12%)	42 (10%)	45 (12%)	40 (11%)	37 (11%)	33 (10%)	40 (13%)	31 (11%)
計	423 (100%)	416 (100%)	342 (100%)	315 (100%)	422 (100%)	420 (100%)	368 (100%)	372 (100%)	342 (100%)	318 (100%)	304 (100%)	293 (100%)

第1期から第6期まで全ての調査へ回答した者は317人で、全登録者の25%だった。また、第3期に補充した調査対象者のうち第3期から第6期まで4回全ての調査へ回答した者は98人だった。

図表 2－1－6 これまでの6回の調査における回答回数（単位：人）

	6回	5回	4回（うち追加者）	3回	2回	1回	0回	計	
視覚障害	31（24%）	23（18%）	19（15%）	1	15（11%）	12（9%）	17（13%）	14（11%）	131（100%）
聴覚障害	54（20%）	30（11%）	38（14%）	17	28（11%）	27（10%）	46（17%）	41（16%）	264（100%）
肢体不自由	78（27%）	37（13%）	33（12%）	4	32（11%）	33（12%）	34（12%）	38（13%）	285（100%）
内部障害	31（23%）	12（9%）	36（27%）	25	13（10%）	17（13%）	12（9%）	11（8%）	132（100%）
知的障害	90（28%）	24（7%）	60（19%）	30	39（12%）	40（12%）	40（12%）	31（10%）	324（100%）
精神障害	33（25%）	14（11%）	30（23%）	21	13（10%）	11（8%）	20（15%）	11（8%）	132（100%）
計	317（25%）	140（11%）	216（17%）	98	140（11%）	140（11%）	169（13%）	146（12%）	1,268（100%）

※回答回数4回の（うち追加者）は、第3期において補充した調査対象者のうち第3期、第4期、第5期、第6期の全てに回答があった人数

第2節 調査回答者の基本的属性

本節では調査回答者の基本的属性について述べる。前期調査と後期調査の全登録者1,268人のうち、第6期までの調査において1回以上回答のあった調査対象者1,122人を集計対象とした。

1 性別

1回以上回答のあった調査対象者の男女比は図表2－2－1のとおり7：3となっている。聴覚障害では男性が61%なのに対し精神障害では79%と、男女の比率には障害種類によって開きがある。

図表 2－2－1 調査回答者の性別（単位：人）

	男性	女性	計
視覚障害	75 (64%)	42 (36%)	117 (100%)
聴覚障害	135 (61%)	88 (39%)	223 (100%)
肢体不自由	186 (75%)	61 (25%)	247 (100%)
内部障害	88 (73%)	33 (27%)	121 (100%)
知的障害	209 (71%)	84 (29%)	293 (100%)
精神障害	96 (79%)	25 (21%)	121 (100%)
計	789 (70%)	333 (30%)	1,122 (100%)

2 年齢

1回以上回答のあった調査対象者の平均年齢と、前期調査と後期調査それぞれの年齢層は図表2－2－2から2－2－4のとおりである。第6期前期調査において知的障害では平均年齢が35.3歳、内部障害では43.1歳であり、第6期後期調査において知的障害では55.6歳、肢体不自由では58.1歳であった。

図表 2－2－2 調査回答者の平均年齢（単位：歳）

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
視覚障害	30.4	47.7	32.0	49.0	34.1	51.1	36.1	53.1	38.7	55.2	40.4	57.3
聴覚障害	29.6	47.5	31.0	49.4	33.1	51.4	35.1	53.4	37.1	55.5	39.1	57.4
肢体不自由	29.9	47.7	31.4	49.7	33.4	51.6	35.2	53.5	37.8	55.4	39.8	58.1
内部障害	34.1	49.0	35.6	50.9	37.5	51.6	39.5	53.6	40.6	55.8	43.1	57.6
知的障害	25.6	45.9	27.1	47.9	29.3	50.2	31.3	52.3	33.3	54.1	35.3	55.6
精神障害	32.8	45.6	34.4	47.7	34.7	50.1	36.7	52.1	38.7	53.9	41.8	56.0

図表 2－2－3 前期調査回答者の年齢層（単位：人）

		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	計
視 覚 障 害	第1期	0 (0%)	21 (44%)	24 (50%)	3 (6%)	0 (0%)	48 (100%)
	第2期	0 (0%)	12 (31%)	23 (59%)	4 (10%)	0 (0%)	39 (100%)
	第3期	0 (0%)	6 (17%)	20 (56%)	10 (28%)	0 (0%)	36 (100%)
	第4期	0 (0%)	4 (11%)	18 (51%)	13 (37%)	0 (0%)	35 (100%)
	第5期	0 (0%)	1 (3%)	18 (55%)	14 (42%)	0 (0%)	33 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	10 (45%)	12 (55%)	0 (0%)	22 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	0 (0%)	51 (61%)	29 (35%)	3 (4%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	0 (0%)	23 (42%)	27 (49%)	5 (9%)	0 (0%)	55 (100%)
	第3期	0 (0%)	21 (27%)	40 (51%)	17 (22%)	0 (0%)	78 (100%)
	第4期	0 (0%)	10 (14%)	41 (59%)	19 (27%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	0 (0%)	3 (5%)	38 (58%)	24 (37%)	0 (0%)	65 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	34 (63%)	20 (37%)	0 (0%)	54 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	3 (3%)	42 (45%)	40 (43%)	8 (9%)	0 (0%)	93 (100%)
	第2期	0 (0%)	35 (45%)	28 (36%)	15 (19%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	0 (0%)	23 (32%)	28 (39%)	20 (28%)	0 (0%)	71 (100%)
	第4期	0 (0%)	15 (24%)	26 (41%)	22 (35%)	0 (0%)	63 (100%)
	第5期	0 (0%)	10 (17%)	24 (41%)	24 (41%)	0 (0%)	58 (100%)
	第6期	0 (0%)	2 (4%)	22 (43%)	25 (49%)	2 (4%)	51 (100%)
内 部 障 害	第1期	0 (0%)	7 (23%)	22 (71%)	2 (6%)	0 (0%)	31 (100%)
	第2期	0 (0%)	2 (7%)	19 (70%)	6 (22%)	0 (0%)	27 (100%)
	第3期	0 (0%)	3 (13%)	10 (43%)	10 (43%)	0 (0%)	23 (100%)
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	10 (42%)	14 (58%)	0 (0%)	24 (100%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	8 (36%)	14 (64%)	0 (0%)	22 (100%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	5 (26%)	14 (74%)	0 (0%)	19 (100%)
知 的 障 害	第1期	10 (8%)	92 (75%)	15 (12%)	5 (4%)	0 (0%)	122 (100%)
	第2期	0 (0%)	80 (75%)	21 (20%)	6 (6%)	0 (0%)	107 (100%)
	第3期	4 (2%)	93 (57%)	52 (32%)	13 (8%)	0 (0%)	162 (100%)
	第4期	0 (0%)	56 (43%)	55 (42%)	20 (15%)	0 (0%)	131 (100%)
	第5期	0 (0%)	42 (33%)	65 (51%)	20 (16%)	0 (0%)	127 (100%)
	第6期	0 (0%)	17 (14%)	76 (64%)	24 (20%)	1 (1%)	118 (100%)
精 神 障 害	第1期	0 (0%)	11 (24%)	35 (76%)	0 (0%)	0 (0%)	46 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (17%)	25 (69%)	5 (14%)	0 (0%)	36 (100%)
	第3期	0 (0%)	9 (17%)	30 (58%)	13 (25%)	0 (0%)	52 (100%)
	第4期	0 (0%)	5 (11%)	21 (47%)	19 (42%)	0 (0%)	45 (100%)
	第5期	0 (0%)	4 (11%)	15 (41%)	18 (49%)	0 (0%)	37 (100%)
	第6期	0 (0%)	1 (3%)	14 (35%)	25 (63%)	0 (0%)	40 (100%)

図表 2－2－4 後期調査回答者の年齢層（単位：人）

		～49歳	50～59歳	60～69歳	計
視 覚 障 害	第1期	42 (76%)	13 (24%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	21 (54%)	18 (46%)	0 (0%)	39 (100%)
	第3期	16 (36%)	28 (64%)	0 (0%)	44 (100%)
	第4期	7 (18%)	30 (75%)	3 (8%)	40 (100%)
	第5期	3 (8%)	29 (81%)	4 (11%)	36 (100%)
	第6期	0 (0%)	26 (74%)	9 (26%)	35 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	54 (66%)	28 (34%)	0 (0%)	82 (100%)
	第2期	31 (53%)	27 (47%)	0 (0%)	58 (100%)
	第3期	32 (40%)	48 (59%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	22 (29%)	48 (64%)	5 (7%)	75 (100%)
	第5期	5 (9%)	37 (67%)	13 (24%)	55 (100%)
	第6期	0 (0%)	37 (69%)	17 (31%)	54 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	81 (66%)	41 (33%)	1 (1%)	123 (100%)
	第2期	51 (53%)	41 (43%)	4 (4%)	96 (100%)
	第3期	36 (36%)	57 (57%)	7 (7%)	100 (100%)
	第4期	20 (23%)	58 (67%)	9 (10%)	87 (100%)
	第5期	6 (7%)	65 (76%)	15 (17%)	86 (100%)
	第6期	0 (0%)	47 (63%)	28 (37%)	75 (100%)
内 部 障 害	第1期	17 (40%)	25 (60%)	0 (0%)	42 (100%)
	第2期	10 (29%)	24 (71%)	0 (0%)	34 (100%)
	第3期	22 (28%)	56 (72%)	0 (0%)	78 (100%)
	第4期	15 (22%)	49 (72%)	4 (6%)	68 (100%)
	第5期	6 (10%)	39 (67%)	13 (22%)	58 (100%)
	第6期	0 (0%)	29 (59%)	20 (41%)	49 (100%)
知 的 障 害	第1期	61 (80%)	15 (20%)	0 (0%)	76 (100%)
	第2期	43 (70%)	18 (30%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	40 (53%)	35 (47%)	0 (0%)	75 (100%)
	第4期	26 (42%)	33 (53%)	3 (5%)	62 (100%)
	第5期	8 (16%)	35 (70%)	7 (14%)	50 (100%)
	第6期	0 (0%)	39 (80%)	10 (20%)	49 (100%)
精 神 障 害	第1期	33 (89%)	4 (11%)	0 (0%)	37 (100%)
	第2期	19 (70%)	7 (26%)	1 (4%)	27 (100%)
	第3期	21 (50%)	21 (50%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	15 (38%)	23 (58%)	2 (5%)	40 (100%)
	第5期	3 (9%)	27 (82%)	3 (9%)	33 (100%)
	第6期	0 (0%)	25 (81%)	6 (19%)	31 (100%)

※年齢不明を除く。(第1期後期調査の視覚障害において1人年齢不明を確認)

3 障害者手帳の所持状況及び等級

障害者手帳の所持状況について、第6期の調査回答者の結果を図表2-2-5に示した。

身体障害では約8割が重度（1～2級）であり、特に聴覚障害は9割が重度だった。知的障害では重度以外が約9割となっていた。精神障害では2級と3級がともに約4割であり、約1割は精神障害者保健福祉手帳を所持していなかった。

図表2-2-5 各障害種類の調査回答者の各種障害者手帳等級（単位：人）

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害の者の身体障害者手帳等級							
	1～2級	3～4級	5～6級	等級不明	手帳なし	無回答	計
視覚障害	44 (77%)	6 (11%)	6 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
聴覚障害	97 (90%)	10 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
肢体不自由	100 (79%)	14 (11%)	12 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	126 (100%)
内部障害	53 (78%)	15 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	68 (100%)
計	294 (82%)	45 (13%)	19 (5%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	359 (100%)

知的障害の者の療育手帳等級							
	重度	重度以外	等級不明	手帳なし	無回答	計	
	12 (7%)	152 (91%)	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	167 (100%)	

精神障害の者の精神障害者保健福祉手帳の等級							
	1級	2級	3級	手帳なし	無回答	計	
	1 (1%)	31 (44%)	30 (42%)	8 (11%)	1 (1%)	71 (100%)	

4 障害の診断年齢

1回以上回答のあった調査対象者の主たる障害について、診断を受けた年齢を5歳刻みのカテゴリに分類したものを図表2-2-6に示す。なお、診断を受けた年齢については第1期で回答を得て、第3期に補充した者については第3期で回答を得ている。よって、第1期に回答がなく第2期以降に回答のあった者及び第3期に補充した調査対象者のうち第3期に回答がなく第4期以降に回答のあった者の診断年齢は無回答に区分している。

図表2-2-6 障害の診断年齢（単位：人）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
視覚障害	47 (40%)	11 (9%)	10 (9%)	6 (5%)	6 (5%)	6 (5%)	4 (3%)	3 (3%)
聴覚障害	150 (67%)	15 (7%)	1 (0%)	2 (1%)	3 (1%)	1 (0%)	2 (1%)	1 (0%)
肢体不自由	65 (26%)	13 (5%)	8 (3%)	25 (10%)	29 (12%)	23 (9%)	9 (4%)	8 (3%)
内部障害	9 (7%)	4 (3%)	1 (1%)	15 (12%)	23 (19%)	13 (11%)	13 (11%)	12 (10%)
知的障害	77 (26%)	35 (12%)	15 (5%)	8 (3%)	1 (0%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (0%)
精神障害	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (14%)	24 (20%)	25 (21%)	13 (11%)	8 (7%)
計	350 (31%)	78 (7%)	37 (3%)	73 (7%)	86 (8%)	70 (6%)	43 (4%)	33 (3%)

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	不明	無回答	計
視覚障害	4 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (9%)	8 (7%)	117 (100%)
聴覚障害	1 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	31 (14%)	15 (7%)	223 (100%)
肢体不自由	8 (3%)	6 (2%)	2 (1%)	0 (0%)	31 (13%)	20 (8%)	247 (100%)
内部障害	11 (9%)	11 (9%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	4 (3%)	121 (100%)
知的障害	2 (1%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	56 (19%)	93 (32%)	293 (100%)
精神障害	6 (5%)	3 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	14 (12%)	6 (5%)	121 (100%)
計	32 (3%)	22 (2%)	6 (1%)	1 (0%)	145 (13%)	146 (13%)	1,122 (100%)

5 学歴

1 回以上回答のあった調査対象者の最終学歴を図表 2－3－7 に示す。なお、最終学歴については第 1 期で回答を得て、第 3 期に補充した者については第 3 期で回答を得ている。

図表 2－2－7 最終学歴（単位：人）

	中学校	高等学校	特別支援 中学部	特別支援 高等部	特別支援 専攻科	専修学校
視覚障害	0 (0%)	3 (3%)	1 (1%)	1 (1%)	48 (41%)	11 (9%)
聴覚障害	1 (0%)	17 (8%)	0 (0%)	44 (20%)	32 (14%)	21 (9%)
肢体不自由	0 (0%)	53 (21%)	1 (0%)	27 (11%)	0 (0%)	20 (8%)
内部障害	4 (3%)	38 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	14 (12%)
知的障害	39 (13%)	24 (8%)	10 (3%)	138 (47%)	4 (1%)	9 (3%)
精神障害	3 (2%)	37 (31%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	12 (10%)
計	47 (4%)	172 (15%)	12 (1%)	211 (19%)	86 (8%)	87 (8%)

	職業訓練校	短大、大学	大学院	その他	無回答	計
視覚障害	13 (11%)	22 (19%)	1 (1%)	4 (3%)	13 (11%)	117 (100%)
聴覚障害	26 (12%)	48 (22%)	1 (0%)	1 (0%)	32 (14%)	223 (100%)
肢体不自由	74 (30%)	38 (15%)	5 (2%)	1 (0%)	28 (11%)	247 (100%)
内部障害	13 (11%)	41 (34%)	3 (2%)	1 (1%)	5 (4%)	121 (100%)
知的障害	28 (10%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (1%)	35 (12%)	293 (100%)
精神障害	9 (7%)	39 (32%)	6 (5%)	6 (5%)	8 (7%)	121 (100%)
計	163 (15%)	190 (17%)	16 (1%)	17 (2%)	121 (11%)	1,122 (100%)

6 調査への紹介元

1 回以上回答のあった調査対象者の紹介元について、図表 2－2－8 に示す。視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害の 4 つの障害グループにおいて、調査対象者の過半数が当事者団体等からの紹介である。肢体不自由の対象者は 4 割が雇用事業所から、精神障害の対象者は 8 割が職業リハビリテーション機関からの紹介である。

図表 2－2－8 調査対象者の紹介元（単位：人）

	当事者団体等	事業所	職リハ機関	その他	計
視覚障害	75 (64%)	5 (4%)	10 (9%)	27 (23%)	117 (100%)
聴覚障害	174 (78%)	26 (12%)	10 (4%)	13 (6%)	223 (100%)
肢体不自由	64 (26%)	100 (40%)	49 (20%)	34 (14%)	247 (100%)
内部障害	84 (69%)	25 (21%)	4 (3%)	8 (7%)	121 (100%)
知的障害	179 (61%)	41 (14%)	25 (9%)	48 (16%)	293 (100%)
精神障害	7 (6%)	9 (7%)	97 (80%)	8 (7%)	121 (100%)
計	583 (52%)	206 (18%)	195 (17%)	138 (12%)	1,122 (100%)

7 回答時の支援者の有無

調査回答者の回答の記入時に家族、友人、支援者など周囲の人に支援を受けたかどうかを図表 2－2－9 に示す。第 6 期においては、知的障害の 6 割が支援を受けて回答していた。その他の障害種類では、概ね 9 割以上が自ら記入したと回答した。

図表 2－2－9 回答時の支援者の有無（単位：人）

		支援なし	支援あり	無回答	計
視覚障害	第1期	92 (88%)	7 (7%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	68 (87%)	5 (6%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	73 (91%)	3 (4%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	70 (93%)	2 (3%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	65 (94%)	4 (6%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	55 (96%)	1 (2%)	1 (2%)	57 (100%)
聴覚障害	第1期	153 (93%)	6 (4%)	6 (4%)	165 (100%)
	第2期	103 (91%)	4 (4%)	6 (5%)	113 (100%)
	第3期	141 (89%)	7 (4%)	11 (7%)	159 (100%)
	第4期	138 (95%)	5 (3%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	110 (92%)	3 (3%)	7 (6%)	120 (100%)
	第6期	104 (96%)	3 (3%)	1 (1%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期	198 (92%)	17 (8%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	148 (85%)	18 (10%)	8 (5%)	174 (100%)
	第3期	148 (87%)	12 (7%)	11 (6%)	171 (100%)
	第4期	135 (90%)	11 (7%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	130 (90%)	11 (8%)	3 (2%)	144 (100%)
	第6期	115 (91%)	10 (8%)	1 (1%)	126 (100%)
内部障害	第1期	72 (99%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	57 (93%)	1 (2%)	3 (5%)	61 (100%)
	第3期	96 (95%)	3 (3%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	90 (98%)	1 (1%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	77 (96%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	66 (97%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
知的障害	第1期	52 (26%)	140 (71%)	6 (3%)	198 (100%)
	第2期	85 (51%)	79 (47%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	64 (27%)	156 (66%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	69 (36%)	118 (61%)	6 (3%)	193 (100%)
	第5期	54 (31%)	112 (63%)	11 (6%)	177 (100%)
	第6期	59 (35%)	101 (60%)	7 (4%)	167 (100%)
精神障害	第1期	76 (92%)	7 (8%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	47 (75%)	11 (17%)	5 (8%)	63 (100%)
	第3期	87 (93%)	6 (6%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	74 (87%)	10 (12%)	1 (1%)	85 (100%)
	第5期	62 (89%)	3 (4%)	5 (7%)	70 (100%)
	第6期	66 (93%)	4 (6%)	1 (1%)	71 (100%)

第3節 調査回答者の就労状況

本節では、就労状況に関する回答状況について述べる。

職業サイクル調査研究では、回答記入時に収入のある仕事に就いているかどうかを確認し、就労の有無を判別している。ここでの就労者は、正社員、パート等、派遣、自営、内職、就労継続支援A型で働いている者であり、就労継続支援B型あるいは就労移行支援、地域活動支援センター（福祉作業所）などでの雇用契約を結ばない形での勤務者は含めない。加えて、就労形態はその他と回答、または無回答であるが、就労していることを確認している者も就労者に含めている。

1 就労形態、就労の有無及び仕事数

各調査期の調査回答者の就労形態は図表2-3-1のとおりである。なお、この項目では、複数の仕事をしている場合には主な仕事ひとつについて回答を求めている。

正社員は、第6期において身体障害で5割前後であるのに対して、知的障害は20%、精神障害は15%であった。なお、第1期と第6期の正社員比率を比較すると障害種類に共通して正社員の割合が低下していた。就労継続支援A型は知的障害で最も多いが他の障害でも少数ではあるものの確認できた。自営については視覚障害で21%と顕著であった。また、現在仕事をしていないと回答した者は、肢体不自由20%、精神障害20%、内部障害15%が多かった。(図表2-3-2)

図表2-3-1 就労形態(単位:人)

		就労者							就労していない者				就労状況 不明の者		計	
		正社員	パート等	派遣	自営等	内職	A型	その他	無回答	福祉	仕事を していない	その他	無回答	その他		無回答
視 覚 障 害	第1期	67 (64%)	17 (16%)	0 (0%)	17 (16%)	0 (0%)	—	0 (0%)	1 (1%)	—	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	12 (15%)	0 (0%)	14 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	78 (100%)
	第3期	51 (64%)	10 (13%)	0 (0%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第4期	42 (56%)	14 (19%)	1 (1%)	12 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	75 (100%)
	第5期	39 (57%)	11 (16%)	1 (1%)	11 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	27 (47%)	10 (18%)	1 (2%)	12 (21%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	117 (71%)	38 (23%)	1 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	—	0 (0%)	0 (0%)	—	0 (0%)	6 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	165 (100%)
	第2期	72 (64%)	28 (25%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	8 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	113 (100%)
	第3期	96 (60%)	46 (29%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	6 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	159 (100%)
	第4期	81 (56%)	41 (28%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	8 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (4%)	145 (100%)
	第5期	65 (54%)	37 (31%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (6%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	60 (56%)	36 (33%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	151 (70%)	40 (19%)	1 (0%)	3 (1%)	0 (0%)	—	0 (0%)	0 (0%)	—	0 (0%)	21 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	216 (100%)
	第2期	108 (62%)	40 (23%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	13 (7%)	3 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	174 (100%)
	第3期	104 (61%)	37 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	17 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	85 (57%)	40 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	15 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	150 (100%)
	第5期	74 (51%)	30 (21%)	0 (0%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	25 (17%)	0 (0%)	4 (3%)	0 (0%)	2 (1%)	144 (100%)
	第6期	59 (47%)	28 (22%)	2 (2%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	2 (2%)	25 (20%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	55 (75%)	12 (16%)	0 (0%)	4 (5%)	0 (0%)	—	0 (0%)	1 (1%)	—	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	46 (75%)	11 (18%)	0 (0%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	61 (100%)
	第3期	69 (68%)	20 (20%)	0 (0%)	6 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	61 (66%)	22 (24%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	45 (56%)	16 (20%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	9 (11%)	1 (1%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	80 (100%)
	第6期	37 (54%)	17 (25%)	0 (0%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	83 (42%)	105 (53%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	—	0 (0%)	3 (2%)	—	0 (0%)	6 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	198 (100%)
	第2期	53 (32%)	100 (60%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (2%)	8 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	168 (100%)
	第3期	73 (31%)	129 (54%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (5%)	4 (2%)	1 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	237 (100%)
	第4期	46 (24%)	111 (58%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (5%)	5 (3%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (4%)	193 (100%)
	第5期	45 (25%)	92 (52%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	12 (7%)	4 (2%)	2 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	177 (100%)
	第6期	33 (20%)	89 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (8%)	1 (1%)	8 (5%)	17 (10%)	5 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	26 (31%)	54 (65%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	—	0 (0%)	0 (0%)	—	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	17 (27%)	33 (52%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	7 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	18 (19%)	58 (62%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (4%)	7 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	11 (13%)	50 (59%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (8%)	9 (11%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	9 (13%)	42 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (9%)	10 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	11 (15%)	38 (54%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	4 (6%)	14 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	71 (100%)

※就労形態の選択肢は調査期により異なり、各回答に含まれる各調査回の回答は以下のとおり。

1. 「A型」及び「福祉」

- ・第1期及び第2期前期調査では、「A型」「福祉」の別を問う選択肢を設けていない。
- ・第2期後期調査の選択肢「就労継続支援事業所A型や福祉工場で働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型、福祉作業所や就労移行支援事業所で働いている」は「福祉」に含めている。
- ・第3期及び第4期の選択肢「就労継続支援事業所A型(福祉工場)で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援事業所B型あるいは就労移行支援事業所や地域活動支援センター(福祉作業所)などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」に含めている。
- ・第5期及び第6期の選択肢「就労継続支援A型で雇用契約を結んで働いている」は「A型」、「就労継続支援B型あるいは就労移行支援や地域活動支援センター(福祉作業所)などで雇用契約を結ばない形で働いている」は「福祉」に含めている。

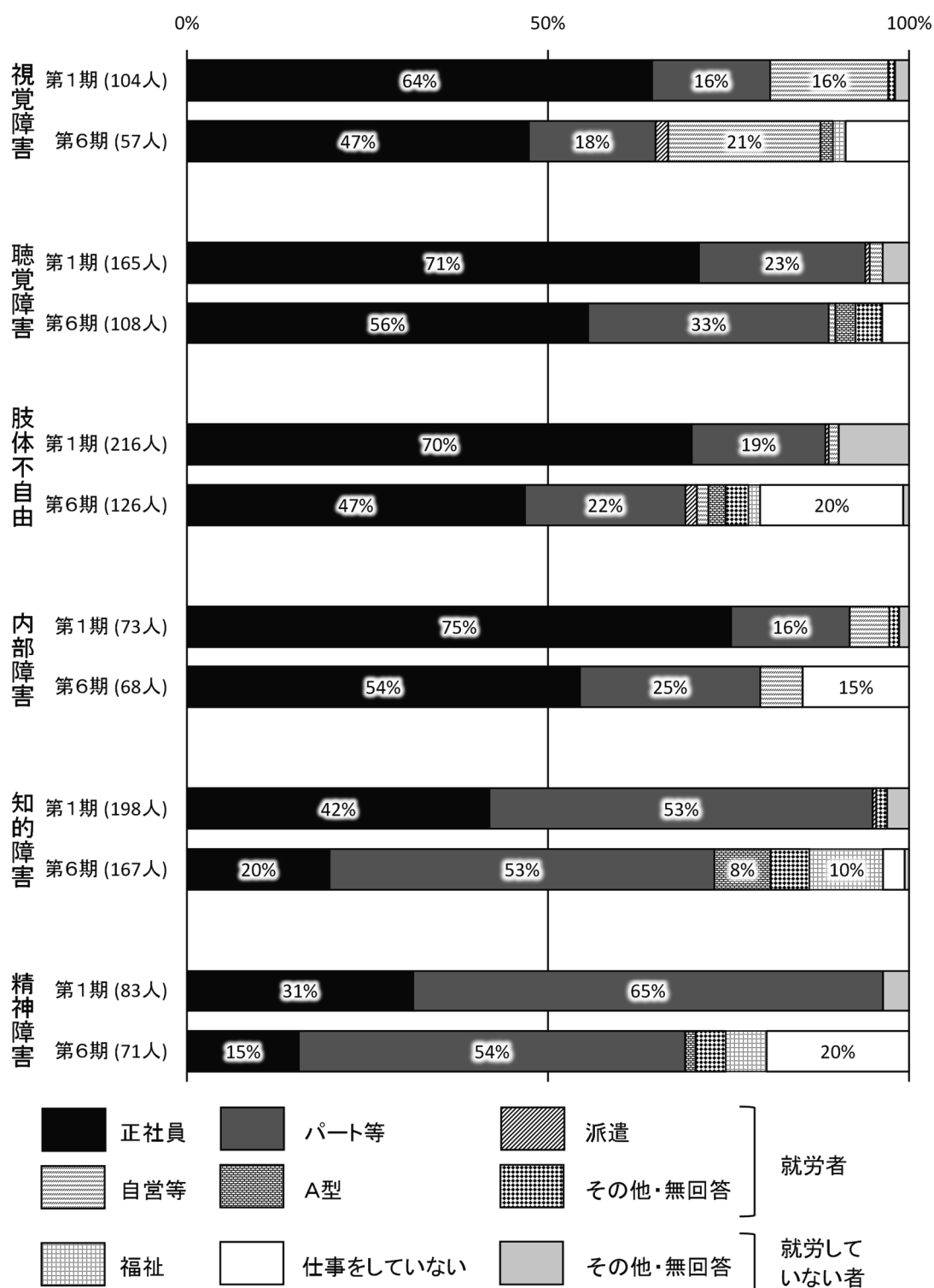
2. 「その他」

- ・選択肢「その他」は就労の有無により「就労者」「就労していない者」「就労状況不明の者」のいずれかに該当する。
- ・第1期の選択肢「上記のいずれにも該当しない(福祉工場や作業所で働いている」「仕事をしていない」など)は、「就労していない者」の「その他」に含めている。
- ・第2期前期調査の選択肢「福祉工場や作業所で働いている」は、「就労していない者」の「その他」に含めている。

3. 「無回答」

- ・選択肢への回答の無かった「無回答」は就労の有無により「就労者」「就労していない者」「就労状況不明の者」のいずれかに該当する。

次に、障害種類別に第1期と第6期の就労形態を比較した。(図表2-3-2)



※「就労者」の「内職」及び「就労状況不明の者」の「その他」と「無回答」は該当者がいないため省略した。
 「就労者」及び「就労していない者」の「その他」と「無回答」は合算して掲載した。

図表2-3-2 第1期及び第6期における障害別の就労形態

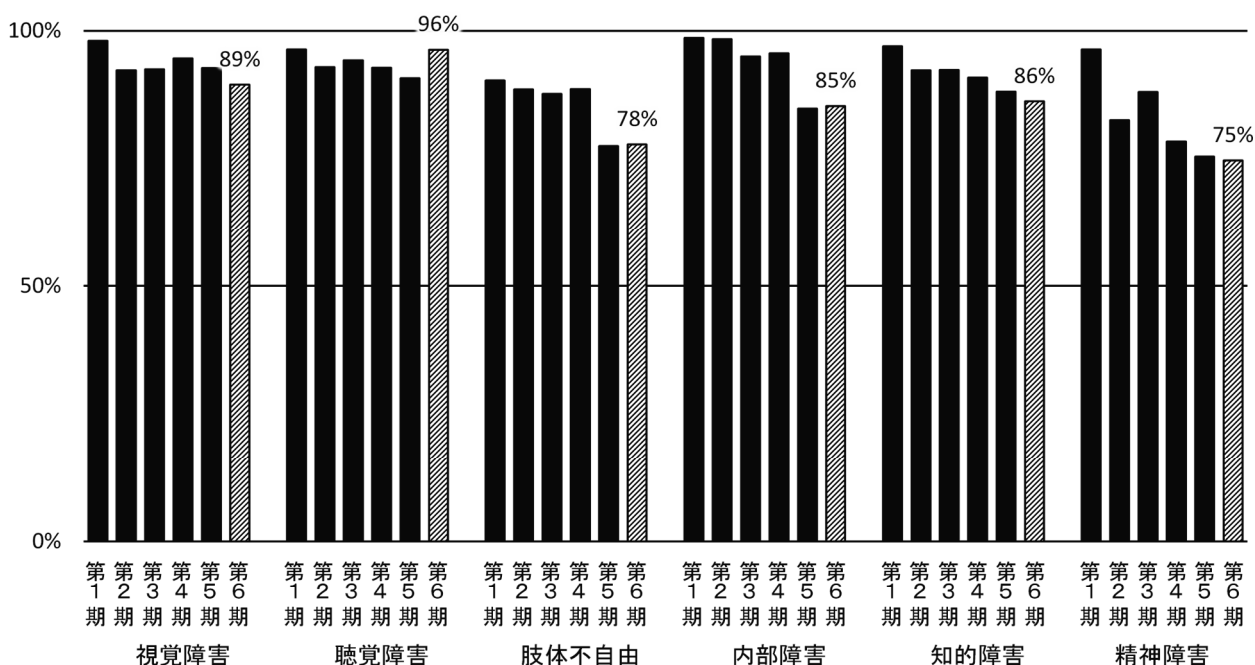
全ての障害種類において正社員の割合の低下及び仕事をしていない者の割合の増加を確認した。

各調査期の調査回答者の就労者数、就労状況不明の者を除いた就労率は図表２－３－３及び図表２－３－４のとおりである。

なお、職業サイクル調査研究の対象者募集にあたり、企業等で働いている者を対象にしたが、募集から調査実施までの対象者の就労状況の変化等により第１期の就労率は１００％とならなかった。

図表２－３－３ 就労者数（単位：人）と就労率（括弧内：就労者数／就労状況不明の者を除く調査回答者数）

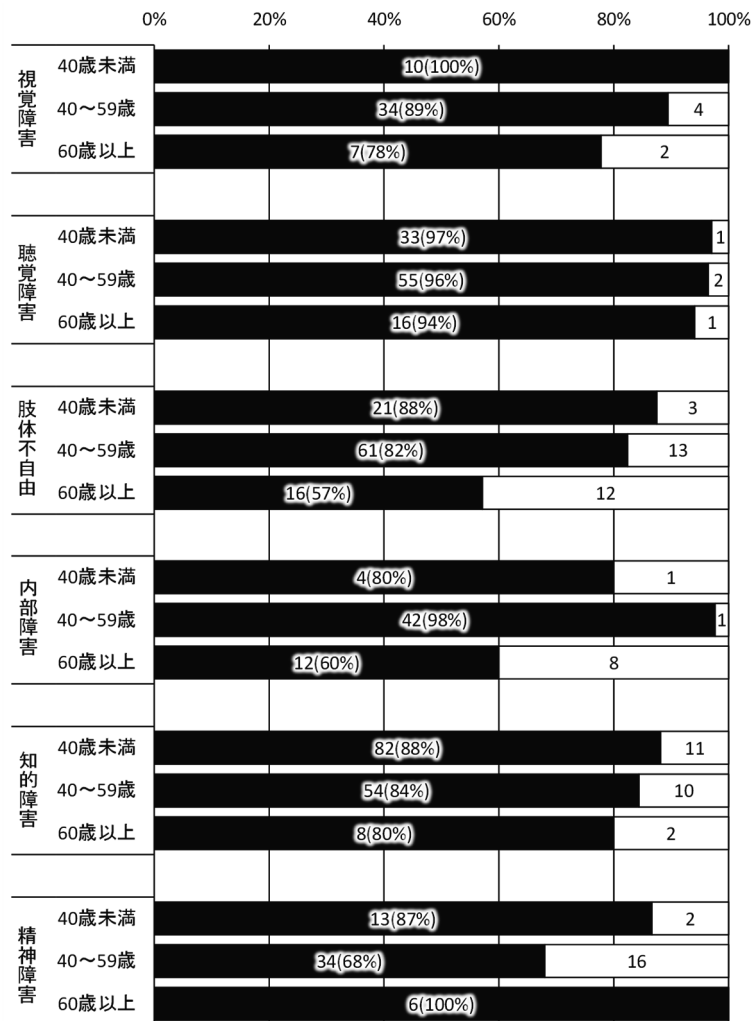
	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害
第１期	102 (98%)	159 (96%)	195 (90%)	72 (99%)	192 (97%)	80 (96%)
第２期	72 (92%)	105 (93%)	154 (89%)	60 (98%)	155 (92%)	52 (83%)
第３期	74 (93%)	147 (94%)	149 (88%)	95 (95%)	217 (92%)	81 (88%)
第４期	70 (95%)	129 (93%)	132 (89%)	87 (96%)	169 (91%)	65 (78%)
第５期	64 (93%)	108 (91%)	110 (77%)	67 (85%)	155 (88%)	52 (75%)
第６期	51 (89%)	104 (96%)	98 (78%)	58 (85%)	144 (86%)	53 (75%)



図表２－３－４ 各調査期の障害種類別就労率

障害種類により就労率の推移に違いがあり、第６期において、肢体不自由、精神障害では８割以下であった。しかし、この就労率は離職者が調査に回答しなくなることの影響もあり解釈には留意が必要である。

次に第６期の調査回答者の年代別の就労率を図表２－３－５に示す。



図表 2－3－5 第 6 期における年代別の就労率

概ね年代が高くなるにつれて就労率は下がっていた。また、肢体不自由、内部障害では 60 歳以上の就労率は 6 割以下であった。なお、視覚障害の 60 歳以上、内部障害の 40 歳未満、精神障害の 60 歳以上は、集計対象者数が少ないことから解釈には留意が必要である。

就労者が行っている仕事数については、例えばアルバイトを 2 つしている場合は「2」になる。第 6 期の調査回答者の結果を図表 2－3－6 に示す。なお、これ以降の仕事に関する項目では、複数の仕事をしている場合には主な仕事ひとつについて回答を求めている。

図表 2－3－6 仕事数（単位：人）

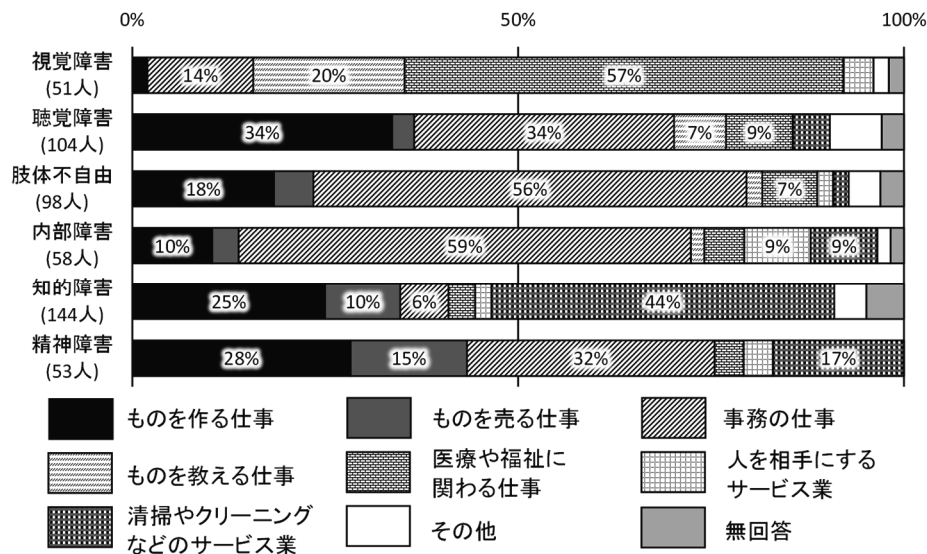
	1つ	2つ	3つ以上	無回答	計
視覚障害	49 (96%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	51 (100%)
聴覚障害	99 (95%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	104 (100%)
肢体不自由	93 (95%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	98 (100%)
内部障害	55 (95%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	133 (92%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (7%)	144 (100%)
精神障害	52 (98%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	53 (100%)
計	481 (95%)	7 (1%)	3 (1%)	17 (3%)	508 (100%)

2 職種

調査回答者のうち就労者の職種について、8つの選択肢により回答を得た結果を図表2-3-7及び図表2-3-8に示す。各調査期に共通して、視覚障害は「医療や福祉に関わる仕事」、聴覚障害及び精神障害は「ものを作る仕事」及び「事務の仕事」、肢体不自由及び内部障害は「事務の仕事」、知的障害は「ものを作る仕事」及び「清掃やクリーニングなどのサービス業」に従事している者が多かった。

図表2-3-7 職種（単位：人）

	ものを作る仕事	ものを売る仕事	事務の仕事	ものを教える仕事	医療や福祉に関わる仕事	人を相手にするサービス業	清掃やクリーニングなどのサービス業	その他	無回答	計
視覚障害										
第1期	2 (2%)	1 (1%)	17 (17%)	16 (16%)	60 (59%)	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	102 (100%)
第2期	1 (1%)	1 (1%)	12 (17%)	12 (17%)	40 (56%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
第3期	0 (0%)	0 (0%)	11 (15%)	16 (22%)	45 (61%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	74 (100%)
第4期	0 (0%)	0 (0%)	11 (16%)	16 (23%)	35 (50%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	70 (100%)
第5期	0 (0%)	0 (0%)	9 (14%)	13 (20%)	36 (56%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
第6期	1 (2%)	0 (0%)	7 (14%)	10 (20%)	29 (57%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害										
第1期	75 (47%)	1 (1%)	57 (36%)	3 (2%)	7 (4%)	2 (1%)	2 (1%)	12 (8%)	0 (0%)	159 (100%)
第2期	40 (38%)	2 (2%)	39 (37%)	2 (2%)	8 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	11 (10%)	1 (1%)	105 (100%)
第3期	55 (37%)	6 (4%)	55 (37%)	3 (2%)	9 (6%)	3 (2%)	2 (1%)	9 (6%)	5 (3%)	147 (100%)
第4期	48 (37%)	3 (2%)	44 (34%)	5 (4%)	10 (8%)	5 (4%)	3 (2%)	7 (5%)	4 (3%)	129 (100%)
第5期	32 (30%)	7 (6%)	42 (39%)	6 (6%)	8 (7%)	4 (4%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	108 (100%)
第6期	35 (34%)	3 (3%)	35 (34%)	7 (7%)	9 (9%)	0 (0%)	5 (5%)	7 (7%)	3 (3%)	104 (100%)
肢体不自由										
第1期	51 (26%)	6 (3%)	109 (56%)	1 (1%)	5 (3%)	9 (5%)	3 (2%)	8 (4%)	3 (2%)	195 (100%)
第2期	35 (23%)	1 (1%)	90 (58%)	1 (1%)	5 (3%)	7 (5%)	5 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	154 (100%)
第3期	36 (24%)	2 (1%)	86 (58%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	4 (3%)	10 (7%)	2 (1%)	149 (100%)
第4期	29 (22%)	3 (2%)	76 (58%)	1 (1%)	5 (4%)	3 (2%)	5 (4%)	6 (5%)	4 (3%)	132 (100%)
第5期	22 (20%)	2 (2%)	70 (64%)	1 (1%)	4 (4%)	4 (4%)	3 (3%)	4 (4%)	0 (0%)	110 (100%)
第6期	18 (18%)	5 (5%)	55 (56%)	2 (2%)	7 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	4 (4%)	3 (3%)	98 (100%)
内部障害										
第1期	10 (14%)	2 (3%)	36 (50%)	2 (3%)	6 (8%)	4 (6%)	5 (7%)	6 (8%)	1 (1%)	72 (100%)
第2期	9 (15%)	3 (5%)	28 (47%)	1 (2%)	5 (8%)	2 (3%)	5 (8%)	6 (10%)	1 (2%)	60 (100%)
第3期	9 (9%)	7 (7%)	58 (61%)	1 (1%)	6 (6%)	3 (3%)	5 (5%)	6 (6%)	0 (0%)	95 (100%)
第4期	8 (9%)	5 (6%)	53 (61%)	1 (1%)	6 (7%)	3 (3%)	5 (6%)	4 (5%)	2 (2%)	87 (100%)
第5期	5 (7%)	1 (1%)	45 (67%)	0 (0%)	5 (7%)	4 (6%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
第6期	6 (10%)	2 (3%)	34 (59%)	1 (2%)	3 (5%)	5 (9%)	5 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害										
第1期	57 (30%)	13 (7%)	7 (4%)	0 (0%)	4 (2%)	9 (5%)	82 (43%)	18 (9%)	2 (1%)	192 (100%)
第2期	48 (31%)	12 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	5 (3%)	54 (35%)	17 (11%)	10 (6%)	155 (100%)
第3期	73 (34%)	23 (11%)	9 (4%)	0 (0%)	6 (3%)	11 (5%)	72 (33%)	18 (8%)	5 (2%)	217 (100%)
第4期	40 (24%)	16 (9%)	6 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	9 (5%)	60 (36%)	25 (15%)	8 (5%)	169 (100%)
第5期	47 (30%)	14 (9%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	5 (3%)	74 (48%)	3 (2%)	2 (1%)	155 (100%)
第6期	36 (25%)	14 (10%)	9 (6%)	0 (0%)	5 (3%)	3 (2%)	64 (44%)	6 (4%)	7 (5%)	144 (100%)
精神障害										
第1期	22 (28%)	6 (8%)	21 (26%)	0 (0%)	2 (3%)	2 (3%)	12 (15%)	15 (19%)	0 (0%)	80 (100%)
第2期	13 (25%)	5 (10%)	12 (23%)	0 (0%)	2 (4%)	4 (8%)	5 (10%)	11 (21%)	0 (0%)	52 (100%)
第3期	16 (20%)	14 (17%)	19 (23%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (9%)	9 (11%)	13 (16%)	1 (1%)	81 (100%)
第4期	11 (17%)	10 (15%)	21 (32%)	0 (0%)	4 (6%)	2 (3%)	8 (12%)	8 (12%)	1 (2%)	65 (100%)
第5期	11 (21%)	6 (12%)	17 (33%)	0 (0%)	3 (6%)	3 (6%)	9 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	52 (100%)
第6期	15 (28%)	8 (15%)	17 (32%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	9 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)



図表2-3-8 第6期における障害別の職種

3 1週間の勤務時間

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月の1週間あたりの主な仕事の勤務時間を図表2-3-9に示す。第6期においては、前期：2018年、後期：2019年である。

正社員の割合が低かった知的障害、精神障害では、30時間以上（フルタイム）の割合が他の障害よりも低い結果であった。

図表2-3-9 1週間の勤務時間（単位：人）

	20時間 未満	30時間 未満	30時間以上 (フルタイム)	無回答	計
視 覚 障 害	第1期 1 (1%)	3 (3%)	98 (96%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期 2 (3%)	5 (7%)	65 (90%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期 3 (4%)	3 (4%)	67 (91%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期 5 (7%)	6 (9%)	59 (84%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期 7 (11%)	4 (6%)	51 (80%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期 6 (12%)	7 (14%)	37 (73%)	1 (2%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期 10 (6%)	17 (11%)	129 (81%)	3 (2%)	159 (100%)
	第2期 4 (4%)	13 (12%)	85 (81%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期 8 (5%)	22 (15%)	111 (76%)	6 (4%)	147 (100%)
	第4期 13 (10%)	17 (13%)	97 (75%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期 11 (10%)	16 (15%)	81 (75%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期 10 (10%)	16 (15%)	75 (72%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期 4 (2%)	15 (8%)	170 (87%)	6 (3%)	195 (100%)
	第2期 4 (3%)	22 (14%)	123 (80%)	5 (3%)	154 (100%)
	第3期 7 (5%)	15 (10%)	124 (83%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期 3 (2%)	19 (14%)	109 (83%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期 5 (5%)	9 (8%)	96 (87%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期 10 (10%)	9 (9%)	77 (79%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期 3 (4%)	13 (18%)	55 (76%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期 0 (0%)	11 (18%)	48 (80%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期 5 (5%)	13 (14%)	76 (80%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期 7 (8%)	17 (20%)	63 (72%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期 2 (3%)	12 (18%)	53 (79%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期 4 (7%)	10 (17%)	42 (72%)	2 (3%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期 25 (13%)	50 (26%)	111 (58%)	6 (3%)	192 (100%)
	第2期 15 (10%)	44 (28%)	84 (54%)	12 (8%)	155 (100%)
	第3期 18 (8%)	76 (35%)	112 (52%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期 17 (10%)	46 (27%)	99 (59%)	7 (4%)	169 (100%)
	第5期 21 (14%)	48 (31%)	80 (52%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期 21 (15%)	38 (26%)	73 (51%)	12 (8%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期 7 (9%)	34 (43%)	39 (49%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期 4 (8%)	15 (29%)	30 (58%)	3 (6%)	52 (100%)
	第3期 9 (11%)	26 (32%)	42 (52%)	4 (5%)	81 (100%)
	第4期 7 (11%)	29 (45%)	28 (43%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期 4 (8%)	18 (35%)	30 (58%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期 6 (11%)	16 (30%)	31 (58%)	0 (0%)	53 (100%)

4 1週間の休日

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月の1週間あたりの主な仕事の休日数を図表2-3-10に示す。第6期においては、前期：2018年、後期：2019年である。調査期及び障害種類に共通して週2日の休日が多かった。

図表2-3-10 1週間の休日（単位：人）

	1日	2日	3日	4日以上	不定期	無回答	計	
視覚障害	第1期	21 (21%)	61 (60%)	2 (2%)	15 (15%)	3 (3%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	45 (63%)	0 (0%)	8 (11%)	5 (7%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	15 (20%)	45 (61%)	3 (4%)	9 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	44 (63%)	4 (6%)	6 (9%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	10 (16%)	39 (61%)	3 (5%)	9 (14%)	—	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	9 (18%)	29 (57%)	2 (4%)	10 (20%)	—	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第1期	11 (7%)	116 (73%)	8 (5%)	21 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	6 (6%)	83 (79%)	4 (4%)	6 (6%)	4 (4%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	10 (7%)	105 (71%)	4 (3%)	16 (11%)	8 (5%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	6 (5%)	94 (73%)	4 (3%)	19 (15%)	3 (2%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	11 (10%)	81 (75%)	5 (5%)	11 (10%)	—	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	6 (6%)	74 (71%)	6 (6%)	15 (14%)	—	3 (3%)	104 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	150 (77%)	10 (5%)	20 (10%)	5 (3%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	7 (5%)	109 (71%)	6 (4%)	21 (14%)	4 (3%)	7 (5%)	154 (100%)
	第3期	4 (3%)	124 (83%)	7 (5%)	8 (5%)	3 (2%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	1 (1%)	103 (78%)	9 (7%)	18 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	5 (5%)	82 (75%)	7 (6%)	16 (15%)	—	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	3 (3%)	75 (77%)	8 (8%)	10 (10%)	—	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第1期	3 (4%)	53 (74%)	2 (3%)	6 (8%)	5 (7%)	3 (4%)	72 (100%)
	第2期	4 (7%)	48 (80%)	3 (5%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	7 (7%)	66 (69%)	3 (3%)	13 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	9 (10%)	62 (71%)	1 (1%)	14 (16%)	0 (0%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	3 (4%)	53 (79%)	1 (1%)	10 (15%)	—	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	6 (10%)	39 (67%)	2 (3%)	10 (17%)	—	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	125 (65%)	15 (8%)	24 (13%)	3 (2%)	5 (3%)	192 (100%)
	第2期	9 (6%)	104 (67%)	9 (6%)	23 (15%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第3期	20 (9%)	144 (66%)	14 (6%)	25 (12%)	3 (1%)	11 (5%)	217 (100%)
	第4期	12 (7%)	110 (65%)	11 (7%)	22 (13%)	9 (5%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	10 (6%)	108 (70%)	11 (7%)	21 (14%)	—	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	9 (6%)	84 (58%)	11 (8%)	31 (22%)	—	9 (6%)	144 (100%)
精神障害	第1期	1 (1%)	59 (74%)	4 (5%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	38 (73%)	7 (13%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	5 (6%)	53 (65%)	8 (10%)	10 (12%)	3 (4%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	44 (68%)	8 (12%)	6 (9%)	2 (3%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	36 (69%)	7 (13%)	5 (10%)	—	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	2 (4%)	37 (70%)	6 (11%)	8 (15%)	—	0 (0%)	53 (100%)

※「不定期」の選択肢は第4期後期調査以降廃止しており、第4期の「不定期」は前期データのみを掲載した。第4期までの各割合は「不定期」を含めた数値を100%として計算している。

5 1ヶ月の給与

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、6月に受け取った主な仕事の給与（賞与は除く）について、手取り額を図表2-3-11に示す。第6期においては、前期：2018年、後期：2019年である。

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害では、13万円以上25万円未満の割合が最も高く、知的障害、精神障害では、7万円以上13万円未満の割合が最も高くなっていた。

図表2-3-11 1ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

		7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	4 (4%)	15 (15%)	59 (58%)	18 (18%)	5 (5%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	4 (6%)	6 (8%)	43 (60%)	18 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	72 (100%)
	第3期	6 (8%)	7 (9%)	38 (51%)	19 (26%)	2 (3%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	6 (9%)	8 (11%)	34 (49%)	21 (30%)	1 (1%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	7 (11%)	3 (5%)	31 (48%)	16 (25%)	4 (6%)	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	8 (16%)	5 (10%)	21 (41%)	14 (27%)	3 (6%)	0 (0%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	9 (6%)	34 (21%)	82 (52%)	21 (13%)	7 (4%)	6 (4%)	159 (100%)
	第2期	2 (2%)	28 (27%)	54 (51%)	18 (17%)	1 (1%)	2 (2%)	105 (100%)
	第3期	7 (5%)	27 (18%)	82 (56%)	24 (16%)	2 (1%)	5 (3%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	30 (23%)	63 (49%)	22 (17%)	4 (3%)	3 (2%)	129 (100%)
	第5期	9 (8%)	24 (22%)	51 (47%)	22 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	6 (6%)	28 (27%)	43 (41%)	19 (18%)	5 (5%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	13 (7%)	43 (22%)	98 (50%)	30 (15%)	7 (4%)	4 (2%)	195 (100%)
	第2期	10 (6%)	38 (25%)	83 (54%)	15 (10%)	2 (1%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	9 (6%)	28 (19%)	77 (52%)	27 (18%)	3 (2%)	5 (3%)	149 (100%)
	第4期	8 (6%)	29 (22%)	67 (51%)	23 (17%)	2 (2%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	6 (5%)	23 (21%)	60 (55%)	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	10 (10%)	26 (27%)	35 (36%)	18 (18%)	5 (5%)	4 (4%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	1 (1%)	13 (18%)	37 (51%)	16 (22%)	4 (6%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	0 (0%)	10 (17%)	38 (63%)	9 (15%)	2 (3%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	5 (5%)	19 (20%)	43 (45%)	22 (23%)	5 (5%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	23 (26%)	39 (45%)	18 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	1 (1%)	18 (27%)	29 (43%)	15 (22%)	3 (4%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	4 (7%)	15 (26%)	21 (36%)	16 (28%)	1 (2%)	1 (2%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	38 (20%)	130 (68%)	21 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	192 (100%)
	第2期	36 (23%)	98 (63%)	18 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	155 (100%)
	第3期	39 (18%)	136 (63%)	33 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	9 (4%)	217 (100%)
	第4期	34 (20%)	108 (64%)	21 (12%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	31 (20%)	98 (63%)	22 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (3%)	155 (100%)
	第6期	18 (13%)	93 (65%)	22 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	10 (7%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	21 (26%)	38 (48%)	13 (16%)	2 (3%)	3 (4%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	29 (56%)	11 (21%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	9 (11%)	55 (68%)	12 (15%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	35 (54%)	14 (22%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	32 (62%)	9 (17%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	9 (17%)	28 (53%)	16 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

1ヶ月の給与について、条件を統一するため週30時間以上（フルタイム）で勤務している調査回答者に限って集計した結果を図表2-3-12に示す。

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害では、ばらつきはあるものの13万円以上25万円未満の割合が最も高く、知的障害、精神障害では、ばらつきはあるものの7万円以上13万円未満の割合が最も高くなっていた。勤務時間を限定しても1ヶ月の給与は、知的障害、精神障害の場合、身体障害と比して給与額は低くなっていたため時間単価の差がみられた。

図表2-3-12 週30時間以上勤務する人の1ヶ月の給与（手取り額）（単位：人）

		7万円未満	7万円以上 13万円未満	13万円以上 25万円未満	25万円以上 40万円未満	40万円以上	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	4 (4%)	12 (12%)	58 (59%)	18 (18%)	5 (5%)	1 (1%)	98 (100%)
	第2期	4 (6%)	3 (5%)	39 (60%)	18 (28%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	第3期	4 (6%)	5 (7%)	35 (52%)	19 (28%)	2 (3%)	2 (3%)	67 (100%)
	第4期	2 (3%)	5 (8%)	31 (53%)	20 (34%)	1 (2%)	0 (0%)	59 (100%)
	第5期	2 (4%)	1 (2%)	27 (53%)	16 (31%)	4 (8%)	1 (2%)	51 (100%)
	第6期	3 (8%)	1 (3%)	17 (46%)	13 (35%)	3 (8%)	0 (0%)	37 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	5 (4%)	22 (17%)	72 (56%)	21 (16%)	7 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第2期	1 (1%)	15 (18%)	50 (59%)	18 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	85 (100%)
	第3期	0 (0%)	13 (12%)	71 (64%)	23 (21%)	2 (2%)	2 (2%)	111 (100%)
	第4期	0 (0%)	18 (19%)	52 (54%)	22 (23%)	4 (4%)	1 (1%)	97 (100%)
	第5期	2 (2%)	14 (17%)	41 (51%)	22 (27%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
	第6期	0 (0%)	14 (19%)	39 (52%)	17 (23%)	5 (7%)	0 (0%)	75 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	7 (4%)	33 (19%)	95 (56%)	29 (17%)	6 (4%)	0 (0%)	170 (100%)
	第2期	2 (2%)	24 (20%)	79 (64%)	15 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	123 (100%)
	第3期	0 (0%)	22 (18%)	73 (59%)	25 (20%)	3 (2%)	1 (1%)	124 (100%)
	第4期	1 (1%)	19 (17%)	63 (58%)	22 (20%)	2 (2%)	2 (2%)	109 (100%)
	第5期	1 (1%)	19 (20%)	57 (59%)	15 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	96 (100%)
	第6期	2 (3%)	17 (22%)	34 (44%)	18 (23%)	5 (6%)	1 (1%)	77 (100%)
内 部 障 害	第1期	0 (0%)	5 (9%)	32 (58%)	15 (27%)	3 (5%)	0 (0%)	55 (100%)
	第2期	0 (0%)	6 (13%)	31 (65%)	8 (17%)	2 (4%)	1 (2%)	48 (100%)
	第3期	0 (0%)	10 (13%)	41 (54%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	76 (100%)
	第4期	1 (2%)	10 (16%)	36 (57%)	15 (24%)	1 (2%)	0 (0%)	63 (100%)
	第5期	1 (2%)	7 (13%)	26 (49%)	15 (28%)	3 (6%)	1 (2%)	53 (100%)
	第6期	1 (2%)	5 (12%)	19 (45%)	16 (38%)	1 (2%)	0 (0%)	42 (100%)
知 的 障 害	第1期	15 (14%)	78 (70%)	16 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	111 (100%)
	第2期	7 (8%)	63 (75%)	14 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	84 (100%)
	第3期	7 (6%)	79 (71%)	25 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	112 (100%)
	第4期	7 (7%)	73 (74%)	17 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	99 (100%)
	第5期	3 (4%)	61 (76%)	16 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第6期	4 (5%)	55 (75%)	14 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
精 神 障 害	第1期	2 (5%)	18 (46%)	12 (31%)	2 (5%)	3 (8%)	2 (5%)	39 (100%)
	第2期	2 (7%)	14 (47%)	11 (37%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第3期	0 (0%)	28 (67%)	11 (26%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	42 (100%)
	第4期	0 (0%)	13 (46%)	13 (46%)	2 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	28 (100%)
	第5期	2 (7%)	16 (53%)	9 (30%)	3 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)
	第6期	1 (3%)	15 (48%)	15 (48%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	31 (100%)

6 賞与

調査回答者のうち就労者の各調査期の調査を実施した年の、前年1年間に受け取った主な仕事の賞与（ボーナス）の額について図表2-3-13に示す。第6期においては、前期調査は2017年分、後期調査は2018年分である。

図表2-3-13 過去1年間の賞与（単位：人）

		なし	10万円未満	10万円以上 30万円未満	30万円以上 50万円未満	50万円以上 100万円未満	100万円以上	無回答	計
視覚障害	第2期	18 (25%)	5 (7%)	6 (8%)	8 (11%)	20 (28%)	14 (19%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	6 (8%)	9 (12%)	4 (5%)	22 (30%)	10 (14%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	8 (11%)	4 (6%)	6 (9%)	14 (20%)	15 (21%)	0 (0%)	70 (100%)
	第5期	19 (30%)	4 (6%)	7 (11%)	4 (6%)	12 (19%)	17 (27%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	19 (37%)	4 (8%)	4 (8%)	2 (4%)	9 (18%)	13 (25%)	0 (0%)	51 (100%)
聴覚障害	第2期	14 (13%)	10 (10%)	22 (21%)	19 (18%)	30 (29%)	9 (9%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	24 (16%)	10 (7%)	31 (21%)	29 (20%)	34 (23%)	15 (10%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	22 (17%)	11 (9%)	26 (20%)	17 (13%)	36 (28%)	16 (12%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	22 (20%)	9 (8%)	19 (18%)	19 (18%)	24 (22%)	14 (13%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	25 (24%)	13 (13%)	10 (10%)	20 (19%)	18 (17%)	16 (15%)	2 (2%)	104 (100%)
肢体不自由	第2期	19 (12%)	17 (11%)	32 (21%)	23 (15%)	42 (27%)	17 (11%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	23 (15%)	16 (11%)	27 (18%)	24 (16%)	40 (27%)	15 (10%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	28 (21%)	8 (6%)	29 (22%)	20 (15%)	30 (23%)	15 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	14 (13%)	7 (6%)	24 (22%)	19 (17%)	28 (25%)	18 (16%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	20 (20%)	4 (4%)	17 (17%)	14 (14%)	24 (24%)	16 (16%)	3 (3%)	98 (100%)
内部障害	第2期	12 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	15 (25%)	21 (35%)	6 (10%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	22 (23%)	6 (6%)	13 (14%)	12 (13%)	29 (31%)	13 (14%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	21 (24%)	5 (6%)	16 (18%)	9 (10%)	28 (32%)	8 (9%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	12 (18%)	3 (4%)	12 (18%)	9 (13%)	23 (34%)	8 (12%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	15 (26%)	2 (3%)	9 (16%)	9 (16%)	15 (26%)	7 (12%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	第2期	61 (39%)	55 (35%)	25 (16%)	8 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	155 (100%)
	第3期	87 (40%)	79 (36%)	33 (15%)	9 (4%)	2 (1%)	1 (0%)	6 (3%)	217 (100%)
	第4期	74 (44%)	54 (32%)	28 (17%)	5 (3%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	56 (36%)	62 (40%)	26 (17%)	6 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	155 (100%)
	第6期	45 (31%)	57 (40%)	26 (18%)	5 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	10 (7%)	144 (100%)
精神障害	第2期	18 (35%)	15 (29%)	6 (12%)	3 (6%)	7 (13%)	1 (2%)	2 (4%)	52 (100%)
	第3期	38 (47%)	19 (23%)	12 (15%)	4 (5%)	6 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	81 (100%)
	第4期	30 (46%)	20 (31%)	5 (8%)	2 (3%)	6 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	24 (46%)	17 (33%)	5 (10%)	0 (0%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	25 (47%)	16 (30%)	6 (11%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)

7 通勤手段

調査回答者のうち就労者の通勤に利用している手段について該当するものすべてを複数選択により回答を得た結果を図表2-3-14に示す。「その他」には、在宅勤務、電動車椅子等が含まれている。視覚障害は「徒歩」「公共交通機関」、聴覚障害、肢体不自由及び内部障害は「自動車」「公共交通機関」、知的障害及び精神障害は「公共交通機関」の利用が多かった。

図表2-3-14 通勤手段（複数回答）（単位：人）

		徒歩	自転車	原付や オートバイ	自動車 (自分で運転)	自動車 (自分以外が運転)	公共 交通機関	その他	無回答	人数
視 覚 障 害	第1期	65 (64%)	5 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (12%)	66 (65%)	9 (9%)	1 (1%)	102
	第2期	44 (61%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (7%)	44 (61%)	8 (11%)	2 (3%)	72
	第3期	51 (69%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (9%)	46 (62%)	7 (9%)	0 (0%)	74
	第4期	37 (53%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (14%)	46 (66%)	9 (13%)	0 (0%)	70
	第5期	41 (64%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (13%)	39 (61%)	8 (13%)	1 (2%)	64
	第6期	27 (53%)	4 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (14%)	29 (57%)	8 (16%)	1 (2%)	51
聴 覚 障 害	第1期	36 (23%)	22 (14%)	9 (6%)	70 (44%)	6 (4%)	62 (39%)	0 (0%)	0 (0%)	159
	第2期	28 (27%)	20 (19%)	7 (7%)	42 (40%)	3 (3%)	46 (44%)	0 (0%)	0 (0%)	105
	第3期	35 (24%)	23 (16%)	11 (7%)	63 (43%)	2 (1%)	62 (42%)	2 (1%)	4 (3%)	147
	第4期	35 (27%)	20 (16%)	9 (7%)	61 (47%)	4 (3%)	52 (40%)	3 (2%)	0 (0%)	129
	第5期	23 (21%)	16 (15%)	6 (6%)	55 (51%)	2 (2%)	42 (39%)	2 (2%)	0 (0%)	108
	第6期	23 (22%)	12 (12%)	8 (8%)	46 (44%)	6 (6%)	42 (40%)	2 (2%)	2 (2%)	104
肢 体 不 自 由	第1期	23 (12%)	8 (4%)	1 (1%)	111 (57%)	12 (6%)	52 (27%)	9 (5%)	2 (1%)	195
	第2期	19 (12%)	7 (5%)	0 (0%)	87 (56%)	10 (6%)	45 (29%)	8 (5%)	3 (2%)	154
	第3期	21 (14%)	4 (3%)	0 (0%)	85 (57%)	15 (10%)	43 (29%)	7 (5%)	1 (1%)	149
	第4期	20 (15%)	9 (7%)	0 (0%)	73 (55%)	8 (6%)	41 (31%)	10 (8%)	1 (1%)	132
	第5期	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	58 (53%)	6 (5%)	38 (35%)	9 (8%)	0 (0%)	110
	第6期	15 (15%)	4 (4%)	1 (1%)	48 (49%)	9 (9%)	31 (32%)	12 (12%)	1 (1%)	98
内 部 障 害	第1期	16 (22%)	4 (6%)	2 (3%)	42 (58%)	0 (0%)	25 (35%)	1 (1%)	0 (0%)	72
	第2期	11 (18%)	5 (8%)	1 (2%)	35 (58%)	0 (0%)	21 (35%)	2 (3%)	0 (0%)	60
	第3期	17 (18%)	6 (6%)	2 (2%)	57 (60%)	0 (0%)	28 (29%)	3 (3%)	0 (0%)	95
	第4期	25 (29%)	4 (5%)	1 (1%)	47 (54%)	0 (0%)	30 (34%)	2 (2%)	0 (0%)	87
	第5期	17 (25%)	3 (4%)	0 (0%)	37 (55%)	1 (1%)	26 (39%)	0 (0%)	0 (0%)	67
	第6期	18 (31%)	1 (2%)	0 (0%)	33 (57%)	2 (3%)	18 (31%)	2 (3%)	0 (0%)	58
知 的 障 害	第1期	57 (30%)	49 (26%)	0 (0%)	7 (4%)	18 (9%)	127 (66%)	5 (3%)	1 (1%)	192
	第2期	43 (28%)	45 (29%)	1 (1%)	10 (6%)	13 (8%)	99 (64%)	2 (1%)	1 (1%)	155
	第3期	64 (29%)	68 (31%)	0 (0%)	11 (5%)	18 (8%)	140 (65%)	2 (1%)	3 (1%)	217
	第4期	54 (32%)	42 (25%)	1 (1%)	7 (4%)	13 (8%)	115 (68%)	2 (1%)	2 (1%)	169
	第5期	62 (40%)	42 (27%)	1 (1%)	9 (6%)	16 (10%)	109 (70%)	1 (1%)	1 (1%)	155
	第6期	47 (33%)	34 (24%)	3 (2%)	9 (6%)	20 (14%)	97 (67%)	0 (0%)	6 (4%)	144
精 神 障 害	第1期	19 (24%)	12 (15%)	9 (11%)	25 (31%)	3 (4%)	39 (49%)	1 (1%)	0 (0%)	80
	第2期	11 (21%)	8 (15%)	3 (6%)	23 (44%)	0 (0%)	24 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	52
	第3期	18 (22%)	21 (26%)	6 (7%)	25 (31%)	3 (4%)	36 (44%)	1 (1%)	0 (0%)	81
	第4期	22 (34%)	12 (18%)	6 (9%)	17 (26%)	3 (5%)	32 (49%)	0 (0%)	0 (0%)	65
	第5期	18 (35%)	7 (13%)	6 (12%)	17 (33%)	3 (6%)	24 (46%)	0 (0%)	0 (0%)	52
	第6期	21 (40%)	11 (21%)	4 (8%)	14 (26%)	4 (8%)	29 (55%)	0 (0%)	0 (0%)	53

8 通勤に要する時間

調査回答者のうち就労者の片道の通勤にかかる時間を図表2-3-15に示す。身体障害は30分未満、知的障害及び精神障害は1時間未満が多かった。

図表2-3-15 通勤に要する時間（単位：人）

		30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間30分 未満	1時間30分 以上 2時間未満	2時間以上	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	45 (44%)	29 (28%)	18 (18%)	8 (8%)	2 (2%)	0 (0%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	20 (28%)	13 (18%)	5 (7%)	3 (4%)	3 (4%)	72 (100%)
	第3期	29 (39%)	23 (31%)	10 (14%)	7 (9%)	0 (0%)	5 (7%)	74 (100%)
	第4期	31 (44%)	18 (26%)	14 (20%)	3 (4%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	26 (41%)	16 (25%)	13 (20%)	4 (6%)	1 (2%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	26 (51%)	12 (24%)	8 (16%)	1 (2%)	2 (4%)	2 (4%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	75 (47%)	54 (34%)	25 (16%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	55 (52%)	35 (33%)	13 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	63 (43%)	54 (37%)	23 (16%)	3 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	147 (100%)
	第4期	61 (47%)	42 (33%)	19 (15%)	5 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	52 (48%)	36 (33%)	17 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	52 (50%)	28 (27%)	18 (17%)	2 (2%)	1 (1%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	89 (46%)	70 (36%)	28 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	75 (49%)	52 (34%)	19 (12%)	4 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	66 (44%)	58 (39%)	21 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	149 (100%)
	第4期	51 (39%)	55 (42%)	22 (17%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	132 (100%)
	第5期	41 (37%)	43 (39%)	18 (16%)	6 (5%)	0 (0%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	47 (48%)	29 (30%)	18 (18%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	33 (46%)	28 (39%)	10 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	30 (50%)	19 (32%)	10 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	60 (100%)
	第3期	49 (52%)	32 (34%)	13 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	39 (45%)	34 (39%)	12 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	29 (43%)	20 (30%)	14 (21%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	26 (45%)	19 (33%)	10 (17%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	63 (33%)	92 (48%)	26 (14%)	6 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	192 (100%)
	第2期	51 (33%)	65 (42%)	19 (12%)	6 (4%)	3 (2%)	11 (7%)	155 (100%)
	第3期	68 (31%)	103 (47%)	37 (17%)	5 (2%)	0 (0%)	4 (2%)	217 (100%)
	第4期	46 (27%)	77 (46%)	35 (21%)	6 (4%)	1 (1%)	4 (2%)	169 (100%)
	第5期	44 (28%)	68 (44%)	37 (24%)	2 (1%)	2 (1%)	2 (1%)	155 (100%)
	第6期	41 (28%)	64 (44%)	26 (18%)	6 (4%)	2 (1%)	5 (3%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	35 (44%)	30 (38%)	13 (16%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	24 (46%)	18 (35%)	7 (13%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第3期	30 (37%)	34 (42%)	14 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期	27 (42%)	28 (43%)	8 (12%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	20 (38%)	23 (44%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
	第6期	19 (36%)	21 (40%)	9 (17%)	3 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	53 (100%)

9 勤務先の企業等の規模（従業員数）

調査回答者のうち就労者の勤務先（自営、内職を含む。）の従業員数規模を図表２－３－16 に示す。
視覚障害は「1～9人」「50～299人」、聴覚障害は「1,000人以上」、肢体不自由、内部障害及び精神障害は「50～299人」、知的障害は「10～49人」が多く、知的障害においては、構成割合は10%と低い
「1,000人以上」が第1期から徐々に増える傾向があった。

図表２－３－16 勤務先企業等の規模（単位：人）

		1～9人	10～49人	50～299人	300～999人	1,000人以上	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	26 (25%)	19 (19%)	29 (28%)	9 (9%)	18 (18%)	0 (0%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	21 (29%)	9 (13%)	18 (25%)	6 (8%)	17 (24%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	18 (24%)	15 (20%)	15 (20%)	8 (11%)	16 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	74 (100%)
	第4期	18 (26%)	9 (13%)	15 (21%)	5 (7%)	21 (30%)	0 (0%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	15 (23%)	4 (6%)	22 (34%)	5 (8%)	16 (25%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	14 (27%)	7 (14%)	13 (25%)	7 (14%)	9 (18%)	0 (0%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第1期	10 (6%)	28 (18%)	41 (26%)	25 (16%)	51 (32%)	4 (3%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	5 (5%)	16 (15%)	32 (30%)	18 (17%)	30 (29%)	3 (3%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	9 (6%)	24 (16%)	40 (27%)	26 (18%)	42 (29%)	3 (2%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	7 (5%)	23 (18%)	38 (29%)	25 (19%)	31 (24%)	4 (3%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	19 (18%)	25 (23%)	21 (19%)	28 (26%)	3 (3%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	13 (13%)	15 (14%)	22 (21%)	21 (20%)	26 (25%)	5 (5%)	2 (2%)	104 (100%)
肢体不自由	第1期	7 (4%)	53 (27%)	66 (34%)	26 (13%)	35 (18%)	5 (3%)	3 (2%)	195 (100%)
	第2期	4 (3%)	34 (22%)	55 (36%)	21 (14%)	29 (19%)	7 (5%)	4 (3%)	154 (100%)
	第3期	2 (1%)	35 (23%)	54 (36%)	26 (17%)	24 (16%)	6 (4%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	2 (2%)	30 (23%)	45 (34%)	17 (13%)	30 (23%)	5 (4%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	4 (4%)	20 (18%)	33 (30%)	19 (17%)	26 (24%)	6 (5%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	2 (2%)	20 (20%)	27 (28%)	20 (20%)	22 (22%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第1期	12 (17%)	10 (14%)	21 (29%)	16 (22%)	13 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	72 (100%)
	第2期	10 (17%)	8 (13%)	18 (30%)	16 (27%)	7 (12%)	1 (2%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	26 (27%)	14 (15%)	19 (20%)	16 (17%)	18 (19%)	2 (2%)	0 (0%)	95 (100%)
	第4期	24 (28%)	11 (13%)	20 (23%)	15 (17%)	13 (15%)	3 (3%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	9 (13%)	18 (27%)	7 (10%)	17 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	15 (26%)	12 (21%)	11 (19%)	7 (12%)	12 (21%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	第1期	38 (20%)	86 (45%)	39 (20%)	10 (5%)	2 (1%)	15 (8%)	2 (1%)	192 (100%)
	第2期	31 (20%)	70 (45%)	34 (22%)	4 (3%)	1 (1%)	9 (6%)	6 (4%)	155 (100%)
	第3期	45 (21%)	97 (45%)	47 (22%)	5 (2%)	4 (2%)	15 (7%)	4 (2%)	217 (100%)
	第4期	24 (14%)	71 (42%)	38 (22%)	10 (6%)	7 (4%)	13 (8%)	6 (4%)	169 (100%)
	第5期	19 (12%)	56 (36%)	41 (26%)	8 (5%)	11 (7%)	14 (9%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	15 (10%)	44 (31%)	39 (27%)	12 (8%)	14 (10%)	15 (10%)	5 (3%)	144 (100%)
精神障害	第1期	4 (5%)	22 (28%)	28 (35%)	3 (4%)	15 (19%)	8 (10%)	0 (0%)	80 (100%)
	第2期	1 (2%)	17 (33%)	18 (35%)	4 (8%)	6 (12%)	6 (12%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	0 (0%)	27 (33%)	22 (27%)	4 (5%)	17 (21%)	11 (14%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	3 (5%)	19 (29%)	19 (29%)	5 (8%)	12 (18%)	7 (11%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	11 (21%)	18 (35%)	5 (10%)	8 (15%)	6 (12%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	1 (2%)	13 (25%)	16 (30%)	9 (17%)	11 (21%)	3 (6%)	0 (0%)	53 (100%)

10 勤務先の変化

第6期の調査回答者のうち就労者において、勤務先（自営、内職を含む。）について、第5期（2年前）と同じ会社かどうかを図表2－3－17に示す。

各障害とも約8割から約9割の者が2年前と同じ会社に勤務していた。

図表2－3－17 第5期（2年前）と同じ勤務先か（単位：人）

	同じ会社 （自営、内職を含む）	同じ会社 でない	計
視覚障害	47 (92%)	4 (8%)	51 (100%)
聴覚障害	89 (88%)	12 (12%)	101 (100%)
肢体不自由	87 (91%)	9 (9%)	96 (100%)
内部障害	53 (91%)	5 (9%)	58 (100%)
知的障害	132 (95%)	7 (5%)	139 (100%)
精神障害	43 (81%)	10 (19%)	53 (100%)
計	451 (91%)	47 (9%)	498 (100%)

※無回答を除く

11 現在の勤務先への就業年齢

第6期の調査回答者のうち就労者の、現在の勤務先（自営、内職を含む。）への就業時の年齢を集計した結果を図表2－3－18に示す。

図表2－3－18 現在の勤務先への就業年齢（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	無回答	計
視覚障害	2 (4%)	20 (39%)	16 (31%)	7 (14%)	4 (8%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	11 (11%)	38 (37%)	23 (22%)	18 (17%)	7 (7%)	2 (2%)	5 (5%)	104 (100%)
肢体不自由	13 (13%)	40 (41%)	15 (15%)	14 (14%)	9 (9%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	7 (12%)	14 (24%)	13 (22%)	12 (21%)	9 (16%)	2 (3%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	46 (32%)	49 (34%)	21 (15%)	12 (8%)	8 (6%)	1 (1%)	7 (5%)	144 (100%)
精神障害	0 (0%)	8 (15%)	22 (42%)	10 (19%)	11 (21%)	1 (2%)	1 (2%)	53 (100%)
計	79 (16%)	169 (33%)	110 (22%)	73 (14%)	48 (9%)	12 (2%)	17 (3%)	508 (100%)

12 同一企業等への在職年数

調査回答者のうち就労者において、回答した時点で勤務していた職場（自営、内職を含む。）の在職年数を、勤務先で仕事をし始めた年齢と調査回答時の年齢から集計した結果を図表２－３－19に示す。同一企業内において異動した場合は、継続した在職年数としている。

精神障害において、他の障害と比べて在職年数が10年未満である割合が高い。

図表２－３－19 各調査期における同一企業への在職年数（単位：人）

	10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	無回答・ 不明	計
視覚 障害	第1期 65 (64%)	20 (20%)	12 (12%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	102 (100%)
	第2期 41 (57%)	14 (19%)	11 (15%)	4 (6%)	0 (0%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期 37 (50%)	17 (23%)	13 (18%)	5 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期 32 (46%)	20 (29%)	8 (11%)	9 (13%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期 17 (27%)	25 (39%)	11 (17%)	10 (16%)	0 (0%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期 13 (25%)	17 (33%)	9 (18%)	9 (18%)	2 (4%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚 障害	第1期 86 (54%)	38 (24%)	28 (18%)	6 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期 52 (50%)	21 (20%)	25 (24%)	6 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期 68 (46%)	33 (22%)	29 (20%)	10 (7%)	0 (0%)	7 (5%)	147 (100%)
	第4期 57 (44%)	33 (26%)	18 (14%)	12 (9%)	1 (1%)	8 (6%)	129 (100%)
	第5期 36 (33%)	40 (37%)	14 (13%)	15 (14%)	3 (3%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期 31 (30%)	36 (35%)	15 (14%)	16 (15%)	1 (1%)	5 (5%)	104 (100%)
肢体 不自由	第1期 110 (56%)	46 (24%)	32 (16%)	2 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期 82 (53%)	38 (25%)	21 (14%)	7 (5%)	0 (0%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期 67 (45%)	37 (25%)	27 (18%)	14 (9%)	0 (0%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期 57 (43%)	30 (23%)	27 (20%)	11 (8%)	0 (0%)	7 (5%)	132 (100%)
	第5期 42 (38%)	30 (27%)	18 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期 24 (24%)	38 (39%)	14 (14%)	17 (17%)	3 (3%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期 38 (53%)	21 (29%)	8 (11%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期 26 (43%)	20 (33%)	11 (18%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期 39 (41%)	22 (23%)	18 (19%)	14 (15%)	0 (0%)	2 (2%)	95 (100%)
	第4期 25 (29%)	29 (33%)	15 (17%)	13 (15%)	0 (0%)	5 (6%)	87 (100%)
	第5期 20 (30%)	18 (27%)	14 (21%)	14 (21%)	1 (1%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期 20 (34%)	14 (24%)	14 (24%)	6 (10%)	3 (5%)	1 (2%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期 140 (73%)	23 (12%)	15 (8%)	2 (1%)	0 (0%)	12 (6%)	192 (100%)
	第2期 100 (65%)	24 (15%)	13 (8%)	5 (3%)	0 (0%)	13 (8%)	155 (100%)
	第3期 134 (62%)	35 (16%)	17 (8%)	10 (5%)	1 (0%)	20 (9%)	217 (100%)
	第4期 91 (54%)	43 (25%)	13 (8%)	11 (7%)	0 (0%)	11 (7%)	169 (100%)
	第5期 66 (43%)	60 (39%)	13 (8%)	9 (6%)	2 (1%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期 45 (31%)	68 (47%)	10 (7%)	12 (8%)	2 (1%)	7 (5%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期 67 (84%)	6 (8%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期 43 (83%)	4 (8%)	4 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期 68 (84%)	5 (6%)	6 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (2%)	81 (100%)
	第4期 56 (86%)	4 (6%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期 38 (73%)	11 (21%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期 35 (66%)	14 (26%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	53 (100%)

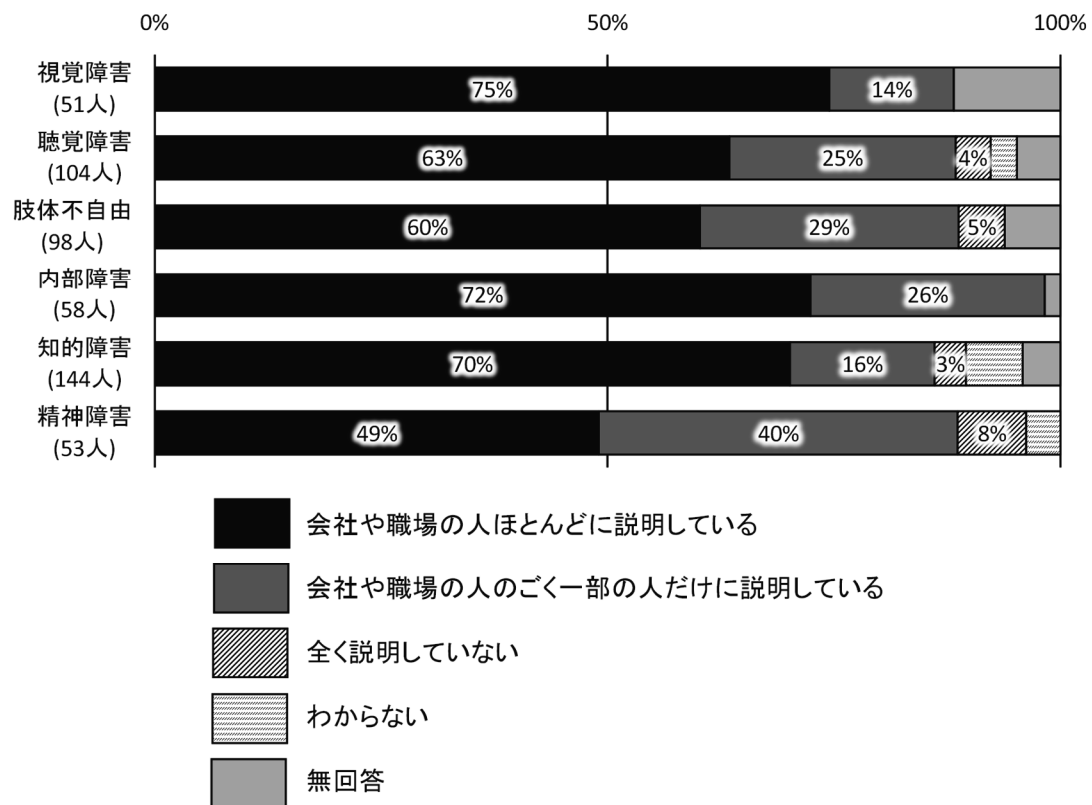
13 職場の人への障害の説明

調査回答者のうち就労者の障害の内容（症状や配慮してもらいたいことなど）を会社や職場の人に説明しているかどうかを図表２－３－20 及び２－３－21 に示す。

障害の内容を全く説明していない割合は、精神障害において８％と他の障害と比して高いものの、調査回答者の特徴として説明している者が全般的に高い。

図表２－３－20 職場の人への障害の説明（単位：人）

	会社や職場の 人ほとんどの 説明している	会社や職場の 人のごく一部の 人だけに 説明している	全く説明して いない	わからない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期 65 (64%)	25 (25%)	2 (2%)	2 (2%)	8 (8%)	102 (100%)
	第2期 46 (64%)	17 (24%)	1 (1%)	1 (1%)	7 (10%)	72 (100%)
	第3期 45 (61%)	21 (28%)	4 (5%)	0 (0%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期 53 (76%)	11 (16%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期 46 (72%)	11 (17%)	2 (3%)	2 (3%)	3 (5%)	64 (100%)
	第6期 38 (75%)	7 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (12%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期 104 (65%)	43 (27%)	9 (6%)	1 (1%)	2 (1%)	159 (100%)
	第2期 63 (60%)	34 (32%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	105 (100%)
	第3期 94 (64%)	39 (27%)	5 (3%)	2 (1%)	7 (5%)	147 (100%)
	第4期 97 (75%)	22 (17%)	4 (3%)	2 (2%)	4 (3%)	129 (100%)
	第5期 82 (76%)	22 (20%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期 66 (63%)	26 (25%)	4 (4%)	3 (3%)	5 (5%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期 105 (54%)	77 (39%)	8 (4%)	0 (0%)	5 (3%)	195 (100%)
	第2期 68 (44%)	72 (47%)	6 (4%)	2 (1%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期 82 (55%)	53 (36%)	4 (3%)	6 (4%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期 76 (58%)	51 (39%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期 70 (64%)	33 (30%)	3 (3%)	1 (1%)	3 (3%)	110 (100%)
	第6期 59 (60%)	28 (29%)	5 (5%)	0 (0%)	6 (6%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期 50 (69%)	20 (28%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期 43 (72%)	17 (28%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期 65 (68%)	29 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期 68 (78%)	19 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期 49 (73%)	18 (27%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期 42 (72%)	15 (26%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期 120 (63%)	32 (17%)	17 (9%)	14 (7%)	9 (5%)	192 (100%)
	第2期 99 (64%)	30 (19%)	9 (6%)	10 (6%)	7 (5%)	155 (100%)
	第3期 142 (65%)	43 (20%)	16 (7%)	9 (4%)	7 (3%)	217 (100%)
	第4期 127 (75%)	31 (18%)	2 (1%)	4 (2%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期 110 (71%)	27 (17%)	2 (1%)	11 (7%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期 101 (70%)	23 (16%)	5 (3%)	9 (6%)	6 (4%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期 34 (43%)	43 (54%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	80 (100%)
	第2期 23 (44%)	26 (50%)	0 (0%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期 37 (46%)	41 (51%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期 31 (48%)	28 (43%)	3 (5%)	3 (5%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期 25 (48%)	18 (35%)	4 (8%)	2 (4%)	3 (6%)	52 (100%)
	第6期 26 (49%)	21 (40%)	4 (8%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)



図表 2－3－21 第6期における障害別の職場の人への障害の説明

14 仕事の満足度

図表 2-3-22 から図表 2-3-25 までは、調査回答者のうち就労者の仕事内容の満足度や給料・待遇（労働条件等）の満足度等の仕事の満足度に関する各項目について「満足」から「不満」までの5段階で評価してもらった結果である。

図表 2-3-22 仕事の内容の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	33 (32%)	45 (44%)	16 (16%)	3 (3%)	4 (4%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	28 (39%)	23 (32%)	11 (15%)	4 (6%)	4 (6%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期	28 (38%)	26 (35%)	14 (19%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	74 (100%)
	第4期	27 (39%)	30 (43%)	7 (10%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	30 (47%)	7 (11%)	1 (2%)	2 (3%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	20 (39%)	21 (41%)	7 (14%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	32 (20%)	61 (38%)	53 (33%)	10 (6%)	3 (2%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	25 (24%)	38 (36%)	31 (30%)	9 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	24 (16%)	69 (47%)	39 (27%)	11 (7%)	1 (1%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	21 (16%)	53 (41%)	37 (29%)	14 (11%)	3 (2%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	12 (11%)	57 (53%)	31 (29%)	6 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	14 (13%)	45 (43%)	35 (34%)	7 (7%)	0 (0%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	72 (37%)	63 (32%)	39 (20%)	14 (7%)	3 (2%)	4 (2%)	195 (100%)
	第2期	47 (31%)	48 (31%)	38 (25%)	11 (7%)	4 (3%)	6 (4%)	154 (100%)
	第3期	54 (36%)	46 (31%)	33 (22%)	6 (4%)	8 (5%)	2 (1%)	149 (100%)
	第4期	37 (28%)	52 (39%)	31 (23%)	6 (5%)	4 (3%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	35 (32%)	37 (34%)	26 (24%)	8 (7%)	3 (3%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	31 (32%)	37 (38%)	21 (21%)	5 (5%)	2 (2%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	23 (32%)	31 (43%)	13 (18%)	1 (1%)	3 (4%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	18 (30%)	30 (50%)	8 (13%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	30 (32%)	43 (45%)	16 (17%)	4 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	28 (32%)	41 (47%)	12 (14%)	4 (5%)	1 (1%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	24 (36%)	30 (45%)	10 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	19 (33%)	28 (48%)	6 (10%)	4 (7%)	1 (2%)	0 (0%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	100 (52%)	51 (27%)	22 (11%)	11 (6%)	2 (1%)	6 (3%)	192 (100%)
	第2期	74 (48%)	52 (34%)	18 (12%)	3 (2%)	2 (1%)	6 (4%)	155 (100%)
	第3期	106 (49%)	67 (31%)	25 (12%)	11 (5%)	2 (1%)	6 (3%)	217 (100%)
	第4期	79 (47%)	52 (31%)	27 (16%)	4 (2%)	1 (1%)	6 (4%)	169 (100%)
	第5期	72 (46%)	53 (34%)	21 (14%)	2 (1%)	4 (3%)	3 (2%)	155 (100%)
	第6期	69 (48%)	48 (33%)	18 (13%)	4 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	26 (33%)	36 (45%)	11 (14%)	5 (6%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	25 (48%)	16 (31%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	18 (22%)	41 (51%)	13 (16%)	6 (7%)	3 (4%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	36 (55%)	6 (9%)	5 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	16 (31%)	24 (46%)	8 (15%)	1 (2%)	2 (4%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	11 (21%)	19 (36%)	17 (32%)	3 (6%)	2 (4%)	1 (2%)	53 (100%)

図表 2－3－23 給料・待遇（労働条件等）の満足度（単位：人）

		満足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	18 (18%)	37 (36%)	20 (20%)	17 (17%)	9 (9%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	13 (18%)	23 (32%)	18 (25%)	10 (14%)	7 (10%)	1 (1%)	72 (100%)
	第3期	16 (22%)	28 (38%)	14 (19%)	10 (14%)	2 (3%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	13 (19%)	26 (37%)	12 (17%)	11 (16%)	7 (10%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	18 (28%)	14 (22%)	9 (14%)	6 (9%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	16 (31%)	13 (25%)	7 (14%)	9 (18%)	5 (10%)	1 (2%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	18 (11%)	42 (26%)	47 (30%)	38 (24%)	13 (8%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	22 (21%)	39 (37%)	23 (22%)	8 (8%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	13 (9%)	52 (35%)	35 (24%)	35 (24%)	9 (6%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	44 (34%)	33 (26%)	26 (20%)	11 (9%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	13 (12%)	36 (33%)	33 (31%)	19 (18%)	7 (6%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	12 (12%)	30 (29%)	36 (35%)	17 (16%)	6 (6%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	54 (28%)	45 (23%)	45 (23%)	21 (11%)	20 (10%)	10 (5%)	195 (100%)
	第2期	38 (25%)	32 (21%)	34 (22%)	32 (21%)	9 (6%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	32 (21%)	37 (25%)	33 (22%)	27 (18%)	16 (11%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	38 (29%)	26 (20%)	21 (16%)	15 (11%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	25 (23%)	32 (29%)	18 (16%)	21 (19%)	12 (11%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	26 (27%)	32 (33%)	18 (18%)	16 (16%)	4 (4%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	14 (19%)	29 (40%)	11 (15%)	13 (18%)	4 (6%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	9 (15%)	17 (28%)	23 (38%)	8 (13%)	3 (5%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	18 (19%)	28 (29%)	25 (26%)	17 (18%)	6 (6%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	13 (15%)	29 (33%)	28 (32%)	14 (16%)	3 (3%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	10 (15%)	22 (33%)	19 (28%)	13 (19%)	3 (4%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	16 (28%)	13 (22%)	11 (19%)	4 (7%)	0 (0%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	84 (44%)	52 (27%)	25 (13%)	15 (8%)	4 (2%)	12 (6%)	192 (100%)
	第2期	57 (37%)	48 (31%)	23 (15%)	14 (9%)	6 (4%)	7 (5%)	155 (100%)
	第3期	86 (40%)	56 (26%)	36 (17%)	21 (10%)	8 (4%)	10 (5%)	217 (100%)
	第4期	67 (40%)	41 (24%)	29 (17%)	15 (9%)	8 (5%)	9 (5%)	169 (100%)
	第5期	60 (39%)	43 (28%)	23 (15%)	14 (9%)	8 (5%)	7 (5%)	155 (100%)
	第6期	51 (35%)	51 (35%)	20 (14%)	8 (6%)	5 (3%)	9 (6%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	19 (24%)	23 (29%)	16 (20%)	12 (15%)	7 (9%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	12 (23%)	13 (25%)	12 (23%)	9 (17%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	13 (16%)	23 (28%)	24 (30%)	14 (17%)	7 (9%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	13 (20%)	21 (32%)	11 (17%)	15 (23%)	5 (8%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	6 (12%)	21 (40%)	12 (23%)	7 (13%)	5 (10%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	8 (15%)	16 (30%)	13 (25%)	9 (17%)	6 (11%)	1 (2%)	53 (100%)

図表２－３－24 職場の人間関係の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	23 (23%)	43 (42%)	21 (21%)	6 (6%)	2 (2%)	7 (7%)	102 (100%)
	第2期	20 (28%)	29 (40%)	13 (18%)	2 (3%)	4 (6%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	21 (28%)	30 (41%)	13 (18%)	2 (3%)	2 (3%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	21 (30%)	34 (49%)	10 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	23 (36%)	18 (28%)	13 (20%)	3 (5%)	3 (5%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	18 (35%)	15 (29%)	11 (22%)	2 (4%)	1 (2%)	4 (8%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	18 (11%)	53 (33%)	56 (35%)	27 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	32 (30%)	35 (33%)	21 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	60 (41%)	42 (29%)	22 (15%)	6 (4%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	11 (9%)	42 (33%)	51 (40%)	17 (13%)	6 (5%)	2 (2%)	129 (100%)
	第5期	14 (13%)	27 (25%)	43 (40%)	18 (17%)	6 (6%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	8 (8%)	37 (36%)	37 (36%)	14 (13%)	5 (5%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	58 (30%)	60 (31%)	41 (21%)	19 (10%)	9 (5%)	8 (4%)	195 (100%)
	第2期	46 (30%)	39 (25%)	38 (25%)	17 (11%)	5 (3%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	35 (23%)	52 (35%)	30 (20%)	18 (12%)	9 (6%)	5 (3%)	149 (100%)
	第4期	30 (23%)	51 (39%)	29 (22%)	11 (8%)	9 (7%)	2 (2%)	132 (100%)
	第5期	24 (22%)	39 (35%)	27 (25%)	11 (10%)	8 (7%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	28 (29%)	31 (32%)	28 (29%)	8 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	17 (24%)	33 (46%)	13 (18%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	72 (100%)
	第2期	12 (20%)	25 (42%)	16 (27%)	6 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	20 (21%)	29 (31%)	31 (33%)	13 (14%)	1 (1%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	21 (24%)	28 (32%)	25 (29%)	8 (9%)	4 (5%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	13 (19%)	27 (40%)	17 (25%)	9 (13%)	1 (1%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	12 (21%)	24 (41%)	17 (29%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	88 (46%)	55 (29%)	24 (13%)	12 (6%)	2 (1%)	11 (6%)	192 (100%)
	第2期	61 (39%)	50 (32%)	25 (16%)	9 (6%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第3期	93 (43%)	55 (25%)	38 (18%)	13 (6%)	6 (3%)	12 (6%)	217 (100%)
	第4期	68 (40%)	48 (28%)	24 (14%)	15 (9%)	5 (3%)	9 (5%)	169 (100%)
	第5期	58 (37%)	46 (30%)	30 (19%)	12 (8%)	3 (2%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	48 (33%)	48 (33%)	26 (18%)	7 (5%)	4 (3%)	11 (8%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	24 (30%)	32 (40%)	13 (16%)	8 (10%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	6 (12%)	26 (50%)	12 (23%)	5 (10%)	3 (6%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	20 (25%)	28 (35%)	18 (22%)	4 (5%)	11 (14%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	17 (26%)	20 (31%)	16 (25%)	9 (14%)	2 (3%)	1 (2%)	65 (100%)
	第5期	8 (15%)	17 (33%)	15 (29%)	3 (6%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	12 (23%)	16 (30%)	15 (28%)	5 (9%)	4 (8%)	1 (2%)	53 (100%)

図表 2－3－25 職場の環境（施設整備等）の満足度（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	37 (36%)	35 (34%)	20 (20%)	7 (7%)	2 (2%)	1 (1%)	102 (100%)
	第2期	23 (32%)	27 (38%)	15 (21%)	5 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	72 (100%)
	第3期	19 (26%)	33 (45%)	12 (16%)	5 (7%)	1 (1%)	4 (5%)	74 (100%)
	第4期	23 (33%)	24 (34%)	16 (23%)	4 (6%)	1 (1%)	2 (3%)	70 (100%)
	第5期	16 (25%)	23 (36%)	12 (19%)	9 (14%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	19 (37%)	9 (18%)	5 (10%)	2 (4%)	1 (2%)	51 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	15 (9%)	55 (35%)	63 (40%)	22 (14%)	4 (3%)	0 (0%)	159 (100%)
	第2期	13 (12%)	33 (31%)	38 (36%)	18 (17%)	3 (3%)	0 (0%)	105 (100%)
	第3期	14 (10%)	59 (40%)	47 (32%)	20 (14%)	4 (3%)	3 (2%)	147 (100%)
	第4期	9 (7%)	36 (28%)	53 (41%)	24 (19%)	6 (5%)	1 (1%)	129 (100%)
	第5期	8 (7%)	33 (31%)	46 (43%)	16 (15%)	5 (5%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	7 (7%)	36 (35%)	36 (35%)	18 (17%)	4 (4%)	3 (3%)	104 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	84 (43%)	56 (29%)	26 (13%)	15 (8%)	5 (3%)	9 (5%)	195 (100%)
	第2期	58 (38%)	51 (33%)	24 (16%)	7 (5%)	5 (3%)	9 (6%)	154 (100%)
	第3期	46 (31%)	57 (38%)	23 (15%)	15 (10%)	4 (3%)	4 (3%)	149 (100%)
	第4期	39 (30%)	57 (43%)	17 (13%)	14 (11%)	2 (2%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	30 (27%)	44 (40%)	18 (16%)	12 (11%)	4 (4%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	36 (37%)	29 (30%)	17 (17%)	6 (6%)	7 (7%)	3 (3%)	98 (100%)
内 部 障 害	第1期	23 (32%)	23 (32%)	16 (22%)	5 (7%)	3 (4%)	2 (3%)	72 (100%)
	第2期	13 (22%)	22 (37%)	15 (25%)	8 (13%)	2 (3%)	0 (0%)	60 (100%)
	第3期	23 (24%)	32 (34%)	25 (26%)	12 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	95 (100%)
	第4期	20 (23%)	36 (41%)	16 (18%)	12 (14%)	2 (2%)	1 (1%)	87 (100%)
	第5期	16 (24%)	32 (48%)	14 (21%)	3 (4%)	2 (3%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	23 (40%)	14 (24%)	6 (10%)	1 (2%)	0 (0%)	58 (100%)
知 的 障 害	第1期	85 (44%)	48 (25%)	28 (15%)	11 (6%)	5 (3%)	15 (8%)	192 (100%)
	第2期	65 (42%)	50 (32%)	24 (15%)	5 (3%)	3 (2%)	8 (5%)	155 (100%)
	第3期	88 (41%)	56 (26%)	35 (16%)	16 (7%)	8 (4%)	14 (6%)	217 (100%)
	第4期	69 (41%)	48 (28%)	27 (16%)	10 (6%)	4 (2%)	11 (7%)	169 (100%)
	第5期	59 (38%)	46 (30%)	34 (22%)	7 (5%)	1 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	51 (35%)	46 (32%)	31 (22%)	3 (2%)	0 (0%)	13 (9%)	144 (100%)
精 神 障 害	第1期	28 (35%)	29 (36%)	14 (18%)	5 (6%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第2期	9 (17%)	21 (40%)	13 (25%)	9 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	52 (100%)
	第3期	22 (27%)	27 (33%)	19 (23%)	8 (10%)	5 (6%)	0 (0%)	81 (100%)
	第4期	15 (23%)	26 (40%)	11 (17%)	11 (17%)	2 (3%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	10 (19%)	18 (35%)	14 (27%)	5 (10%)	4 (8%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	10 (19%)	23 (43%)	14 (26%)	4 (8%)	1 (2%)	1 (2%)	53 (100%)

15 定年年齢

第6期の調査回答者のうち就労者の勤務先において、定年年齢が決まっているかどうかについて図表2－3－26に示す。定年年齢が決まっている場合の具体的な年齢について図表2－3－27に示す。

図表2－3－26 勤務先の定年年齢（単位：人）

	決まっている	決まっていない	無回答	計
視覚障害	29 (57%)	22 (43%)	0 (0%)	51 (100%)
聴覚障害	69 (66%)	33 (32%)	2 (2%)	104 (100%)
肢体不自由	78 (80%)	18 (18%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	42 (72%)	16 (28%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	79 (55%)	58 (40%)	7 (5%)	144 (100%)
精神障害	24 (45%)	29 (55%)	0 (0%)	53 (100%)
計	321 (63%)	176 (35%)	11 (2%)	508 (100%)

図表2－3－27 決まっている場合の勤務先の定年年齢（単位：人）

	60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	計
視覚障害	0 (0%)	2 (7%)	26 (90%)	1 (3%)	29 (100%)
聴覚障害	3 (4%)	20 (29%)	40 (58%)	6 (9%)	69 (100%)
肢体不自由	1 (1%)	16 (21%)	55 (71%)	6 (8%)	78 (100%)
内部障害	0 (0%)	10 (24%)	26 (62%)	4 (10%)	42 (100%)
知的障害	0 (0%)	35 (44%)	34 (43%)	9 (11%)	79 (100%)
精神障害	0 (0%)	6 (25%)	17 (71%)	1 (4%)	24 (100%)
計	4 (1%)	89 (28%)	198 (62%)	27 (8%)	321 (100%)

16 働いていたい年齢

調査回答者のうち就労者において、現在の仕事に限らず、仕事を続けていたいと思う年齢について図表 2-3-28 に示す。

障害種類に共通して 65 歳以上まで仕事を続けたいと思う者が概ね 5 割を超えている。

図表 2-3-28 働いていたい年齢（単位：人）

		60歳未満	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	無回答	計
視覚障害	第1期	7 (7%)	19 (19%)	21 (21%)	20 (20%)	35 (34%)	102 (100%)
	第2期	6 (8%)	10 (14%)	12 (17%)	17 (24%)	27 (38%)	72 (100%)
	第3期	2 (3%)	11 (15%)	15 (20%)	18 (24%)	28 (38%)	74 (100%)
	第4期	4 (6%)	14 (20%)	19 (27%)	28 (40%)	5 (7%)	70 (100%)
	第5期	1 (2%)	19 (30%)	12 (19%)	28 (44%)	4 (6%)	64 (100%)
	第6期	0 (0%)	13 (25%)	11 (22%)	26 (51%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第1期	23 (14%)	40 (25%)	27 (17%)	6 (4%)	63 (40%)	159 (100%)
	第2期	15 (14%)	29 (28%)	19 (18%)	4 (4%)	38 (36%)	105 (100%)
	第3期	17 (12%)	43 (29%)	21 (14%)	5 (3%)	61 (41%)	147 (100%)
	第4期	13 (10%)	60 (47%)	38 (29%)	12 (9%)	6 (5%)	129 (100%)
	第5期	15 (14%)	35 (32%)	41 (38%)	17 (16%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	8 (8%)	37 (36%)	32 (31%)	21 (20%)	6 (6%)	104 (100%)
肢体不自由	第1期	18 (9%)	48 (25%)	27 (14%)	9 (5%)	93 (48%)	195 (100%)
	第2期	20 (13%)	35 (23%)	18 (12%)	6 (4%)	75 (49%)	154 (100%)
	第3期	16 (11%)	34 (23%)	21 (14%)	8 (5%)	70 (47%)	149 (100%)
	第4期	20 (15%)	55 (42%)	38 (29%)	13 (10%)	6 (5%)	132 (100%)
	第5期	11 (10%)	41 (37%)	42 (38%)	11 (10%)	5 (5%)	110 (100%)
	第6期	9 (9%)	37 (38%)	34 (35%)	15 (15%)	3 (3%)	98 (100%)
内部障害	第1期	10 (14%)	9 (13%)	13 (18%)	6 (8%)	34 (47%)	72 (100%)
	第2期	6 (10%)	16 (27%)	5 (8%)	5 (8%)	28 (47%)	60 (100%)
	第3期	4 (4%)	18 (19%)	11 (12%)	7 (7%)	55 (58%)	95 (100%)
	第4期	6 (7%)	32 (37%)	31 (36%)	15 (17%)	3 (3%)	87 (100%)
	第5期	4 (6%)	22 (33%)	28 (42%)	12 (18%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	3 (5%)	23 (40%)	16 (28%)	15 (26%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	第1期	20 (10%)	76 (40%)	23 (12%)	15 (8%)	58 (30%)	192 (100%)
	第2期	22 (14%)	50 (32%)	23 (15%)	9 (6%)	51 (33%)	155 (100%)
	第3期	29 (13%)	88 (41%)	34 (16%)	13 (6%)	53 (24%)	217 (100%)
	第4期	18 (11%)	66 (39%)	40 (24%)	25 (15%)	20 (12%)	169 (100%)
	第5期	15 (10%)	56 (36%)	47 (30%)	29 (19%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	13 (9%)	43 (30%)	36 (25%)	34 (24%)	18 (13%)	144 (100%)
精神障害	第1期	7 (9%)	27 (34%)	26 (33%)	6 (8%)	14 (18%)	80 (100%)
	第2期	8 (15%)	13 (25%)	17 (33%)	4 (8%)	10 (19%)	52 (100%)
	第3期	4 (5%)	24 (30%)	28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	81 (100%)
	第4期	7 (11%)	15 (23%)	27 (42%)	14 (22%)	2 (3%)	65 (100%)
	第5期	3 (6%)	10 (19%)	25 (48%)	12 (23%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	4 (8%)	12 (23%)	19 (36%)	18 (34%)	0 (0%)	53 (100%)

※無回答の割合が第1期から第3期までと第4期から第6期までを比較すると大きく異なるのは、第1期から第3期までの後期調査において、当該集計にかかる調査項目は、定年年齢が決まっていない場合のみ「働いていたい年齢」を確認しており、定年年齢が決まっている者は全て無回答として計上しているためである。第4期以降の後期調査では、定年年齢が決まっても「働いていたい年齢」を確認している。

17 働く理由

調査研究委員会の議論を踏まえて、第4期後期調査から質問項目に収入を得るため、自分自身が成長するため等の「仕事をする理由」を追加した。前期調査・後期調査とも調査実施した第5期及び第6期の調査回答者のうち就労者の結果について、7つの項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で評価してもらった結果を図表2-3-29から図表2-3-35に示す。当該項目は、第4章において仕事の満足度との関係を障害種類別に分析している。

図表2-3-29 働く理由（収入を得るため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	59 (92%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	46 (90%)	3 (6%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	82 (76%)	19 (18%)	6 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	108 (100%)
	第6期	80 (77%)	16 (15%)	6 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	100 (91%)	8 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	110 (100%)
	第6期	86 (88%)	7 (7%)	4 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	98 (100%)
内部障害	第5期	59 (88%)	7 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	56 (97%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	123 (79%)	17 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	112 (78%)	17 (12%)	4 (3%)	0 (0%)	2 (1%)	9 (6%)	144 (100%)
精神障害	第5期	42 (81%)	6 (12%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	47 (89%)	4 (8%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

図表2-3-30 働く理由（社会とのつながりを持つため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	31 (48%)	19 (30%)	8 (13%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	25 (49%)	16 (31%)	6 (12%)	0 (0%)	3 (6%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	31 (29%)	38 (35%)	27 (25%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	33 (32%)	40 (38%)	22 (21%)	5 (5%)	3 (3%)	1 (1%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	52 (47%)	34 (31%)	18 (16%)	1 (1%)	3 (3%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	43 (44%)	28 (29%)	15 (15%)	5 (5%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第5期	31 (46%)	23 (34%)	10 (15%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	26 (45%)	23 (40%)	4 (7%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	78 (50%)	39 (25%)	21 (14%)	2 (1%)	5 (3%)	10 (6%)	155 (100%)
	第6期	73 (51%)	36 (25%)	14 (10%)	2 (1%)	3 (2%)	16 (11%)	144 (100%)
精神障害	第5期	25 (48%)	17 (33%)	5 (10%)	1 (2%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	24 (45%)	21 (40%)	6 (11%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

図表2-3-31 働く理由（社会の中での役割を果たすため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	34 (53%)	18 (28%)	6 (9%)	3 (5%)	1 (2%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	24 (47%)	15 (29%)	6 (12%)	1 (2%)	3 (6%)	2 (4%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	29 (27%)	39 (36%)	28 (26%)	9 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	34 (33%)	34 (33%)	28 (27%)	5 (5%)	2 (2%)	1 (1%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	47 (43%)	28 (25%)	25 (23%)	2 (2%)	6 (5%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	39 (40%)	25 (26%)	24 (24%)	4 (4%)	4 (4%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第5期	27 (40%)	19 (28%)	15 (22%)	4 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	28 (48%)	19 (33%)	5 (9%)	3 (5%)	3 (5%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	72 (46%)	38 (25%)	28 (18%)	2 (1%)	6 (4%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	67 (47%)	34 (24%)	23 (16%)	1 (1%)	1 (1%)	18 (13%)	144 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	14 (27%)	10 (19%)	3 (6%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	15 (28%)	21 (40%)	12 (23%)	4 (8%)	1 (2%)	0 (0%)	53 (100%)

図表 2-3-32 働く理由（自分自身が成長するため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	27 (42%)	16 (25%)	14 (22%)	3 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	16 (31%)	19 (37%)	6 (12%)	4 (8%)	5 (10%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	42 (39%)	33 (31%)	21 (19%)	8 (7%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	35 (34%)	33 (32%)	25 (24%)	6 (6%)	4 (4%)	1 (1%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	43 (39%)	36 (33%)	22 (20%)	4 (4%)	4 (4%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	35 (36%)	24 (24%)	26 (27%)	3 (3%)	5 (5%)	5 (5%)	98 (100%)
内部障害	第5期	21 (31%)	23 (34%)	17 (25%)	4 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	28 (48%)	9 (16%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	85 (55%)	36 (23%)	17 (11%)	3 (2%)	5 (3%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	74 (51%)	39 (27%)	14 (10%)	3 (2%)	1 (1%)	13 (9%)	144 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	14 (27%)	8 (15%)	3 (6%)	4 (8%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	16 (30%)	18 (34%)	17 (32%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

図表 2-3-33 働く理由（生きがいや楽しみのため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	18 (28%)	22 (34%)	14 (22%)	4 (6%)	4 (6%)	2 (3%)	64 (100%)
	第6期	14 (27%)	17 (33%)	11 (22%)	3 (6%)	4 (8%)	2 (4%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	34 (31%)	37 (34%)	22 (20%)	9 (8%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	27 (26%)	36 (35%)	24 (23%)	10 (10%)	6 (6%)	1 (1%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	39 (35%)	36 (33%)	23 (21%)	6 (5%)	5 (5%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	32 (33%)	32 (33%)	21 (21%)	6 (6%)	5 (5%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第5期	14 (21%)	29 (43%)	18 (27%)	2 (3%)	3 (4%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	14 (24%)	22 (38%)	17 (29%)	3 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	90 (58%)	34 (22%)	18 (12%)	3 (2%)	1 (1%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	85 (59%)	25 (17%)	13 (9%)	4 (3%)	1 (1%)	16 (11%)	144 (100%)
精神障害	第5期	18 (35%)	14 (27%)	12 (23%)	1 (2%)	5 (10%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	20 (38%)	13 (25%)	12 (23%)	6 (11%)	2 (4%)	0 (0%)	53 (100%)

図表 2-3-34 働く理由（生活のリズムを維持するため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	18 (28%)	19 (30%)	13 (20%)	7 (11%)	4 (6%)	3 (5%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	21 (41%)	5 (10%)	2 (4%)	6 (12%)	2 (4%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	33 (31%)	38 (35%)	23 (21%)	8 (7%)	5 (5%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	32 (31%)	39 (38%)	18 (17%)	5 (5%)	6 (6%)	4 (4%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	45 (41%)	36 (33%)	21 (19%)	4 (4%)	3 (3%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	39 (40%)	36 (37%)	16 (16%)	3 (3%)	2 (2%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第5期	20 (30%)	31 (46%)	12 (18%)	3 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	30 (52%)	8 (14%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	96 (62%)	30 (19%)	15 (10%)	4 (3%)	2 (1%)	8 (5%)	155 (100%)
	第6期	83 (58%)	33 (23%)	10 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	16 (11%)	144 (100%)
精神障害	第5期	28 (54%)	15 (29%)	5 (10%)	0 (0%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	27 (51%)	21 (40%)	3 (6%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

図表 2-3-35 働く理由（心身の健康のため）（単位：人）

		あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない	無回答	計
視覚障害	第5期	14 (22%)	19 (30%)	17 (27%)	6 (9%)	3 (5%)	5 (8%)	64 (100%)
	第6期	15 (29%)	15 (29%)	9 (18%)	5 (10%)	6 (12%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	25 (23%)	40 (37%)	26 (24%)	10 (9%)	6 (6%)	1 (1%)	108 (100%)
	第6期	26 (25%)	34 (33%)	23 (22%)	13 (13%)	5 (5%)	3 (3%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	39 (35%)	30 (27%)	27 (25%)	4 (4%)	8 (7%)	2 (2%)	110 (100%)
	第6期	27 (28%)	34 (35%)	26 (27%)	3 (3%)	6 (6%)	2 (2%)	98 (100%)
内部障害	第5期	16 (24%)	22 (33%)	22 (33%)	4 (6%)	2 (3%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	11 (19%)	27 (47%)	14 (24%)	2 (3%)	4 (7%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	91 (59%)	34 (22%)	18 (12%)	1 (1%)	5 (3%)	6 (4%)	155 (100%)
	第6期	80 (56%)	36 (25%)	14 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	12 (8%)	144 (100%)
精神障害	第5期	21 (40%)	20 (38%)	5 (10%)	2 (4%)	2 (4%)	2 (4%)	52 (100%)
	第6期	18 (34%)	22 (42%)	10 (19%)	3 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	53 (100%)

18 今後の仕事への意向

調査回答者のうち就労者において、調査回答時に就いていた仕事について、今後も続けたいかどうかを図表２－３－36に示す。

また、第６期の「別の仕事をしたい」と回答した者の詳細を図表２－３－37に示す。

図表２－３－36 今後の仕事への意向（単位：人）

		現在の仕事を 続けたい	現在の仕事とは 別の仕事をしたい	もう仕事は したくない	わからない	無回答	計
視覚障害	第1期	72 (71%)	10 (10%)	—	16 (16%)	4 (4%)	102 (100%)
	第2期	44 (61%)	8 (11%)	—	14 (19%)	6 (8%)	72 (100%)
	第3期	49 (66%)	6 (8%)	—	13 (18%)	6 (8%)	74 (100%)
	第4期	51 (73%)	7 (10%)	2 (3%)	9 (13%)	1 (1%)	70 (100%)
	第5期	49 (77%)	5 (8%)	0 (0%)	9 (14%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	35 (69%)	11 (22%)	1 (2%)	4 (8%)	0 (0%)	51 (100%)
聴覚障害	第1期	86 (54%)	40 (25%)	—	27 (17%)	6 (4%)	159 (100%)
	第2期	57 (54%)	21 (20%)	—	17 (16%)	10 (10%)	105 (100%)
	第3期	84 (57%)	24 (16%)	—	26 (18%)	13 (9%)	147 (100%)
	第4期	76 (59%)	30 (23%)	4 (3%)	19 (15%)	0 (0%)	129 (100%)
	第5期	64 (59%)	30 (28%)	2 (2%)	9 (8%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	64 (62%)	19 (18%)	5 (5%)	13 (13%)	3 (3%)	104 (100%)
肢体不自由	第1期	124 (64%)	26 (13%)	—	32 (16%)	13 (7%)	195 (100%)
	第2期	77 (50%)	20 (13%)	—	27 (18%)	30 (19%)	154 (100%)
	第3期	94 (63%)	17 (11%)	—	27 (18%)	11 (7%)	149 (100%)
	第4期	84 (64%)	24 (18%)	4 (3%)	17 (13%)	3 (2%)	132 (100%)
	第5期	80 (73%)	13 (12%)	5 (5%)	11 (10%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	68 (69%)	19 (19%)	6 (6%)	5 (5%)	0 (0%)	98 (100%)
内部障害	第1期	39 (54%)	10 (14%)	—	17 (24%)	6 (8%)	72 (100%)
	第2期	37 (62%)	5 (8%)	—	13 (22%)	5 (8%)	60 (100%)
	第3期	60 (63%)	11 (12%)	—	17 (18%)	7 (7%)	95 (100%)
	第4期	62 (71%)	14 (16%)	0 (0%)	11 (13%)	0 (0%)	87 (100%)
	第5期	54 (81%)	10 (15%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	67 (100%)
	第6期	39 (67%)	10 (17%)	3 (5%)	5 (9%)	1 (2%)	58 (100%)
知的障害	第1期	139 (72%)	14 (7%)	—	20 (10%)	19 (10%)	192 (100%)
	第2期	119 (77%)	13 (8%)	—	13 (8%)	10 (6%)	155 (100%)
	第3期	159 (73%)	29 (13%)	—	21 (10%)	8 (4%)	217 (100%)
	第4期	134 (79%)	12 (7%)	3 (2%)	15 (9%)	5 (3%)	169 (100%)
	第5期	126 (81%)	19 (12%)	2 (1%)	7 (5%)	1 (1%)	155 (100%)
	第6期	120 (83%)	12 (8%)	1 (1%)	4 (3%)	7 (5%)	144 (100%)
精神障害	第1期	50 (63%)	11 (14%)	—	17 (21%)	2 (3%)	80 (100%)
	第2期	27 (52%)	9 (17%)	—	14 (27%)	2 (4%)	52 (100%)
	第3期	46 (57%)	11 (14%)	—	18 (22%)	6 (7%)	81 (100%)
	第4期	41 (63%)	12 (18%)	0 (0%)	12 (18%)	0 (0%)	65 (100%)
	第5期	34 (65%)	9 (17%)	1 (2%)	7 (13%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	35 (66%)	6 (11%)	1 (2%)	11 (21%)	0 (0%)	53 (100%)

※第4期で選択肢に「もう仕事はしたくない」を質問項目に加えた。

図表２－３－37 今後の仕事への意向で「別の仕事をしたい」と回答した者の詳細（複数回答）（単位：人）

	別の会社に 転職	別の部署で 今と異なる仕事	今の職場で より責任のある仕事	今の職場で 責任を減らした仕事	無回答	人数
視覚障害	9 (82%)	0 (0%)	1 (9%)	1 (9%)	1 (9%)	11
聴覚障害	11 (58%)	7 (37%)	2 (11%)	1 (5%)	0 (0%)	19
肢体不自由	11 (58%)	2 (11%)	2 (11%)	4 (21%)	1 (5%)	19
内部障害	9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	10
知的障害	10 (83%)	1 (8%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	12
精神障害	4 (67%)	1 (17%)	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)	6
計	54 (70%)	12 (16%)	5 (6%)	10 (13%)	2 (3%)	77

※第5期から追加した調査項目。

19 過去2年間の仕事上の出来事

調査回答者のうち就労者の過去2年間に起きた仕事に関連する出来事について集計した結果を図表2－3－38に示す。

図表2－3－38 過去2年間の仕事上の出来事（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

		配置転換が あった	上司が 異動した	まわりで直接仕事を 援助してくれる人が いなくなった	昇進した	降格した	給料が 上がった	給料が 下がった	正社員に なった
視 覚 障 害	第2期	7 (10%)	11 (15%)	2 (3%)	3 (4%)	—	23 (32%)	18 (25%)	2 (3%)
	第3期	2 (3%)	9 (12%)	2 (3%)	2 (3%)	—	14 (19%)	14 (19%)	1 (1%)
	第4期	7 (10%)	20 (29%)	4 (6%)	3 (4%)	—	22 (31%)	7 (10%)	1 (1%)
	第5期	2 (3%)	21 (33%)	1 (2%)	2 (3%)	0 (0%)	19 (30%)	6 (9%)	—
	第6期	1 (2%)	16 (31%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	12 (24%)	8 (16%)	—
聴 覚 障 害	第2期	23 (22%)	8 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	—	32 (30%)	12 (11%)	4 (4%)
	第3期	11 (7%)	18 (12%)	2 (1%)	1 (1%)	—	35 (24%)	9 (6%)	2 (1%)
	第4期	28 (22%)	34 (26%)	5 (4%)	5 (4%)	—	42 (33%)	7 (5%)	0 (0%)
	第5期	20 (19%)	25 (23%)	5 (5%)	3 (3%)	0 (0%)	35 (32%)	11 (10%)	—
	第6期	10 (10%)	32 (31%)	1 (1%)	8 (8%)	1 (1%)	35 (34%)	11 (11%)	—
肢 体 不 自 由	第2期	37 (24%)	29 (19%)	7 (5%)	9 (6%)	—	53 (34%)	15 (10%)	0 (0%)
	第3期	7 (5%)	23 (15%)	5 (3%)	2 (1%)	—	35 (23%)	22 (15%)	0 (0%)
	第4期	27 (20%)	52 (39%)	10 (8%)	12 (9%)	—	40 (30%)	17 (13%)	1 (1%)
	第5期	24 (22%)	43 (39%)	4 (4%)	16 (15%)	4 (4%)	42 (38%)	14 (13%)	—
	第6期	18 (18%)	34 (35%)	5 (5%)	9 (9%)	1 (1%)	34 (35%)	8 (8%)	—
内 部 障 害	第2期	23 (38%)	10 (17%)	4 (7%)	8 (13%)	—	17 (28%)	6 (10%)	0 (0%)
	第3期	6 (6%)	8 (8%)	4 (4%)	2 (2%)	—	19 (20%)	14 (15%)	3 (3%)
	第4期	13 (15%)	26 (30%)	7 (8%)	6 (7%)	—	25 (29%)	13 (15%)	1 (1%)
	第5期	10 (15%)	19 (28%)	9 (13%)	7 (10%)	1 (1%)	18 (27%)	10 (15%)	—
	第6期	9 (16%)	14 (24%)	4 (7%)	8 (14%)	0 (0%)	20 (34%)	8 (14%)	—
知 的 障 害	第2期	23 (15%)	7 (5%)	5 (3%)	2 (1%)	—	36 (23%)	11 (7%)	2 (1%)
	第3期	11 (5%)	30 (14%)	13 (6%)	0 (0%)	—	53 (24%)	13 (6%)	1 (0%)
	第4期	16 (9%)	46 (27%)	10 (6%)	1 (1%)	—	41 (24%)	8 (5%)	3 (2%)
	第5期	13 (8%)	43 (28%)	8 (5%)	2 (1%)	1 (1%)	63 (41%)	10 (6%)	—
	第6期	9 (6%)	37 (26%)	4 (3%)	3 (2%)	0 (0%)	49 (34%)	4 (3%)	—
精 神 障 害	第2期	11 (21%)	12 (23%)	6 (12%)	3 (6%)	—	23 (44%)	4 (8%)	1 (2%)
	第3期	4 (5%)	15 (19%)	2 (2%)	1 (1%)	—	19 (23%)	2 (2%)	1 (1%)
	第4期	5 (8%)	22 (34%)	4 (6%)	0 (0%)	—	21 (32%)	1 (2%)	0 (0%)
	第5期	1 (2%)	17 (33%)	2 (4%)	2 (4%)	0 (0%)	17 (33%)	3 (6%)	—
	第6期	5 (9%)	17 (32%)	5 (9%)	2 (4%)	0 (0%)	21 (40%)	0 (0%)	—

図表 2-3-38 過去2年間の仕事上の出来事（複数回答）（単位：人）※前ページからの続き

		休職した	出向した	転職をした	会社が倒産	該当する 項目なし	無回答	人数
視 覚 障 害	第2期	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	6 (8%)	14 (19%)	72
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	26 (35%)	3 (4%)	74
	第4期	2 (3%)	2 (3%)	4 (6%)	1 (1%)	24 (34%)	0 (0%)	70
	第5期	1 (2%)	0 (0%)	6 (9%)	—	26 (41%)	1 (2%)	64
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	—	25 (49%)	0 (0%)	51
聴 覚 障 害	第2期	3 (3%)	0 (0%)	4 (4%)	1 (1%)	25 (24%)	13 (12%)	105
	第3期	5 (3%)	0 (0%)	11 (7%)	1 (1%)	43 (29%)	16 (11%)	147
	第4期	3 (2%)	0 (0%)	12 (9%)	0 (0%)	41 (32%)	0 (0%)	129
	第5期	8 (7%)	0 (0%)	8 (7%)	—	33 (31%)	1 (1%)	108
	第6期	2 (2%)	1 (1%)	6 (6%)	—	31 (30%)	2 (2%)	104
肢 体 不 自 由	第2期	9 (6%)	0 (0%)	3 (2%)	1 (1%)	28 (18%)	19 (12%)	154
	第3期	7 (5%)	0 (0%)	5 (3%)	0 (0%)	36 (24%)	9 (6%)	149
	第4期	9 (7%)	3 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	28 (21%)	0 (0%)	132
	第5期	8 (7%)	1 (1%)	6 (5%)	—	21 (19%)	2 (2%)	110
	第6期	3 (3%)	0 (0%)	6 (6%)	—	24 (24%)	3 (3%)	98
内 部 障 害	第2期	4 (7%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	5 (8%)	10 (17%)	60
	第3期	8 (8%)	0 (0%)	3 (3%)	0 (0%)	24 (25%)	5 (5%)	95
	第4期	7 (8%)	2 (2%)	5 (6%)	0 (0%)	21 (24%)	0 (0%)	87
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	—	23 (34%)	0 (0%)	67
	第6期	3 (5%)	2 (3%)	4 (7%)	—	17 (29%)	0 (0%)	58
知 的 障 害	第2期	3 (2%)	0 (0%)	6 (4%)	1 (1%)	55 (35%)	31 (20%)	155
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	11 (5%)	1 (0%)	18 (8%)	68 (31%)	217
	第4期	2 (1%)	0 (0%)	8 (5%)	0 (0%)	58 (34%)	7 (4%)	169
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	9 (6%)	—	50 (32%)	3 (2%)	155
	第6期	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	—	50 (35%)	9 (6%)	144
精 神 障 害	第2期	6 (12%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	7 (13%)	6 (12%)	52
	第3期	7 (9%)	0 (0%)	13 (16%)	0 (0%)	21 (26%)	4 (5%)	81
	第4期	13 (20%)	0 (0%)	8 (12%)	0 (0%)	16 (25%)	0 (0%)	65
	第5期	5 (10%)	1 (2%)	5 (10%)	—	15 (29%)	1 (2%)	52
	第6期	4 (8%)	0 (0%)	8 (15%)	—	10 (19%)	1 (2%)	53

※第2期以降行っている調査項目。括弧内は就労者数に対する割合。選択肢「降格した」は第5期で追加した調査項目、選択肢「正社員になった」「勤めていた会社が倒産した」は第5期に削除した調査項目。

20 職場に配慮を希望すること

調査回答者の働く上で職場に配慮を希望する項目を図表２－３－39に示す。回答時に就労していない者へは、自身の経験から回答を求めた。

図表２－３－39 職場に配慮を希望すること（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

		作業手順をわかりやすくしたり、 仕事をやりやすくすること	作業のスピードや仕事の量を 障害にあわせること	作業を容易にする機器や 設備を改善すること	通勤の便宜を 図ること	仕事やコミュニケーションを援助して くれる人をまわりに配置すること
視 覚 障 害	第1期	49 (47%)	31 (30%)	42 (40%)	19 (18%)	31 (30%)
	第2期	29 (37%)	16 (21%)	24 (31%)	14 (18%)	18 (23%)
	第3期	25 (31%)	25 (31%)	30 (38%)	17 (21%)	25 (31%)
	第4期	28 (37%)	22 (29%)	39 (52%)	19 (25%)	19 (25%)
	第5期	33 (48%)	17 (25%)	35 (51%)	16 (23%)	29 (42%)
	第6期	20 (35%)	18 (32%)	30 (53%)	15 (26%)	25 (44%)
聴 覚 障 害	第1期	72 (44%)	30 (18%)	44 (27%)	4 (2%)	114 (69%)
	第2期	50 (44%)	19 (17%)	24 (21%)	5 (4%)	72 (64%)
	第3期	75 (47%)	30 (19%)	32 (20%)	6 (4%)	107 (67%)
	第4期	70 (48%)	25 (17%)	24 (17%)	8 (6%)	93 (64%)
	第5期	73 (61%)	36 (30%)	29 (24%)	4 (3%)	87 (73%)
	第6期	54 (50%)	26 (24%)	22 (20%)	4 (4%)	66 (61%)
肢 体 不 自 由	第1期	92 (43%)	90 (42%)	58 (27%)	43 (20%)	54 (25%)
	第2期	60 (34%)	60 (34%)	44 (25%)	41 (24%)	32 (18%)
	第3期	70 (41%)	64 (37%)	44 (26%)	43 (25%)	32 (19%)
	第4期	66 (44%)	58 (39%)	36 (24%)	47 (31%)	27 (18%)
	第5期	62 (43%)	63 (44%)	55 (38%)	57 (40%)	33 (23%)
	第6期	50 (40%)	49 (39%)	36 (29%)	43 (34%)	25 (20%)
内 部 障 害	第1期	18 (25%)	15 (21%)	8 (11%)	11 (15%)	14 (19%)
	第2期	15 (25%)	22 (36%)	6 (10%)	9 (15%)	11 (18%)
	第3期	21 (21%)	18 (18%)	8 (8%)	15 (15%)	10 (10%)
	第4期	19 (21%)	18 (20%)	8 (9%)	9 (10%)	11 (12%)
	第5期	21 (26%)	19 (24%)	9 (11%)	9 (11%)	9 (11%)
	第6期	14 (21%)	15 (22%)	6 (9%)	12 (18%)	6 (9%)
知 的 障 害	第1期	134 (68%)	100 (51%)	28 (14%)	26 (13%)	113 (57%)
	第2期	107 (64%)	79 (47%)	23 (14%)	23 (14%)	83 (49%)
	第3期	137 (58%)	103 (43%)	22 (9%)	22 (9%)	102 (43%)
	第4期	118 (61%)	71 (37%)	29 (15%)	23 (12%)	78 (40%)
	第5期	121 (68%)	80 (45%)	49 (28%)	41 (23%)	97 (55%)
	第6期	110 (66%)	84 (50%)	31 (19%)	33 (20%)	86 (51%)
精 神 障 害	第1期	43 (52%)	40 (48%)	13 (16%)	11 (13%)	37 (45%)
	第2期	28 (44%)	29 (46%)	12 (19%)	9 (14%)	29 (46%)
	第3期	51 (54%)	38 (40%)	12 (13%)	10 (11%)	36 (38%)
	第4期	49 (58%)	38 (45%)	12 (14%)	16 (19%)	41 (48%)
	第5期	40 (57%)	35 (50%)	14 (20%)	14 (20%)	30 (43%)
	第6期	35 (49%)	34 (48%)	6 (8%)	12 (17%)	25 (35%)

図表２－３－３９ 職場に配慮を希望すること（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

	体力や体調にあわせて、勤務 時間や休みを調整すること	安全や健康管理に特別の 配慮をすること	その他	特にない	人数	
視 覚 障 害	第1期	28 (27%)	26 (25%)	15 (14%)	—	104
	第2期	17 (22%)	17 (22%)	9 (12%)	—	78
	第3期	20 (25%)	20 (25%)	4 (5%)	—	80
	第4期	17 (23%)	16 (21%)	4 (5%)	—	75
	第5期	22 (32%)	24 (35%)	4 (6%)	13 (19%)	69
	第6期	20 (35%)	15 (26%)	4 (7%)	9 (16%)	57
聴 覚 障 害	第1期	31 (19%)	26 (16%)	15 (9%)	—	165
	第2期	20 (18%)	25 (22%)	18 (16%)	—	113
	第3期	38 (24%)	33 (21%)	11 (7%)	—	159
	第4期	27 (19%)	29 (20%)	10 (7%)	—	145
	第5期	27 (23%)	30 (25%)	3 (3%)	12 (10%)	120
	第6期	23 (21%)	21 (19%)	2 (2%)	14 (13%)	108
肢 体 不 自 由	第1期	86 (40%)	61 (28%)	25 (12%)	—	216
	第2期	77 (44%)	35 (20%)	16 (9%)	—	174
	第3期	65 (38%)	39 (23%)	16 (9%)	—	171
	第4期	70 (47%)	53 (35%)	10 (7%)	—	150
	第5期	64 (44%)	43 (30%)	6 (4%)	20 (14%)	144
	第6期	51 (40%)	44 (35%)	3 (2%)	17 (13%)	126
内 部 障 害	第1期	44 (60%)	17 (23%)	15 (21%)	—	73
	第2期	34 (56%)	18 (30%)	7 (11%)	—	61
	第3期	64 (63%)	35 (35%)	6 (6%)	—	101
	第4期	52 (57%)	23 (25%)	6 (7%)	—	92
	第5期	41 (51%)	23 (29%)	0 (0%)	15 (19%)	80
	第6期	35 (51%)	19 (28%)	0 (0%)	16 (24%)	68
知 的 障 害	第1期	39 (20%)	44 (22%)	11 (6%)	—	198
	第2期	35 (21%)	33 (20%)	12 (7%)	—	168
	第3期	47 (20%)	53 (22%)	11 (5%)	—	237
	第4期	52 (27%)	54 (28%)	3 (2%)	—	193
	第5期	53 (30%)	58 (33%)	2 (1%)	16 (9%)	177
	第6期	45 (27%)	50 (30%)	1 (1%)	20 (12%)	167
精 神 障 害	第1期	41 (49%)	23 (28%)	4 (5%)	—	83
	第2期	30 (48%)	13 (21%)	7 (11%)	—	63
	第3期	36 (38%)	20 (21%)	5 (5%)	—	94
	第4期	44 (52%)	19 (22%)	4 (5%)	—	85
	第5期	44 (63%)	21 (30%)	4 (6%)	6 (9%)	70
	第6期	42 (59%)	17 (24%)	3 (4%)	10 (14%)	71

21 実際に得られている配慮

調査研究委員会の議論を踏まえて、第4期から質問項目に職場で実際にある理解や配慮を追加した。調査回答者のうち就労者の現在の職場で実際に理解や配慮が得られている事柄への回答を集計した結果を図表2-3-40に示す。

図表2-3-40 実際に得られている配慮（複数回答）（単位：人）

		作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること	作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること	作業を容易にする機器や設備を改善すること	通勤の便宜を図ること	仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること	体力や体調にあわせて、勤務時間や休みを調整すること
視覚障害	第4期	13 (19%)	10 (14%)	21 (30%)	13 (19%)	10 (14%)	11 (16%)
	第5期	18 (28%)	12 (19%)	25 (39%)	6 (9%)	12 (19%)	17 (27%)
	第6期	12 (24%)	9 (18%)	23 (45%)	10 (20%)	12 (24%)	8 (16%)
聴覚障害	第4期	46 (36%)	16 (12%)	13 (10%)	5 (4%)	49 (38%)	19 (15%)
	第5期	54 (50%)	24 (22%)	18 (17%)	4 (4%)	50 (46%)	23 (21%)
	第6期	47 (45%)	11 (11%)	14 (13%)	5 (5%)	47 (45%)	21 (20%)
肢体不自由	第4期	40 (30%)	49 (37%)	27 (20%)	33 (25%)	26 (20%)	47 (36%)
	第5期	26 (24%)	36 (33%)	29 (26%)	33 (30%)	21 (19%)	45 (41%)
	第6期	29 (30%)	33 (34%)	19 (19%)	25 (26%)	15 (15%)	36 (37%)
内部障害	第4期	10 (11%)	13 (15%)	2 (2%)	10 (11%)	8 (9%)	42 (48%)
	第5期	10 (15%)	12 (18%)	2 (3%)	9 (13%)	6 (9%)	32 (48%)
	第6期	8 (14%)	11 (19%)	2 (3%)	7 (12%)	3 (5%)	26 (45%)
知的障害	第4期	88 (52%)	58 (34%)	29 (17%)	24 (14%)	57 (34%)	34 (20%)
	第5期	100 (65%)	71 (46%)	39 (25%)	35 (23%)	74 (48%)	47 (30%)
	第6期	92 (64%)	61 (42%)	20 (14%)	23 (16%)	62 (43%)	31 (22%)
精神障害	第4期	28 (43%)	29 (45%)	6 (9%)	5 (8%)	17 (26%)	31 (48%)
	第5期	26 (50%)	22 (42%)	7 (13%)	7 (13%)	12 (23%)	21 (40%)
	第6期	17 (32%)	18 (34%)	4 (8%)	6 (11%)	12 (23%)	26 (49%)

		安全や健康管理に特別の配慮をすること	その他	特にない	無回答	人数
視覚障害	第4期	6 (9%)	5 (7%)	9 (13%)	15 (21%)	70
	第5期	11 (17%)	1 (2%)	18 (28%)	5 (8%)	64
	第6期	8 (16%)	3 (6%)	9 (18%)	4 (8%)	51
聴覚障害	第4期	15 (12%)	8 (6%)	18 (14%)	14 (11%)	129
	第5期	20 (19%)	2 (2%)	20 (19%)	0 (0%)	108
	第6期	17 (16%)	3 (3%)	22 (21%)	1 (1%)	104
肢体不自由	第4期	37 (28%)	7 (5%)	22 (17%)	8 (6%)	132
	第5期	30 (27%)	2 (2%)	29 (26%)	2 (2%)	110
	第6期	24 (24%)	2 (2%)	24 (24%)	2 (2%)	98
内部障害	第4期	22 (25%)	6 (7%)	18 (21%)	9 (10%)	87
	第5期	21 (31%)	1 (1%)	22 (33%)	2 (3%)	67
	第6期	9 (16%)	0 (0%)	22 (38%)	1 (2%)	58
知的障害	第4期	47 (28%)	0 (0%)	9 (5%)	33 (20%)	169
	第5期	48 (31%)	1 (1%)	21 (14%)	4 (3%)	155
	第6期	43 (30%)	1 (1%)	17 (12%)	6 (4%)	144
精神障害	第4期	14 (22%)	6 (9%)	10 (15%)	5 (8%)	65
	第5期	13 (25%)	0 (0%)	11 (21%)	0 (0%)	52
	第6期	11 (21%)	4 (8%)	11 (21%)	0 (0%)	53

22 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会

調査研究委員会の議論を踏まえて、第5期から、雇用分野における障害者に対する差別禁止と合理的配慮の提供にあたり、最初の取組である「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」について、第5期及び第6期の調査回答者のうち就労者に確認した結果を図表2－3－41、第5期及び第6期とも回答した就労者の結果を図表2－3－42に示す。

合理的配慮の取組の第1歩である話合いの機会があった者は、全体でみると第5期の約4割から第6期では5割を超えてきている。回答の自由記述をみると「そもそも話合う必要がない」という意見もあったが、「話合いの機会がまだない」と回答した者が12%～42%いる結果であった。

図表2－3－41 2016年4月以降の職場で支障となっていることの確認や話合いの機会（単位：人）

		今までと同じように 確認や話合いの 機会があった	新たに 確認や話合いの 機会があった	確認や話合いの 機会はまだない	よくわからない	無回答	計
視覚障害	第5期	16 (25%)	3 (5%)	27 (42%)	11 (17%)	7 (11%)	64 (100%)
	第6期	23 (45%)	1 (2%)	14 (27%)	6 (12%)	7 (14%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	44 (41%)	16 (15%)	39 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	108 (100%)
	第6期	52 (50%)	14 (13%)	26 (25%)	8 (8%)	4 (4%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	30 (27%)	7 (6%)	50 (45%)	16 (15%)	7 (6%)	110 (100%)
	第6期	42 (43%)	11 (11%)	24 (24%)	17 (17%)	4 (4%)	98 (100%)
内部障害	第5期	15 (22%)	5 (7%)	37 (55%)	7 (10%)	3 (4%)	67 (100%)
	第6期	18 (31%)	5 (9%)	22 (38%)	8 (14%)	5 (9%)	58 (100%)
知的障害	第5期	53 (34%)	11 (7%)	35 (23%)	51 (33%)	5 (3%)	155 (100%)
	第6期	56 (39%)	11 (8%)	19 (13%)	52 (36%)	6 (4%)	144 (100%)
精神障害	第5期	12 (23%)	11 (21%)	20 (38%)	8 (15%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	21 (40%)	8 (15%)	15 (28%)	9 (17%)	0 (0%)	53 (100%)
計	第5期	170 (31%)	53 (10%)	208 (37%)	99 (18%)	26 (5%)	556 (100%)
	第6期	212 (42%)	50 (10%)	120 (24%)	100 (20%)	26 (5%)	508 (100%)

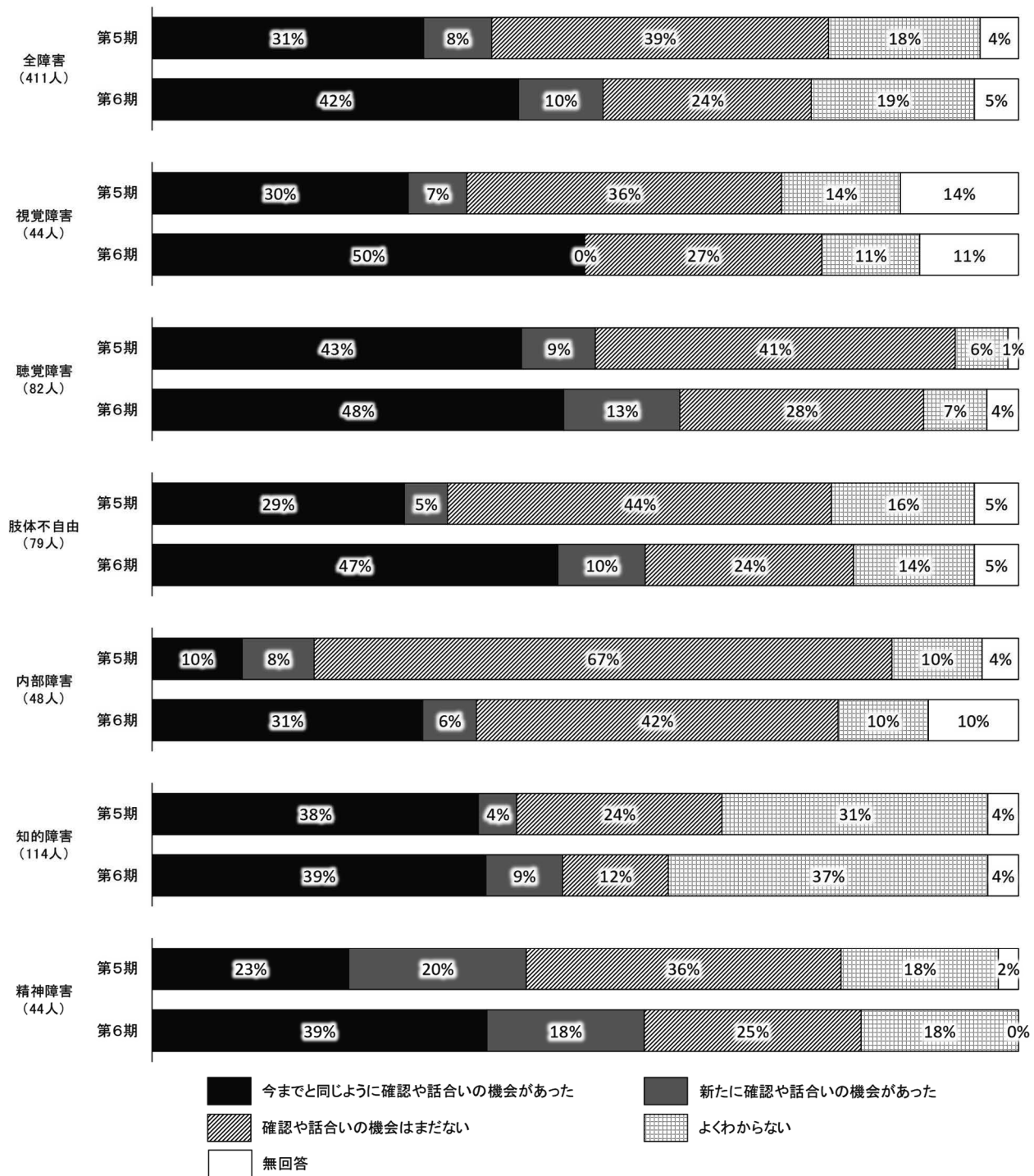


図 2-3-42 第5期及び第6期とも回答した者の職場で支障となっていることの確認や話合いの状況

23 仕事を辞めた理由

調査回答者のうち就労していない者で、仕事を辞めたのが一つ前の調査以降の2年間である者にその理由を確認した。第6期の人数を集計した結果を図表2-3-43に示す。

また、仕事を辞めた理由について、選択肢「自分の都合」を選んだ回答者にその詳細を複数回答により確認した。第6期の集計結果を図表2-3-44に示す。

図表2-3-43 第6期における仕事を辞めた理由（単位：人）

	事業主の都合	定年退職	定年後の再雇用終了	契約期間満了	休職期間満了	自分の都合	その他	わからない	無回答	計
視覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
聴覚障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
肢体不自由	1 (13%)	4 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (13%)	2 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (100%)
内部障害	0 (0%)	2 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (100%)
知的障害	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)
精神障害	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (86%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)
計	4 (13%)	6 (20%)	0 (0%)	3 (10%)	1 (3%)	16 (53%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	30 (100%)

※調査時点で就労していない者のみ回答を求めた調査項目。

図表2-3-44 第6期における「自分の都合」の詳細（複数回答）（単位：人）

	仕事内容が合わなかった	賃金、労働条件に不満があった	職場の雰囲気・人間関係	体調不良	体力的にきつくなった	結婚
視覚障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)
聴覚障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
肢体不自由	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)
内部障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	4 (100%)	1 (25%)	0 (0%)
知的障害	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	1 (50%)	0 (0%)
精神障害	3 (50%)	1 (17%)	3 (50%)	4 (67%)	4 (67%)	0 (0%)
計	4 (25%)	2 (13%)	7 (44%)	11 (69%)	8 (50%)	0 (0%)

	出産	家庭等の事情（介護など）	その他	わからない	無回答	人数
視覚障害	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
聴覚障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0
肢体不自由	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2
内部障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	2 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	6
計	0 (0%)	3 (19%)	5 (31%)	0 (0%)	0 (0%)	16

24 今後の仕事についての考え

第6期の調査回答者のうち就労していない者の、今後の仕事への考えを図表2-3-45に示す。

図表2-3-45 今後の仕事についての考え（単位：人）

	現在、就職活動をしている	今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている	今後、仕事をするかどうか、今は決められない	職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない	無回答	計
視覚障害	1 (17%)	3 (50%)	1 (17%)	1 (17%)	0 (0%)	6 (100%)
聴覚障害	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	4 (100%)
肢体不自由	3 (11%)	4 (14%)	5 (18%)	12 (43%)	4 (14%)	28 (100%)
内部障害	2 (20%)	0 (0%)	1 (10%)	7 (70%)	0 (0%)	10 (100%)
知的障害	7 (30%)	4 (17%)	3 (13%)	3 (13%)	6 (26%)	23 (100%)
精神障害	3 (17%)	9 (50%)	3 (17%)	1 (6%)	2 (11%)	18 (100%)
計	16 (18%)	22 (25%)	13 (15%)	25 (28%)	13 (15%)	89 (100%)

※第4期よりこの選択肢で調査。第3期までの選択肢は「すぐに仕事につきたい」「すぐというわけではないが仕事につきたい」「時間をかけて自分に合った仕事を探したい」「福祉工場や作業所で働きたい」「仕事につきたくない」「その他」としていた。全ての調査期において調査時点で就労していない者のみ回答。

25 今後の働き方の希望と仕事を探すときに相談する人・機関

第6期の調査回答者のうち就労していない者のなかで、「現在、就職活動をしている」と回答した者の、今後の働き方の希望と、仕事を探すときに相談する人や機関を、図表2-3-46および図表2-3-47に示す。

図表2-3-46 今後の働き方の希望（複数回答）（単位：人）

	正社員・正職員	パート・アルバイト・嘱託・契約社員	派遣社員	自営業または家族従業者	自宅にて内職	就労継続支援A型	その他	無回答	人数
視覚障害	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
肢体不自由	2 (67%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
内部障害	2 (100%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
知的障害	5 (71%)	5 (71%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (71%)	0 (0%)	0 (0%)	7
精神障害	3 (100%)	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
計	12 (75%)	12 (75%)	2 (13%)	0 (0%)	1 (6%)	6 (38%)	0 (0%)	0 (0%)	16

※第3期よりこの内容で調査。第2期まではこの項目の設定無し。調査時点で就労していない者のうち就労希望者（図表2-3-45で「現在、就職活動をしている」と回答）のみ回答。

図表 2-3-47 仕事を探すときに相談する人・機関（複数回答）（単位：人）

	家族や 身近な人	以前の職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・ 相談機関	医療機関	行政機関
視覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	2 (67%)	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	3 (100%)
内部障害	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)
知的障害	5 (71%)	1 (14%)	7 (100%)	0 (0%)	3 (43%)	1 (14%)	2 (29%)
精神障害	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)
計	10 (63%)	2 (13%)	10 (63%)	0 (0%)	6 (38%)	1 (6%)	8 (50%)

	訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や現在 通っている学校の先生	同じ障害の ある人の団体	その他	相談したり利用 したことはない	無回答	人数
視覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
肢体不自由	1 (33%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
内部障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	3
計	1 (6%)	1 (6%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	16

※調査時点で就労していない者のうち就労希望者（図表 2-3-45 で「現在、就職活動をしている」と回答）のみ回答を求めた項目。

26 職業生活からの引退理由

第6期の調査回答者のうち就労していない者の中で、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した者の引退理由を図表 2-3-48 に示す。

図表 2-3-48 職業生活からの引退理由（複数回答）（単位：人）

	気力の面で 難しくなったから	体力の面で 難しくなったから	体調の面で 難しくなったから	後継者が 育ったから	これまで十分に 働き、自分の役割を 果たしたから
視覚障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	2 (17%)	5 (42%)	3 (25%)	0 (0%)	4 (33%)
内部障害	1 (14%)	3 (43%)	5 (71%)	1 (14%)	0 (0%)
知的障害	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
計	4 (16%)	8 (32%)	10 (40%)	1 (4%)	5 (20%)

	趣味や旅行など、 引退後の生活を 楽しむため	家事や家族の 世話に時間を 充てたいため	ボランティアや地域の 活動、当事者団体の 活動に時間を 充てたいため	もっと働きたかったが、 働く先が見つから なかったから	もっと働きたかったが、 働くための環境や条件 が整わなかったから
視覚障害	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
肢体不自由	1 (8%)	0 (0%)	1 (8%)	1 (8%)	1 (8%)
内部障害	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
計	3 (12%)	0 (0%)	1 (4%)	2 (8%)	2 (8%)

	老齢年金を 受給し始めたから	定年の年齢に なったから	定年後の再雇用の 期間が終了したから	その他	無回答	人数
視覚障害	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
聴覚障害	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
肢体不自由	0 (0%)	4 (33%)	0 (0%)	1 (8%)	0 (0%)	12
内部障害	1 (14%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
知的障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
精神障害	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
計	1 (4%)	7 (28%)	1 (4%)	1 (4%)	0 (0%)	25

※第4期後期で追加した調査項目。調査時点で就労していない者のうち職業生活からの引退希望者（図表 2-3-45 で「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答）のみ回答。

27 定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明

第6期の調査回答者のうち就労していない者の中で、「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答した者のうち、「定年の年齢になったから」と回答した者の定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明の状況を図表2-3-49に示す。

図表2-3-49 定年後の再雇用（継続雇用）についての職場からの説明（単位：人）

	説明はなかった・ 再雇用の制度 自体がなかった	説明はあったが、 再雇用を希望 しなかった	再雇用を希望 したが、雇用 されなかった	その他	無回答	計
視覚障害	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
聴覚障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
肢体不自由	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
内部障害	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2 (100%)
知的障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
精神障害	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
計	1 (14%)	5 (71%)	0 (0%)	1 (14%)	0 (0%)	7 (100%)

※第4期後期で追加した調査項目。調査時点で就労していない者のうち職業生活からの引退希望者（図表2-3-45で「職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない」と回答）のうち、定年により職業生活から引退した者（図表2-3-48で「定年の年齢になったから」と回答）のみ回答。

28 働く上で重視すること

仕事に関連する6つの項目について、働く上でどの程度重視するかを「重要」から「重要でない」までの5段階で調査回答者に評価してもらった結果について、図表2-3-50から図表2-3-55に示す。

図表2-3-50 働く上で重視すること（賃金や給料）（単位：人）

	重要	どちらかといえば重要	どちらともいえない	どちらかといえば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	第1期 75 (72%)	23 (22%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期 53 (68%)	19 (24%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期 55 (69%)	20 (25%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期 54 (72%)	12 (16%)	3 (4%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期 55 (80%)	10 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期 44 (77%)	9 (16%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
聴覚障害	第1期 94 (57%)	50 (30%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期 61 (54%)	37 (33%)	9 (8%)	3 (3%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期 102 (64%)	42 (26%)	13 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期 88 (61%)	40 (28%)	15 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期 76 (63%)	34 (28%)	7 (6%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期 68 (63%)	28 (26%)	7 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢体不自由	第1期 146 (68%)	50 (23%)	12 (6%)	3 (1%)	1 (0%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期 101 (58%)	49 (28%)	12 (7%)	5 (3%)	4 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期 110 (64%)	43 (25%)	12 (7%)	2 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	171 (100%)
	第4期 97 (65%)	40 (27%)	7 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期 99 (69%)	35 (24%)	2 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	4 (3%)	144 (100%)
	第6期 77 (61%)	38 (30%)	6 (5%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (2%)	126 (100%)
内部障害	第1期 43 (59%)	25 (34%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期 36 (59%)	23 (38%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期 55 (54%)	36 (36%)	6 (6%)	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期 60 (65%)	29 (32%)	3 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	92 (100%)
	第5期 46 (58%)	25 (31%)	5 (6%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期 35 (51%)	27 (40%)	3 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
知的障害	第1期 164 (83%)	21 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期 138 (82%)	23 (14%)	5 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (1%)	168 (100%)
	第3期 200 (84%)	21 (9%)	5 (2%)	2 (1%)	1 (0%)	8 (3%)	237 (100%)
	第4期 156 (81%)	22 (11%)	4 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (6%)	193 (100%)
	第5期 136 (77%)	25 (14%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	9 (5%)	177 (100%)
	第6期 116 (69%)	26 (16%)	9 (5%)	4 (2%)	0 (0%)	12 (7%)	167 (100%)
精神障害	第1期 54 (65%)	20 (24%)	4 (5%)	4 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期 31 (49%)	25 (40%)	4 (6%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期 53 (56%)	30 (32%)	9 (10%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期 47 (55%)	28 (33%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期 40 (57%)	21 (30%)	6 (9%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期 48 (68%)	16 (23%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2-3-51 働く上で重視すること（自分の能力・経験が発揮できること）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	79 (76%)	20 (19%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	0 (0%)	104 (100%)
	第2期	52 (67%)	20 (26%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	57 (71%)	15 (19%)	4 (5%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第4期	49 (65%)	16 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	49 (71%)	17 (25%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	38 (67%)	16 (28%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	83 (50%)	57 (35%)	22 (13%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	55 (49%)	36 (32%)	19 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	81 (51%)	53 (33%)	24 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	70 (48%)	53 (37%)	19 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	66 (55%)	38 (32%)	14 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	61 (56%)	34 (31%)	9 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	115 (53%)	64 (30%)	31 (14%)	0 (0%)	3 (1%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	73 (42%)	19 (11%)	2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	55 (32%)	19 (11%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (2%)	171 (100%)
	第4期	66 (44%)	63 (42%)	17 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	42 (29%)	17 (12%)	1 (1%)	1 (1%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	58 (46%)	42 (33%)	21 (17%)	0 (0%)	3 (2%)	2 (2%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	29 (40%)	34 (47%)	8 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	23 (38%)	29 (48%)	7 (11%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	41 (41%)	43 (43%)	12 (12%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	29 (32%)	44 (48%)	15 (16%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	31 (39%)	33 (41%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	29 (43%)	24 (35%)	12 (18%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	128 (65%)	43 (22%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	105 (63%)	44 (26%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	153 (65%)	56 (24%)	15 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	98 (51%)	55 (28%)	21 (11%)	2 (1%)	0 (0%)	17 (9%)	193 (100%)
	第5期	84 (47%)	58 (33%)	24 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	71 (43%)	56 (34%)	19 (11%)	3 (2%)	0 (0%)	18 (11%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	35 (42%)	33 (40%)	11 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	27 (43%)	22 (35%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	63 (100%)
	第3期	39 (41%)	36 (38%)	16 (17%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	94 (100%)
	第4期	29 (34%)	30 (35%)	20 (24%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	33 (47%)	23 (33%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	30 (42%)	25 (35%)	11 (15%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2－3－52 働く上で重視すること（仕事の内容）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	81 (78%)	17 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	104 (100%)
	第2期	49 (63%)	24 (31%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	22 (28%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	48 (64%)	16 (21%)	6 (8%)	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	47 (68%)	18 (26%)	2 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	43 (75%)	10 (18%)	2 (4%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	75 (45%)	63 (38%)	22 (13%)	3 (2%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	41 (36%)	53 (47%)	16 (14%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	75 (47%)	64 (40%)	16 (10%)	3 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	53 (37%)	22 (15%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	61 (51%)	42 (35%)	13 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (3%)	120 (100%)
	第6期	57 (53%)	32 (30%)	14 (13%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	114 (53%)	58 (27%)	36 (17%)	1 (0%)	4 (2%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	74 (43%)	62 (36%)	31 (18%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	89 (52%)	51 (30%)	22 (13%)	2 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	76 (51%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	0 (0%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	81 (56%)	44 (31%)	13 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	58 (46%)	45 (36%)	18 (14%)	0 (0%)	2 (2%)	3 (2%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	30 (41%)	34 (47%)	6 (8%)	2 (3%)	1 (1%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	25 (41%)	27 (44%)	8 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	43 (43%)	42 (42%)	13 (13%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)	101 (100%)
	第4期	27 (29%)	55 (60%)	7 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	92 (100%)
	第5期	28 (35%)	36 (45%)	12 (15%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	25 (37%)	28 (41%)	10 (15%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	137 (69%)	34 (17%)	14 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (7%)	198 (100%)
	第2期	100 (60%)	51 (30%)	13 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	143 (60%)	64 (27%)	15 (6%)	2 (1%)	0 (0%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	129 (67%)	36 (19%)	13 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	15 (8%)	193 (100%)
	第5期	100 (56%)	48 (27%)	15 (8%)	2 (1%)	1 (1%)	11 (6%)	177 (100%)
	第6期	85 (51%)	56 (34%)	6 (4%)	2 (1%)	0 (0%)	18 (11%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	39 (47%)	33 (40%)	10 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	20 (32%)	11 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	48 (51%)	25 (27%)	17 (18%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	45 (53%)	25 (29%)	12 (14%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	37 (53%)	23 (33%)	9 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	35 (49%)	23 (32%)	9 (13%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2-3-53 働く上で重視すること（職場の環境整備）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	50 (48%)	42 (40%)	8 (8%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	36 (46%)	25 (32%)	9 (12%)	1 (1%)	2 (3%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	37 (46%)	29 (36%)	10 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	23 (31%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	40 (58%)	21 (30%)	7 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	33 (58%)	18 (32%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	64 (39%)	56 (34%)	37 (22%)	6 (4%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	47 (42%)	43 (38%)	20 (18%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	73 (46%)	64 (40%)	17 (11%)	2 (1%)	2 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	69 (48%)	51 (35%)	22 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	54 (45%)	43 (36%)	18 (15%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	49 (45%)	41 (38%)	14 (13%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	124 (57%)	57 (26%)	23 (11%)	6 (3%)	1 (0%)	5 (2%)	216 (100%)
	第2期	97 (56%)	57 (33%)	12 (7%)	2 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	96 (56%)	51 (30%)	15 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	4 (2%)	171 (100%)
	第4期	87 (58%)	49 (33%)	9 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	150 (100%)
	第5期	78 (54%)	45 (31%)	16 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	70 (56%)	38 (30%)	13 (10%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (2%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	22 (30%)	33 (45%)	14 (19%)	3 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	17 (28%)	27 (44%)	12 (20%)	2 (3%)	1 (2%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	17 (17%)	63 (62%)	14 (14%)	5 (5%)	1 (1%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	22 (24%)	52 (57%)	16 (17%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	19 (24%)	41 (51%)	15 (19%)	2 (3%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	18 (26%)	31 (46%)	15 (22%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	143 (72%)	32 (16%)	11 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	107 (64%)	41 (24%)	15 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (3%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	54 (23%)	17 (7%)	1 (0%)	0 (0%)	14 (6%)	237 (100%)
	第4期	125 (65%)	38 (20%)	10 (5%)	3 (2%)	0 (0%)	17 (9%)	193 (100%)
	第5期	93 (53%)	48 (27%)	16 (9%)	4 (2%)	1 (1%)	15 (8%)	177 (100%)
	第6期	86 (51%)	48 (29%)	14 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	19 (11%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	38 (46%)	34 (41%)	9 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	30 (48%)	22 (35%)	8 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	37 (39%)	40 (43%)	14 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	40 (47%)	33 (39%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	26 (37%)	30 (43%)	12 (17%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	27 (38%)	30 (42%)	10 (14%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2-3-54 働く上で重視すること（勤務時間や休日）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	51 (49%)	35 (34%)	11 (11%)	3 (3%)	2 (2%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	37 (47%)	22 (28%)	14 (18%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (4%)	78 (100%)
	第3期	39 (49%)	29 (36%)	7 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (5%)	80 (100%)
	第4期	41 (55%)	21 (28%)	9 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	42 (61%)	13 (19%)	10 (14%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
	第6期	38 (67%)	11 (19%)	5 (9%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	78 (47%)	49 (30%)	30 (18%)	3 (2%)	0 (0%)	5 (3%)	165 (100%)
	第2期	48 (42%)	41 (36%)	18 (16%)	4 (4%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	74 (47%)	59 (37%)	23 (14%)	2 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	159 (100%)
	第4期	72 (50%)	45 (31%)	22 (15%)	3 (2%)	1 (1%)	2 (1%)	145 (100%)
	第5期	68 (57%)	34 (28%)	14 (12%)	1 (1%)	2 (2%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	66 (61%)	29 (27%)	7 (6%)	3 (3%)	0 (0%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	113 (52%)	69 (32%)	22 (10%)	6 (3%)	3 (1%)	3 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	20 (11%)	4 (2%)	3 (2%)	4 (2%)	174 (100%)
	第3期	85 (50%)	61 (36%)	16 (9%)	2 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	75 (50%)	57 (38%)	11 (7%)	2 (1%)	1 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	75 (52%)	47 (33%)	14 (10%)	1 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	60 (48%)	50 (40%)	11 (9%)	0 (0%)	2 (2%)	3 (2%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	38 (52%)	25 (34%)	9 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	28 (46%)	20 (33%)	11 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	49 (49%)	36 (36%)	10 (10%)	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	27 (29%)	18 (20%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	27 (34%)	10 (13%)	5 (6%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	35 (51%)	22 (32%)	7 (10%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	130 (66%)	37 (19%)	16 (8%)	2 (1%)	1 (1%)	12 (6%)	198 (100%)
	第2期	110 (65%)	41 (24%)	12 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (2%)	168 (100%)
	第3期	151 (64%)	60 (25%)	12 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	12 (5%)	237 (100%)
	第4期	131 (68%)	37 (19%)	8 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	16 (8%)	193 (100%)
	第5期	110 (62%)	45 (25%)	10 (6%)	1 (1%)	1 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	101 (60%)	39 (23%)	7 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	19 (11%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	52 (63%)	19 (23%)	10 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	42 (67%)	12 (19%)	6 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (5%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	26 (28%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	55 (65%)	18 (21%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	41 (59%)	23 (33%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	52 (73%)	11 (15%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2－3－55 働く上で重視すること（仕事仲間との人間関係）（単位：人）

		重要	どちらかとい えば重要	どちらとも いえない	どちらかといえ ば重要でない	重要でない	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	67 (64%)	23 (22%)	8 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	48 (62%)	18 (23%)	6 (8%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (6%)	78 (100%)
	第3期	52 (65%)	17 (21%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)	5 (6%)	80 (100%)
	第4期	45 (60%)	18 (24%)	7 (9%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (5%)	75 (100%)
	第5期	43 (62%)	17 (25%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	69 (100%)
	第6期	31 (54%)	16 (28%)	6 (11%)	1 (2%)	1 (2%)	2 (4%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	71 (43%)	63 (38%)	19 (12%)	7 (4%)	1 (1%)	4 (2%)	165 (100%)
	第2期	54 (48%)	44 (39%)	10 (9%)	3 (3%)	0 (0%)	2 (2%)	113 (100%)
	第3期	63 (40%)	69 (43%)	20 (13%)	4 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	65 (45%)	52 (36%)	23 (16%)	4 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	62 (52%)	31 (26%)	24 (20%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	120 (100%)
	第6期	55 (51%)	35 (32%)	12 (11%)	2 (2%)	1 (1%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	128 (59%)	58 (27%)	21 (10%)	0 (0%)	5 (2%)	4 (2%)	216 (100%)
	第2期	102 (59%)	44 (25%)	23 (13%)	2 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	92 (54%)	54 (32%)	15 (9%)	2 (1%)	3 (2%)	5 (3%)	171 (100%)
	第4期	84 (56%)	42 (28%)	15 (10%)	2 (1%)	3 (2%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	80 (56%)	36 (25%)	20 (14%)	3 (2%)	1 (1%)	4 (3%)	144 (100%)
	第6期	64 (51%)	40 (32%)	16 (13%)	2 (2%)	0 (0%)	4 (3%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	37 (51%)	27 (37%)	8 (11%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	73 (100%)
	第2期	35 (57%)	21 (34%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	44 (44%)	44 (44%)	12 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	44 (48%)	34 (37%)	13 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	92 (100%)
	第5期	32 (40%)	32 (40%)	13 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	38 (56%)	19 (28%)	7 (10%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	145 (73%)	28 (14%)	10 (5%)	2 (1%)	0 (0%)	13 (7%)	198 (100%)
	第2期	112 (67%)	37 (22%)	13 (8%)	1 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	168 (100%)
	第3期	156 (66%)	41 (17%)	21 (9%)	4 (2%)	2 (1%)	13 (5%)	237 (100%)
	第4期	133 (69%)	36 (19%)	6 (3%)	3 (2%)	2 (1%)	13 (7%)	193 (100%)
	第5期	100 (56%)	51 (29%)	13 (7%)	1 (1%)	1 (1%)	11 (6%)	177 (100%)
	第6期	97 (58%)	46 (28%)	7 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (10%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	54 (65%)	24 (29%)	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	35 (56%)	23 (37%)	2 (3%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第3期	56 (60%)	30 (32%)	4 (4%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	59 (69%)	14 (16%)	8 (9%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	85 (100%)
	第5期	47 (67%)	17 (24%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	70 (100%)
	第6期	45 (63%)	19 (27%)	4 (6%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	71 (100%)

29 職場への要望

調査回答者の仕事をする上で職場や職場の人に特に望むことを図表2－3－56に示す。回答時に就労していない者へは、自身の経験から回答を求めた。

図表2－3－56 職場への要望（複数回答）（単位：人）※次ページへ続く

	自分の障害の ことを理解 してほしい	職場に障害者の仲間を多く してほしい、会社が更に積極的に 障害者雇用を進めてほしい	ずっと働き続ける ことができるように してほしい	給与面を 改善してほしい	体力や障害に合わせた 労働時間や休日の 設定をしてほしい	能力に応じた 評価や昇進・ 昇格をしてほしい
視 覚 障 害	第1期	57 (55%)	6 (6%)	44 (42%)	39 (38%)	19 (18%)
	第2期	41 (53%)	3 (4%)	27 (35%)	30 (38%)	8 (10%)
	第3期	41 (51%)	4 (5%)	28 (35%)	23 (29%)	12 (15%)
	第4期	39 (52%)	4 (5%)	26 (35%)	29 (39%)	15 (20%)
	第5期	39 (57%)	14 (20%)	22 (32%)	24 (35%)	7 (10%)
	第6期	35 (61%)	10 (18%)	13 (23%)	18 (32%)	12 (21%)
聴 覚 障 害	第1期	102 (62%)	38 (23%)	57 (35%)	61 (37%)	16 (10%)
	第2期	65 (58%)	34 (30%)	38 (34%)	44 (39%)	15 (13%)
	第3期	89 (56%)	37 (23%)	47 (30%)	56 (35%)	19 (12%)
	第4期	91 (63%)	37 (26%)	41 (28%)	60 (41%)	19 (13%)
	第5期	68 (57%)	42 (35%)	38 (32%)	44 (37%)	19 (16%)
	第6期	61 (56%)	43 (40%)	27 (25%)	41 (38%)	19 (18%)
肢 体 不 自 由	第1期	87 (40%)	14 (6%)	82 (38%)	82 (38%)	37 (17%)
	第2期	73 (42%)	12 (7%)	66 (38%)	58 (33%)	52 (30%)
	第3期	64 (37%)	13 (8%)	61 (36%)	63 (37%)	43 (25%)
	第4期	56 (37%)	13 (9%)	50 (33%)	59 (39%)	35 (23%)
	第5期	56 (39%)	21 (15%)	52 (36%)	52 (36%)	39 (27%)
	第6期	49 (39%)	24 (19%)	49 (39%)	35 (28%)	32 (25%)
内 部 障 害	第1期	20 (27%)	4 (5%)	27 (37%)	28 (38%)	24 (33%)
	第2期	28 (46%)	4 (7%)	19 (31%)	20 (33%)	15 (25%)
	第3期	41 (41%)	0 (0%)	29 (29%)	33 (33%)	29 (29%)
	第4期	43 (47%)	7 (8%)	22 (24%)	31 (34%)	25 (27%)
	第5期	28 (35%)	5 (6%)	20 (25%)	21 (26%)	22 (28%)
	第6期	23 (34%)	9 (13%)	17 (25%)	17 (25%)	21 (31%)
知 的 障 害	第1期	87 (44%)	40 (20%)	139 (70%)	72 (36%)	22 (11%)
	第2期	73 (43%)	28 (17%)	125 (74%)	64 (38%)	29 (17%)
	第3期	91 (38%)	36 (15%)	151 (64%)	85 (36%)	29 (12%)
	第4期	87 (45%)	22 (11%)	123 (64%)	78 (40%)	28 (15%)
	第5期	89 (50%)	43 (24%)	106 (60%)	73 (41%)	40 (23%)
	第6期	93 (56%)	46 (28%)	106 (63%)	65 (39%)	36 (22%)
精 神 障 害	第1期	52 (63%)	7 (8%)	49 (59%)	36 (43%)	23 (28%)
	第2期	37 (59%)	4 (6%)	30 (48%)	27 (43%)	15 (24%)
	第3期	49 (52%)	6 (6%)	53 (56%)	39 (41%)	23 (24%)
	第4期	42 (49%)	7 (8%)	44 (52%)	35 (41%)	23 (27%)
	第5期	42 (60%)	11 (16%)	35 (50%)	30 (43%)	26 (37%)
	第6期	36 (51%)	8 (11%)	35 (49%)	30 (42%)	21 (30%)

図表 2－3－56 職場への要望（複数回答）（単位：人） ※前ページからの続き

	研修や 教育訓練を 充実してほしい	社内の 健康管理体制を 充実してほしい	職場の中で困った ことの相談ができる ようにしてほしい	その他	特にない	人数
視 覚 障 害	第1期	25 (24%)	13 (13%)	25 (24%)	—	104
	第2期	21 (27%)	5 (6%)	17 (22%)	—	78
	第3期	19 (24%)	9 (11%)	14 (18%)	—	80
	第4期	12 (16%)	8 (11%)	13 (17%)	0 (0%)	75
	第5期	18 (26%)	5 (7%)	16 (23%)	7 (10%)	69
	第6期	15 (26%)	6 (11%)	11 (19%)	10 (18%)	57
聴 覚 障 害	第1期	48 (29%)	25 (15%)	52 (32%)	—	165
	第2期	30 (27%)	17 (15%)	38 (34%)	—	113
	第3期	43 (27%)	22 (14%)	46 (29%)	—	159
	第4期	38 (26%)	24 (17%)	40 (28%)	0 (0%)	145
	第5期	32 (27%)	13 (11%)	36 (30%)	10 (8%)	120
	第6期	30 (28%)	14 (13%)	33 (31%)	6 (6%)	108
肢 体 不 自 由	第1期	45 (21%)	31 (14%)	55 (25%)	—	216
	第2期	20 (11%)	28 (16%)	39 (22%)	—	174
	第3期	22 (13%)	13 (8%)	37 (22%)	—	171
	第4期	24 (16%)	27 (18%)	42 (28%)	0 (0%)	150
	第5期	18 (13%)	24 (17%)	34 (24%)	25 (17%)	144
	第6期	15 (12%)	18 (14%)	25 (20%)	18 (14%)	126
内 部 障 害	第1期	15 (21%)	7 (10%)	10 (14%)	—	73
	第2期	11 (18%)	10 (16%)	9 (15%)	—	61
	第3期	12 (12%)	11 (11%)	15 (15%)	—	101
	第4期	13 (14%)	12 (13%)	17 (18%)	0 (0%)	92
	第5期	6 (8%)	9 (11%)	13 (16%)	14 (18%)	80
	第6期	7 (10%)	7 (10%)	9 (13%)	10 (15%)	68
知 的 障 害	第1期	20 (10%)	27 (14%)	83 (42%)	—	198
	第2期	17 (10%)	26 (15%)	73 (43%)	—	168
	第3期	16 (7%)	28 (12%)	91 (38%)	—	237
	第4期	11 (6%)	24 (12%)	66 (34%)	0 (0%)	193
	第5期	19 (11%)	25 (14%)	61 (34%)	23 (13%)	177
	第6期	12 (7%)	28 (17%)	60 (36%)	13 (8%)	167
精 神 障 害	第1期	24 (29%)	13 (16%)	37 (45%)	—	83
	第2期	13 (21%)	12 (19%)	21 (33%)	—	63
	第3期	10 (11%)	14 (15%)	30 (32%)	—	94
	第4期	8 (9%)	15 (18%)	38 (45%)	0 (0%)	85
	第5期	13 (19%)	14 (20%)	34 (49%)	3 (4%)	70
	第6期	11 (15%)	12 (17%)	25 (35%)	2 (3%)	71

※「特にない」は第4期から選択肢に加えた。

30 雇用分野における差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

調査研究委員会の議論を踏まえて、第5期以降は、2016年4月に施行された雇用分野における障害者に対する差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況について新たに質問項目を追加した。

すべての対象者に対して、これらの指針の内容の把握状況を確認し、第5期及び第6期の調査回答者において就労者、就労していない者、就労中かどうか不明の者に区分して集計した結果を図表2－3－57、第5期及び第6期ともに回答した者の結果を図表2－3－58に示す。

指針の内容を把握している者は、回答者全体では、第5期、第6期ともに28%と変化していない。就労者では、第5期は29%、第6期は30%であった。就労していない者では、第5期は22%、第6期は17%であった。指針について知らない者は、回答者全体、就労者、就労していない者に共通して2ポイントから14ポイント減少していた。第5期及び第6期ともに回答した者の結果を比較すると、第5期から2年間経過して、指針の内容を把握している者は27%から28%へ微増、指針について知らない者は43%から38%へ減少していた。

図表 2-3-57 雇用分野における障害者の差別禁止・合理的配慮の指針の把握状況（単位：人）

		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	23 (33%)	29 (42%)	16 (23%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	20 (35%)	23 (40%)	13 (23%)	1 (2%)	57 (100%)
聴覚障害	第5期	61 (51%)	34 (28%)	22 (18%)	3 (3%)	120 (100%)
	第6期	58 (54%)	33 (31%)	12 (11%)	5 (5%)	108 (100%)
肢体不自由	第5期	41 (28%)	40 (28%)	58 (40%)	5 (3%)	144 (100%)
	第6期	38 (30%)	32 (25%)	49 (39%)	7 (6%)	126 (100%)
内部障害	第5期	24 (30%)	22 (28%)	31 (39%)	3 (4%)	80 (100%)
	第6期	21 (31%)	27 (40%)	19 (28%)	1 (1%)	68 (100%)
知的障害	第5期	26 (15%)	27 (15%)	112 (63%)	12 (7%)	177 (100%)
	第6期	22 (13%)	35 (21%)	95 (57%)	15 (9%)	167 (100%)
精神障害	第5期	10 (14%)	19 (27%)	39 (56%)	2 (3%)	70 (100%)
	第6期	9 (13%)	21 (30%)	38 (54%)	3 (4%)	71 (100%)
計	第5期	185 (28%)	171 (26%)	278 (42%)	26 (4%)	660 (100%)
	第6期	168 (28%)	171 (29%)	226 (38%)	32 (5%)	597 (100%)

うち就労者の結果

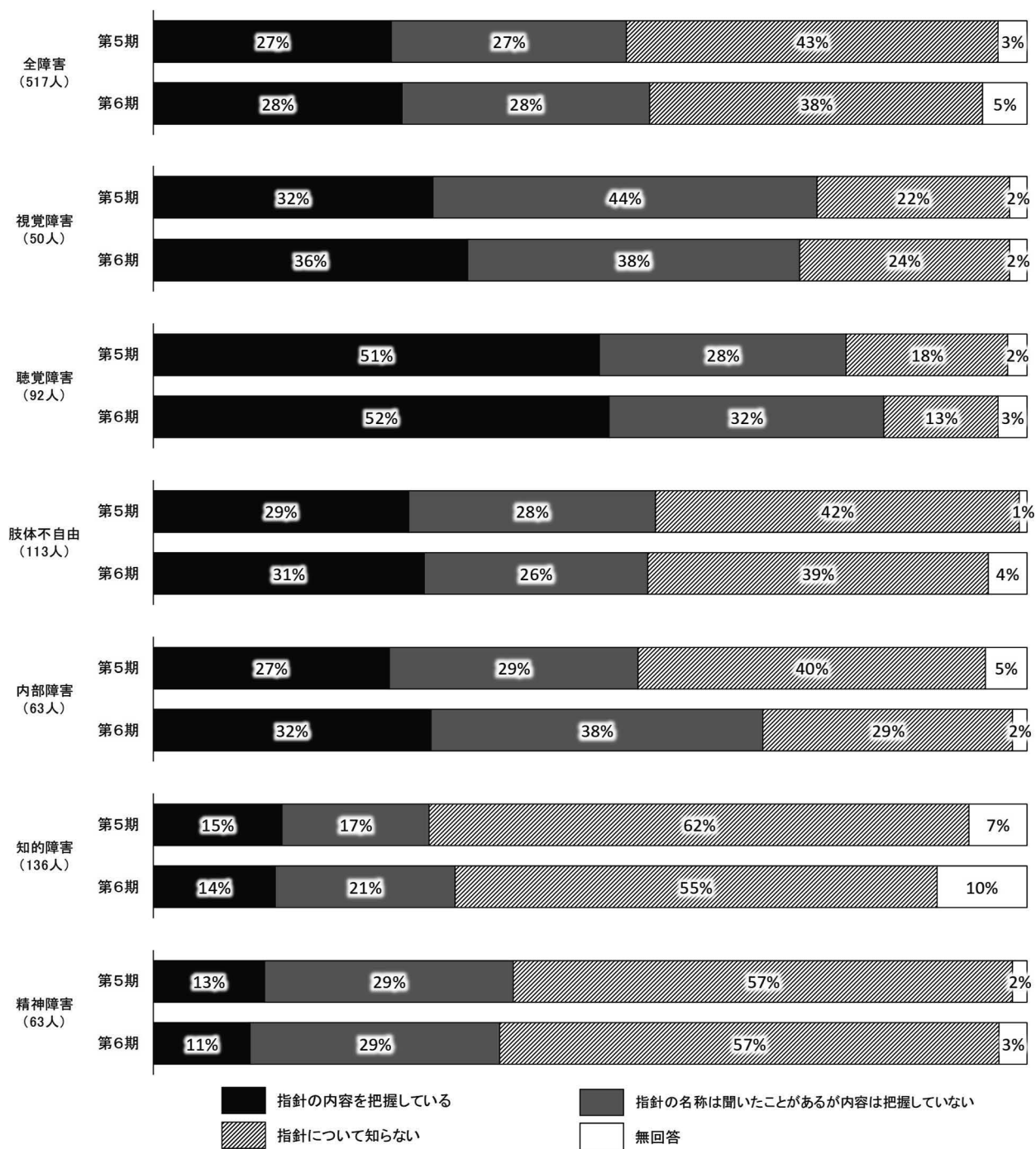
		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	21 (33%)	28 (44%)	14 (22%)	1 (2%)	64 (100%)
	第6期	18 (35%)	19 (37%)	13 (25%)	1 (2%)	51 (100%)
聴覚障害	第5期	55 (51%)	32 (30%)	19 (18%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	54 (52%)	33 (32%)	12 (12%)	5 (5%)	104 (100%)
肢体不自由	第5期	33 (30%)	31 (28%)	45 (41%)	1 (1%)	110 (100%)
	第6期	31 (32%)	23 (23%)	40 (41%)	4 (4%)	98 (100%)
内部障害	第5期	22 (33%)	22 (33%)	22 (33%)	1 (1%)	67 (100%)
	第6期	20 (34%)	25 (43%)	13 (22%)	0 (0%)	58 (100%)
知的障害	第5期	22 (14%)	25 (16%)	99 (64%)	9 (6%)	155 (100%)
	第6期	21 (15%)	28 (19%)	84 (58%)	11 (8%)	144 (100%)
精神障害	第5期	8 (15%)	18 (35%)	25 (48%)	1 (2%)	52 (100%)
	第6期	9 (17%)	14 (26%)	29 (55%)	1 (2%)	53 (100%)
計	第5期	161 (29%)	156 (28%)	224 (40%)	15 (3%)	556 (100%)
	第6期	153 (30%)	142 (28%)	191 (38%)	22 (4%)	508 (100%)

うち就労していない者の結果

		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	2 (40%)	1 (20%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
	第6期	2 (33%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (100%)
聴覚障害	第5期	5 (45%)	2 (18%)	3 (27%)	1 (9%)	11 (100%)
	第6期	4 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
肢体不自由	第5期	7 (22%)	9 (28%)	13 (41%)	3 (9%)	32 (100%)
	第6期	7 (25%)	9 (32%)	9 (32%)	3 (11%)	28 (100%)
内部障害	第5期	2 (17%)	0 (0%)	8 (67%)	2 (17%)	12 (100%)
	第6期	1 (10%)	2 (20%)	6 (60%)	1 (10%)	10 (100%)
知的障害	第5期	4 (19%)	2 (10%)	12 (57%)	3 (14%)	21 (100%)
	第6期	1 (4%)	7 (30%)	11 (48%)	4 (17%)	23 (100%)
精神障害	第5期	2 (12%)	1 (6%)	14 (82%)	0 (0%)	17 (100%)
	第6期	0 (0%)	7 (39%)	9 (50%)	2 (11%)	18 (100%)
計	第5期	22 (22%)	15 (15%)	52 (53%)	9 (9%)	98 (100%)
	第6期	15 (17%)	29 (33%)	35 (39%)	10 (11%)	89 (100%)

うち就労中かどうか不明の者の結果

		指針の内容を 把握している	指針の名称は聞いたことが あるが内容は把握していない	指針について 知らない	無回答	計
視覚障害	第5期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
聴覚障害	第5期	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
肢体不自由	第5期	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	2 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
内部障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
知的障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
精神障害	第5期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	1 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
計	第5期	2 (33%)	0 (0%)	2 (33%)	2 (33%)	6 (100%)
	第6期	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -



図表 2-3-58 第5期及び第6期とも回答した者の差別禁止・合理的配慮指針の把握状況

第4節 調査回答者の生活状況

1 家族構成の状況

第6期の調査回答者の同居の有無を問わない家族構成について図表2-4-1に示す。

図表2-4-1 家族構成の状況（単位：人）

	配偶者	子ども	自分の父親	自分の母親	兄弟姉妹	その他	無回答	人数
視覚障害	29 (51%)	24 (42%)	26 (46%)	36 (63%)	33 (58%)	13 (23%)	2 (4%)	57
聴覚障害	60 (56%)	49 (45%)	36 (33%)	52 (48%)	33 (31%)	17 (16%)	5 (5%)	108
肢体不自由	45 (36%)	31 (25%)	53 (42%)	76 (60%)	55 (44%)	19 (15%)	4 (3%)	126
内部障害	29 (43%)	22 (32%)	17 (25%)	39 (57%)	23 (34%)	10 (15%)	3 (4%)	68
知的障害	5 (3%)	1 (1%)	98 (59%)	132 (79%)	105 (63%)	24 (14%)	8 (5%)	167
精神障害	11 (15%)	8 (11%)	38 (54%)	44 (62%)	47 (66%)	8 (11%)	3 (4%)	71
計	179 (30%)	135 (23%)	268 (45%)	379 (63%)	296 (50%)	91 (15%)	25 (4%)	597

2 現在の住まい

第6期の調査回答者の現在の住まいについて図表2-4-2に示す。

図表2-4-2 現在の住まい（単位：人）

	自分もしくは 配偶者の、持ち家 や賃貸住宅	家族の、持ち家 や賃貸住宅	会社の社員寮や 会社が従業員の ために用意 してくれる住宅	福祉施設や地域の団体 などが運営する援護寮、 福祉ホームやグループ ホームなどの施設	その他	無回答	計
視覚障害	45 (79%)	9 (16%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	57 (100%)
聴覚障害	75 (69%)	25 (23%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (6%)	108 (100%)
肢体不自由	66 (52%)	45 (36%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	10 (8%)	126 (100%)
内部障害	48 (71%)	14 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	3 (4%)	68 (100%)
知的障害	18 (11%)	102 (61%)	2 (1%)	28 (17%)	3 (2%)	14 (8%)	167 (100%)
精神障害	31 (44%)	32 (45%)	0 (0%)	2 (3%)	1 (1%)	5 (7%)	71 (100%)
計	283 (47%)	227 (38%)	7 (1%)	31 (5%)	8 (1%)	41 (7%)	597 (100%)

3 同居者の有無

調査回答者のうち現在の住まいについて「自分や配偶者の持ち家・賃貸」「家族の持ち家・賃貸」「社員寮や会社が用意する住宅」のいずれかに回答した者の、同居者の有無について図表2-4-3に示す。

図表2-4-3 同居者の有無（単位：人）

		一人暮らしである	一人暮らしではない	無回答	計
視覚障害	第1期	27 (27%)	71 (70%)	3 (3%)	101 (100%)
	第2期	15 (21%)	53 (74%)	4 (6%)	72 (100%)
	第3期	11 (33%)	22 (67%)	0 (0%)	33 (100%)
	第4期	17 (25%)	50 (74%)	1 (1%)	68 (100%)
	第5期	18 (26%)	50 (74%)	0 (0%)	68 (100%)
	第6期	13 (24%)	40 (73%)	2 (4%)	55 (100%)
聴覚障害	第1期	28 (17%)	134 (82%)	2 (1%)	164 (100%)
	第2期	21 (19%)	86 (79%)	2 (2%)	109 (100%)
	第3期	5 (10%)	45 (88%)	1 (2%)	51 (100%)
	第4期	17 (13%)	112 (86%)	1 (1%)	130 (100%)
	第5期	13 (12%)	93 (86%)	2 (2%)	108 (100%)
	第6期	18 (18%)	80 (79%)	3 (3%)	101 (100%)
肢体不自由	第1期	26 (13%)	175 (85%)	5 (2%)	206 (100%)
	第2期	17 (11%)	138 (87%)	3 (2%)	158 (100%)
	第3期	7 (11%)	58 (89%)	0 (0%)	65 (100%)
	第4期	22 (16%)	118 (84%)	0 (0%)	140 (100%)
	第5期	16 (12%)	118 (87%)	1 (1%)	135 (100%)
	第6期	15 (13%)	97 (85%)	2 (2%)	114 (100%)
内部障害	第1期	14 (19%)	58 (79%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	11 (19%)	47 (80%)	1 (2%)	59 (100%)
	第3期	5 (24%)	16 (76%)	0 (0%)	21 (100%)
	第4期	18 (20%)	71 (79%)	1 (1%)	90 (100%)
	第5期	13 (18%)	57 (77%)	4 (5%)	74 (100%)
	第6期	12 (19%)	50 (81%)	0 (0%)	62 (100%)
知的障害	第1期	4 (2%)	154 (80%)	35 (18%)	193 (100%)
	第2期	4 (2%)	130 (80%)	28 (17%)	162 (100%)
	第3期	2 (2%)	81 (94%)	3 (3%)	86 (100%)
	第4期	11 (8%)	126 (91%)	1 (1%)	138 (100%)
	第5期	10 (8%)	113 (90%)	2 (2%)	125 (100%)
	第6期	7 (6%)	110 (90%)	5 (4%)	122 (100%)
精神障害	第1期	17 (21%)	59 (73%)	5 (6%)	81 (100%)
	第2期	9 (15%)	49 (82%)	2 (3%)	60 (100%)
	第3期	4 (14%)	24 (86%)	0 (0%)	28 (100%)
	第4期	18 (25%)	53 (75%)	0 (0%)	71 (100%)
	第5期	19 (31%)	42 (69%)	0 (0%)	61 (100%)
	第6期	17 (27%)	44 (70%)	2 (3%)	63 (100%)
計	第1期	116 (14%)	651 (80%)	51 (6%)	818 (100%)
	第2期	77 (12%)	503 (81%)	40 (6%)	620 (100%)
	第3期	34 (12%)	246 (87%)	4 (1%)	284 (100%)
	第4期	103 (16%)	530 (83%)	4 (1%)	637 (100%)
	第5期	89 (16%)	473 (83%)	9 (2%)	571 (100%)
	第6期	82 (16%)	421 (81%)	14 (3%)	517 (100%)

4 最近2年間の生活上の出来事

調査回答者のひとつ前の調査期に実施した調査以降の2年間に本人や家族に起きた出来事について、第2期から第6期までの各回の回答を集計した結果を図表2-4-4に示す。

図表2-4-4 最近2年間の生活上の出来事（複数回答）（単位：人）

		自分が 結婚をした	自分が 離婚をした	自分の子どもが 生まれた	自分が 引越をした	自分が親元 から離れて 暮らし始めた	自分が病気や 事故で1ヶ月以上 の入院をした	自分が学校や能力 開発校に通った または卒業した	自分の障害に 関する年金を 受給しはじめた
視覚障害	第2期	4 (5%)	2 (3%)	2 (3%)	9 (12%)	4 (5%)	4 (5%)	2 (3%)	0 (0%)
	第3期	2 (3%)	1 (1%)	3 (4%)	8 (10%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)
	第4期	3 (4%)	0 (0%)	5 (7%)	7 (9%)	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	0 (0%)	4 (6%)	0 (0%)	1 (1%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	0 (0%)	1 (2%)	4 (7%)	0 (0%)
聴覚障害	第2期	9 (8%)	0 (0%)	2 (2%)	17 (15%)	5 (4%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)
	第3期	10 (6%)	4 (3%)	7 (4%)	15 (9%)	2 (1%)	4 (3%)	1 (1%)	2 (1%)
	第4期	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	16 (11%)	4 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	0 (0%)
	第5期	3 (3%)	1 (1%)	9 (8%)	9 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)
	第6期	3 (3%)	1 (1%)	4 (4%)	6 (6%)	0 (0%)	2 (2%)	1 (1%)	1 (1%)
肢体不自由	第2期	6 (3%)	1 (1%)	3 (2%)	12 (7%)	3 (2%)	16 (9%)	2 (1%)	7 (4%)
	第3期	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	11 (6%)	3 (2%)	14 (8%)	2 (1%)	3 (2%)
	第4期	0 (0%)	3 (2%)	0 (0%)	9 (6%)	1 (1%)	11 (7%)	1 (1%)	3 (2%)
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	0 (0%)	8 (6%)	3 (2%)	3 (2%)
	第6期	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	5 (4%)	1 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	2 (2%)
内部障害	第2期	2 (3%)	0 (0%)	3 (5%)	4 (7%)	0 (0%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)
	第3期	1 (1%)	2 (2%)	2 (2%)	6 (6%)	1 (1%)	7 (7%)	2 (2%)	4 (4%)
	第4期	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (8%)	2 (2%)	11 (12%)	1 (1%)	2 (2%)
	第5期	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	5 (6%)	1 (1%)	3 (4%)	0 (0%)	3 (4%)
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	5 (7%)	0 (0%)	6 (9%)	1 (1%)	0 (0%)
知的障害	第2期	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	10 (6%)	4 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	14 (8%)
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (3%)	5 (2%)	3 (1%)	5 (2%)	14 (6%)
	第4期	2 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (2%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	7 (4%)
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (4%)	6 (3%)	4 (2%)	1 (1%)	6 (3%)
	第6期	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (2%)	4 (2%)	0 (0%)	2 (1%)
精神障害	第2期	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	1 (2%)	2 (3%)
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (13%)	3 (3%)	2 (2%)	4 (4%)	8 (9%)
	第4期	4 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (6%)	3 (4%)	5 (6%)	2 (2%)	2 (2%)
	第5期	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	3 (4%)	2 (3%)
	第6期	0 (0%)	3 (4%)	0 (0%)	5 (7%)	0 (0%)	3 (4%)	2 (3%)	1 (1%)

		自分の障害に 関する年金の 受給がなくなった	自分の親が 離婚をした	自分の親が 仕事を辞めた	家族が、病気や 事故で1ヶ月以上 の入院をした	家族の介護が 必要になった	家族が、 亡くなった	該当する 項目なし	無回答	人数
視覚障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	7 (9%)	—	5 (6%)	45 (58%)	2 (3%)	78
	第3期	1 (1%)	1 (1%)	4 (5%)	6 (8%)	—	5 (6%)	50 (63%)	4 (5%)	80
	第4期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	2 (3%)	—	3 (4%)	50 (67%)	2 (3%)	75
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	3 (4%)	4 (6%)	4 (6%)	44 (64%)	6 (9%)	69
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	4 (7%)	4 (7%)	4 (7%)	6 (11%)	36 (63%)	3 (5%)	57
聴覚障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	5 (4%)	—	8 (7%)	63 (56%)	10 (9%)	113
	第3期	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (7%)	—	10 (6%)	98 (62%)	13 (8%)	159
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	2 (1%)	10 (7%)	—	6 (4%)	91 (63%)	8 (6%)	145
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	10 (8%)	3 (3%)	3 (3%)	73 (61%)	9 (8%)	120
	第6期	1 (1%)	0 (0%)	4 (4%)	6 (6%)	7 (6%)	8 (7%)	67 (62%)	6 (6%)	108
肢体不自由	第2期	1 (1%)	0 (0%)	4 (2%)	10 (6%)	—	17 (10%)	97 (56%)	14 (8%)	174
	第3期	2 (1%)	0 (0%)	5 (3%)	17 (10%)	—	13 (8%)	98 (57%)	16 (9%)	171
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	3 (2%)	12 (8%)	—	8 (5%)	91 (61%)	15 (10%)	150
	第5期	1 (1%)	0 (0%)	6 (4%)	14 (10%)	10 (7%)	14 (10%)	78 (54%)	14 (10%)	144
	第6期	1 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	8 (6%)	10 (8%)	12 (10%)	74 (59%)	16 (13%)	126
内部障害	第2期	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	5 (8%)	—	5 (8%)	35 (57%)	7 (11%)	61
	第3期	3 (3%)	0 (0%)	5 (5%)	12 (12%)	—	13 (13%)	52 (51%)	7 (7%)	101
	第4期	5 (5%)	0 (0%)	1 (1%)	4 (4%)	—	12 (13%)	50 (54%)	6 (7%)	92
	第5期	3 (4%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (5%)	2 (3%)	7 (9%)	39 (49%)	14 (18%)	80
	第6期	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	3 (4%)	7 (10%)	41 (60%)	5 (7%)	68
知的障害	第2期	1 (1%)	0 (0%)	7 (4%)	12 (7%)	—	9 (5%)	106 (63%)	13 (8%)	168
	第3期	0 (0%)	1 (0%)	8 (3%)	7 (3%)	—	12 (5%)	146 (62%)	38 (16%)	237
	第4期	1 (1%)	0 (0%)	6 (3%)	4 (2%)	—	16 (8%)	126 (65%)	26 (13%)	193
	第5期	0 (0%)	1 (1%)	9 (5%)	9 (5%)	8 (5%)	11 (6%)	115 (65%)	14 (8%)	177
	第6期	0 (0%)	1 (1%)	9 (5%)	13 (8%)	3 (2%)	9 (5%)	112 (67%)	15 (9%)	167
精神障害	第2期	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	4 (6%)	—	8 (13%)	41 (65%)	2 (3%)	63
	第3期	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)	7 (7%)	—	8 (9%)	48 (51%)	7 (7%)	94
	第4期	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	7 (8%)	—	8 (9%)	49 (58%)	7 (8%)	85
	第5期	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	11 (16%)	6 (9%)	8 (11%)	33 (47%)	11 (16%)	70
	第6期	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	8 (11%)	7 (10%)	6 (8%)	39 (55%)	5 (7%)	71

※第2期以降に行っている調査項目。選択肢「家族の介護が必要になった」は第5期で追加した調査項目。

5 通院頻度

偶数回のみ調査している第2期、第4期、第6期の調査回答者の自身の障害に関係する通院の頻度について図表2-4-5に示す。

第6期では知的障害において月1回以上の通院が増えている。内部障害では週1回以上が5割あり人工透析によるものとする。精神障害では7割以上の者が月1回以上の通院を継続している。

図表2-4-5 通院頻度（単位：人）

		週に1回以上 通院している	月に1回以上 通院している	年に数回 通院している	年に1回 通院している	通院 していない	無回答	計
視覚障害	第2期	2 (3%)	7 (9%)	23 (29%)	8 (10%)	35 (45%)	3 (4%)	78 (100%)
	第4期	1 (1%)	4 (5%)	18 (24%)	9 (12%)	38 (51%)	5 (7%)	75 (100%)
	第6期	0 (0%)	3 (5%)	15 (26%)	8 (14%)	28 (49%)	3 (5%)	57 (100%)
聴覚障害	第2期	5 (4%)	8 (7%)	15 (13%)	4 (4%)	78 (69%)	3 (3%)	113 (100%)
	第4期	3 (2%)	19 (13%)	19 (13%)	3 (2%)	94 (65%)	7 (5%)	145 (100%)
	第6期	1 (1%)	17 (16%)	8 (7%)	9 (8%)	69 (64%)	4 (4%)	108 (100%)
肢体不自由	第2期	12 (7%)	56 (32%)	40 (23%)	10 (6%)	53 (30%)	3 (2%)	174 (100%)
	第4期	11 (7%)	41 (27%)	43 (29%)	7 (5%)	45 (30%)	3 (2%)	150 (100%)
	第6期	8 (6%)	36 (29%)	35 (28%)	9 (7%)	37 (29%)	1 (1%)	126 (100%)
内部障害	第2期	38 (62%)	11 (18%)	6 (10%)	0 (0%)	5 (8%)	1 (2%)	61 (100%)
	第4期	52 (57%)	20 (22%)	14 (15%)	2 (2%)	4 (4%)	0 (0%)	92 (100%)
	第6期	34 (50%)	19 (28%)	10 (15%)	3 (4%)	2 (3%)	0 (0%)	68 (100%)
知的障害	第2期	2 (1%)	23 (14%)	22 (13%)	8 (5%)	100 (60%)	13 (8%)	168 (100%)
	第4期	6 (3%)	22 (11%)	26 (13%)	8 (4%)	111 (58%)	20 (10%)	193 (100%)
	第6期	6 (4%)	37 (22%)	18 (11%)	3 (2%)	91 (54%)	12 (7%)	167 (100%)
精神障害	第2期	6 (10%)	45 (71%)	10 (16%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	63 (100%)
	第4期	3 (4%)	61 (72%)	13 (15%)	0 (0%)	7 (8%)	1 (1%)	85 (100%)
	第6期	1 (1%)	52 (73%)	10 (14%)	1 (1%)	6 (8%)	1 (1%)	71 (100%)

6 福祉サービスの利用

第4期、第6期の調査回答者の働き続けるため、または現在の生活を維持するために利用する福祉サービスについて集計した。なお、第4期から項目立てを変更したため、第4期以降の結果について図表2-4-6に示す。

視覚障害、知的障害で福祉サービスの利用が増えてきている傾向がある。

図表2-4-6 福祉サービスの利用（複数回答）（単位：人）

		清掃や調理 など	外出や 移動の援助	金銭管理に 関する援助	その他	利用なし	無回答	人数
視覚障害	第4期	4 (5%)	15 (20%)	0 (0%)	2 (3%)	55 (73%)	5 (7%)	75
	第6期	8 (14%)	19 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	34 (60%)	4 (7%)	57
聴覚障害	第4期	3 (2%)	3 (2%)	2 (1%)	10 (7%)	118 (81%)	10 (7%)	145
	第6期	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	9 (8%)	92 (85%)	6 (6%)	108
肢体不自由	第4期	10 (7%)	7 (5%)	1 (1%)	9 (6%)	116 (77%)	11 (7%)	150
	第6期	12 (10%)	9 (7%)	0 (0%)	8 (6%)	96 (76%)	8 (6%)	126
内部障害	第4期	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	87 (95%)	3 (3%)	92
	第6期	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	67 (99%)	1 (1%)	68
知的障害	第4期	20 (10%)	25 (13%)	21 (11%)	6 (3%)	121 (63%)	26 (13%)	193
	第6期	22 (13%)	24 (14%)	17 (10%)	5 (3%)	96 (57%)	22 (13%)	167
精神障害	第4期	7 (8%)	1 (1%)	2 (2%)	6 (7%)	68 (80%)	3 (4%)	85
	第6期	5 (7%)	1 (1%)	4 (6%)	7 (10%)	55 (77%)	3 (4%)	71

7 地域での生活に関する相談先

第6期の調査回答者が地域での生活に関して困ったことが起きたときに相談する人や機関を集計した結果を図表2-4-7に示す。

図表2-4-7 地域での生活に関する相談先（複数回答）（単位：人）

	家族や 身近な人	職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・相談機関
視覚障害	47 (82%)	13 (23%)	1 (2%)	0 (0%)	4 (7%)
聴覚障害	83 (77%)	24 (22%)	5 (5%)	0 (0%)	14 (13%)
肢体不自由	98 (78%)	33 (26%)	5 (4%)	1 (1%)	13 (10%)
内部障害	60 (88%)	16 (24%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)
知的障害	122 (73%)	50 (30%)	42 (25%)	25 (15%)	29 (17%)
精神障害	49 (69%)	21 (30%)	24 (34%)	1 (1%)	9 (13%)
計	459 (77%)	157 (26%)	79 (13%)	27 (5%)	71 (12%)

	医療機関	行政機関	訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や 現在通っている 学校の先生	同じ障害の ある人の団体
視覚障害	2 (4%)	6 (11%)	2 (4%)	2 (4%)	16 (28%)
聴覚障害	3 (3%)	10 (9%)	1 (1%)	2 (2%)	43 (40%)
肢体不自由	10 (8%)	8 (6%)	7 (6%)	1 (1%)	9 (7%)
内部障害	18 (26%)	6 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	26 (38%)
知的障害	12 (7%)	7 (4%)	3 (2%)	5 (3%)	17 (10%)
精神障害	35 (49%)	11 (15%)	5 (7%)	0 (0%)	2 (3%)
計	80 (13%)	48 (8%)	18 (3%)	10 (2%)	113 (19%)

	その他	相談したり 利用した ことはない	無回答	人数
視覚障害	1 (2%)	12 (21%)	4 (7%)	57
聴覚障害	4 (4%)	10 (9%)	4 (4%)	108
肢体不自由	1 (1%)	22 (17%)	0 (0%)	126
内部障害	0 (0%)	7 (10%)	0 (0%)	68
知的障害	3 (2%)	8 (5%)	10 (6%)	167
精神障害	3 (4%)	10 (14%)	1 (1%)	71
計	12 (2%)	69 (12%)	19 (3%)	597

8 体調や健康に関する相談先

第6期の調査回答者が体調や健康に関して困ったことが起きたときに相談する人や機関を集計した結果を図表2-4-8に示す。

図表2-4-8 体調や健康に関する相談先（複数回答）（単位：人）

	家族や 身近な人	職場	就労支援機関	居住している 場所	福祉・相談機関
視覚障害	45 (79%)	16 (28%)	1 (2%)	0 (0%)	4 (7%)
聴覚障害	89 (82%)	25 (23%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)
肢体不自由	101 (80%)	40 (32%)	5 (4%)	1 (1%)	7 (6%)
内部障害	58 (85%)	19 (28%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)
知的障害	120 (72%)	54 (32%)	24 (14%)	28 (17%)	20 (12%)
精神障害	50 (70%)	28 (39%)	22 (31%)	2 (3%)	6 (8%)
計	463 (78%)	182 (30%)	52 (9%)	32 (5%)	39 (7%)

	医療機関	行政機関	訪問してくる 支援事業所	卒業した学校や 現在通っている 学校の先生	同じ障害の ある人の団体
視覚障害	21 (37%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	9 (16%)
聴覚障害	17 (16%)	2 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	14 (13%)
肢体不自由	52 (41%)	5 (4%)	5 (4%)	1 (1%)	8 (6%)
内部障害	49 (72%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (25%)
知的障害	24 (14%)	1 (1%)	3 (2%)	1 (1%)	5 (3%)
精神障害	44 (62%)	3 (4%)	4 (6%)	1 (1%)	0 (0%)
計	207 (35%)	13 (2%)	13 (2%)	4 (1%)	53 (9%)

	その他	相談したり 利用した ことはない	無回答	人数
視覚障害	1 (2%)	7 (12%)	5 (9%)	57
聴覚障害	2 (2%)	12 (11%)	4 (4%)	108
肢体不自由	1 (1%)	10 (8%)	1 (1%)	126
内部障害	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	68
知的障害	2 (1%)	4 (2%)	10 (6%)	167
精神障害	1 (1%)	4 (6%)	4 (6%)	71
計	7 (1%)	38 (6%)	24 (4%)	597

9 生活の満足度

仕事以外の生活に関する4つの項目の満足度について、「満足」から「不満」までの5段階で評価してもらった。第1期から第6期までの結果を図表2-4-9から図表2-4-12に示す。

図表2-4-9 仕事以外の生活に関する満足度（家族との人間関係について）（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	46 (44%)	40 (38%)	11 (11%)	2 (2%)	0 (0%)	5 (5%)	104 (100%)
	第2期	46 (59%)	23 (29%)	7 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	38 (48%)	29 (36%)	7 (9%)	3 (4%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	40 (53%)	22 (29%)	10 (13%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	35 (51%)	21 (30%)	9 (13%)	3 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	27 (47%)	22 (39%)	4 (7%)	3 (5%)	1 (2%)	0 (0%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	62 (38%)	60 (36%)	33 (20%)	8 (5%)	0 (0%)	2 (1%)	165 (100%)
	第2期	39 (35%)	41 (36%)	26 (23%)	4 (4%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	52 (33%)	71 (45%)	31 (19%)	3 (2%)	1 (1%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	52 (36%)	57 (39%)	26 (18%)	6 (4%)	3 (2%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	40 (33%)	47 (39%)	25 (21%)	2 (2%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	35 (32%)	42 (39%)	25 (23%)	2 (2%)	2 (2%)	2 (2%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	109 (50%)	60 (28%)	37 (17%)	4 (2%)	4 (2%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	84 (48%)	59 (34%)	23 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	3 (2%)	174 (100%)
	第3期	77 (45%)	59 (35%)	28 (16%)	4 (2%)	3 (2%)	0 (0%)	171 (100%)
	第4期	74 (49%)	49 (33%)	16 (11%)	5 (3%)	2 (1%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	63 (44%)	46 (32%)	18 (13%)	9 (6%)	2 (1%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	61 (48%)	40 (32%)	15 (12%)	2 (2%)	4 (3%)	4 (3%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	34 (47%)	31 (42%)	5 (7%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	31 (51%)	22 (36%)	7 (11%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	45 (45%)	39 (39%)	11 (11%)	1 (1%)	1 (1%)	4 (4%)	101 (100%)
	第4期	37 (40%)	38 (41%)	12 (13%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	35 (44%)	29 (36%)	11 (14%)	2 (3%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	32 (47%)	26 (38%)	6 (9%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	115 (58%)	44 (22%)	19 (10%)	7 (4%)	2 (1%)	11 (6%)	198 (100%)
	第2期	90 (54%)	43 (26%)	17 (10%)	6 (4%)	5 (3%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	127 (54%)	56 (24%)	30 (13%)	6 (3%)	2 (1%)	16 (7%)	237 (100%)
	第4期	103 (53%)	50 (26%)	19 (10%)	7 (4%)	1 (1%)	13 (7%)	193 (100%)
	第5期	98 (55%)	43 (24%)	21 (12%)	4 (2%)	3 (2%)	8 (5%)	177 (100%)
	第6期	84 (50%)	42 (25%)	23 (14%)	1 (1%)	2 (1%)	15 (9%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	32 (39%)	30 (36%)	11 (13%)	7 (8%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	26 (41%)	22 (35%)	9 (14%)	4 (6%)	1 (2%)	1 (2%)	63 (100%)
	第3期	25 (27%)	43 (46%)	15 (16%)	4 (4%)	5 (5%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	32 (38%)	29 (34%)	16 (19%)	6 (7%)	2 (2%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	20 (29%)	23 (33%)	12 (17%)	5 (7%)	4 (6%)	6 (9%)	70 (100%)
	第6期	24 (34%)	24 (34%)	14 (20%)	3 (4%)	4 (6%)	2 (3%)	71 (100%)

図表 2-4-10 仕事以外の生活に関する満足度（友人・知人との人間関係について）（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	42 (40%)	40 (38%)	15 (14%)	5 (5%)	0 (0%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	32 (41%)	31 (40%)	12 (15%)	1 (1%)	0 (0%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	34 (43%)	30 (38%)	12 (15%)	2 (3%)	0 (0%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	28 (37%)	31 (41%)	12 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	28 (41%)	25 (36%)	14 (20%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	17 (30%)	24 (42%)	15 (26%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	35 (21%)	90 (55%)	35 (21%)	4 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	28 (25%)	55 (49%)	24 (21%)	3 (3%)	0 (0%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	34 (21%)	78 (49%)	38 (24%)	7 (4%)	0 (0%)	2 (1%)	159 (100%)
	第4期	27 (19%)	77 (53%)	34 (23%)	6 (4%)	0 (0%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	18 (15%)	62 (52%)	36 (30%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	19 (18%)	57 (53%)	27 (25%)	2 (2%)	0 (0%)	3 (3%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	84 (39%)	64 (30%)	56 (26%)	7 (3%)	3 (1%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	50 (29%)	76 (44%)	38 (22%)	4 (2%)	1 (1%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	59 (35%)	65 (38%)	39 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	52 (35%)	53 (35%)	35 (23%)	5 (3%)	2 (1%)	3 (2%)	150 (100%)
	第5期	44 (31%)	54 (38%)	30 (21%)	8 (6%)	1 (1%)	7 (5%)	144 (100%)
	第6期	38 (30%)	54 (43%)	24 (19%)	4 (3%)	2 (2%)	4 (3%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	25 (34%)	36 (49%)	9 (12%)	0 (0%)	1 (1%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	19 (31%)	30 (49%)	8 (13%)	2 (3%)	1 (2%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	32 (32%)	48 (48%)	13 (13%)	4 (4%)	1 (1%)	3 (3%)	101 (100%)
	第4期	24 (26%)	42 (46%)	18 (20%)	3 (3%)	2 (2%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	16 (20%)	39 (49%)	21 (26%)	1 (1%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	19 (28%)	33 (49%)	14 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	93 (47%)	51 (26%)	36 (18%)	7 (4%)	3 (2%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	75 (45%)	46 (27%)	31 (18%)	6 (4%)	1 (1%)	9 (5%)	168 (100%)
	第3期	94 (40%)	71 (30%)	45 (19%)	7 (3%)	3 (1%)	17 (7%)	237 (100%)
	第4期	80 (41%)	52 (27%)	39 (20%)	6 (3%)	2 (1%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	67 (38%)	50 (28%)	43 (24%)	5 (3%)	2 (1%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	60 (36%)	45 (27%)	36 (22%)	7 (4%)	2 (1%)	17 (10%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	20 (24%)	33 (40%)	22 (27%)	5 (6%)	2 (2%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	16 (25%)	26 (41%)	16 (25%)	5 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	22 (23%)	31 (33%)	25 (27%)	7 (7%)	6 (6%)	3 (3%)	94 (100%)
	第4期	20 (24%)	24 (28%)	31 (36%)	7 (8%)	3 (4%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	10 (14%)	27 (39%)	20 (29%)	5 (7%)	4 (6%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	13 (18%)	29 (41%)	16 (23%)	7 (10%)	5 (7%)	1 (1%)	71 (100%)

図表 2-4-11 仕事以外の生活に関する満足度（自分の体力や健康について）（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	18 (17%)	31 (30%)	27 (26%)	16 (15%)	10 (10%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	10 (13%)	28 (36%)	17 (22%)	15 (19%)	6 (8%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	11 (14%)	30 (38%)	25 (31%)	11 (14%)	1 (1%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	9 (12%)	26 (35%)	21 (28%)	13 (17%)	3 (4%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	20 (29%)	22 (32%)	15 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	69 (100%)
	第6期	6 (11%)	22 (39%)	17 (30%)	11 (19%)	1 (2%)	0 (0%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	36 (22%)	43 (26%)	60 (36%)	21 (13%)	4 (2%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	17 (15%)	36 (32%)	37 (33%)	16 (14%)	4 (4%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	22 (14%)	57 (36%)	58 (36%)	18 (11%)	3 (2%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	22 (15%)	54 (37%)	40 (28%)	24 (17%)	4 (3%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	13 (11%)	40 (33%)	42 (35%)	19 (16%)	4 (3%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	11 (10%)	42 (39%)	39 (36%)	9 (8%)	5 (5%)	2 (2%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	36 (17%)	47 (22%)	61 (28%)	43 (20%)	27 (13%)	2 (1%)	216 (100%)
	第2期	19 (11%)	34 (20%)	53 (30%)	40 (23%)	23 (13%)	5 (3%)	174 (100%)
	第3期	28 (16%)	23 (13%)	53 (31%)	38 (22%)	27 (16%)	2 (1%)	171 (100%)
	第4期	16 (11%)	39 (26%)	43 (29%)	28 (19%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	21 (15%)	21 (15%)	38 (26%)	38 (26%)	20 (14%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	17 (13%)	29 (23%)	37 (29%)	26 (21%)	12 (10%)	5 (4%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	8 (11%)	16 (22%)	21 (29%)	18 (25%)	9 (12%)	1 (1%)	73 (100%)
	第2期	9 (15%)	14 (23%)	19 (31%)	12 (20%)	5 (8%)	2 (3%)	61 (100%)
	第3期	12 (12%)	22 (22%)	33 (33%)	20 (20%)	13 (13%)	1 (1%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	24 (26%)	25 (27%)	21 (23%)	15 (16%)	2 (2%)	92 (100%)
	第5期	5 (6%)	17 (21%)	32 (40%)	16 (20%)	8 (10%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	5 (7%)	11 (16%)	25 (37%)	14 (21%)	10 (15%)	3 (4%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	82 (41%)	55 (28%)	32 (16%)	14 (7%)	7 (4%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	60 (36%)	54 (32%)	30 (18%)	11 (7%)	2 (1%)	11 (7%)	168 (100%)
	第3期	86 (36%)	73 (31%)	43 (18%)	13 (5%)	7 (3%)	15 (6%)	237 (100%)
	第4期	67 (35%)	57 (30%)	42 (22%)	8 (4%)	5 (3%)	14 (7%)	193 (100%)
	第5期	57 (32%)	58 (33%)	33 (19%)	12 (7%)	8 (5%)	9 (5%)	177 (100%)
	第6期	59 (35%)	42 (25%)	42 (25%)	6 (4%)	6 (4%)	12 (7%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	8 (10%)	23 (28%)	25 (30%)	19 (23%)	7 (8%)	1 (1%)	83 (100%)
	第2期	7 (11%)	13 (21%)	19 (30%)	13 (21%)	11 (17%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	12 (13%)	24 (26%)	28 (30%)	18 (19%)	10 (11%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	8 (9%)	29 (34%)	21 (25%)	17 (20%)	10 (12%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	8 (11%)	14 (20%)	20 (29%)	18 (26%)	6 (9%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	7 (10%)	18 (25%)	19 (27%)	14 (20%)	12 (17%)	1 (1%)	71 (100%)

図表 2－4－12 仕事以外の生活に関する満足度（収入や経済生活について）（単位：人）

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえない	どちらかといえ ば不満	不満	無回答	計
視 覚 障 害	第1期	9 (9%)	30 (29%)	30 (29%)	17 (16%)	16 (15%)	2 (2%)	104 (100%)
	第2期	13 (17%)	23 (29%)	21 (27%)	12 (15%)	7 (9%)	2 (3%)	78 (100%)
	第3期	13 (16%)	36 (45%)	16 (20%)	8 (10%)	5 (6%)	2 (3%)	80 (100%)
	第4期	11 (15%)	26 (35%)	15 (20%)	12 (16%)	8 (11%)	3 (4%)	75 (100%)
	第5期	12 (17%)	22 (32%)	15 (22%)	9 (13%)	10 (14%)	1 (1%)	69 (100%)
	第6期	10 (18%)	16 (28%)	16 (28%)	7 (12%)	8 (14%)	0 (0%)	57 (100%)
聴 覚 障 害	第1期	16 (10%)	41 (25%)	55 (33%)	35 (21%)	17 (10%)	1 (1%)	165 (100%)
	第2期	9 (8%)	29 (26%)	35 (31%)	29 (26%)	8 (7%)	3 (3%)	113 (100%)
	第3期	9 (6%)	53 (33%)	58 (36%)	31 (19%)	7 (4%)	1 (1%)	159 (100%)
	第4期	10 (7%)	49 (34%)	48 (33%)	26 (18%)	11 (8%)	1 (1%)	145 (100%)
	第5期	10 (8%)	41 (34%)	47 (39%)	11 (9%)	9 (8%)	2 (2%)	120 (100%)
	第6期	8 (7%)	39 (36%)	34 (31%)	19 (18%)	6 (6%)	2 (2%)	108 (100%)
肢 体 不 自 由	第1期	35 (16%)	42 (19%)	68 (31%)	43 (20%)	27 (13%)	1 (0%)	216 (100%)
	第2期	24 (14%)	43 (25%)	51 (29%)	29 (17%)	23 (13%)	4 (2%)	174 (100%)
	第3期	25 (15%)	47 (27%)	42 (25%)	35 (20%)	21 (12%)	1 (1%)	171 (100%)
	第4期	17 (11%)	34 (23%)	45 (30%)	30 (20%)	20 (13%)	4 (3%)	150 (100%)
	第5期	20 (14%)	30 (21%)	44 (31%)	23 (16%)	21 (15%)	6 (4%)	144 (100%)
	第6期	14 (11%)	43 (34%)	29 (23%)	21 (17%)	15 (12%)	4 (3%)	126 (100%)
内 部 障 害	第1期	8 (11%)	18 (25%)	22 (30%)	14 (19%)	9 (12%)	2 (3%)	73 (100%)
	第2期	8 (13%)	16 (26%)	17 (28%)	14 (23%)	5 (8%)	1 (2%)	61 (100%)
	第3期	9 (9%)	32 (32%)	26 (26%)	23 (23%)	9 (9%)	2 (2%)	101 (100%)
	第4期	5 (5%)	35 (38%)	21 (23%)	21 (23%)	7 (8%)	3 (3%)	92 (100%)
	第5期	1 (1%)	27 (34%)	25 (31%)	18 (23%)	7 (9%)	2 (3%)	80 (100%)
	第6期	4 (6%)	22 (32%)	23 (34%)	12 (18%)	5 (7%)	2 (3%)	68 (100%)
知 的 障 害	第1期	82 (41%)	59 (30%)	27 (14%)	16 (8%)	6 (3%)	8 (4%)	198 (100%)
	第2期	55 (33%)	49 (29%)	35 (21%)	13 (8%)	9 (5%)	7 (4%)	168 (100%)
	第3期	69 (29%)	66 (28%)	47 (20%)	21 (9%)	14 (6%)	20 (8%)	237 (100%)
	第4期	61 (32%)	47 (24%)	33 (17%)	26 (13%)	11 (6%)	15 (8%)	193 (100%)
	第5期	55 (31%)	48 (27%)	36 (20%)	15 (8%)	13 (7%)	10 (6%)	177 (100%)
	第6期	53 (32%)	47 (28%)	36 (22%)	9 (5%)	8 (5%)	14 (8%)	167 (100%)
精 神 障 害	第1期	5 (6%)	24 (29%)	25 (30%)	18 (22%)	11 (13%)	0 (0%)	83 (100%)
	第2期	4 (6%)	10 (16%)	23 (37%)	14 (22%)	12 (19%)	0 (0%)	63 (100%)
	第3期	10 (11%)	18 (19%)	22 (23%)	33 (35%)	9 (10%)	2 (2%)	94 (100%)
	第4期	6 (7%)	25 (29%)	24 (28%)	12 (14%)	18 (21%)	0 (0%)	85 (100%)
	第5期	6 (9%)	17 (24%)	16 (23%)	18 (26%)	9 (13%)	4 (6%)	70 (100%)
	第6期	5 (7%)	17 (24%)	20 (28%)	16 (23%)	12 (17%)	1 (1%)	71 (100%)

第5節 調査回答者の特徴と留意点について

職業サイクル調査研究の調査回答者は、調査対象者としての募集方法から、障害のある労働者の代表的なサンプルとは言い切れず、本調査から得た知見をより広い範囲の障害のある労働者にあてはめて考える際は慎重に行う必要がある。調査回答者の特徴については、集計結果から次のような点が推測できる。

- ・職業サイクル調査研究への紹介元として、当事者団体や職業リハビリテーション機関が合わせて7割であることから、社会資源の活用に積極的な人が多い可能性がある。
- ・知的障害においては、調査票の記入に際して周囲の支援を受けた人が6割を超えるが、周囲の支援を受けやすい状況にある人を調査回答者に多く含む可能性がある。
- ・転居が多いと連絡先不明になりやすいことから、継続して回答を得た人は、比較的安定した生活状況であると考ええる。

これらの点は調査の限界であるが、16年間という他に類を見ない長期縦断調査の利点を活かし、横断調査や短期の縦断調査では捉えにくい、障害者の職業生活の特徴を捉え、仮説を提示することは十分に可能であると考ええる。

第3章

各調査期の分析結果

第3章 各調査期の分析結果

第1期から第5期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載する他、複数の調査項目の結果を用いて様々な分析を実施して報告している。

第1期から第3期までは、経年による職業生活の変化に着目し、連続する2つの調査期にともに回答した対象者の結果を様々な観点からクロス集計して、調査回答者全体に占める変化の割合を示した。第4期以降においては、調査研究委員会における議論を踏まえて、職業サイクル調査研究を進めていく上での基本的な考え方として「障害のある人の職業生活の質的側面について、個々人のキャリアの観点と、施策や社会情勢といった常に変化する環境との相互作用の観点の両面から探索的に検討すること」を定め、この範囲で、第4期以降の調査期に時機に応じたテーマを設定し、様々な切り口から分析を試みていくこととし、第4期以降の報告書において継続的に分析結果を報告してきた。

本章は、これまでに実施した分析結果等を整理した。あわせて、2020年までに学会等において発表した職業サイクル調査研究をテーマとした論文等が30題近くなり、経過を整理することを目的に、巻末資料として、該当する論文等の概要、近年の学会等における発表において共通して使用している職業サイクル調査研究の概要説明用資料を掲載した。

1 第1期における分析

第1期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するとともに、以下の観点に着目して、障害種別に二つの調査項目をクロス集計している。

- (1) 就業形態別の就業状況（仕事内容、労働時間、休日数、給与額、仕事満足度、経済的自立度）
- (2) 仕事内容別の給与等（給与額、初職継続・転職、仕事満足度）
- (3) 住居環境別の就業形態等（就業形態、経済的自立度、仕事関係相談先、経済面相談先）
- (4) 取得免許・資格別の就業形態・給与額
- (5) 環境整備及び配慮事項の分類による障害種類別の状況
- (6) 男女別の就業形態・仕事満足度
- (7) 初職と転職別の勤続年数
- (8) 障害を診断した時期別の学歴等（最終学歴、仕事内容、給与額）
- (9) 仕事満足度の影響要因（年代の関係、障害年金の受給状況の関係、給与額の関係、転職経験の関係、現職の勤続年数の関係、仕事をする上での重要度との関連）
- (10) 仕事に関する今後の考えと就業状況等（働ける年齢、年代、就業形態、勤続年数）
- (11) 前期調査と後期調査の比較（男女比、平均年齢、障害の診断時期、手帳所持者、家族構成・住まい、最終学歴、現在の仕事、仕事内容、就業時間、給与、障害についての会社への説明、仕事の満足度、障害年金、生活の収入源、仕事をする上での重要度、仕事をする上で必要な事、会社へ望む事項）

以上の分析を踏まえ、調査開始段階の第1期の調査結果について主に次のように考察した。

- ・調査回答者の年齢は偏りなく、職業生活の変遷を継続的に把握していくことが可能である。
- ・男女比は実態に近い。
- ・現職は基本的に雇用保険被保険者であり、就業する障害者全体の中では安定的な就業環境にある。
- ・仕事の満足度や現在の仕事の継続意思は、前期調査と後期調査でほとんど差がみられなかった。
- ・職場で決まっている定年より前に職業生活から引退を希望する者が少なくない。

2 第2期における分析

第2期の報告書では、各調査項目について第1期と第2期の回答結果をクロス集計するとともに、以下の観点に着目して、障害種類別にその状況を集計して分析している。

(1) 第1期と第2期の調査の間で起きた仕事に関係した出来事についての分析

ア 配置転換があった者について（障害種類別の比率、男女別の比率、年齢別の比率、就業形態別の比率、仕事内容（配置転換後）別の比率、第1期と第2期の仕事内容の状況、勤続年数別の比率、仕事の継続意思、第1期と第2期の仕事の継続意思の状況、第1期と第2期の「仕事内容」についての満足度の状況）

イ 給料が上がった者について（障害種類別の比率、男女別の比率、年齢別の比率、就業形態別の比率、仕事内容別の比率、勤続年数別の比率、勤務先の従業員規模別の比率、給与額別の比率、第1期と第2期の給与の状況、第1期と第2期の仕事の継続意思の状況）

(2) その他の仕事に関係した出来事

ア 昇進した者の状況

イ 正社員になった者の状況

ウ 休職をした者の状況

エ 転職をした者の状況（障害種類別の状況、性別等の状況、第1期と第2期の仕事内容の状況、第1期と第2期の（転職後の）会社の従業員規模の状況、第1期と第2期の給与額の状況、第1期と第2期の継続意思の状況）

オ 給料が下がった者の状況（障害種類別の比率、男女別の比率、年齢区分別の比率、就業形態別の比率、仕事内容別の比率、勤続年数別の比率、会社の従業員規模別の比率、給与額別の比率、第1期と第2期の給与区分の状況、第1期と第2期の継続意思の状況）

以上の分析を踏まえ、第1期と第2期とも回答のあった者（前期調査 327 人、後期調査 293 人）について主に次のようにまとめている。

(1) 仕事の状況

ア 就業形態は、第1期と第2期の回答を比較すると、後期調査が変化なしがやや多く、変化ありがやや少ない（就業形態変化なし：前期調査 82.0% / 後期調査 88.4%、同変化あり：前期調査 16.5% / 後期調査 10.2%）。中高年齢層になると就業形態が安定あるいは固定してくる人がいることが考えられる。

一方、仕事内容は、変化ありがやや多くなっている（仕事内容変化なし：前期調査 81.5% / 後

期調査 77.2%、同変化あり：前期調査 14.3% / 後期調査 18.0%)。

イ 勤務時間は、変化の有無の状況に大きな違いはみられないが、前期調査の方が時間は短くなった人が多い(前期調査:短くなった人 32 人 / 長くなった人 21 人、後期調査:短くなった人 23 人 / 長くなった人 23 人)。

ウ 休日日数は、後期調査の方が変化なしがやや少ない(休日日数変化なし：前期調査 69.2% / 後期調査 64.3%、同変化あり：前期調査 26.9% / 後期調査 28.7%)。

エ 給与額は、後期調査の方が変化なしが少なく変化ありがやや多い(給与額変化なし：前期調査 78.3% / 後期調査 68.8%、同変化あり：前期調査 20.3% / 後期調査 23.9%)。後期調査の方が下がった人が多い(前期調査：給与区分が上がった人 30 人 / 下がった人 28 人、後期調査：給与区分が上がった人 25 人 / 下がった人 40 人)。

オ 勤務先の従業員規模は、変化の有無の状況に大きな違いはみられないが、前期調査は従業員規模が大きくなった人と小さくなった人がほぼ同数だが、後期調査は小さくなった人が多い(前期調査：大きくなった人 28 人 / 小さくなった人 27 人、後期調査:大きくなった人 15 人 / 小さくなった人 32 人)。

(2) 第2期における新規設問

ア 「結婚している」、「離婚した」の割合は、ともに後期調査が大きい(結婚している:前期調査 15.6% / 後期調査 42.7%、離婚した:前期調査 3.5% / 後期調査 8.3%)。また、「子どもはいる」は後期調査が多い(子供はいる:前期調査 6.5%、後期調査 36.9%)。

イ ライフイベントは、前期調査、後期調査とも「家族の入院」は共通だが(前期調査:18 人 / 後期調査 25 人)、前期調査では「引っ越し」(前期調査 42 人)、「障害年金受給開始」(前期調査 23 人)、後期調査では「家族の死亡」(後期調査 36 人)、「自分の入院」(後期調査 15 人)となっており世代の違いを表していると考えられる。

3 第3期における分析

第3期の報告書では、各調査項目について第2期と第3期の回答結果をクロス集計するとともに、第1期から第3期までの間の変化に着目して、その状況を以下の観点で集計して分析している。

- (1) 就業形態の変化の分析(「雇用契約あり(被雇用者)」と「雇用契約なし(自営及び非就労)」の間の変化、「正社員」と「パート等」の間の変化)
- (2) 就業形態(「雇用契約あり(被雇用者)」と「雇用契約なし(自営及び非就労)」)の間の変化と生活及び仕事の状況(障害種類別の状況、性別の状況、年代別の状況、ライフイベント別の状況、同居の家族別の状況、仕事上の出来事別の状況、仕事の満足度別の状況、仕事継続の意思別の状況、離職理由別の状況、就職活動の状況)
- (3) 正社員及びパート等の就業形態を継続している者の生活及び仕事の状況(障害種類別の状況、性別の状況、年代別の状況、ライフイベント別の状況、同居の家族別の状況、仕事上の出来事別の状況、仕事の内容別の状況、1ヶ月当たりの給与額別の状況、仕事の満足度別の状況、仕事継続の意思別の状況)

- (4) 正社員とパート等の間で就業形態が変化した者の仕事の状況（変化した者の障害種類、仕事内容の変化、1ヶ月当たりの給与額の変化、労働時間及び休日の変化、仕事の満足度の変化）
- (5) 雇用契約による就労と福祉的就労との間の変化

以上の分析を踏まえ、主に次のように考察している。

- ・ライフイベントの年代ごとの状況

「結婚」「出産」「引越し」など家族形成に関わる出来事は30歳代がピークとなっている。また、「親元からの自立」や「就学」は20歳代が最も高く、次第に低下している。「年金の受給開始」は20歳代で最も多く、「自分の入院」は年齢に応じ増加の傾向がみられる。

家族に関することでは、年齢が高くなるに応じて家族の「入院」「死亡」が増加しており、「家族の離職」は20歳代から30歳代にかけて増加するがその後減少している。

- ・仕事上の出来事の年代ごとの状況

「昇給」は30～50%の水準で、また「配置転換」は20%程度の水準で、ほぼ全ての年代を通じて他の出来事よりも高い割合で起こっている。

「昇進」は40歳代が、「支援者がいなくなる」のは30歳代がそれぞれピークとなっており、支援を受ける立場から独り立ちして昇進していく状況が窺われる。また、「正社員への転換」は20歳代から30歳代にかけて2%程度の水準で起こっており他の年代より高い割合となっている。また、「転職」と「休職」は、ほぼ全ての年代を通じて、3%から5%程度の水準で起こっている。

4 第4期における分析

第4期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するとともに、職業生活の満足度と職業上のニーズを目的変数とし、以下の項目を説明変数として、一般化推定方程式を用いて統計分析している。

- ・調査回答者個人の要因（性別、年齢、障害種類等）
- ・職業や職場に関する要因（職種、職場への障害の説明の程度、勤務先の企業等の規模、同じ企業等への勤続年数、職場で得られている配慮、仕事上のできごと等）
- ・調査時期の要因（各調査期）

以上の分析を踏まえ、職業生活の満足度、職業上のニーズについて、主に次のように考察している。

- ・職業生活の満足度について

知的障害では他の障害種類よりも全般に満足度が高かったが、回答へのバイアス（満足と答えやすい）があると先行研究において指摘されており、慎重に解釈する必要があると考えられた。聴覚障害では全般に満足度が低く、雇用管理に加えて就労支援及び施策上の課題が示唆された。

個人要因だけでなく、職種や給与水準、職場への障害の説明の程度等、様々な環境要因が職業生活の質に影響する様子を捉えることができた。

職場において実際に得られている配慮の種類については、今後の支援への直接的な示唆を与えるものもみられた。一例として、精神障害では作業手順の支援を重視することの意義が示唆された。

- ・職業上のニーズについて

障害種類の影響が広範囲にみられた。各障害種類によって職業上のニーズが異なっており、例えば、視覚障害では職場の機器や設備面の改善へのニーズが特に高く、一方、聴覚障害では援助者の配置や教育・研修への要望のニーズが高かった。これらは障害特性に合致した支援の重要性が再認識される結果となった。

年齢と職業上のニーズとの関係から、業務への習熟や加齢の影響が考えられた。

就業条件等と職業上のニーズの関連についても様々な興味深い結果が得られたが、因果関係の推測が難しい場合があった。

また、第4期報告書では、文献調査として国内外の障害者の職業生活に関する研究等を取りまとめている。その中で職業行動とキャリア発達に関する主要な理論であるスーパーのライフステージやライフロールの概念による「ライフキャリアの虹」、ホランドの個人－環境適合理論である「六角形モデル」を援用した新たな障害者のキャリアモデルとして以下の2つのモデルを紹介している。

- ・Szymanski のエコロジカル・モデル：キャリア発達は個人の発達に関わるが、障害者個人のもつ性格や能力だけでなくその人の生活や仕事の環境とのダイナミックな相互作用など、さまざまな内的・外的要因からなるとする包括的モデル。
- ・Hershenson の INCOME モデル：キャリアのステージを一つずつ積み重ねていくものではなく Imagining (自覚), Informing (情報入手), Choosing (仕事の選択), Obtaining (着手), Maintaining (持続), Exiting (離脱) があらゆる順番や組み合わせでおこるとしたモデル。

5 第5期における分析

第5期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載するとともに、仕事の満足度に影響する要因について、2つの分析を行っている。

(1) 職場での確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係

合理的配慮の調整にあたり重要となる、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が、障害のある労働者の仕事の満足度にどのように影響しているかクラスカル・ウォリスの順位和検定を用いて統計分析している。

その結果、全障害でみると「仕事の内容」「給料・待遇（労働条件）」「職場の人間関係」「職場の環境（施設整備等）」の4つの仕事の満足度すべてにおいて「今までと同様に確認や話合いの機会があった」場合に、「確認や話合いの機会はまだない」よりも有意に満足度が高かった。また、「新たに確認や話合いの機会があった」と「確認や話合いの機会はまだない」の間には有意な差は検出されなかった。

以上の分析を踏まえ、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係から主に次のように考察している。

障害者と事業主の間で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が継続してあることが相互理解を促し、障害者にとってより満足できる仕事の実現に寄与したと考えられた。また、制度改正を

受けて新たに話し合いを開始して間もない段階では障害者と事業主の相互理解は醸成されにくいことが示唆された。今後、更なる確認や話し合いの機会を継続していくことが求められると考えられた。

（２）「仕事満足度」を決定する要因の検討

職業サイクル調査研究で取得したパネルデータは、ある状態や状況と別の状態や状況との間の因果関係をより正確に、また時系列の変化を踏まえて検証することが可能になるという性質を持つことを踏まえ、仕事の満足度に着目して、ランダム効果モデルを用いて統計分析している。

その結果、「仕事満足度」は「就労継続意図」及び「２年後の離職」に有意に関係していた。また「仕事満足度」の決定要因の分析結果は、会社や職場の関係者へ自身の障害を説明している場合に「仕事満足度」が有意に高いこと、配慮を必要としている項目が多い人ほど「仕事満足度」が有意に低いこと、援助者がいなくなる出来事があった場合に「仕事満足度」が有意に低いことを確認した。

以上の分析を踏まえ、仕事の満足度を決定する要因について次のように考察している。

職場において、周囲に対して自身の障害について説明すること、本人が必要と感じている配慮が行き届くこと、常に適切な援助者を配置することの重要性が示唆された。加えて、昇給の有無も「仕事満足度」に有意に影響しており金銭的な報酬の重要性が再確認された。また、現職期間と「仕事満足度」の関係については、就労当初は時間が経つにつれて「仕事満足度」は下がるが、その後上昇に転じる、Ｕ字の関係があることが示された。先行研究では一般の労働者においても同様の結果が報告されており¹⁾、障害の有無に関わらず現職期間と仕事の満足度の関係はＵ字型を描く非線形である可能性が示唆される結果が得られた。

1) 齋藤隆志. 企業内賃金格差が労働者の満足度・企業業績に与える影響. 日本労働研究雑誌. 2016;58(5): 60-74.

第4章

第6期の分析結果及び今後の調査について

第4章 第6期の分析結果及び今後の調査について

第3章に掲載した、今までの分析の経過及び新たに実施したヒアリング調査を踏まえて、第6期の分析方針を検討した結果、以下の2点を第6期報告書では、新たに取り上げる。

- ① 第4期の報告書から働く障害者の仕事の満足度への影響について分析してきた。仕事の満足度については、調査研究委員会においても継続的に取り上げて分析の対象としていくことを議論しており、これまで就業条件、職場の配慮状況、仕事上の出来事、生活上の出来事など、様々な要因との関係を明らかにしてきた。第6期の報告書では、第4期から追加調査している、本人側の「仕事をする理由」と「仕事の満足度」の関係について、新たに分析した。
- ② 調査結果から、例えば一つの企業に長期間継続雇用されているといった特徴的な回答が把握できるものの質問紙調査のみから詳細な実態の把握は困難であるため、第6期ではヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果と第5期報告書で分析した仕事満足度の決定要因との関係を整理した。

第1節 仕事をする理由と仕事の満足度の関係

1 分析の目的

職業サイクル調査研究では、調査研究委員会における議論を踏まえて、第4期の報告書から働く障害者の仕事の満足度への影響について分析している。これまで就業条件、職場の配慮状況、仕事上の出来事、生活上の出来事など、様々な要因との関係を明らかにしてきた。本報告書では、第4期から追加調査している本人側の「仕事をする理由」と「仕事の満足度」の関係について、新たに分析した結果を報告する。

2 分析方法

調査項目「仕事をする理由」は第4期後期調査から追加調査しており第4期前期調査では回答を得ていないため、調査対象者へ一律に調査実施した第5期、第6期の調査結果のみを分析に用いた。

(1) 目的変数（仕事の満足度に関する変数）

仕事の満足度4項目（「仕事の内容」「給料や待遇（労働条件等）」「職場の人間関係」「職場の環境（施設整備等）」、それぞれ不満＝1から満足＝5までの5つの選択肢）はそれぞれ平均と分散が異なることから、仕事の満足度を代表する一つの変数へ統合するため、まずは第5期と第6期の仕事の満足度4項目の調査結果それぞれを平均0、分散1になるよう次の計算式により標準化した。

$$\frac{x - x \text{の平均}}{x \text{の標準偏差}}$$

標準化した仕事の満足度4項目の数値を加算して仕事の満足度総合点を作成し、目的変数とした。

(2) 説明変数（仕事をする理由に関する変数）

仕事をする理由7項目（「収入を得るため」「社会とのつながりを持つため」「社会の中で役割を果たすため」「自分自身が成長するため」「生きがいや楽しみのため」「生活のリズムを維持するため」「心身の

健康のため」、それぞれあてはまらない＝１からあてはまる＝５までの５つの選択肢）については、７項目の点数をそのまま説明変数とした。

（３）調整変数（障害の種類に関する変数）

分析にあたり障害の種類の影響を除くため、各障害の種類（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害）を０か１のダミー変数へ変換して、調整変数とした。

（４）統計分析方法

仕事の満足度総合点を目的変数、仕事をする理由を説明変数、障害の種類を調整変数として、強制投入法により重回帰分析を行い、仕事をする理由が仕事の満足度へ及ぼす影響を整理した。なお、分析にあたっては「IBM SPSS Statistics」を使用した。

３ 結果

（１）分析対象及び記述統計量

仕事の満足度４項目と仕事をする理由７項目すべてに回答のあった者は、第５期 522 人、第６期 462 人であった。分析に使用した変数の記述統計量を図表４－１－１に示す。なお、仕事の満足度４項目の標準化にあたっては、回答結果を最大限活用するため、各項目に回答を得た者の結果を用いた。一方、仕事の満足度総合点の作成には、仕事の満足度４項目すべてに回答を得た者の結果を用いたため、仕事の満足度総合点の平均は０にはならない。

図表４－１－１ 分析に使用した変数の記述統計量

変数名	第５期 n=522		第６期 n=462	
	M	SD	M	SD
仕事の満足度総合点	-0.08	3.15	-0.05	3.20
仕事の満足度				
（仕事の内容）	(3.98)	(0.94)	(3.96)	(0.94)
（給料や待遇（労働条件等））	(3.47)	(1.22)	(3.57)	(1.19)
（職場の人間関係）	(3.60)	(1.13)	(3.71)	(1.06)
（職場の環境（施設整備等））	(3.69)	(1.06)	(3.75)	(1.05)
仕事をする理由				
収入を得るため	4.78	0.59	4.81	0.55
社会とのつながりを持つため	4.16	0.98	4.15	1.02
社会の中で役割を果たすため	4.05	1.03	4.05	1.03
自分自身が成長するため	4.07	1.05	4.02	1.03
生きがいや楽しみのため	3.96	1.09	3.93	1.11
生活のリズムを維持するため	4.09	1.03	4.15	0.99
心身の健康のため	3.93	1.10	3.92	1.10
障害の種類				
視覚障害	55 人		44 人	
聴覚障害	106 人		97 人	
肢体不自由	105 人		88 人	
内部障害	65 人		58 人	
知的障害	138 人		123 人	
精神障害	53 人		52 人	

（２）仕事の満足度と仕事をする理由の関係

重回帰分析の結果は、以下のとおりであった。

第５期のモデル説明率は $R^2=.233$ であり有意であった ($F(12, 509)=12.85, p<.01$)。仕事をする理由の

うち、「社会とのつながりを持つため」($\beta = .15$, $p < .01$)、「社会の中で役割を果たすため」($\beta = .13$, $p < .05$)、「生きがいや楽しみのため」($\beta = .15$, $p < .01$)を重視するほど、仕事の満足度総合点が有意に高かった(図表4-1-2)。

第6期のモデル説明率は $R^2 = .254$ であり有意であった($F(12, 449) = 12.75$, $p < .01$)。仕事をする理由のうち、「社会の中で役割を果たすため」($\beta = .22$, $p < .01$)、「生きがいや楽しみのため」($\beta = .14$, $p < .05$)を重視するほど、仕事の満足度総合点が有意に高かった(図表4-1-2)。

なお、VIFは最大で3.44であり、両分析とも多重共線性の問題はなかった。

図表4-1-2 仕事の満足度総合点を目的変数とした重回帰分析結果

変数名		標準偏回帰係数	
		第5期	第6期
説明変数 (仕事をする理由)	収入を得るため	0.035	0.058
	社会とのつながりを持つため	0.151 **	0.079
	社会の中で役割を果たすため	0.133 *	0.225 **
	自分自身が成長するため	0.019	-0.026
	生きがいや楽しみのため	0.149 **	0.141 *
	生活のリズムを維持するため	-0.048	-0.037
	心身の健康のため	0.059	0.076
調整変数 (障害の種類)	視覚障害ダミー	0.074	0.097
	聴覚障害ダミー	-0.062	-0.057
	肢体不自由ダミー	0.031	0.129
	内部障害ダミー	0.092	0.065
	知的障害ダミー	0.199	0.203

* $p < .05$, ** $p < .01$

4 考察

障害者が仕事をする理由として重視することと、主観的な仕事の満足度はどのように関連するだろうか。本分析で有意であった仕事をする理由のうち、「社会の中で役割を果たすため」と「生きがいや楽しみのため」では、その影響プロセスは不明ではあるが、調整変数として障害種類の影響を除いてもなお、比較的一貫して仕事の満足度へ影響することを確認した。

ただし、本分析の分析モデルの説明率は2割程度に留まり、仕事の満足度全体の説明に十分なものではなかった。仕事をする理由として重視したことが実現または実現せず満足度が変化するには、本人の障害の状況や企業の状況、支援の状況など多くの要因が関係すると考える。

本調査研究では、「仕事の満足度」に多くの要因が関連することがこれまでに明らかにされていることを考慮すると、これまでに報告されている要因に加えて、本分析で扱った本人側の「仕事をする理由」を含めて検討を継続していく必要があると考えた。

第2節 ヒアリング調査と第5期分析結果との関連

ヒアリング調査の背景と目的、対象者、調査の方法と内容は、第1章第6節で述べたとおりとする。

1 結果

(1) 事例の概要

○事例A

- ・肢体不自由（脊柱管狭窄症による下肢障害、直腸膀胱障害、電動車いすを利用）
- ・受障後、前職を退職し職業訓練を経て現職。
- ・在職期間は20年以上。

仕事の概要は、就職当初は庶務の仕事を担当。自宅から自家用車通勤であったが負担が大きく、職場近くに転居し時差出勤による電車通勤に切り替えた。その後、体力が大きく落ちたので入社後6年目から在宅勤務になった。在宅勤務となって仕事内容も変わり、社員研修における講師との調整業務等を担当。今のところ65歳までこの会社で働ける。セカンドライフについては特に意識していないが、65歳以降について楽観的に考えている。

○事例B

- ・知的障害
- ・特別支援学校高等部を卒業後に障害者福祉施設の利用を経て就職。職場の移転に伴い退職し現職に再就職。
- ・在職期間は約20年。
- ・仕事の概要は、就職当初から品出し及び接客の仕事を担当。自宅からバスと電車で通勤している。準社員として一日6時間週5日の勤務。皆勤であり会社からの表彰があった。人とのコミュニケーションが好きで仕事以外の趣味も充実している。月に1回程度、支援者の職場訪問が続いている。

○事例C

- ・精神障害（統合失調症、18歳のときに初発）
- ・大学卒業後、通院治療を続けつつ様々な仕事を経験するが体調が崩れて退職。保健所デイケアから地域障害者職業センターの利用を経て現職。
- ・在職期間は20年以上。
- ・仕事の概要は、就職当初から製造工、小型部品箱詰めの仕事を担当。自宅から自家用車で通勤している。正社員としてフルタイム、残業もこなしてきている。わかりやすい単純作業であることが仕事を続けられたポイントと捉えている。65歳以降も継続して働きたいと考えている。

(2) 事例との関連をみた第5期の報告書の分析結果

仕事の満足度に関する第5期の報告書の分析結果を用いて事例との関連をみるにあたり、まずは第5期の報告書に掲載したランダム効果モデルを用いた統計解析による分析結果の要約等を以下に示す。

参考 図表 仕事満足度の決定要因に関する分析結果 (第5期報告書 p87)

	モデル1： 仕事満足度総合点			モデル2： 仕事満足度尺度		
	回帰係数	標準誤差		回帰係数	標準誤差	
障害ほとんどの人に説明 (基準=ほとんどの人に説明していない)	0.157	0.048	***	0.161	0.048	***
配慮を要する項目数 (基準=該当する項目なし)						
要配慮数=1	-0.052	0.077		-0.059	0.077	
要配慮数=2	-0.142	0.082	*	-0.145	0.082	*
要配慮数=3	-0.170	0.086	**	-0.177	0.087	**
要配慮数>=4	-0.186	0.087	**	-0.182	0.087	**
最近二年間の出来事 (基準=それぞれに該当しない場合)						
配置転換	-0.027	0.059		-0.034	0.059	
上司移動	0.000	0.048		0.009	0.048	
援助者去る	-0.374	0.085	***	-0.388	0.086	***
昇進	0.011	0.125		0.029	0.125	
昇給	0.111	0.047	**	0.109	0.047	**
減給	-0.225	0.068	***	-0.211	0.069	***
休職	-0.223	0.099	**	-0.229	0.099	**
出向	-0.250	0.250		-0.244	0.251	
離職	-0.074	0.086		-0.078	0.086	
現職期間	-0.032	0.012	***	-0.029	0.012	**
現職期間二乗	0.001	0.0003	***	0.001	0.0003	***
正社員(基準=正社員以外)	-0.034	0.078		-0.060	0.078	
職種(基準=製造)						
販売	0.068	0.121		0.069	0.121	
事務	0.188	0.090	**	0.182	0.090	**
教育	0.024	0.238		0.032	0.237	
医療福祉	0.058	0.139		0.073	0.139	
対人サービス	0.212	0.123	*	0.198	0.123	
清掃	0.156	0.105		0.145	0.105	
職種その他	-0.076	0.098		-0.096	0.098	
企業規模(基準=1-9人)						
10-49人	-0.222	0.095	**	-0.214	0.095	**
50-300人	-0.115	0.098		-0.121	0.099	
300-999人	-0.041	0.113		-0.037	0.113	
1000人以上	-0.137	0.113		-0.136	0.113	
分からない	-0.078	0.125		-0.081	0.125	
給与(基準=7万円未満)						
7-13万円	0.146	0.084	*	0.145	0.084	*
13-25万円	0.232	0.103	**	0.219	0.103	**
25万円以上	0.367	0.134	***	0.347	0.134	***
障害の種類(基準=視覚障害)						
聴覚障害	-0.467	0.181	**	-0.476	0.180	***
肢体不自由	-0.055	0.186		-0.060	0.185	
内部障害	-0.263	0.195		-0.255	0.194	
知的障害	0.351	0.193	*	0.324	0.192	*
精神障害	-0.204	0.204		-0.206	0.203	
男性(基準=女性)	-0.019	0.085		-0.007	0.084	
後期調査対象 (基準=前期調査対象)	-0.100	0.090		-0.119	0.089	
切片	0.135	0.248		0.167	0.247	
サンプルサイズ	1274			1274		

注：*，**，***は係数がそれぞれ10%，5%，1%水準で統計学的に有意であることを意味する。

- ・「仕事満足度」が「就業継続意図」や「離職」という行動と密接に関係していることを分かり、それを踏まえて、「仕事満足度」が何によって決定されるかについて分析を行った。
- ・会社や職場の関係者への自身の障害の説明：仕事満足度と正の関係があった。考察として、障害を説

明している者の割合は約 60%であり、周囲に対して自身の障害について説明することへの支援の重要性が示唆されるとしている。

- ・新たに配慮を必要としている項目の数：項目の数が多い者ほど仕事満足度が低かった。考察として、配慮が行き届いていない職場では仕事満足度が下がり、ひいては離職につながることを示しているため、職場定着のためには障害者が求める配慮に応える必要性があると考えられるとしている。
- ・援助者が去ってしまった経験：仕事満足度との負の関係については、全体のわずか5%しか経験していないこととはいえ他の説明変数よりも値の絶対値が大きいことから影響が大きかった。考察として、障害者の職場定着を図るためには常に適切な援助者を配置することの重要性が示唆されるとしている。
- ・昇給や減給の出来事：有意に仕事満足度と関係していることが分かった。考察として、金銭的な報酬の重要性を再確認するとともに、データの信頼性を担保する点において意義があると考えられている。
- ・現職の就労を継続している期間と仕事満足度との関係について、就労当初は時間が経つにつれて仕事満足度は下がるが、その後上昇に転じる、U字の関係があることが示された。この結果に関しては留意事項として、ある程度の現職期間を経た労働者は高い仕事満足度を持っているように観察されるが、それはもともと仕事満足度が高かった者が就業を継続したからであり、いわゆる生存者バイアスのような事象が起きているのではないかと推察されるとしている。

2 事例報告の整理にかかる一視点についての考察

第5期の報告書にて明らかになった、上記（2）にて取り上げた仕事満足度を決定する要因とヒアリング調査における事例の関連について整理した。

- ・仕事の満足度と密接に関係していた「就業継続意図」や「離職」について、全ての事例で、継続している仕事に対して「離職したい」という意向は確認できなかった。
- ・仕事の満足度と正の関係があった「会社や職場の関係者への自身の障害の説明」に関連する、「会社や職場の関係者へ自身の障害の説明をしていること」について、全ての事例で確認できた。しかし、事例B及び事例Cは、職場メンバーの変化や上司の変更により十分に理解されていると感じられない時期があったこと、事例Aは、症状の変化や原因について、医療情報からは自分も不明な場合もあって、説明し難かったことを確認した。
- ・「配慮を必要としている項目数が少ないこと」について、事例Aは、身体的な状態の変化に伴い、時差通勤から在宅勤務へ、あわせて仕事内容も変わるといった必要な配慮も変化していくことがあったため継続的に話し合うことが重要であるとの意見を確認した。事例B及び事例Cは、上記のように環境の変化により障害の理解に関する配慮が必要な時期を経験しているが、現状への不満がなく、更なる配慮を要望してはいないことを確認した。
- ・仕事の満足度と負の関係があった「援助者が去ってしまった経験」に関連する、「援助者の存在」について、全ての事例から、職場内の支援とあわせて、仕事を継続するうえで外部の援助者の存在が重要であるとの意見を確認した。関わりのある援助者は、事例Aは健康面や生活面の支援を行うケアマネ

ージャー、事例Bは職場の課題への支援を行うジョブコーチ、事例Cは精神面の波を感じた時に話を聞いてもらう様々な支援機関の相談窓口であり、本人が抱える課題に応じて個別的であった。また、事例Bでは職場の体制が変わってしまったことで、職場で課題が生じた際の職場における対応のタイムラグ、課題解決自体が棚上げになってしまった経験があることを確認した。

- ・仕事の満足度と関係のあった「昇給や減給の出来事」に関連する、「昇給があること」について、全ての事例で確認したが、職位の変化はなかった。
- ・仕事の満足度と関係のあった「現職の就労を継続している期間と仕事満足度」に関連する、「現職期間が一定以上長いこと」について、全ての事例は約20年以上同一の企業にて継続就労しているが、その間の仕事満足度の自己評価として「常に満足度が高い」、「昔に比べて高くなってきている」、「低くなってきている」ということではなく、波があることを確認した。

また、第5期の分析結果の補足的な事項として、第1節で示した仕事の満足度に影響する「仕事をする理由」に関連して、全ての事例で仕事をするのが経済的な側面に加えて「社会参加」、「人とのつながり」としての価値を持っていることを確認した。このようなネットワーク形成への志向も満足度の変化のコントロールに影響していると推測する。加えて、満足度との関係は不明だが、調査研究報告書No. 159「中高年齢障害者に対する職業生活再設計等に係る支援に関する調査研究」に関連して、全ての事例で加齢に伴い健康面の変化があるものの、意識的な予防や適切な対応を行っていた。

3 ヒアリング調査の今後の展望

第5期の分析結果等との関連をみたヒアリング調査の結果から、ヒアリング調査は、職業生活において生じる具体的な課題、対処方法、感じていること、背景情報を得ることが可能であり、質問紙調査の結果を更に深めて解釈するうえで有効であると考ええる。職業サイクル調査研究では、今後、ヒアリング調査結果に対する質的研究の視点をもって進め、質問紙調査結果との融合を図り職業サイクルに関する研究を発展させていきたい。

補足として、調査対象者全員に対して年1回配布しているニュースレターにおいて、ヒアリング調査の結果のうち「職業生活で工夫していること」、「これから職業人生を歩み始める者へのアドバイスやメッセージ」等を取りあげて、その内容に対する本調査研究の調査研究委員会の委員からのコメントを添えたコラムとして掲載することにより、調査対象者の調査への関心を醸成して継続的な調査への協力につながるようにしている。巻末資料「サイクル便り No. 16 (2019年度)」参照。

第3節 今後の調査について

本節においては第6期までの結果及び第6期の調査研究委員会の議論を基に、今後（第7期以降）の課題や研究の方向性等を以下のとおり整理した。

- 調査票のわかりやすさの向上について：各調査期に取り組んでおり、今後も継続したい。第6期は、質問項目を並べ替えて回答のしやすさに配慮したこと、特に読み仮名に加えて平易な表現とした調査票については、全国手をつなぐ育成会連合会による「わかりやすい情報提供のガイドライン」に沿った記述に引き続き留意する。
- 調査対象者数の減及び回収率の低下について：全ての調査期に回答のあった者は調査対象者の25%で、調査対象者数は、調査期を重ねるごとに減少している。第3期の調査実施にあたり調査対象者を補充したが、第6期では住所不明、調査中止の希望受理、死亡により48人の減少となっている。加えて、回収率自体も調査期を重ねるごとに低下傾向があり、その理由として、退職に伴う調査継続のモチベーションの低下を推測する。今後の調査実施にあたっては、引き続き調査中止の希望を受ける際に丁寧な継続依頼を行うことで中止希望の再検討を促したい。未回答の者に対して、「サイクル便り」による継続した回答勧奨の働きかけを続けるとともに、本研究の重要な目的の一つである雇用からの引退プロセスの把握のために、第7期の調査研究委員会において、葉書等を使用した簡便な方法等による補足的な追加調査の実施の検討を行いたい。
- ヒアリング調査の拡大について：第6期では長期就労継続等の特徴的な事例を選定して同意を得た場合に限り、職業サイクル調査研究において初めてヒアリング調査を行った。第7期においては、ヒアリングのテーマとして、第6期の調査結果を踏まえて、例えば「内部障害において第5期と第6期を比べると話合いの機会の増加が大きい」と、その背景を確認する」「雇用から引退プロセスに着目してヒアリング対象者を選定してみる」また、「現在のところ2020年度はコロナ禍の影響で就業形態が変化している者が一定程度いると推測するため、就業形態が変化した事例の詳細を確認する」等を検討する。ヒアリング調査を継続することにより、パネル調査を補完し、社会情勢の変化を含む環境の変化、個人の障害状況等の変化による職業生活への影響の可視化に取り組んでいきたい。
- 第8期（調査終了）を見据えた研究計画について：次の第7期が終了すると第8期となり、職業サイクル調査研究の終了が目前となる。第7期の調査研究委員会では、この第1期から第8期までの調査結果を総合的に活用した研究として、具体的な研究テーマの設定及び補足調査研究の必要性等の検討を開始する予定である。第4期から第6期にかけては、仕事の満足度の変化について様々な要因との関連を中心として分析を進めたが、更なる分析視点の創出等を含めて職業サイクル調査研究を計画的かつダイナミックに進めていきたい。

卷末資料

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」の概要

調査の目的

- 障害のある労働者の就職、就労の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を長期縦断調査により明らかにすることを目的として、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就労の実現に向けての今後の施策展開の基礎資料を得る

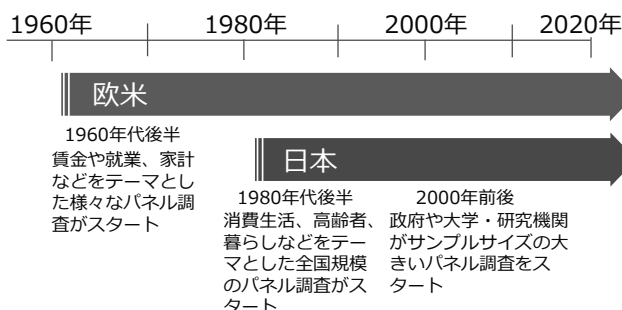
【職業サイクル】とは
「ライフサイクル」からの造語であり、本研究では障害者に特有のサイクルやパターンの特定を目的とせず、「キャリア」と同様の意味として、より柔軟な視点をもって考えている

パネル調査として計画

パネル調査とは

同じ対象者に一定間隔で同じ質問をたずねる調査方法

パネル調査の歴史

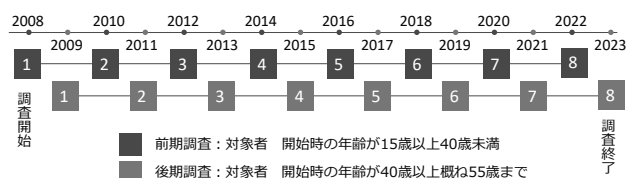


本研究のパネル調査

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のある方約1200名を対象として下記のスパンで16年間継続的に調査を実施

職業サイクル調査

2008年
時流をふまえて、16年にわたる障害のある労働者のキャリアに関するパネル調査を計画実施



※障害のある労働者を対象としたパネル調査としては国内随一のものであり、各方面から注目されている

実施体制

事務局

長期にわたる調査のため担当を入れ替えながら継続的に調査実施

調査実施
報告書作成

研究委員会の開催

調査準備・開始時は年に数回、第4期以降は年に1回程度開催

報告

助言

研究委員

学識経験者、当事者団体、事業主団体関係者などにより構成

調査方法や内容、結果の取りまとめに関する専門的な知見

調査対象者

対象者

- 企業や自営業で週20時間以上働いている障害のある労働者を対象
- 離職後も調査を継続して、キャリア形成の状況を確認

募集方法

- 各障害の当事者団体や家族団体、障害者を多数雇用する事業所、就労支援施設等を通じて対象者を募集
- 調査の趣旨を説明し、同意が得られた場合に調査対象者として登録

対象者の補充

- 調査対象者の減少と回収率の低下により、第3期調査に際して調査対象者の補充を行った

調査の実施方法

調査方法

7/1 調査日に指定

↓ 調査票を対象者に郵送

8/末 回収完了（目標）

調査票の形式

通常版、ルビ版、点字版、テキストファイルCD版、WordファイルCD版、etc.

※障害状況に合わせて対象者が選択

調査内容

職業生活を幅広く確認

対象者の基本属性



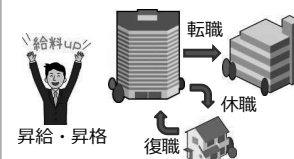
障害種類
年齢
性別
学歴
家族
etc.

就労状況



● 就労形態
● 職務内容
● 労働条件
etc.

仕事上の出来事



仕事に関する意識



● 仕事の満足度
● 職場への要望
etc.

その他、私生活上の出来事（結婚、出産、転居等）

偶数期のための質問：地域生活、医療機関の受診状況、福祉サービスの利用状況、体調や健康に関する相談先等

奇数期のための質問：年金受給の有無、収入源、経済的なことに関する相談先等

これまでの成果物



「資料シリーズ50」
「資料シリーズ54」



「調査研究報告書106」
「調査研究報告書118」
「調査研究報告書132」
「調査研究報告書148」

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究委員会（第6期）」設置要綱

1. 趣旨

障害者の安定した就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、雇用継続、離職（退職）等）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。

このため、障害者職業総合センター（以下「総合センター」という。）では、「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」（以下「調査研究」という。）において、障害を有する労働者個々人に対して、若年期を中心とする就職及びこれにつづく職業生活への適応の過程等を明らかにする調査と、一定の就業経験経過後の職業生活の維持・向上等の過程を明らかにする調査を、2年ごとに交互に各8回、平成19年度から平成35年度までの17年間を通した継続調査として実施し、これにより職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の安定した就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることとしている。

そこで、本調査研究の企画運営に関し専門的な助言を得るため、研究委員会を設置するものとする。

なお、本要綱は、第6期の調査研究に係る令和元年度及び令和2年度の研究委員会の運営について定めることとする。

2. 検討事項

- (1) 調査研究の企画に関すること
- (2) 調査実施に関すること
- (3) 調査結果の分析、報告資料の作成に関すること
- (4) その他、本調査研究の企画運営に関すること

3. 研究委員会の運営

- (1) 研究委員会は、次の者をもって構成し、総合センター研究主幹が委嘱するものとする。
 - イ．学識経験者
 - ロ．障害者団体関係者
 - ハ．使用者団体関係者
- (2) 研究委員会の座長は、学識経験者である研究委員会委員の中から、互選により選出する。
- (3) 研究委員会は、必要に応じて他の関係者の出席を求めることができる。
- (4) 研究委員会の事務局は、総合センター社会的支援部門に置く。
- (5) 研究委員会における議事及びその成果は総合センターに帰属するものとする。

4. 研究委員会委員

別紙1のとおり。 ※本調査研究報告書では本文「第1章第2節」に掲載している

5. 設置期間

研究委員会は、令和元年度及び令和2年度の間、各年度1回程度開催する。

6. 付則

この要綱は令和元年度及び令和2年度の適用とする。

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票

第 6 回 職業生活後期調査

令和元年 7 月 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 研究部門

このアンケート調査票は 5 つのブロックに分かれており、全部で 46 問の質問があります。

質問の答えによって、途中の質問を飛ばして進むことがありますので、**●ページ 問●●へ進んでください**
という案内と指定した色を確認してご回答ください。

また、その他を選択した時は、() 内にもご記入ください。よろしくお願いします。

ブロック 1 (すべての方への質問)

あなた自身の基本的なことについてうかがいます

あなたが現在お持ちの障害者手帳などについて、確認させていただきます。枠の中へ回答をお願いします。

お持ちの障害者手帳について、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。
次に等級と交付年月をカッコ内に記入してください。

- | | | |
|----------------------------|---------|---------------|
| 1. 身体障害者手帳 | () 級 | () 年 () 月交付 |
| 2. 療育手帳(「愛の手帳」、「みどりの手帳」など) | () 級・度 | () 年 () 月交付 |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | () 級 | () 年 () 月交付 |

前回の調査(2 年前、平成 29 年 7 月)以降、障害者手帳の有無や変更にかかわらず、医師の診断により、**新たに障害として確認された障害種**がありましたら、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|------------|---------|
| 1. 視覚障害 | 2. 聴覚障害 | 3. 肢体不自由 | 4. 内部障害 |
| 5. 知的障害 | 6. 精神障害 | 7. その他 () | |

問 1 あなたのご家族について、うかがいます。

次の中で同居している、していないにかかわらず、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|---|--------|-----------|-----------|---------|
| 1. 配偶者 | 2. 子ども | 3. あなたの父親 | 4. あなたの母親 | 5. 兄弟姉妹 |
| 6. その他(配偶者の父親、配偶者の母親、祖父、祖母、子どもの配偶者、孫など) | | | | |

ブロック1

問2 あなたの現在のお住まいについて、うかがいます。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
2. 家族（両親、兄弟など）の、持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
3. 会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれる住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
4. 福祉施設や地域の団体などが運営する援護寮、福祉ホームやグループホームなどの施設
5. その他（ ）

1～3に回答された方にうかがいます。

あなたは現在一人暮らしですか。

どちらかに○をつけてください。

1. はい

2. いいえ

問3 前回の調査（2年前、平成29年7月）以降、あなたが取得した資格や免許に**変更や追加**があれば、その内容を具体的に枠の中に記入してください（原付免許、英検2級など具体的に記入してください）。

問4 前回の調査（2年前、平成29年7月）以降、あなたやあなたの家族に起きた出来事について、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

1. 自分が結婚をした
2. 自分が離婚をした
3. 自分の子どもが産まれた
4. 自分が引越しをした
5. 自分が親元から離れて暮らし始めた
6. 自分が病気や事故で1ヶ月以上の入院をした
7. 自分が学校や能力開発校に通ったまたは卒業した
学校や能力開発校の種別をご記入ください→
8. 自分の障害に関する年金を受給しはじめた
9. 自分の障害に関する年金の受給がなくなった
10. 自分の親が離婚をした
11. 自分の親が仕事を辞めた
12. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、病気や事故で1ヶ月以上の入院をした
13. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）の介護が必要になった
14. 家族（父親、母親、配偶者、兄弟姉妹、子ども）が、亡くなった
15. 該当する項目なし

ブロック2

あなたのお仕事についてうかがいます

問5 現在、あなたは収入のある仕事についていますか。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。複数の仕事をされている場合（アルバイトを2つしているなど）、主な仕事1つについて回答してください。

- 
1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働いている（休業・休職中を含む）
 2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働いている
 3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働いている
 4. 自営業主または家族従業者として働いている
 5. 自宅にて内職で働いている
 6. 就労継続支援 A 型で雇用契約を結んで働いている
 7. 就労継続支援 B 型あるいは就労移行支援や地域活動支援センター（福祉作業所）などで雇用契約を結ばない形で働いている
 8. 仕事をしていない
 9. その他（ ）

7～9に回答された方は、**8ページ ブロック2B 問26**に進んでください

1～6に回答された方は、**4ページ ブロック2A 問6**に進んでください

ブロック2A (問5で1～6に回答された方への質問)

現在、会社やその他の機関もしくは自営で働いている方にうかがいます

問6 現在、あなたはいくつの仕事をされていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(アルバイトを2つしている場合は「2」になります。)

1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ以上

問7 あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(複数の仕事をされている場合、これ以降の質問は、主な仕事1つについて回答してください。)

1. ものを作る仕事
2. ものを売る仕事
3. 事務の仕事
4. ものを教える仕事(教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など)
5. 医療や福祉に関わる仕事(あん摩・はり・きゅうの仕事を含む)
6. 人を相手にするサービス業(「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます)
7. 清掃やクリーニングなどのサービス業
8. その他()

問8 あなたが6月に働いた時間は1週間あたりにすると何時間ですか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 20時間未満 2. 20時間以上30時間未満 3. 30時間以上(フルタイム)

問9 あなたの6月の休日は1週間あたりにすると何日ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上

問10 あなたが6月に受け取った給与(手取り)は、賞与(ボーナス)を除いていくらくらいですか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

(自営の場合には売り上げから経費などを引いた給与相当額として選んでください)

1. 7万円未満 2. 7万円以上13万円未満 3. 13万円以上25万円未満
4. 25万円以上40万円未満 5. 40万円以上

問11 あなたが去年1年間にもらった賞与(ボーナス)の額はいくらくらいですか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. なし 2. 10万円未満 3. 10万円以上30万円未満
4. 30万円以上50万円未満 5. 50万円以上100万円未満 6. 100万円以上

ブロック 2A

問 12 あなたの会社までの通勤に利用する手段は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 徒歩
2. 公共交通機関（JR や私鉄、公営や民営のバスなど）
3. 自転車
4. 原付やオートバイ
5. 自動車（自分で運転）
6. 自動車（家族や自分以外の人が運転する車や、会社の送迎バスなど）
7. その他（在宅勤務・電動車椅子・その他（ ））

問13 あなたの通勤にかかる合計時間（片道）は、どれくらいですか。

あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 30分未満 2. 30分以上1時間未満 3. 1時間以上1時間30分未満
4. 1時間30分以上2時間未満 5. 2時間以上

問 14 あなたの働いている会社（自営、内職を含む）の従業員数（規模）は、何人くらいですか。

あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 1～9人 2. 10人～49人 3. 50人～99人
4. 100人～299人 5. 300人～999人 6. 1000人以上
7. わからない

問 15 あなたは前回の調査（２年前、平成２９年７月）の時も現在と同じ会社（自営も含む）に勤めていましたか。どちらかに○をつけてください。（派遣社員の人は、派遣元についてお答えください。）

1. 同じ会社（自営を含む） 2. 同じ会社でない

問 16 あなたが現在の会社（自営を含む）で仕事をし始めたのは何歳のときですか。

歳するとき（枠の中に数字を記入してください。）

問 17 あなたは、自分の障害の内容（症状や配慮してもらいたいことなど）について、会社や職場の人に説明していますか。次の中から、**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 会社や職場の人ほとんどに説明している
(入社時に説明しているためあらためて説明する必要がない場合も含みます。)
2. 会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している
3. 全く説明していない (もし差し支えなければその理由を下にお書きください。)
4. わからない

ブロック2A

問 18 現在のあなたの職場で、実際に「理解や配慮がある」項目はどれですか。**あてはまる番号すべてに**
○をつけてください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他 ()
9. 特にない

問 19 **平成 28 年 4 月以降に**、あなたの職場において、あなたにとって支障となっていることの確認や話し合いの機会がありましたか。**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 今までと同じように確認や話し合いの機会があった
2. 新たに確認や話し合いの機会があった
3. 確認や話し合いの機会はまだない
4. よくわからない

問 20 あなたは、現在の仕事について、どの程度満足していますか。a～d の項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうちで**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

	満足	い え ば 満足	ど ち ら か と	い え な い	ど ち ら と も	い え ば 不 満	ど ち ら か と	不 満
a. 仕事の内容 →	1	2	3	4	5			
b. 給料や待遇（労働条件等） →	1	2	3	4	5			
c. 職場の人間関係 →	1	2	3	4	5			
d. 職場の環境（施設整備等） →	1	2	3	4	5			

問 21 あなたの会社では何歳まで働けるか決まっていますか。**どちらか**に○をつけてください。

1. 決まっている

2. 決っていない

(わからない、自営の場合を含みます。)

「1.決まっている」と回答された方にうかがいます。

あなたの会社では何歳まで働けますか。(定年後の再雇用などで働ける場合は、働けるもっとも高い年齢を記入してください。)

歳まで働ける

問 22 あなたは何歳まで仕事を続けたいと思いますか。(現在の仕事に限らず、働いていたいと思う年齢を回答してください。)

歳まで働きたい

ブロック2A

問23 あなたが仕事をする理由はどのようなことですか。a～gの項目について、それぞれ「あてはまる→1」から「あてはまらない→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

		あてはまる	あてはまる どちらかといえば	いえない どちらとも	あてはまらない どちらかといえば	あてはまらない
a. 収入を得るため	→	1	2	3	4	5
b. 社会とのつながりを持つため	→	1	2	3	4	5
c. 社会の中で役割を果たすため	→	1	2	3	4	5
d. 自分自身が成長するため	→	1	2	3	4	5
e. 生きがいや楽しみのため	→	1	2	3	4	5
f. 生活のリズムを維持するため	→	1	2	3	4	5
g. 心身の健康のため	→	1	2	3	4	5

問24 あなたは今後も現在の仕事を続けたいと思いますか。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 現在の仕事を続けたい
2. 現在の仕事とは別の仕事をしたい
3. もう仕事はしたくない
4. わからない

「2.現在の仕事とは別の仕事をしたい」と回答された方にうかがいます。

「別の仕事」として**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 別の会社に転職 | 2. 別の部署で今と異なる仕事 |
| 3. 今の職場でより責任のある仕事 | 4. 今の職場で責任を減らした仕事 |

問25 前回の調査（2年前、平成29年7月）以降、仕事に関係してあなたに起きた出来事について、**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。

1. 配置転換（部署の異動）があった
2. 上司が異動した
3. まわりで直接仕事などを援助してくれる人がいなくなった
4. 昇進した
5. 降格した
6. 給料が上がった
7. 給料が下がった
8. 休職をした
9. 出向した
10. 転職をした（前の職場を辞めて、別の会社に就職した）
→（最近2年間の転職回数： 回）
11. 該当する項目なし

10 ページ ブロック3 問31へ進んでください

ブロック2B (3ページの問5で7～9に回答された方への質問)

現在、福祉施設などで雇用契約を結ばない形で働いている方、あるいは、収入のある働き方はしていない方にうかがいます

問 26 あなたは前回の調査（2年前、平成29年7月）以降、仕事についていたことがありますか。
どちらかに○をつけてください。

（ここでは「仕事」とは、雇用契約を結んで働くこと、または自営や内職を指します。）

1. ある 2. ない（2年前より以前に会社などを辞めた人を含む）

「1. ある」と回答された方にうかがいます。

その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------|--------------------------------|----------------|
| 1. 事業主の都合 | 2. 定年退職（年齢 歳） | 3. 定年後の再雇用期間満了 |
| 4. 契約期間満了 | 5. 休職期間満了 | |
| 6. 自分の都合 | 7. その他（ ） | |
| 8. わからない | | |

「6. 自分の都合」と回答された方にうかがいます。

「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1. 仕事内容が合わなかった | 2. 賃金、労働条件に不満があった |
| 3. 職場の雰囲気・人間関係 | 4. 体調不良 |
| 5. 体力的にきつくなった | 6. 結婚 |
| 7. 出産 | 8. 家庭等の事情（介護など） |
| 9. その他（ ） | 10. わからない |

問 27 あなたは今後の仕事についてどのように考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 現在、就職活動をしている

1と答えた方は、次のページの間28と問29に回答してください

2. 今は就職活動をしていないが、将来的には仕事をしたいと思っている

3. 今後、仕事をするかどうか、今は決められない

4. 職業生活から完全に引退し、今後仕事をするつもりは全くない

4と答えた方は、次のページの間30に回答してください

2または3と答えた方は、差し支えない範囲で現状についてご記入下さい

（専業主婦・主夫、仕事につくための職業訓練や福祉施設を利用したい、治療中など）

10ページ ブロック3 問31へ進んでください

ブロック2B

問 28 あなたの今後の働き方の希望について教えてください。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働きたい
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働きたい
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働きたい
4. 自営業主または家族従業者として働きたい
5. 自宅にて内職をしたい
6. 就労継続支援 A 型で雇用契約を結んで働きたい
7. その他 ()

問 29 あなたは仕事を探すときに、相談する人や機関はありますか。**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 以前の職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他 ()
12. 相談したり利用したことはない

10 ページ ブロック3 問 31 へ進んでください

問 30 あなたが職業生活から引退した理由はどのようなことですか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 気力の面で難しくなったから
2. 体力の面で難しくなったから
3. 体調の面で難しくなったから
4. 後継者が育ったから
5. これまで十分に働き、自分の役割を果たしたから
6. 趣味や旅行など、引退後の生活を楽しむため
7. 家事や家族の世話（子育て、孫の世話、介護）に時間を充てたいため
8. ボランティアや地域の活動、当事者団体の活動に時間を充てたいため
9. もっと働きたかったが、働く先が見つからなかったから
10. もっと働きたかったが、働くための環境や条件が整わなかったから
11. 老齢年金を受給し始めたから
12. 定年の年齢になったから
13. 定年後の再雇用（継続雇用）の期間が終了したから
14. その他 ()

「10」と答えた方

差し支えない範囲で具体的にお書きください

「12. 定年の年齢になったから」と答えた方にうかがいます。定年を迎えた職場では、定年後の再雇用（継続雇用）について、職場から説明はありましたか。**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 説明はなかった・再雇用の制度自体がなかった
2. 説明はあったが、再雇用を希望しなかった
3. 再雇用を希望したが、雇用されなかった
4. その他 ()

10 ページ ブロック3 問 31 へ進んでください

ブロック3 (すべての方への質問)

あなたの地域での生活や健康のことについてうかがいます

問 31 地域の行事や集まり（青年会、スポーツや趣味のサークルなど）で、あなたが参加しているものがありましたら、枠の中にその内容を記入してください。

--

問 32 あなたは地域での生活（地域での役割や集まり、レジャーなど）に関して困ったことが起きたとき、主に誰に相談しますか。**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。あわせてカッコ内にあげている、**あてはまる人すべて**に○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センターの職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

問 33 ご自身の障害に関して、医療施設（病院、診療所、リハセンターなど）にどのくらい通院していますか。**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

1. 週に1回以上通院している 2. 月に1回以上通院している
3. 1年に数回通院している 4. 年に1回通院している 5. 通院していない

問 34 あなた自身が、働き続けるため、または、現在の生活を維持するために利用している福祉サービス（私的契約含む）がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 清掃や調理など家事の援助 2. 外出や移動の援助
3. 金銭管理に関する援助 4. その他
5. 利用したことはない

「1～4」のいずれかに回答された方にうかがいます。

利用されているサービス内容と、利用頻度（一ヶ月何日、1回何時間等）を記入してください。

ブロック3

問 35 あなたは体調や健康に関して困ったことが起きたとき、主に誰に相談しますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。あわせてカッコ内にあげている、あてはまる人すべてに○をつけてください。

1. 家族や身近な人（配偶者、子ども、父親、母親、兄弟姉妹、知り合い・知人、友人）
2. 職場（会社の上司、同僚、先輩、後輩、障害者職業生活相談員、産業医）
3. 就労支援機関（障害者職業センター職員、障害者就業・生活支援センター職員）
4. 居住している場所（グループホームの世話人や職員、自立訓練（宿泊型）の職員）
5. 福祉・相談機関（障害者相談支援事業所の相談員、社会福祉協議会の相談員、福祉サービスの職員）
6. 医療機関（病院の主治医、ケースワーカー、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師）
7. 行政機関（市町村の相談窓口の職員、ハローワークの職員、保健所の職員）
8. 訪問してくる支援事業所（居宅介護ヘルパー、訪問看護の看護師や職員）
9. 卒業した学校や現在通っている学校の先生
10. 同じ障害のある人の団体
11. その他（ ）
12. 相談したり利用したことはない

問 36 障害に限らず、あなたが仕事を続ける上で、体力や健康面などで心配なことがあれば、枠の中に具体的に記入してください。

--

ブロック4 (すべての方への質問)

あなたの仕事に対する考えなどについてうかがいます

問 37 あなたにとって次の項目は、仕事をするうえで、どのくらい重要だと思いますか。a～fの項目について、それぞれ「重要→1」から「重要でない→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

	重要でない	どちらかといえば重要でない	どちらかといえば重要	重要
a. 賃金や給料 →	5	4	3	1
b. 自分の能力・経験が発揮できること →	5	4	3	1
c. 仕事の内容 →	5	4	3	1
d. 職場の環境整備 →	5	4	3	1
e. 勤務時間や休日 →	5	4	3	1
f. 仕事仲間との人間関係 →	5	4	3	1

ブロック4

問 38 あなたが働く上で、会社や会社の人からのどんな配慮が必要であったか、またはあったら良いと考えていますか。**あてはまる番号すべて**に○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. 仕事やコミュニケーションを援助してくれる人をまわりに配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他（)
9. 特にない

問 39 あなたが仕事をする上で、会社や会社の人に特に望むことはどんなことですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。仕事についていない方も、ご自身の経験からお答えください。

1. 自分の障害のことを理解してほしい
2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい、会社が更に積極的に障害者雇用を進めて欲しい
3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい
4. 給与面を改善してほしい
5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい
6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい
7. 研修や教育訓練を充実してほしい
8. 社内の健康管理体制を充実してほしい
9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
10. その他（ ）
11. 特にない

問 40 新たに、平成 28 年 4 月から事業主は障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮の指針にそった対応が求められるようになりました。この指針について、あなたは聞いたり、読んだりしたことがありますか。**あてはまる番号 1 つ**に○をつけてください。

1. 指針の内容を把握している
2. 指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない
3. 指針について知らない

ブロック5 (すべての方への質問)

あなたの生活に対する考えなどについてうかがいます

問 41 あなたは普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

問 42 あなたが近い将来（5年くらい後まで）に実現したいことは何ですか。枠の中に自由に記入してください。

問 43 あなたは次にあげる仕事以外の生活のことについてどの程度満足していますか。a～dの項目について、それぞれ「満足→1」から「不満→5」のうちで**あてはまる番号1つ**に○をつけてください。

		満足	満足	どちらかといえば いいない	どちらとも	不満	どちらかといえば	不満
a. 家族との人間関係について	→	1	2	3	4	5		
b. 友人・知人との人間関係について	→	1	2	3	4	5		
c. 自分の体力や健康について	→	1	2	3	4	5		
d. 収入や経済生活について	→	1	2	3	4	5		

問 44 この調査についてのご意見やご要望がありましたら、枠の中に自由に記入してください。

ブロック5

問 45 あなたは回答を記入するにあたって他の人に手伝ってもらいましたか。

どちらかに○をつけてください。

1. 自分で回答を記入した
2. 他の人に手伝ってもらった(手伝われた方について、枠の中にあなたとの関係を記入してください)

※父親、母親、友達、会社の上司など
具体的に記入してください

問 46 あなたがこの調査票を記入したのはいつですか。枠の中に日付を記入してください。

令和元年

月

日

◆アンケートにご協力いただいた方に、謝品をお送りしています。ご希望の番号 1 つに○をつけてください。

選択が無かった場合は、クオカード(1,000 円分)をお送りします。

※謝品の発送には 2~3 ヶ月かかる場合があります。ご了承ください。

1. クオカード(1,000 円分) 2. 図書カード(1,000 円分) 3. 謝品の受け取りは辞退します

〔「クオカード」は、全国の主要なコンビニ
エンスストアなどで使えるカードです。〕

◆ご連絡先が変わった場合は、事務局までお知らせください。

住所が変わった場合やご結婚などでお名前が変わった場合、電話番号や FAX 番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡いただけると幸いです。

これでアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

サイクル便り

No.15 (2018 年度)

いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。
「サイクル便り」は調査にご協力いただいている皆様に、
年に一回お送りしております。調査結果の抜粋のほか、障
害のある方が働くことに関係のあるトピックスをお伝えし
ます。



はじめに

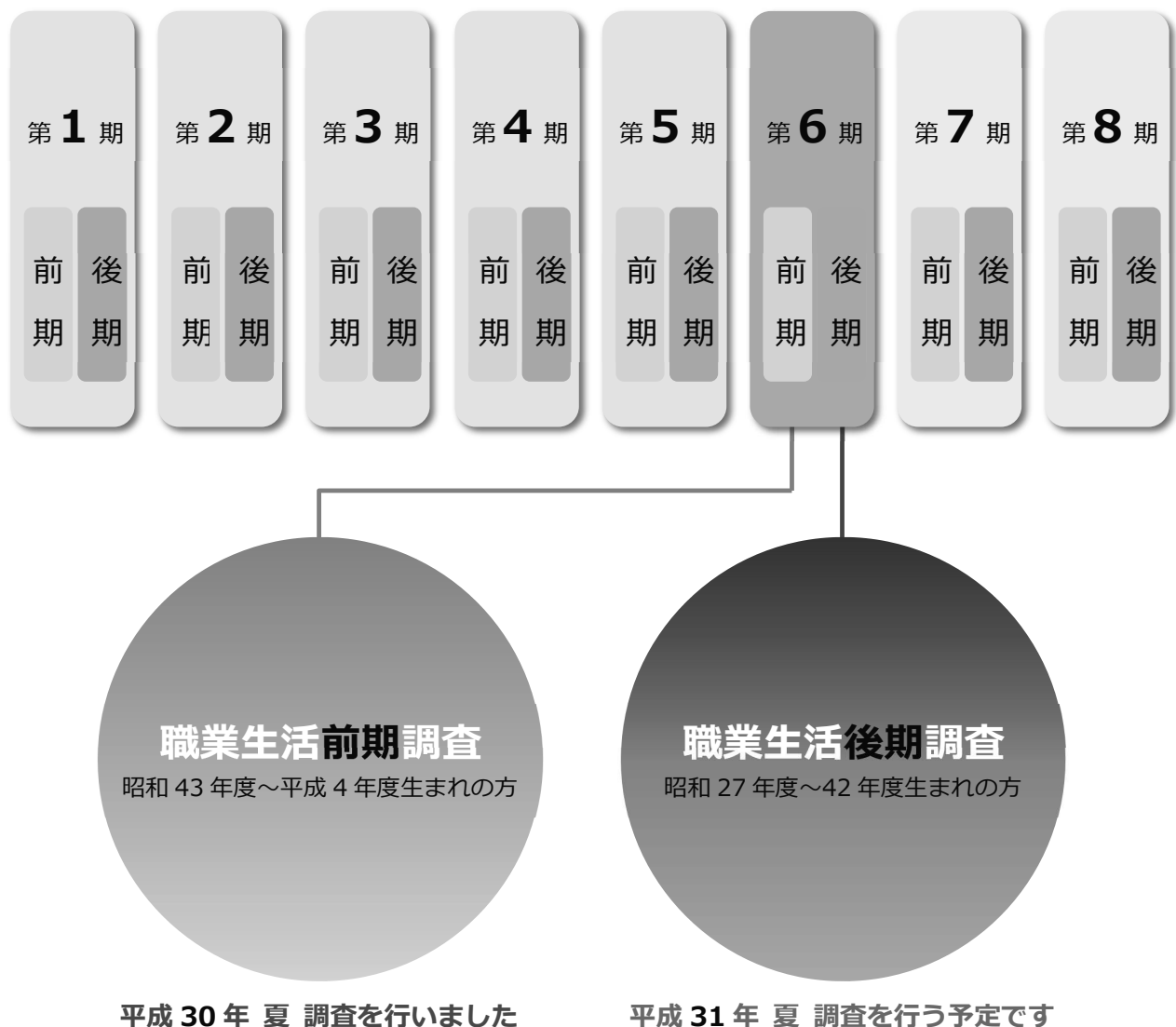
「職業サイクル」調査は、16 年間（全 8 期）の長期調査として平成 20 年度にスタートしました。

このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、現状どのような問題があり、今後どのような支援が必要なのかをできるだけ明らかにし、その対策を検討するためです。

同じような調査は国内では他になく、多方面から注目をいただいています。調査が続けられるのはご協力くださる皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

16 年間という長期間の調査ですので、途中の段階でもわかってきたことは積極的に発信していきたいと思っています。

これからもどうぞご協力をお願いします。



第 5 期職業サイクル調査にご協力いただき、ありがとうございました

第 5 期職業サイクル調査は平成 28 年・29 年に実施しました。ご協力いただき、ありがとうございました。

今回の調査では、約 6 割の方に調査へ回答いただきました。これまでにお送りしたサイクル調査にすべて回答いただいた方は、約 4 割いらっしゃいました。また、今回はじめて回答いただいた方もいらっしゃいます。

これからもサイクル調査へのご協力をお願いいたします。

障害別	調査対象者
視覚障害	113人
聴覚障害	228人
肢体不自由	234人
内部障害	119人
知的障害	282人
精神障害	115人
計	1091人

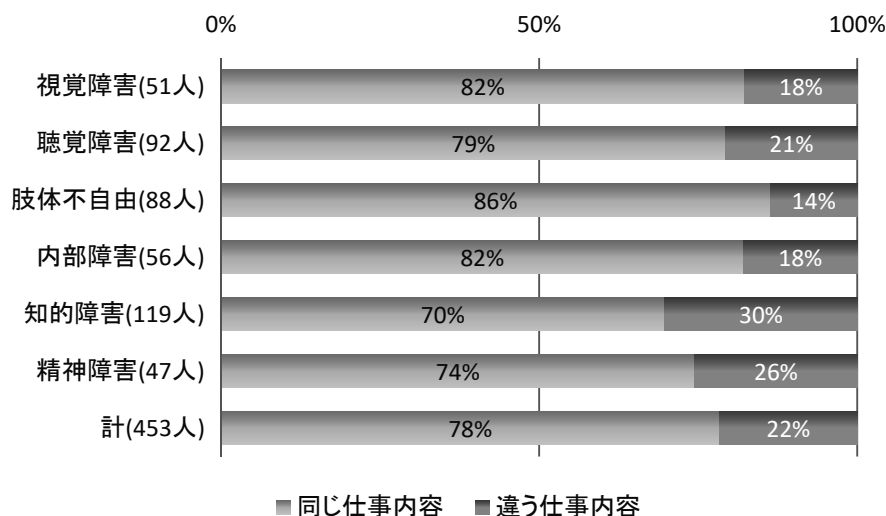
第 5 期職業サイクル調査には **660 人**の方々から協力いただきました。平均年齢は
前期 **36.4 歳**
後期 **55.1 歳**となりました。
長い期間の中で、様々な生活の変化について回答いただいています。

第 4 期から第 5 期にかけての仕事内容の変化

サイクル調査を開始してから 10 年が経ちました。

これまでの皆様の職業生活の変化について、今回は仕事内容の変化について報告します。

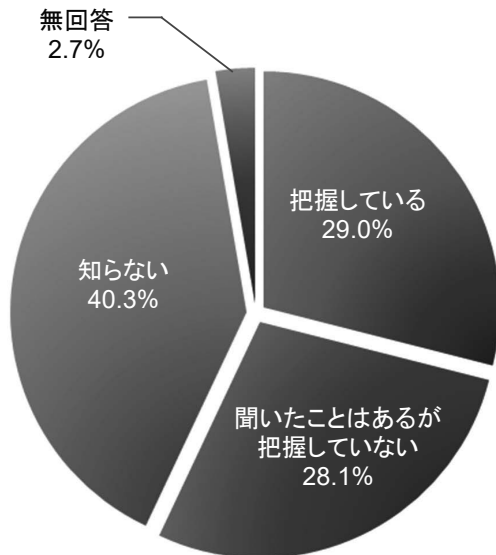
このグラフは第 4 期調査（平成 26 年・27 年実施）と第 5 期調査（平成 28 年・29 年実施）の両方に回答いただいた方の、2 年の間での仕事内容の変化について集計したものです。回答いただいた方全体でみると、約 2 割の方の仕事内容に変化がありました。このような仕事内容の変化は「第 1 期と第 2 期」、「第 2 期と第 3 期」、「第 3 期と第 4 期」を比べた時も約 2 割の方にありました。



障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮指針の把握状況

平成 28 年 4 月より、改正障害者雇用促進法が施行され、事業主は障害のある方への差別禁止指針と合理的配慮指針に沿った対応が求められるようになりました。

この二つの指針の内容について、職業サイクル調査にご協力いただいた方のうち、どれくらいの方たちが聞いたことがあるのか、今回の第 5 期調査から新しくお聞きしました。

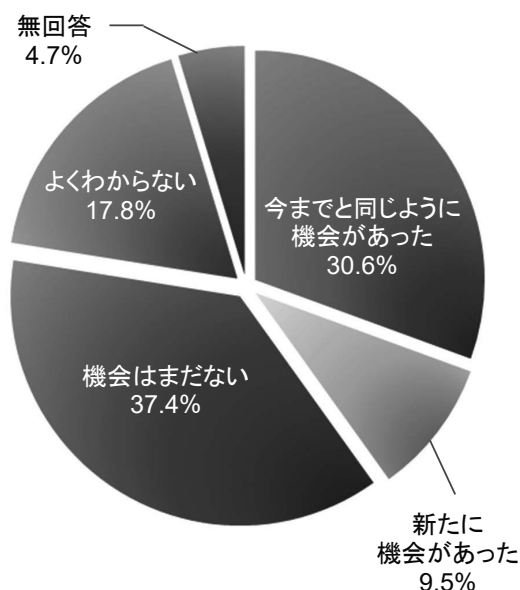


回答の「内容を把握している」「名称は聞いたことがあるが、内容は把握していない」を合わせると、半数を超える方が差別禁止指針と合理的配慮指針に触れる機会があったことがわかりました。

その一方で約 4 割の方が「知らない」と答えています。

職場での合理的配慮に関する話合いの機会の有無

第 5 期調査では、改正法が施行された平成 28 年 4 月以降に職場において、「あなたにとって支障となっていることの確認や話合いの機会」があったかどうかを新たにお聞きしました。



「今までと同じように機会があった」方と「新たに機会があった」方を合わせると、約 4 割の方に話合いの機会がありました。その一方で話合いの「機会はまだない」との回答も約 4 割です。

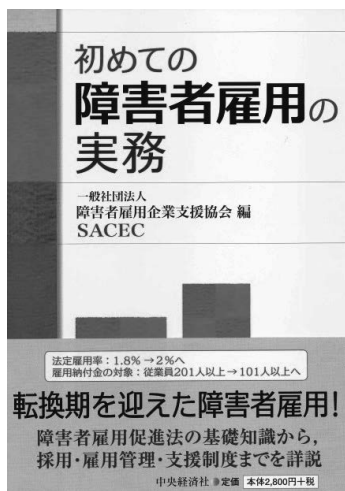
話合いの機会を持つことは、一人ひとりにとっての合理的配慮をご本人と事業主の間で確認するうえで重要です。

サイクル便りインタビュー

私たちは、東京都千代田区にある「一般社団法人 障害者雇用企業支援協会」を訪れました。そこで調査の研究委員としてご協力いただいている畠山専務理事にお話をうかがいました。

研究員：最近はどんな相談が多いのでしょうか。

畠山専務理事：どちらかといえば規模の大きい企業からが多く、テーマは障害者雇用全般にわたっていますが、相変わらず「特例子会社※をつくりたい」というご相談もあります。仕事の切り出し（開拓）・採用・指導・社内体制・業務管理や人事管理の在り方・支援員（指導員）の確保などを助言しています。ポイントは、「採用ありき」ではなく、しっかりと仕事内容を決めて準備してから採用に取り組むこと、加えて、専任できる障害者雇用の担当者を決めて責任感をもって進めることです。



障害者雇用企業支援協会の出版物

上で自らが大切にしてもらいたい5つの基礎的なポイントがあります。

1. 自分の障害を分かっている（受容している）。
 2. 働く意欲や目標を明確に持っている。
 3. 働き続けるための基礎的な体力がある。
 4. コミュニケーションができる。
- さらに付け加えるならば、
5. 家族にも働き続けることに協力姿勢がある。

研究員：ありがとうございます。ご本人だけではなく支援者もしっかりと押さえるべきポイントかと思います。では、転職について、どうお考えになりますか。

畠山専務理事：転職は悪いことではないと思います。A社で無理でもB社ではできることもあるでしょう。もちろん人それぞれですが、加齢により働くことが難しくなる人もいます。体力がもたず能率が低下する、勤務日数が減る、給料が減ったりする場合もあるでしょう。そういうときに支援機関へ戻って訓練を受けて、また労働市場へ帰ってくる、流動化を支える仕組みがあるといいと思います。

研究員：合理的配慮についてのご意見を。

畠山専務理事：配慮の有無は定着にも影響すると思いますが、「会社ができる配慮」と「障害者が求める配慮」の間には、ギャップがあり、応えられないこともあると思います。そのすりあわせには、何よりも話し合いが大事。定期的な社内での面談や家庭訪問などを通じて、会社の状況や家庭の様子などの情報交換をする例など、定期的に継続的に幅広くコミュニケーションを図ることは有効であると思います。

研究員：最後に働く障害者へのメッセージを。

畠山専務理事：「生活のリズムを守ること」ではないでしょうか。生活のリズムを守って仕事をしていくと、周りから信頼され、仕事が面白くなっていく。働く喜びにもつながると思います。「リズムを守って楽しく働きましょう」

研究員：ありがとうございました。これからもうサイクル調査は続きますので、ご協力をいただいている障害者の皆様の声を丁寧に把握してキャリア形成についてしっかり分析していきたいと思います。

※特例子会社とは

事業主が障害者の雇用に特別に配慮した子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、特例としてその子会社に雇用されている障害者を親会社に雇用されているものとみなして、実雇用率に算定できることとしています。

■ 今回のサイクル便りはいかがでしたか？

調査が始まってから 10 年が経ちます。データが蓄積され、様々な分析が可能になってきています。長く調査にご協力いただいている皆様のおかげです。

「サイクル便り」では、今後もさまざまな調査結果を集計して報告していきます。取り上げて欲しい内容やご不明な点がある場合は、何なりと事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

この調査では、お一人おひとりの職業生活について長期にわたりご回答をいただくことが重要です。退職してお仕事をされていない時や、職業生活から引退された後も、引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

■ 今年の夏、第 6 期職業生活前期調査へご回答はいただけましたか？

平成 30 年度は、昭和 43 年度～平成 4 年度生まれの方を対象に調査を実施しています。

調査票のご返送をくださいました皆様、ありがとうございました。

返送の目安として「平成 30 年 8 月末まで」としてありますが、今からでも構いません。

ご回答をためられて、まだ調査票がお手元にある皆様、どうぞご協力をお願いします。

現在お仕事をされている方だけでなく、お休みされている方や求職中の方、お仕事以外の活動を主にされている方もご回答いただけるとたいへんありがたいです。

ご協力いただいた方には、心ばかりのお礼の品として、クオカード（1,000 円分、全国のコンビニエンスストアなどで使えます）または図書カード（1,000 円分）をお送りしています。間違いなくお届けするため、お礼の品は簡易書留でお送りしております。受け取りにお手数をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ ご連絡先が変わった場合は、お知らせください

調査票や、お礼の品は郵送でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合やご結婚などでお名前が変わった場合は、裏表紙の連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号や F A X 番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただくと幸いです。



ご存知ですか？ アビリンピック

アビリンピックとは？

アビリンピックの正式名称は「全国障害者技能競技大会」です。「アビリティ」(ABILITY・能力)と「オリンピック」(OLYMPICS)を合わせて「アビリンピック」(ABILYMPICS)と呼んでいます。

本大会は、障害のある方々が日頃培った技能を互いに競い合うことを通じて、職業能力の向上を図るとともに、企業や社会の障害者雇用に対する理解を深め、その雇用を促進することを目的として開催しています。

全国 47 都道府県において開催する地方大会の成績優秀者が、本大会に参加します。

第 38 回となる今年の会場は沖縄県、来年は愛知県で開催予定です。



技能競技及び技能デモンストレーション

以下の 22 種目の技能競技と 2 種のデモンストレーションを実施しています。 ※第 38 回大会

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| ■ 洋裁 | ■ ワード・プロセッサ | ■ オフィスアシスタント |
| ■ 家具 | ■ データベース | ■ 表計算 |
| ■ DTP | ■ ホームページ | ■ パソコン操作 |
| ■ 機械 CAD | ■ フラワーアレンジメント | ■ パソコンデータ入力 |
| ■ 建築 CAD | ■ コンピュータプログラミング | ■ 縫製 |
| ■ 電子機器組立 | ■ ビルクリーニング | ■ 木工 |
| ■ 義肢 | ■ 製品パッキング | ■ ベッドメイキング (ホテル) |
| ■ 歯科技工 | ■ 喫茶サービス | ■ ネイル施術 |

国際アビリンピックとは？

国際アビリンピックは、1981 年 (昭和 56 年) の国際障害者年を記念して、世界で初めて東京で開催されました。以来、おおむね 4 年ごとに開催されており、2016 年 (平成 28 年) には、フランス共和国で第 9 回大会が開催されました。



お問い合わせ・ご連絡先

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
「職業サイクル」調査研究事務局 担当：高瀬

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話：043-297-9025 （月～金曜日 9：15～17：30）
FAX：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.or.jp



サイクル便り

No.16 (2019 年度)

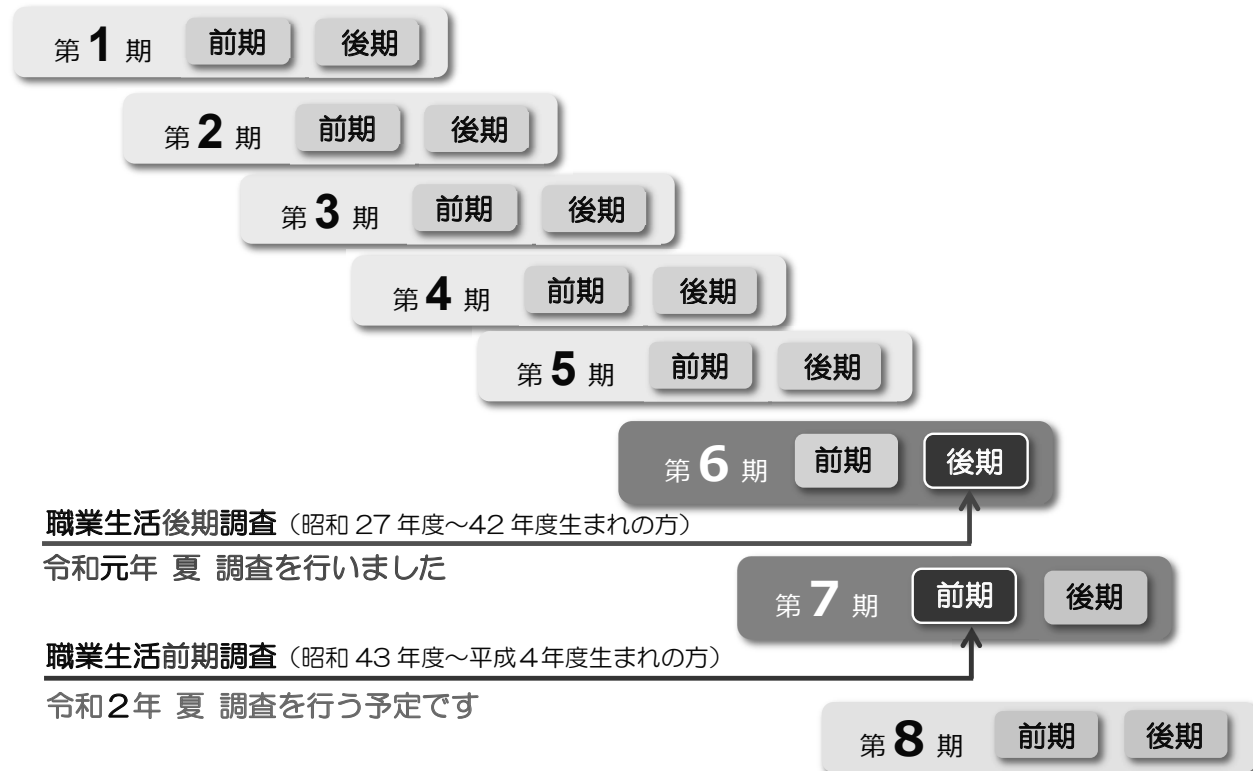


いつも調査にご協力をいただき、ありがとうございます。
「サイクル便り」は調査にご協力いただいている皆様に、
年に一回お送りしております。調査結果の抜粋のほか、
障害のある方が働くことに関係のあるトピックをお伝え
します。

はじめに

「職業サイクル」調査は、16 年間（全 8 期）の長期調査として平成 20 年度にスタートしました。

このような長期の計画とした目的は、お一人おひとりの職業人生における様々な「変化」を捉え、職業生活の全体像を把握することにより、現状どのような問題があり、今後どのような支援が必要なのかをできるだけ明らかにし、その対策を検討するためです。



調査研究報告書が完成しました

昨年 3 月に『障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 5 期）』調査研究報告書が完成しました。これまでの報告書と同様に、下記の手順でインターネットから全文ダウンロードできます。ここでは第 5 期調査の報告書をダウンロードする手順をご紹介します。（無料・PDF 形式）

① 障害者職業総合センター研究部門ホームページ
(<http://www.nivr.jeed.or.jp>) にアクセス

② 「調査研究報告書」をクリック

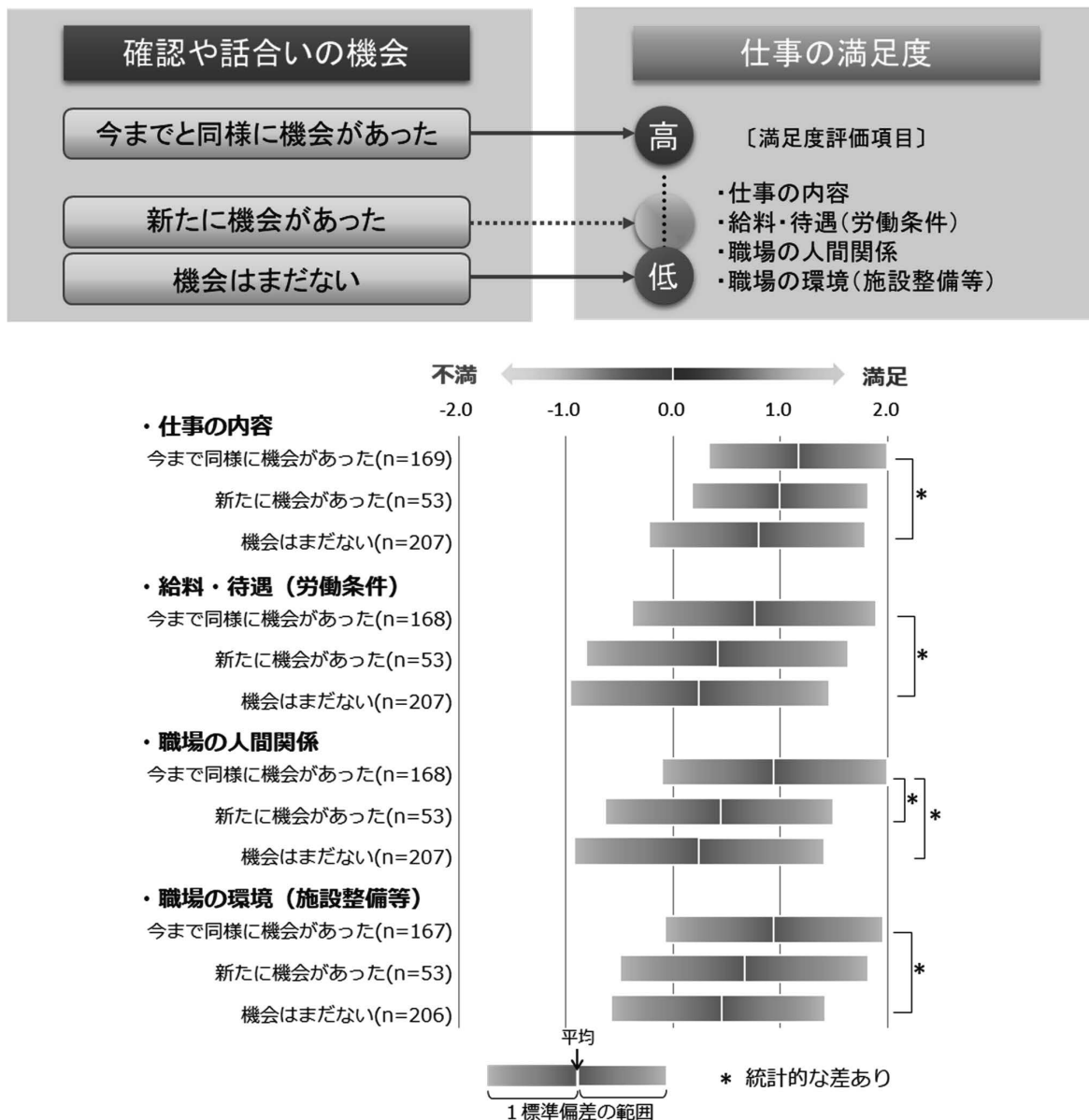
③ 調査研究報告書 No.148
「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 5 期）」をクリック

調査研究報告書（第5期）の内容を一部ご紹介します

第1期から第4期の報告書では、各調査項目の集計結果を掲載する他、複数の調査項目の結果を用いて様々な結果分析を実施してきました。これまでの結果分析の経過を踏まえ、第5期では仕事の満足度に注目して分析を実施しました。

職場での確認や話合いの機会は仕事の満足度にどう影響するのか？

合理的配慮の調整にあたり重要となる、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が、障害のある労働者の仕事の満足度にどのように影響しているか分析した結果、以下ようになりました。

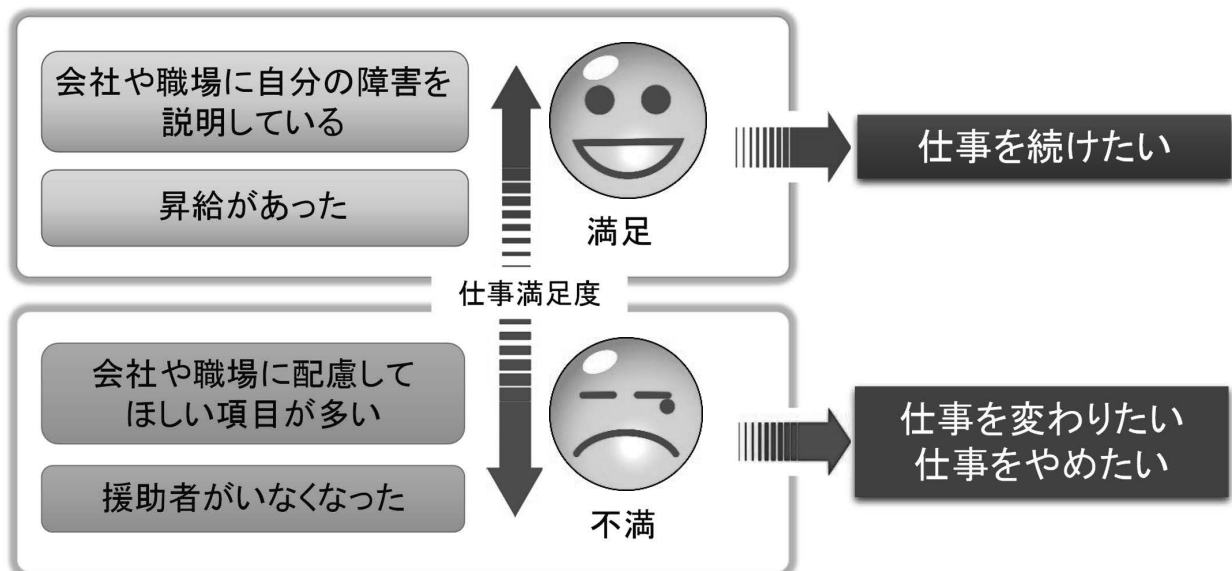


このことから、障害者と事業主の間で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が継続してあることが相互理解を促し、障害者にとってより満足できる仕事の実現につながったと考えられます。

また制度改定を受けて新たに話合いを始めて間もない段階では障害者と事業主の相互理解は得られにくく、今後いかに継続していくかが大切であると考えられます。

「仕事満足度」を決定する要因とは？

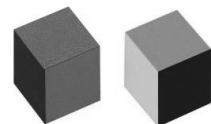
みなさんからいただいたアンケート結果を集計して分析を行ったところ、「仕事満足度」が「就労を続けたいという気持ち」や「離職」に密接に関係していることが分かりました。そこで今回はどのような場合に「仕事満足度」が高くなるのか、または低くなるのか、それを決定する要因について分析検討を行いました。その結果を模式図に示します。



これらの結果から、障害者の職場定着を図るためには、「職場のまわりの人たちに自分の障害について説明すること」、「障害を持つ人自身が必要と感じている配慮が行き届くこと」、「常に適切な援助者を職場に配置すること」などが大切であることが明らかとなりました。これらに加えて、「昇給があったこと」も「仕事満足度」に大きく影響しており、金銭的な報酬の重要性が再確認されました。

この結果に関しては、本調査を進める中で、継続して分析していく必要があると考えています。

令和5年まで続くパネル調査の中で、どのように変化していくのか、あるいは変化しないのか、注目していきたいと思いますので、今後とも引き続きアンケートへのご協力をお願いします。



今年からお話を聞く調査（ヒアリング調査）をしています

今年から、サイクル調査では、全国にお住まいの方のうち数名へヒアリング調査を行っています。

ヒアリング調査では、ご自宅のお近くにある会議室などへお越しいただき、これまでのお仕事や毎日の暮らしについて、1時間程度お話をうかがいます。ヒアリング調査へのご協力をお願いする時は、先にお電話やお手紙を差し上げて協力が可能かどうか確認しますので、その時はよろしくお願いします。

今年は5人の方からお話をお聞きしました。ご協力ありがとうございました。そのうちお一人のお仕事と暮らしについて、サイクル調査の研究委員のお話とともにご紹介します。

全国手をつなぐ育成会連合会の運営委員で、社会福祉法人の理事長をされている、松崎委員にお話をうかがいました。

◆40代女性、知的障害のある方のお話

家族と暮らしながら、雑貨や食料品を売る会社の販売店で18年前から働いています。その間に1回転勤があり、住む家を引っ越しました。

月曜日から金曜日まで1日6時間勤務で、商品の補充やお客様対応をしています。長く働いていて自分の仕事はしっかりとおぼえています。

働き始めたころよりお店で働く人が減って、何か困ったときの自分へのフォローが少なくなったと思います。家族は心配しているけど、私は大丈夫です。みんな仲良く楽しく働けるといいと思います。

仕事の他には絵を描いたり、手をつなぐ育成会の活動へも行っています。休日は家族と出かけることが多いです。

夢は海外旅行、そして結婚もしたいです。

みんな自分の希望や夢を持って働いてほしいです。

◆サイクル調査の研究委員、松崎伸一さんのお話

この方は、ご自分の仕事をきっちりこなして、会社からも頼りにされているのだと思います。その背景には、ご自分の力に加えて、毎日の生活をご家族がしっかりと整えていることがあるのでしょうか。

今はお元気にご家族と暮らし働いている方が、この先も長く安定した生活を続けていくために、地域での生活支援とどう接点を持っていけるか、手をつなぐ育成会でも話題になっています。

ご家族が調子を崩した中で新しく地域とつながりを持つことに苦労された経験を多くの方から聞きます。普段から地域の福祉と接点を持ち、例えば先を見据えてグループホームなどの生活の場のことを知ることは、今後の安心にもつながるかも知れません。

私たちの地元の東京の育成会では、ご本人同士の「本人部会」(ゆうあい会)の活動を通じて、地域での生活支援との接点を持ち続けている方も多いです。

自分の希望や夢を持って働いてほしいというメッセージ、将来のことを考えて地域での生活支援とつながることは大切であるという助言、ありがとうございました。

ヒアリング調査は来年も数名の方へお願いする予定です。「私の仕事について話したい!」という方がいらっしゃいましたら、裏表紙にある「職業サイクル」調査研究事務局までご連絡ください。



東京都の育成会の冊子
どりーむ通信

今回のサイクル便りはいかがでしたか？

調査が始まってから 11 年が経過しました。その間に年号が平成から令和に変わりました。

国内ではこのようなテーマの長期的研究は他に例がありません。蓄積されたデータをあらゆる角度から分析し、いろいろなことがわかってきました。長く調査にご協力いただいている皆様のおかげです。

「サイクル便り」では、今後もさまざまな調査結果を集計して報告していきます。取り上げて欲しい内容やご不明な点がある場合は、何なりと事務局までお問い合わせいただければ幸いです。

この調査では、お一人おひとりの職業生活について長期にわたりご回答をいただくことが重要です。

退職してお仕事をされていない時や、職業生活から引退された後も、引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

■ 昨年の夏、第 6 期職業生活後期調査へご回答はいただけましたか？

令和元年度は、昭和 27 年度～42 年度生まれの方を対象に調査を実施しています。

調査票のご返送をくださいました皆様、ありがとうございました。

返送の目安として「令和元年 8 月末まで」としておりますが、今からでも構いません。

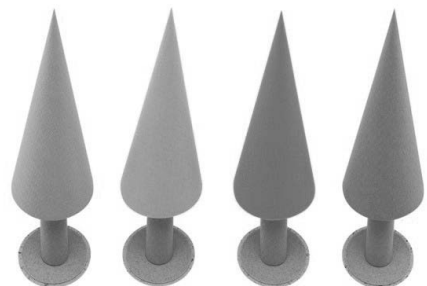
ご回答をためられて、まだ調査票がお手元にある皆様、どうぞご協力をお願いします。

現在お仕事をされている方だけでなく、引退やお仕事をやすみされている方、求職中の方、お仕事以外の活動を主にされている方もご回答いただけるとたいへんありがたいです。

ご協力いただいた方には、心ばかりのお礼の品として、クオカード（1,000 円分、全国のコンビニエンスストアなどで使えます）または図書カード（1,000 円分）をお送りしています。間違いなくお届けするため、お礼の品は簡易書留でお送りしております。受け取りにお手数をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

■ ご連絡先が変わった場合は、お知らせください

調査票や、お礼の品は郵送でお送りしています。間違いなくお届けするため、住所が変わった場合や、ご結婚などでお名前が変わった場合は、裏表紙の連絡窓口あてにお知らせくださいますようお願いいたします。郵便物が届かなかった場合の確認のため、電話番号や F A X 番号、メールアドレスを変更した場合もご連絡をいただけると幸いです。



ご存知ですか？～障害者雇用支援月間（毎年 9 月）～

毎年 9 月は「障害者雇用支援月間」です。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は、厚生労働省、都道府県と協力して、障害者雇用に関するさまざまな啓発活動を行っています。

◆ 障害者雇用支援月間ポスター

事業主の方々をはじめ広く国民のみなさまに障害者雇用への理解と関心を深めていただくため、絵画と写真を募集しています。

応募作品の中から選ばれた優秀作品をもとに障害者雇用支援月間ポスターを作成して、9 月に全国のハローワークなどで掲示しています。

入賞した作品を多くの方々にご覧いただくために、作品集を作成しています。また、入賞作品を直接ご覧いただくため入賞作品展示会を全国各地で開催しています。

ポスター原画は毎年 4 月から募集しています。

詳しい内容は次のウェブサイトに掲載されます。

<http://www.jeed.or.jp/disability/activity/contest/>

絵を描いたり、写真を撮影することに関心のある方は、ぜひ応募をご検討ください。

令和元年度 厚生労働大臣賞入賞作品



絵画の部 小学校
『かみを切っている私』



絵画の部 中学校
『家具職人』



絵画の部 高校・一般
『美容師さんの魔法の手』



写真の部
『求められる以上の品質』

◆ 障害者雇用職場改善好事例の表彰

障害者雇用において雇用管理、雇用環境等を改善・工夫し、さまざまな取組を行っている事業所の中から、他の事業所のモデルとなる好事例を募集して表彰しています。

受賞企業の事例をとりまとめて事例集を作成しています。



令和元年度 職場改善好事例集

◆ 障害者雇用優良事業所表彰

障害者を積極的に多数雇用された事業所に対し、その努力と功績を称える障害者雇用優良事業所表彰を行っています。

◆ 優秀勤労障害者表彰

模範的職業人として長期に勤続されている障害者に対し、優秀勤労障害者表彰を行っています。



お問い合わせ・ご連絡先

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門（社会的支援部門）
「職業サイクル」調査研究事務局 担当：高瀬

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話：043-297-9025 （月～金曜日 9：15～17：30）
FAX：043-297-9057 e-mail：cyclesav@jeed.or.jp

2020 年までに実施した分析・研究発表等

・発表 1

年月	2008 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 16 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期追跡調査（パネル調査）－障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究－
テーマ	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究の開始報告
内容	・視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害のある労働者に対して、2 年ごとに 8 回ずつ、2023 年度まで追跡調査する。 ・調査項目は、基本情報（障害・家族・住居・同居者・資格・学歴）、仕事について（現在の仕事・就業経験・就業希望の有無）、仕事や生活について（仕事に関する相談・生活するための収入）、仕事や生活に対する考え方について（仕事における重要度・配慮・満足感）などを継続的に質問し、その変化の過程等のデータを収集する。 ・この調査は、「就職、職場内での異動、離職・退職、再就職、引退、福祉施設への入所等の職業を中心とした地位の変遷」、「労働条件・労働環境、キャリア形成等」、「障害年金受給状況・生活のための所得状況」、「離職・退職の理由、再就職の時期と方法」、「引退の時期、引退後の生活等」について明らかにする予定である。 ・調査実施にあたり、個人情報管理には万全を期す。 ・調査対象となる障害者には、当事者団体等に依頼し、調査の概略を記した本人用リーフレットを作成し、本人の調査協力の内諾を取り付け、さらに正式依頼として、調査実施説明書を確認の上で調査協力同意書を提出してもらう手順をとった。
書誌情報	石黒豊・亀田敦志・三島広和・清水亜也・高橋寛（2008）第 16 回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 236-237.

・発表 2

年月	2009 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 37 回大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等に向けた長期継続調査（パネル調査）第 1 回報告 ―障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート A 調査（若年者）結果―
テーマ	第 1 期前期調査の結果報告
方法	2009 年 1 月に調査実施。
結果	・男女比は 2 対 1、平均年齢 29.3 歳、受障時期は就職前 7 割弱、配偶者あり 13%、一人暮らし 13%、最終学歴は高校・特別支援学校高等部が 4 割近く、専門学校・能開校 3 割、専攻科・大学 2 割強。 職業の状況 ・初職年齢は 18 歳が 3 分の 1、19 歳～23 歳まで各年齢で 5～10%強、初職前は学校在学が 8 割弱。 ・正社員 5 割強、パート・アルバイト 4 割弱。仕事内容は事務（35%）、ものづくり（25%）が多い。 ・就業時間は週 30 時間以上が約 4 分の 1。 ・仕事の満足度は、聴覚障害は全般的に満足度が低め。給与待遇面は知的障害が高く、人間関係は内部障害、知的障害、精神障害が高い。 ・働いていたい年齢は 51 歳～60 歳が半数、61 歳～65 歳が 4 分の 1。 ・仕事で困ったときの相談先は、母親 46%、父親 25%、上司同僚 41%、友人知人 35%、公的機関は障害者就業・生活支援センター15%、ハローワーク 13%。 経済状況 ・障害年金は 76%が受給。生活の収入源は年金と労働収入が 4 割で最多。 職業意識 ・仕事上の重要度は賃金給与が 9 割を超え環境整備と勤務時間が 8 割程度。 ・作業場の配慮は、「作業をわかりやすく」が 6 割弱、「作業スピード・量の調整」「周りに援助者を配置」が各 4 割強、知的障害、視覚障害が「作業手順」、聴覚障害が「援助者の配置」、内部障害、精神障害が「勤務時間、休みの調整」が多い。 ・会社の配慮事項は、「ずっと働き続けること」が 5 割を超え、次いで「障害の理解」が 5 割弱、「給与面の改善」4 割弱、「能力評価」3 割強。「ずっと働き続けること」は知的障害、精神障害で多い。「障害理解」は聴覚障害、精神障害で多い。
書誌情報	石黒豊（2009）日本職業リハビリテーション学会第 37 回大会プログラム・抄録集，31-32.

・発表3

年月	2009 年 12 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 17 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査（パネル調査）－障害のある労働者の職業サイクルに関する第 1 回アンケート調査（職業生活前期調査）結果報告－
テーマ	第 1 期前期調査の結果報告
方法	2009 年 1 月に調査実施。
結果	・男女比は 2 対 1、平均年齢は 29.3 歳。 ・障害程度は身体障害の過半数が重度障害、知的障害の 9 割と精神障害の全対象者が中軽度。身体障害では身体障害者手帳、知的障害では療育手帳をほとんどが所持。精神障害では精神保健福祉手帳を 89%が所持。重複障害は全体の約 7 %。受障時期は就職前が 7 割弱。 ・最終学歴は高校・特別支援学校高等部が 4 割近く、専門学校・能開校 3 割強、専攻科・大学 2 割強。特別支援学校への在学経験者は 44%。視覚障害、知的障害で各 7 割前後、聴覚障害・肢体不自由は各 4 割弱。 職業の状況 ・労働時間はほぼ 4 人中 3 人が週 30 時間以上。 ・給与（月額）は 13～25 万円が 42%、7～13 万円が 39%。障害別では身体障害で 13～25 万円が 63%、知的障害で 7～13 万円が 66%、精神障害で 7～13 万円が 50%。 ・仕事の満足度は全体的に知的障害で高め、聴覚障害は低め。給与待遇面で知的障害、肢体不自由が高く、人間関係は内部障害、知的障害が高い。 経済の状況 ・障害年金は 76%が受給。 ・生活の収入源は年金と労働が 40%、労働のみが 17%。家族などの支援が 4 割弱。視覚障害と内部障害の対象者は経済的自立度が高い。 職業意識 ・作業上の配慮事項は、視覚障害、知的障害で「作業をわかりやすく」、聴覚障害で「周りに援助者を設置」、内部障害、精神障害で「勤務時間、休みの調整」、肢体不自由で「作業をわかりやすく」と「作業スピード・量の調整」が各 5 割前後。 ・会社の配慮事項は「ずっと働き続けること」が 54%。知的障害、精神障害に多い。次いで「障害の理解」が 49%。聴覚障害、精神障害に多い。以下「給与面の改善」37%、「能力評価」33%。
書誌情報	石黒豊・亀田敦志・田村みつよ・清水亜也・森山葉子（2009）第 17 回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集，352-355.

・発表 4

年月	2010 年 11 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 18 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査（パネル調査）－障害のある労働者の職業サイクルに関する第 1 回アンケート調査（職業生活後期調査）結果報告－
テーマ	第 1 期後期調査の結果報告
方法	2009 年 7 月に調査実施。
結果	・男女比は 7 対 3。平均年齢 47.1 歳。50～54 歳が内部障害では 50%、知的障害、精神障害ではそれぞれ 20%、9 %と障害別で年齢構成にやや偏りあり。 ・障害程度は身体障害の過半数が重度障害、知的障害の 9 割、精神障害の全対象者が中軽度。受障時期は就職前が 5 割弱、就職後が約 34%。 ・最終学歴は高校・特別支援学校高等部が 3 割近く、専門学校・能開校が 3 割弱、専攻科・短大・大学・大学院が 2 割強。特別支援学校への在学経験者は 38%。視覚障害は 84%、聴覚障害は 60%、知的障害は 47%、肢体不自由は 19%。内部障害、精神障害はほとんどなし。 職業の状況 ・就業形態は正社員 65%、パート・アルバイト 25%。知的障害、精神障害ではパート・アルバイトが過半数。視覚障害では自営が 25%。 ・労働時間は週 30 時間以上が 76%。知的障害、精神障害には週 30 時間未満が多い。 ・仕事の満足度は知的障害で全般的に高め、聴覚障害は全般的に低め。 ・働いていたい年齢は 51～60 歳が 45%。聴覚障害、知的障害に多い。61～65 歳は 24%。 経済の状況 ・障害年金は 76%が受給している。生活の収入源は年金と労働が 48%、労働のみが 20%。家族などの支援は 27%が受けている。 職業意識 ・作業上の配慮事項は視覚障害、知的障害で「作業をわかりやすく」、聴覚障害で「周りに援助者を配置」、内部障害、精神障害で「勤務時間、休みの調整」、肢体不自由で「作業をわかりやすく」と「作業スピード・量の調整」が各 5 割前後。
書誌情報	田村みつよ・亀田敦志・山下英三（2010）第 18 回職業リハビリテーション研究発表会論文集，58-61.

・発表 5

年月	2011 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 39 回愛知大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査 第 2 回報告 ―障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査結果―
テーマ	第 2 期前期調査の結果報告
方法	第 1 期調査実施からの 2 年間で起きた仕事上の出来事に関する質問項目のうち、特に回答の多かった「昇給」と「配置転換」の二つについて報告する。
結果	・第 2 期前期調査の結果のうち、下記の「2 年間で起きた仕事上の出来事」に関する項目について、第 1 期調査実施時との比較を行う。 「2 年間で起きた仕事上の出来事」に関する項目は、「配置転換」「周囲の援助者がいなくなった」「昇進した」「給料が上がった」「給料が下がった」「正社員になった」「休職をした」「転職をした」「会社が倒産した」の 9 つ。 結果 1 昇給 ・上記項目の中で「給料が上がった」と回答した者が最も多かった。特に精神障害で 53.3%と割合が高いが、その一方で昇給していても給料や待遇面の満足度が下がっている者が 43.8%いた。 ・精神障害の対象者では、昇給と同時に「周囲の援助者がいなくなった」場合に就業継続の意思（「今の仕事を続けたい」）が「別の仕事がしたい」「わからない」に変化する例が多かった。 結果 2 配置転換 ・2 番目に多かったのが「配置転換」で、特に内部障害では対象者の半数と割合が高い。内部障害の対象者は、第 1 期調査時に「今の仕事を続けたい」と回答した者が他の障害より少ない傾向にあった。 ・内部障害で健康についての主な相談先は主治医や家族が多く、支援機関は少ない。
書誌情報	田村みつよ（2011）日本職業リハビリテーション学会第 39 回愛知大会プログラム・発表論文集，90-91.

・発表6

年月	2011 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 19 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 2 期）
テーマ	第 2 期前期調査の結果報告
方法	第 2 期前期調査の結果のうち、第 1 期調査からの 2 年間で調査対象者に起きた出来事について、ライフイベントや仕事に関係する項目を中心に報告する。
結果	結果 1 結婚・子どもの有無 ・「結婚している」が 53 人 (15.6%)、「結婚していない」が 270 人 (79.4%)。 「子どもはいる」は 22 人 (6.5%)、「子どもはいない」は 261 人 (76.8%)。 結果 2 ライフイベント ・最も回答が多かったのは「引越しをした」(42 人、12.4%)。以下、「結婚をした」「家族が病気や事故で一ヶ月以上の入院をした」「自分の親が仕事を辞めた」「親元から離れて暮らし始めた」が続いている。 結果 3 医療施設への通院状況 ・通院状況について、単独の項目では「通院していない」が 43.8%と最も多い。通院している者の頻度では「一年に一度以上通院」が 75 人 (22.1%)。これに他の通院頻度「週に一度以上」「月に一度以上」「一年に数回」を加えると 183 人 (53.8%) で、通院していない者を上回る。 結果 4 最近 2 年間で起きた仕事上の出来事 ・回答者 309 人。最も多かったのが「給料が上がった」105 人 (34.0%)、次いで「配置転換があった」59 人 (19.1%)。 考察 ・第 1 期調査以降に「昇進した」と回答した者は、回答者 309 人中 15 人と 5%程度確認された。彼らは「能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい」(33%) と回答する一方で、仕事をする上で「作業手順をわかりやすく」「作業スピード・量の調整」といった配慮を必要としている。職場環境の変化に伴っては、きめ細やかな個別の配慮が必要になることが推測される。
書誌情報	田村みつよ (2011) 第 19 回職業リハビリテーション研究発表会発表論文集, 208-211.

・発表 7

年月	2012 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 40 回（熊本）大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査（第 3 回報告）－障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査結果－
テーマ	第 1 期調査及び第 2 期調査の就業形態に関する結果の比較
方法	第 1 期調査及び第 2 期調査の就業形態に関する回答結果を比較する。
結果	・ 2 回とも回答した者は前期調査 327 人、後期調査 293 人だった。 結果 1 就業形態の変化 ・ 就業形態に変化があった者の割合は前期調査（16.5％）の方が後期調査（10.2％）よりも高い。 結果 2 現職継続の意思 ・ 現職の継続を希望する回答は前期調査が第 1 期 66.7％から第 2 期 62.5％、後期調査が第 1 期 62.9％から第 2 期 57.0％。若年層（前期調査対象者）の方が中高年層（後期調査対象者）よりも現職継続を希望する割合が高い。 考察 ・ 若年層の現職継続を希望する割合の高さについて、就職自体の機会の厳しさや中高年層と比較して非正規雇用への変化率が高い等の状況が反映されたと推察される。 ・ 中高年層では、就業中の事業所での定年延長のあった者が増加した一方、非就業や福祉的就労へ移行した者も対象者の 5.8％見られた。転職での労働力移動は少ない。 ・ 中高年層では配置転換で仕事が変わった者がいるが、職場内での障害マネジメントについては就労支援機関への相談利用は少なく、支援課題の一端が示唆されている。
書誌情報	田村みつよ（2012）日本職業リハビリテーション学会第 40 回熊本大会プログラム・発表論文集，102-103.

・発表 8

年月	2012 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 20 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（1）
テーマ	第 1 期から第 2 期調査までの結果報告
方法	第 1 期と第 2 期の調査結果のうち、就業状況に関する項目を中心とした前期調査と後期調査や、障害別での比較。
結果	・前期調査と後期調査の傾向の違いの要因は 2 つあった。 要因 1 ・前期調査と後期調査の調査対象者のコーホート（共通した因子を持ち、観察対象となる集団）において、職務経歴と受障時期のキャリアが異なる。 ・後期調査対象者は前期調査対象者と比較して「転職率が高い」「障害の診断時期が初職後（中途障害）の者が多い」という集団特性がある。 要因 2 ・給与額区分の変化 第 1 期と第 2 期を比較すると、後期調査の方が変化した者が多い。具体的には区分が下がった者が多く、特に区分の高い者ほど下がる割合が高い。 ・勤務条件に関する結果 職場で必要な配慮の「作業をわかりやすく」「作業スピード・量の調整」勤め先をお願いしたいことの「ずっと働き続けること」「困りごとの相談ができるように」が、後期調査と比較して前期調査で回答率が高い項目。 ・障害に固有の配慮事項 視覚障害「機器・設備の改善」、聴覚障害「周りに援助者を配置」「障害や障害者の理解」「障害者の仲間を増やす」「研修・教育訓練の充実」、内部障害「勤務時間、休みの調整」、精神障害「勤務時間、休みの調整」「困りごとの相談ができるように」の回答率が高かった。 第 2 期調査で回答率が増加した項目として、肢体不自由「勤務時間、休みの調整」、内部障害「障害や障害者の理解」「作業スピード・量の調整」があった。 ・中高年労働者の就業形態の変化 健康問題や家庭事情により、正社員から非正規や「仕事をしていない」になった者が 11.2%いた。
書誌情報	田村みつよ・亀田敦志（2012）第 20 回職業リハビリテーション研究発表会論文集，282-285.

・発表 9

年月	2012 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 20 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（2） ―長期キャリアパターンを有する障害者の地域活動における役割―
テーマ	障害者の職業キャリアと地域活動における役割の考察
方法	第 1 期調査の資格に関する回答のまとめ、および千葉県における障害者雇用に関する取り組みや先行調査の結果のまとめ。
結果	第 1 期調査結果 ・職種は事務職が多く、後期調査では 54.1%と半数を占めている。 ・福祉資格従事職種として、前期調査で 34 人（9.0%）、後期調査で 47 人（11.8%）が「医療や福祉に関わる仕事」に従事している。 地域の取り組み及び先行調査 ・千葉市「障害者生活実態・意向調査」 一般就労に必要なこととして「職場の障害理解の促進」「支援者の充実と継続的なフォロー」「短時間勤務やグループ就労の受け入れ」が挙げられる。 ・千葉県「障害者雇用に関する意識調査」 障害者雇用に関して「大いに満足」「満足」「普通」を合わせると 80%を超える。一方で企業側からの不満として「休みが多い」「支援者が必要」「事故等に気を使う」「仕事にムラがある」「障害のある人に適した仕事の業務量が少ない」などが挙げられている。 ・シルバー人材センターの就業方式 高齢者の能力や体調に合わせて働くことができ、「生きがい」を提供している。障害者就労と共通する点があるのではないかと。 考察 ・職場定着のためには「職場の同僚との関係性」「サポートの重要性」が考えられる。 ・取得した資格を生かして働きたい障害者と、企業が障害者に求める業務内容との違いが見られる。 ・地域での職業キャリア支援をさらに推し進める必要がある。
書誌情報	綿貫登美子・田村みつよ（2012）第 20 回職業リハビリテーション研究発表会論文集，286-289.

・発表 10

年月	2013 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 41 回埼玉大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等に向けた長期継続調査（第 4 回報告） ―障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査結果―
テーマ	第 3 期前期調査の報告
方法	職業生活の状況を集計し、第 1 期前期調査からの回答の変化をあわせて報告する。
結果	・手帳等級の重度化・障害の重複が 3.4%に見られた。 家族形成の状況変化 ・配偶者ありへの変化が 4.1%、子供ありへの変化が 3.0%。 ・父母との同居からの自立が 7.5%。生活のための収入源は 42.1%に変化があり、家族への依存度が高くなった者は 10.9%、低くなった者は 14.3%。 仕事に関する出来事 ・昇給は 34.9%、昇進は 2.9%、配置転換は 18.2%が回答した。 ・対象者の半数以上に転職経験がある。転職前後の就業形態を見るとパート・アルバイトからパート・アルバイトになった者が 36.7%。 ・配置転換後に「作業をわかりやすく」（33.3%から 50.0%）、「ずっと働き続けること」（30.0%から 53.3%）の回答率上昇が見られた。 ・3 回の調査全てに回答した 230 人の、第 3 期調査時点での仕事の継続意思は、「続けたい」から「別の仕事をしたい」「わからない」への変化が 25 人（10.9%）。逆に「別の仕事をしたい」「わからない」から「続けたい」への変化が 31 人（13.5%）だった。 就業形態に変化のない者が職場に求める配慮事項 ・継続して正社員の者は 39.1%。求める配慮は「通勤の便宜を図る」「安全や健康管理」「能力評価」「障害理解」の項目の割合が高い。 ・継続してパート・アルバイトの者は 30.8%。求める配慮は「作業をわかりやすく」「作業スピード・量の調整」「ずっと働き続けること」の項目の割合が高い。
書誌情報	田村みつよ（2013）日本職業リハビリテーション学会第 41 回埼玉大会プログラム・発表論文集，96-97.

・発表 11

年月	2013 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 21 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 3 期）その 1
テーマ	第 1 期から第 3 期の調査期間（4 年間）における就業状況の動向を報告
方法	就業状況に関する第 1 期調査と第 3 期調査の回答の比較。
結果	・就業形態について、正社員は 110 人で第 1 期調査の 83.3%、パート・アルバイトは 85 人で第 1 期調査の 72.0%だった。 就業形態に変化のないグループの回答結果 ・第 1 期から第 3 期まで全ての調査に回答した者（全回答者）は 266 人。 ・正社員を継続している者は 104 人（全回答者の 39.1%）で、このうち 59 人（56.7%）に転職経験がある。パート・アルバイトを継続している者は 82 人（全回答者の 30.8%）で、うち 48 人（58.5%）に転職経験がある。 仕事で重要視すること ・正社員継続者では肢体不自由で「環境整備」、知的障害で「賃金給与」と「能力や経験」が重要視されている。 職場に求める配慮事項で、全体と比較して高い回答割合の項目 ・正社員継続者では「通勤の便宜を図る」「健康管理」「機器や設備の改善」の回答割合が高い。 ・パート・アルバイト継続者では「作業をわかりやすく」「作業スピード・量の調整」の回答割合が高い。 職場への要望で、全体と比較して高い回答割合の項目 ・正社員継続者では「能力評価」「障害理解」の回答割合が高い。 ・パート・アルバイト継続者では「ずっと働き続けること」。「能力評価」の割合は正社員継続者とは反対に全体と比較して割合が低い。
書誌情報	田村みつよ・綿貫登美子・永瀬聡子（2013）第 21 回職業リハビリテーション研究発表会論文集，346-349.

・発表 12

年月	2013 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 21 回職業リハビリテーション研究発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 3 期）その 2
テーマ	第 3 期調査における東日本大震災の体験に関する回答内容の報告
方法	第 3 期調査への自由記述の回答から、障害のある労働者の東日本大震災の体験について報告する。
結果	・ 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災について、自身や家族の体験、仕事先で起きたこと、それらの体験の中で特に困っていることなどを自由記述の形式でたずねた。 ・ 2013 年 8 月 27 日までに調査票に回答した 733 人のうち前期調査 120 人、後期調査 106 人から記述での回答があった。 被災の体験 ・ 親族や同僚を亡くした。 ・ 単身での出張中に被災し、介助者が不在で情報が入らないまま会社からも放置された（視覚障害）。 緊急時に向けての課題 ・ 地震が起きた場合、待機か帰宅かの判断が出来ないので会社に頼らざるを得ないが、どのような指示をされるか不安（知的障害の対象者の保護者）。 雇用継続への影響 ・ 震災が直接の原因で離職した。 ・ 仕事量の減少に伴い収入が減った。 ・ 仕事量の増加に伴い精神的負担を感じる。 雇用継続に影響のあった具体例 ・ 震災後数日間は勤務が不規則となり、通常のオペレーションに戻る時に体がついていけず欠勤、辞めてしまった（精神障害）。 ・ 透析で通院している病院の診察時間に変更され、通院のため早退の必要性が生じたが上司の理解が得られず。結果的に離職した。 ・ 仕事量が減り離職に至ったが、就労継続支援事業所 B 型からステップアップして A 型事業所で働いている。
書誌情報	綿貫登美子・田村みつよ（2013）第 21 回職業リハビリテーション研究発表会論文集，350-353.

・発表 13

年月	2014 年 3 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本リハビリテーション連携科学学会第 15 回大会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究：パネル調査の中間報告
テーマ	第 3 期調査終了時点での経過報告
方法	調査の目的・方法といった基本事項と、第 3 期調査での就労継続に関する結果の報告。
結果	・障害のある労働者の入職から退職までの長期的職業生活スパンの様相をパネル調査で明らかにする。 ・幅広い障害と年代の調査対象者を確保した、代表性をもった対象者群（コーホート）への調査であり、問題発見的な分析となる。 ・郵送法によるアンケート調査。 ・出生年齢によって、職業生活前期調査（職業生活への適応の過程を調べる）と職業生活後期調査（職業生活への維持向上の過程を調べる）に分け、毎年交互に行う。 第 3 期調査の就労継続に関する結果 ・離職者は回答者全体の 5.7%。理由は「体調不良」が多い。 ・40 代前半までは能力開発校の利用などにより再就職率が高いが、中高年層では就職活動の長期化が見られた。 ・「仕事の継続意思」とその後の展開について「今の仕事を続けたい」として就業形態に変化のない者は若年層で 91.6%、中高年層で 77.5%だった。 ・同じく「仕事の継続意思」について「別の仕事をしたい」として転職や配置転換が起こった者は若年層で 21.2%、中高年層で 37.0%だった。 ・転職は 30 代と 50 代に多く、就業形態ではパート・アルバイトで起こりやすい。 ・転職後に給与区分が下がる者が多く、中高年層では勤務時間が短くなる者も多い。 ・非就労期に希望する配慮は障害理解や長期継続雇用や職場への相談者の配置が多く、給与面の改善は全体の割合よりも低い。 ・学卒後そのまま初職を継続している者は全体の 3 割であり、就労継続のための何らかの支援や配慮が求められている。
書誌情報	田村みつよ（2014）日本リハビリテーション連携科学学会第 15 回大会プログラム・抄録集，49.

・発表 14

年月	2014 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 42 回岩手大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等に向けた長期継続調査（第 5 回報告） ―障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査結果―
テーマ	第 3 期後期調査の報告
方法	第 3 期後期調査の就業に関する集計結果を報告する。
結果	・第 2 期調査と第 3 期調査の間で、就業形態の変化が全体では 15.4%、知的障害では 29.4%、肢体不自由で 15.8%見られた。 ・第 1 期調査から第 3 期調査までの間に離職体験のあった 22 人について、離職理由は半数近くが自己都合だった。また自己都合の詳細（複数回答）は、「体力的にきつい」「体調不良」に半数が回答した。 ・法制度上の高齢者の雇用義務が段階的に設定され 2013 年には希望者全員が 65 歳までとなった。後期調査対象者の働ける年齢も「65 歳まで働ける」人が第 1 期調査の 29.6%から 49.0%に変化するなど、高齢期にスライドしている。 ・定年制度年齢の引き上げに関して、便宜的に 55 歳で分けると定年間近な年代よりも定年までに猶予のある年代で「定年まで働きたい」人が減少している。働き続けることについての不安感が示唆された。 ・ライフイベントでの「自分の長期入院」の生起頻度や、退職理由としての健康問題、第 2 期調査での設問「体調・健康面の困りごと」への回答の 4 割が「障害の重度化」「症状の悪化」「仕事内容や勤務形態と体調の問題」に該当する内容であること等を加味すると、定年延長についての先取り不安感の背景には健康問題や障害マネジメント問題があることが示唆される。 ・後期調査対象者では離転職行動は活発ではなく、従来の就業形態での再就職希望が強い傾向が見られる。 ・配置転換や就業形態の移行、健康面への配慮など、本人の希望と雇用側の調整にはハローワークを始めとした支援機関の介入による解決が望まれる。
書誌情報	田村みつよ（2014）日本職業リハビリテーション学会第 42 回岩手大会プログラム・発表論文集，106-107.

・発表 15

年月	2014 年 12 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 22 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」 ～調査対象者の働き方や意識の 4 年間の変化について
テーマ	精神障害者と内部障害者の障害の開示状況と職業生活について
方法	第 1 期から第 3 期までの調査内容のうち、精神障害者と内部障害者の職場への障害の開示状況と職業生活に関する集計結果を報告する。
結果	・第 1 期から第 3 期の調査結果のうち、外見からは障害状況が分かりにくい精神障害と内部障害の調査対象者の回答を分析した。 ・第 1 期から第 3 期まで全ての調査に継続して回答した対象者は精神障害が 58 人、内部障害が 51 人だった。 障害の開示状況 ・「自分の障害内容について職場の人に説明していますか」という設問の回答を障害の開示状況と捉え、開示（ほとんどの説明）、部分開示（ごく一部だけに説明）、非開示（全く説明していない）、不明（わからない）に分類したところ、精神障害において開示の範囲を限定する傾向が見られた。 ・全 3 回の調査時点全てで就業していた回答者は精神障害で 36 人、内部障害で 45 人だった。どちらの障害でも約 4 割に「開示から部分開示」「部分開示から開示」「開示から部分開示、そして開示」などの開示状況に関する変化が見られた。障害の開示は就職時のみならず、就業継続につれて変化するものと言える。 障害の開示状況の変化と職業生活の満足度の変化 ・第 1 期から第 2 期、第 2 期から第 3 期調査での関係性を見ると、精神障害で「部分開示から開示」に変化した対象者の「仕事の内容」の満足度低下が少なく、「給料や待遇」の満足度向上が多かった。「部分開示から部分開示」では仕事内容への満足度低下が多く、不変が少なかった。内部障害では「開示から開示」での給料待遇の満足度低下が多かった。 ・一時点での分析では明確な傾向が見られなくとも、経過を追って把握することで傾向が見られた。 ・特に精神障害者において、「開示」「部分開示」の変化によって満足度の変化に違いが生じており、開示、非開示の二項ではなく開示の程度に着目した状況把握が有意義と思われる。
書誌情報	土屋知子・春名由一郎（2014）第 22 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，277-280.

・ 発表 16

年月	2015 年 12 月
発表形態	専門誌への掲載
発表場所	リハビリテーション連携科学
タイトル	障害のある労働者のキャリア発達の現状と支援課題：パネル調査からの中間報告
テーマ	第 1 期から第 3 期調査までの結果をふまえた、障害のある労働者に対して支援機関が担うべき役割と課題の整理
方法	第 1 期から第 3 期までの調査結果から、就労や雇用継続に関連する時系列に沿った変化の分析を行った。
結果	・ 第 1 期調査回答時点に対して、第 2 期・第 3 期調査で起きた仕事上のできごとの発生率上位は「給料が上がった」「上司の異動」「配置転換」であった。特に第 2 期調査における若年層（前期調査）の内部障害では、配置転換があった者の勤務継続の意思が揺らぎ、職場内での相談ニーズが高まる傾向が見られた。 ・ 3 回の調査全てに回答した者は雇用継続者が大半だった。前期調査では正社員の 78.8%、パート・アルバイトの 69.5%が雇用上の地位に変化がなかった。同じく後期調査では正社員の 83.0%、パート・アルバイトの 76.8%が雇用上の地位に変化がなかった。 ・ 離職者の主な離職理由は若年層と中高年層（後期調査）に共通して「体調不良」である。 ・ 全体の回答と比較して、非就労期の者が会社に求める配慮事項で選択率が高いのは「障害や障害者のことを理解してほしい」である。 ・ 仕事に関する相談先について、若年層では在職中、非就労期を問わず「父母」が相談相手の割合が高い。中高年層は在職中の「相談しない」割合が若年層と比較して相対的に高い。 ・ 相談支援機関の利用は、在職中では若年層の、非就労期では中高年層の利用割合が相対的に高かった。ただし、在職中の仕事や健康問題についての相談先としての利用は少なく、身内や友人への相談が多かった。 ・ 特に中高年層のような一定の職業キャリアを積んだ者の就業環境を再調整する場合には、個別の障害理解を前提としたうえで、就業継続のための支援課題として、就労支援機関のアドボカシー機能と、医療機関や家族が察知した職場不適応情報が就労支援機関に伝達されるような連携機能が求められる。
書誌情報	田村みつよ（2015）リハビリテーション連携科学，16(2)，125-135，2015.

・発表 17

年月	2016 年 8 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 44 回京都大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査（第 6 回報告） —障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査結果—
テーマ	職業サイクル調査の対象群の特徴等を考察
方法	厚生労働省が 5 年毎に実施している障害者雇用実態調査の結果と職業サイクル調査の結果を比較することにより対象群の特徴等を考察する。
結果	・両調査とも 7 割から 8 割程度を男性が占めている。 ・身体障害ではサイクル調査の方が全般的に年代の若い対象者が多い。知的障害では両調査とも 30 歳未満の青年層が多く、精神障害者では両調査とも 30 歳から 49 歳までの壮年層が多い。 ・身体障害ではサイクル調査の方が重度障害者が多い。特に肢体不自由では約 50 ポイントの差がある。知的障害ではサイクル調査には重度障害者がほとんど存在しないのは、手帳等級区分のみで把握したため。精神障害のうち手帳を持たない者は、平成 20 年度調査とは大きく違っていたが、平成 25 年度調査ではサイクル調査とほぼ同じとなった。 ・身体障害のうち視覚障害と肢体不自由及び知的障害では、平成 20 年度調査の正社員比率はサイクル調査とほぼ同じであったが、平成 25 年度調査では正社員比率がそれぞれ約 20 ポイント減少していた。聴覚障害ではサイクル調査と実態調査では大きな違いはみられない。内部障害ではサイクル調査の方が約 10 ポイント正社員比率が高い。精神障害ではサイクル調査の方が約 20 ポイント正社員比率が低い。 ・身体障害では週の労働時間に違いはみられない。知的障害では平成 20 年度調査の週 30 時間以上労働者の割合はサイクル調査より約 20 ポイント高かったが、平成 25 年度調査の差は約 10 ポイントに縮まった。精神障害ではサイクル調査の方が週 30 時間以上労働者の割合が約 20 ポイント低い。 ・週 30 時間以上労働者の給与は、サイクル調査結果は選択肢の給与額帯の幅が大きいものの、実態調査とさほど違いはみられなかった。 ・障害年金は、身体障害ではサイクル調査の方がそれぞれ約 25～45 ポイント受給割合が高い。知的障害では実態調査で障害年金の受給状況が取得されていないため比較できないが、サイクル調査では約 8 割の者が障害年金を受給している。精神障害では手帳等級は平成 25 年度調査とさほど違いはみられないが、サイクル調査の年金受給割合は約 30 ポイント高い。
書誌情報	大石甲・田村みつよ・田川史朗（2016）日本職業リハビリテーション学会第 44 回京都大会プログラム・抄録集，176-177.

・発表 18

年月	2016 年 11 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 4 期）その 1 ～16 年間のパネル調査の中間報告ー
テーマ	本調査の実施方法、調査対象者の基本的属性、就労状況の変化に関する集計・分析結果の一部を報告
方法	「調査対象者数と回収率」、「回答者の基本的特徴（障害種類、性別、年齢）」は項目ごとの回答数と構成比を算出、「回答者の就労状況の変化」は隣りあった 2 回の調査回の就労状況をクロス集計、「職業満足度と就労状況の変化」は就労継続群、離職群ごとに仕事の満足度 4 項目の平均を算出した。
結果	結果 1 調査対象者数と回収率 ・調査対象者数は、第 1 期調査は 1,026 人、第 2 期調査は 1,003 人、第 3 期調査は 1,199 人、第 4 期調査は 1,149 人。 ・回収率は第 1 期の前期調査 86%、後期調査 78%から徐々に減少し、第 4 期では前期調査 63%、後期調査 66%となっている。 結果 2 回答者の基本的特徴 ・障害種類別の回答者数は、いずれの障害種類でも 6～8 割が男性であった。 ・第 4 期調査時点では、全体としては 40～50 歳代が多いが、知的障害では 20～30 歳代の若い調査対象者が多かった。 結果 3 回答者の就労状況の変化 ・全体としては就労を継続した者が多いが、離職や再就職が一部見られた。 ・精神障害者において離職割合が高かったが、本調査の募集要件が他の障害種類と異なるため、障害種類別の比較は慎重に行う必要がある。 結果 4 職業満足度と就労状況の変化 ・就労継続群（就労から就労）と離職群（就労から非就労）の職業満足度は、満足度の 4 つの領域別（仕事の内容）「給与・待遇」「職場の人間関係」「職場環境」の傾向は各調査回で一致していないが、概して就労継続群ではその前回（2 年前）の職業満足度が高い結果であった。
書誌情報	鈴木徹・春名由一郎・土屋知子・田川史朗・山本美奈子・佐藤邦政（2016）第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，196-197.

・発表 19

年月	2016 年 11 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 4 期） その 2 ー 職業上のニーズに関する分析ー
テーマ	個別的な職業上のニーズ（職場や職場の人に配慮してほしいこと及び要望）と関連する要因の明確化
方法	一般化推定方程式（一般化線形モデルの拡張）を用いて分析した。目的変数である職業上のニーズには、職場や職場の人に配慮してほしい 7 項目と要望 9 項目を使用した。職業上のニーズに関連すると考えられる説明変数は、基本属性（性別、年齢、障害種類、調査時期）、就業条件（通勤時間、労働時間、休日、給与、賞与、職種、勤続年数、障害の開示、仕事の意向）、直近 2 年間の仕事上の出来事の 11 項目とした。
結果	・職業上のニーズは障害別により異なり、それぞれの障害特性との関連が考えられる結果が示された。 ・年代別では「作業手順をわかりやすくする」ニーズは、20 歳代は 40 歳代や 50 歳代より多く、30 歳代は 40 歳代より多かった。 ・「仕事のスピードや量を障害にあわせる」ニーズは、30 歳代は 40 歳代よりも多かった。 ・性別では、「職場の中で困った時に相談ができる」ニーズの割合は、女性に多かった。 ・「作業を容易にする機器や設備改善」ニーズは、販売より製造の職種の割合が多かった。 ・1 週間の就業時間では、「30 時間未満」の群が「体力や体調に合わせて休みを調整する」ニーズの割合が多く、勤務先の事業所規模では「50 人以上」の群が「障害や障害者のことを理解して欲しい」ニーズの割合が多かった。 ・直近 2 年に「給料が下がった」群は、そうでない群よりも「給与面を改善して欲しい」ニーズの割合が多かった。 ・その他、統計的に有意だった項目として、直近 2 年に「正社員になった」群は「勤務時間や休みの調整」ニーズと関連、「上司が異動した」群は「障害や障害者への理解」ニーズと関連、「援助者がいなくなった」群は「職場のなかで困ったことの相談できる」ニーズの項目と関連していた。
書誌情報	山本美奈子・鈴木徹・春名由一郎・土屋知子・田川史朗・佐藤邦政（2016）第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，198-199.

・発表 20

年月	2017 年 11 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 25 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	職業サイクル第 5 期における職業生活前期調査の結果 ―障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究から―
テーマ	第 5 期において新たに設けた調査項目である、「事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針についての労働者本人の認知度」と「職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」について、前期調査の集計結果を報告
方法	「事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針についての労働者本人の認知度」と「職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」の回答数と構成比を算出した。
結果	・第 5 期前期調査は 544 人へ調査して 342 人（62.9%）から回答を得た。 結果 1 事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針の労働者本人の認知度 ・就業中の者 296 人のみの結果。 ・「指針の内容を把握している」26.0% ・「指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない」27.0% ・「指針について知らない」44.3% 結果 2 職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無 ・就業中の者 296 人のみの結果。 ・「今までと同じように確認や話合いの機会があった」31.1% ・「新たに確認や話合いの機会があった」11.1% ・「確認や話合いの機会はまだない」34.5% ・「よくわからない」が 20.3% ・本稿で報告する調査は、2016 年 4 月の改正法施行後間もない同年 7 月末に回答を得ているため、施行前から施行直後の事業所における取組について、労働者側の視点から確認した結果と捉えている。 ・企業における「障害者差別の禁止と合理的配慮の提供」に関連する取組と考えられる「話合いの機会」は、42.2%の者が施行後に「あった」と回答しており、障害者の雇用管理に関する企業の取組の進捗がうかがわれる。
書誌情報	田川史朗・高瀬健一・大石甲（2017）第 25 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，214-215.

・発表 21

年月	2018 年 11 月
発表形態	口頭発表
発表場所	第 26 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究(第 5 期)の調査結果
テーマ	第 5 期において新たに設けた調査項目である、「事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針についての労働者本人の認知度」と「職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」の集計結果を報告
方法	「事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針についての労働者本人の認知度」と「職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無」の回答数と構成比を算出。
結果	・第 5 期調査は 1,091 人へ調査して 660 人 (60.5%) から回答を得た。 結果 1 事業主の差別禁止指針と合理的配慮の指針の労働者本人の認知度 ・就業中の者 556 人のみの結果。 ・「指針の内容を把握している」29.0% ・「指針の名称は聞いたことがあるが内容は把握していない」28.1% ・「指針について知らない」40.3% 結果 2 職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の有無 ・就業中の者 556 人のみの結果。 ・「今までと同じように確認や話合いの機会があった」30.6% ・「新たに確認や話合いの機会があった」9.5% ・「確認や話合いの機会はまだない」37.4% ・「よくわからない」17.8% ・本稿で報告する調査結果は、2016 年 4 月の改正法施行後間もない時期に回答を得ているため、施行前から施行直後の事業所における取組について、労働者側の視点から確認した結果と捉えている。 ・企業における「障害者差別の禁止と合理的配慮の提供」に関連する取組と考えられる「話合いの機会」は、40.1%の者が施行後に「あった」と回答しており、障害者の雇用管理に関する企業の取組の進捗がうかがわれる。 ・一方で 37.4%の者が「機会はまだない」としており、職業生活への影響について更に分析をすすめたい。
書誌情報	高瀬健一・大石甲・松尾義弘・田川史朗・荒井俊夫・伊芸研吾 (2018) 第 26 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集, 98-99.

・発表 22

年月	2019 年 3 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本リハビリテーション連携科学学会第 20 回記念大会
タイトル	障害のある労働者へのパネル調査（経過報告）：職場での話合いの機会と仕事の満足度の関係
テーマ	職場で支障となっていることの確認や話合いの機会と、仕事の満足度との関連
方法	第 5 期において新たに設けた、「職場で支障となっていることの確認や話合いの機会」により、仕事の満足度に差があるか、Kruskal-Wallis の順位和検定により統計分析して Bonferroni 法による補正を行った。
結果	・「仕事の内容」「給料・待遇（労働条件）」「職場の人間関係」「職場の環境（施設整備等）」のすべての仕事の満足度について、確認や話合いの機会が「今までと同様に機会があった」人の方が、「機会はまだない」人より高かった。 ・「職場の人間関係」は、「今までと同様に機会があった」人の方が、「新たに機会があった」人より高かった。 ・4 つの仕事の満足度すべてにおいて、「今までと同様に機会があった」方が「機会はまだない」よりも高かったことから、障害者と事業主の間で、職場で支障となっていることの確認や話合いの機会が継続してあることが相互理解を促し、障害者にとってより満足できる仕事の実現に寄与したと考えられた。 ・「新たに機会があった」と「機会はまだない」の間には特段の有意差が検出されなかったことから、制度改正を受けて新たに開始して間もない段階では障害者と事業主の相互理解は醸成されないことが示唆され、今後、更なる確認や話合いの機会を継続していくことが求められると考えられた。 ・職場で支障となっていることの確認や話合いの機会と仕事の満足度の関係の分析により、確認や話合いの機会を継続していくことが、障害者と事業主との相互理解の深化に大きく寄与することが確認された。
書誌情報	大石 甲（2019）日本リハビリテーション連携科学学会第 20 回記念大会プログラム・抄録集，47.

・発表 23

年月	2019 年 8 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本職業リハビリテーション学会第 47 回大阪大会
タイトル	障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期継続調査（第 7 回報告） —職業サイクル調査結果からみた差別禁止・合理的配慮の法制化の影響—
テーマ	雇用の分野における障害者への差別禁止指針と合理的配慮の指針の把握状況及び職場において支障となっていることの確認や話合いの機会の、第 5 期前期調査から第 6 期前期調査にかけての時間経過に伴う回答の変化
方法	第 5 期調査において追加した設問、「雇用の分野における障害者への差別禁止指針と合理的配慮の指針について、聞いたり読んだりしたことがあるか」、「平成 28 年 4 月以降に職場において支障となっていることの確認や話合いの機会があったか」について、第 5 期前期調査と第 6 期前期調査の結果をクロス集計して、2 年の時間経過に伴う回答の変化を分析した。
結果	結果 1 差別禁止指針・合理的配慮指針の把握状況 ・両指針を知る者の割合は、制度施行 3 か月後の第 5 期前期調査（24％）に対して、2 年後の第 6 期前期調査（29％）では 5 %ポイント増加に留まった。 ・第 5 期前期調査と第 6 期前期調査の間にサイクル便りに両指針の解説記事を掲載したが、第 6 期では依然として約 4 割の人が両指針を知らなかった。 ・第 5 期前期調査で両指針を「把握している」と回答した者の約 2 割は、第 6 期前期調査で「把握している」以外を回答した（第 6 期になり指針の内容を把握しなくなった者が一定数いた。）。 結果 2 職場で支障となっていることの確認や話合いの機会の状況 ・確認や話合いの機会は 2 年の間に増加し、第 6 期前期調査では 5 割を超える職場で実施が確認された。 ・一方、制度改正から 2 年 3 か月経過した第 6 期前期調査時点で確認や話合いの機会がまだない者が約 2 割いた。 ・第 5 期前期調査で話合いの機会があった者のうち約 1 割は、第 6 期前期調査で「まだない」へと回答が変化した（以前にあった話合いの機会が「まだない」へと回答が変化した者が一定数いた。）。
書誌情報	大石 甲（2019）日本職業リハビリテーション学会第 47 回大阪大会プログラム・抄録集，69-70.

・発表 24

年月	2019 年 11 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 27 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 5 期）結果報告 その 1 ―加齢による障害の重度化とその仕事への影響―
テーマ	第 1 期から第 5 期までの障害者手帳の等級の変化
方法	第 1 期から第 5 期までの調査結果から障害者手帳の等級に変化があった対象者を抽出し、性別、年代、障害種別に変化の傾向に差があるか統計分析した。就労形態と職場に配慮を希望することについて、手帳等級が重度化した前後の回答状況を比較集計した。
結果	結果 1 手帳等級の変化の状況 ・調査期間中に障害者手帳の等級の軽度化が確認された者は 10 人 (0.9%)。 ・調査当初に等級が最重度の者を除いた 624 人のうち、調査期間中に等級の重度化が確認された者は 54 人 (8.7%、全 1077 人のうちでは 5.0%)。 ・重度化の傾向に性別・年代による統計的な差はみられなかった。 ・重度化の傾向の障害種類ごとの統計的な比較では、視覚障害は全体の傾向よりも障害者手帳の等級が重度化しやすく、知的障害は重度化しにくかった。 結果 2 手帳等級が重度化した者の就労形態 ・手帳等級の重度化が確認された 54 人の、重度化の前後の就労形態は、変化のない者が 35 人と最も多かった。 ・変化があった回答に着目すると、就労形態は、仕事の負荷を軽くする方向で調整する場合は 12 人と多かった。 結果 3 手帳等級が重度化した者の職場に配慮を希望すること ・手帳等級が重度化した前後とも就労していた 40 人の職場に配慮を希望することは、変化のない者が最も多かった。 ・職場に配慮を希望することは、配慮の希望「あり」へ変化する者と、「なし」へ変化する者が混在していた。 ・精神障害では配慮の希望「あり」へ変化する場合が他の障害よりも多くあり、通勤面への配慮は約 6 割の者が希望ありへと変化していた。
書誌情報	大石甲・高瀬健一・田川史朗・荒井俊夫 (2019) 第 27 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集, 174-175.

・発表 25

年月	2019 年 11 月
発表形態	ポスター発表
発表場所	第 27 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 5 期）結果報告 その 2 ―障害のある労働者の相談先の 8 年間の変化―
テーマ	障害のある労働者の相談先の 8 年間の変化
方法	「仕事に関して困ったこと」「経済的に困ったこと」が起きたときに相談する人や機関について、第 1 期調査と第 5 期調査に両方とも回答した者の結果をクロス集計した。
結果	結果 1 仕事に関する相談状況 ・第 1 期及び第 5 期とも仕事の相談をしていない者は約 4 %であり大半の者は相談をしていた。相談先は「家族や友人」が約 9 割、「職場」が約 7 割で、他の相談先は多くとも 2 割前後。 ・相談先「家族や友人」では、視覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害の 4 障害種類で、新たな相談先へと変化した者（「第 1 期は相談先でなく、第 5 期は相談先である」の変化）が 2 割以上いた。 ・相談先「職場」が「新たな相談先」へと変化した者が全ての障害種類で 2 割以上いた。 ・精神障害にのみ特徴的な変化が見られ、「家族や友人」が「第 1 期は相談先であり、第 5 期は相談先でない」へと相談先から外れた変化があった者が 21%いた。 ・精神障害では、「福祉・相談機関」については逆に「新たな相談先」へと変化した者が 24%いた。 ・精神障害では、「就労支援機関」が「相談先から外れた」変化があった者が 30%、「新たな相談先」へと変化した者が 21%と混在して見られた。 ・精神障害では、第 5 期の「医療機関」について、他の障害種類が約 1 割以下の相談先のところ、60%が相談先と回答していた。 結果 2 経済的な相談状況 ・経済的な相談をしていない者は第 1 期では約 5 割、第 5 期では約 3 割であり、経済的な相談が増加していた。第 5 期の相談先は「家族や友人」が約 7 割、「職場」が約 1 割であり他の相談先は 1 割に満たなかった。 ・相談先「家族や友人」について「新たな相談先」へと変化した者が全ての障害種類で 3 割以上いた。 ・精神障害にのみ特徴的な変化が見られ、「職場」と「医療機関」が「新たな相談先」へと変化した者がどちらも 21%いた。
書誌情報	田川史朗・高瀬健一・大石甲・荒井俊夫（2019）第 27 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，176-177.

・ 発表 26

年月	2019 年 11 月
発表形態	口頭発表
発表場所	日本精神障害者リハビリテーション学会第 27 回大阪大会
タイトル	精神障害者の仕事の満足度と生活の満足度の変動 ―パネル調査「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」の結果から―
テーマ	仕事の満足度と生活の満足度の変動
方法	第 3 期から第 5 期までの調査結果について、仕事の満足度と生活の満足度の結果が調査時期により変化する振れ幅（2 年毎に隣接する二つの調査時点の間の回答結果の差の絶対値）が障害の種類により差があるか、分散分析を実施した。
結果	結果 1 職場の環境の満足度の変動 ・ 障害の種類により統計的な差があった。 ・ 精神障害は知的障害より変化の幅が大きかった。 ・ 精神障害は視覚障害、聴覚障害及び肢体不自由より変化の幅が大きい可能性がある。 結果 2 体力や健康の満足度の変動 ・ 障害の種類により統計的な差があった。 ・ 精神障害は聴覚障害及び知的障害より変化の幅が大きかった。 結果 3 収入や経済生活の満足度の変動 ・ 障害の種類により統計的な差があった。 ・ 精神障害は聴覚障害及び内部障害より変化の幅が大きかった。 ・ 知的障害は内部障害より変化の幅が大きい可能性がある。 考察 精神障害者は最も変化の振れ幅が大きかったことから、本人の変化が大きいことを踏まえて、職場の環境について個別に整備することの重要性が示唆された。
書誌情報	大石 甲（2019）日本精神障害者リハビリテーション学会第 27 回大阪大会抄録集，122.

・発表 27

年月	2020 年 11 月
発表形態	インターネット掲載
発表場所	第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究(第 6 期)結果報告 ― 仕事をする理由と仕事の満足度の関係―
テーマ	本人側の「仕事をする理由」と「仕事の満足度」の関係
方法	第 5 期及び第 6 期の調査結果について、仕事の満足度 4 項目を標準化して加算した仕事の満足度総合点を目的変数、仕事をする理由 7 項目を説明変数、障害の種類を調整変数として、重回帰分析をおこなった。
結果	結果 ・第 5 期の結果では、仕事をする理由のうち、「社会とのつながりを持つため」、「社会の中で役割を果たすため」、「生きがいや楽しみのため」を重視するほど、仕事の満足度総合点が統計的に高かった。 ・第 6 期の結果では、仕事をする理由のうち、「社会の中で役割を果たすため」、「生きがいや楽しみのため」を重視するほど、仕事の満足度総合点が統計的に高かった。 考察 ・「社会の中で役割を果たすため」と「生きがいや楽しみのため」では、その影響プロセスは不明ではあるが、調整変数として障害の種類の影響を除いてもなお、比較的一貫して仕事の満足度へ影響することが確認された。 ・本分析の分析モデルの説明率は 2 割程度に留まり、仕事の満足度全体の説明に十分なものではなかった。 ・仕事をする理由として重視したことが実現または実現せず満足度が変化するには、本人の障害の状況や企業の状況、支援の状況など多くの要因が関係すると考えられた。 ・本調査研究でこれまでに報告されている「仕事の満足度」に関連する要因に加えて、本分析で扱った本人側の「仕事をする理由」を含めて検討を継続していく必要性が示唆された。
書誌情報	大石甲・高瀬健一・田川史朗・田中あや (2020) 第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集, 152-153.

・発表 28

年月	2020 年 11 月
発表形態	インターネット掲載
発表場所	第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会
タイトル	障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究(第 6 期)における新たな取組 ―ヒアリング調査による事例報告―
テーマ	第 5 期の仕事満足度の分析結果をヒアリング調査結果により補足
方法	第 5 期調査結果から分析した仕事満足度の決定要因について、第 6 期に実施した長期間同一の企業で雇用されている対象者からのヒアリング結果との関連性を確認し、考察した。
結果	・第 5 期報告書では「仕事の満足度」が就労継続意図と密接に関係しており、その決定要因は「会社や職場の関係者へ自身の障害の説明をしていること」「配慮を必要としている項目数が少ないこと」「援助者が継続していること」「昇給があること」「現職期間が一定以上長いこと」として分析された。本稿ではこの結果とヒアリング調査の結果の関連について整理した。 ・3 名（肢体不自由、知的障害、精神障害）のヒアリング結果を分析に用いる事例とした。 ・「会社や職場の関係者へ自身の障害の説明をしていること」が全ての事例で確認できた。事例 B 及び事例 C は職場メンバーの変化や上司の変更により十分理解されていると感じられない時期があった。事例 A は症状の変化や原因について医療情報からは自分も不明な場合があり説明し難かったことを確認した。 ・「配慮を必要としている項目数が少ないこと」について事例 A において確認され、身体的な状態の変化に伴い必要な配慮について継続的に話合うことの重要性を感じていた。 ・「援助者が継続していること」について、全ての事例で職場内の支援とあわせて、仕事を継続するうえで外部の援助者の存在の重要性を感じていた。 ・「昇給があること」について、全ての事例で確認したが、職位の変化はなかった。 ・「現職期間が一定以上長いこと」について、全ての事例は約 20 年以上同一の企業にて就労継続しているが、その間の仕事満足度は高くなったり低くなったりと波があることを確認した。 ・加えて、全ての事例で仕事することが経済的な側面に加えて「社会参加」、「人とのつながり」としての価値を持っていることを確認した。
書誌情報	高瀬健一・大石甲・田川史朗・田中あや（2020）第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集，154-155.

ホームページについて

本冊子のほか、障害者職業総合センターの研究成果物については、一部を除いて、下記のホームページから PDF ファイルによりダウンロードできます。

【障害者職業総合センターホームページ】

<https://www.nivr.jeed.go.jp/>

著作権等について

当研究成果物については、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内であれば、自由に引用することができます。（著作権法第 32 条 1 項）

また、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することが可能です。（著作権法第 32 条 2 項）

その際には出所を明示するなどして、必ず引用及び転載元を明示するとともに下記までご連絡ください。

また、視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することも認めております。

なお、視覚障害者の方等で本冊子のテキストファイル（文章のみ）を希望されるときも下記までご連絡ください。

【連絡先】

障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

調査研究報告書 No. 160

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（第 6 期）

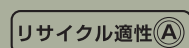
編集・発行 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター
〒261-0014
千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話 043-297-9067
FAX 043-297-9057

発行日 2021 年 3 月
印刷・製本 情報印刷株式会社



NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

ISSN 1340-5527



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。